

平成19年度 医学部 教室別業績集 目次

1 第一内科(腎臓) … 2	27 リハビリテーション医学 … 126
3 第一内科(神経) … 13	30 解剖学1 … 133
4 第二内科(血液) … 20	31 解剖学2 … 137
4 第二内科(循環器) … 20	32 統合生理学 … 143
5 第三内科(糖尿病) … 32	33 細胞生理学 … 145
6 第三内科(消化器) … 40	35 生化学2 … 146
7 高齢医学 … 54	37 病院病理部 … 148
11 外科学2 … 65	38 感染症(寄生虫) … 156
12 小児外科 … 72	38 感染症(微生物) … 157
13 救急医学 … 75	40 衛生学公衆衛生学 … 162
17 皮膚科 … 79	43 共同研究施設放射性同位元素部門 …172
18 形成外科学 … 89	44 共同研究施設フローサイトメトリー部門 …173
19 泌尿器科学 … 98	45 蛋白質核酸解析部門 …176
22 産婦人科学 … 105	50 生物学 … 187
23 放射線医学 … 110	50 物理学 … 188
24 麻酔科学 … 115	51 化学 … 190
25 臨床検査医学 … 119	薬剤部 … 191
26 総合医療学 … 122	内科学腫瘍科 … 195

第一内科（腎臓・リウマチ膠原病）

I. 口演

1. 池谷紀子、福岡利仁、有村義宏、中林公正、山田明：輪状披裂関節炎による上気道閉塞をきたした関節リウマチの一例．第51回日本リウマチ学会総会・学術集会、横浜、平成19年4月26日-29日．
2. 福岡利仁、大塚貴子、松田拓久、須藤京、池谷紀子、川嶋聡子、小路仁、早川哲、軽部美穂、吉原堅、有村義宏、中林公正、山田明：インフリキシマブ治療によるRA寛解例と難治例の臨床的検討．第51回日本リウマチ学会総会・学術集会、横浜、平成19年4月26日-29日．
3. 大和恒恵、有村義宏、軽部美穂、中林公正、山田明：関節リウマチにおける白血球除去療法の有効性についての検討．第51回日本リウマチ学会総会・学術集会、横浜、平成19年4月26日-29日．
4. 川嶋聡子、大和恒恵、吉原堅、有村義宏、中林公正、山田明：下腿浮腫を初発症状とした尿蛋白陰性のMPO-ANCA関連血管炎の1症例．第51回日本リウマチ学会総会・学術集会、第16回国際リウマチシンポジウム、横浜、平成19年4月26日-29日．
5. 有村義宏、吉原堅、中林公正、山田明：ANCA関連腎炎の治療—寛解維持療法，再燃時の治療を中心に—（教育講演）．第50回日本腎臓学会学術総会、浜松、平成19年5月25日-27日．
6. 軽部美穂、有村義宏、須藤京、中林公正、山田明：MPO-ANCA関連腎炎における血液異常の検討—特に骨髓異形成症候群の合併について—．第50回日本腎臓学会学術総会、浜松、平成19年5月25日-27日．
7. 副島昭典、青木優子、鈴木祥史、大塚貴子、福岡利仁、中林公正、山田明：肝型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）は低分子量蛋白と類似した尿中への排泄態度を示す—．第50回日本腎臓学会学術総会、浜松、平成19年5月25日-27日．
8. 吉原堅、有村義宏、軽部美穂、大和恒恵、中林公正、山田明：MPO-ANCA関連血管炎の寛解維持療法—免疫抑制療法中止例の解析—．第50回日本腎臓学会学術総会、浜松、平成19年5月25日-27日．
9. 竹本文美¹、香取秀幸¹、澤直樹¹、星野純一¹、曾川陽子¹、諏訪部達也¹、野村和史¹、比嘉康志¹、中西昌平¹、乳原善文¹、原茂子¹、高市憲明¹、山田明²、内田俊也³

(¹虎の門病院腎センター、²杏林大学内科、³帝京大学内科)：血漿アディポネクチン (AN) 濃度は透析患者の心疾患の予後の予測因子である：8年間の prospective cohort study. 第50回日本腎臓学会学術総会、浜松、平成19年5月25日-27日.

10. 福岡利仁、山田明：慢性腎疾患症例における末梢血血管内皮前駆細胞数の検討. 第50回日本腎臓学会学術総会、浜松、平成19年5月25日-27日.
11. 川嶋聡子¹、有村義宏¹、副島昭典²、中林公正¹、山田明¹、塩田奈津子³、磯部充久³、横川彰朋³、粕谷泰次³ (¹杏林大学第一内科、²杏林大学臨床工学科、³東京薬科大学)：尿中遊離型cortisone/cortisol比を指標とした腎疾患患者における11-β HSD2活性評価. 第50回日本腎臓学会学術総会、浜松、平成19年5月25日-27日.
12. 平原一郎、石橋由孝、清水英樹、要伸也、草野英二、藤田敏郎：腹膜透析における中皮細胞のepithelial-to-mesenchymal transition. 第50回日本腎臓学会学術総会、浜松、平成19年5月25日-27日.
13. 川嶋聡子、有村義宏、中林公正、山田明：MPO-ANCA関連血管炎における腎組織病変の検討-MPOの局在と毛細血管障害-. 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会、横浜、平成19年6月10日.
14. 窪田沙也花、大和恒恵、青木尚子、川嶋聡子、池谷紀子、吉原堅、有村義宏、中林公正、山田明：高Ca血症の補正によりテタニーを呈した一透析例. 第52回日本透析医学会学術集会・総会、大阪、平成19年6月15日～17日.
15. 要伸也¹、石橋由孝¹、清水英樹²、藤田敏郎² (東京大学腎疾患総合医療センター講座¹、東京大学腎臓内分泌内科²、杏林大学第一内科³)：東京都におけるPD+HD併用療法の実態調査. 第52回日本透析医学会学術集会・総会、大阪、平成19年6月15日～17日.
16. 石橋由孝¹、河原崎宏雄²、河原崎和歌子²、清水英樹²、高良洋平²、久米春喜³、笹平直紀⁴、要伸也¹、藤田敏郎² (東京大学医学部附属病院22世紀医療センター腎疾患総合医療センター講座¹、東京大学医学部附属病院腎臓内分泌内科²、東京大学医学部附属病院泌尿器科³、東京大学医学部附属病院消化器内科⁴)：腸間膜脂肪組織巻絡による排液不良を内視鏡的経鼻尿管ドレナージ (ENPD) チューブ留置により解除しえたPD患者の一例. 第52回日本透析医学会学術集会・総会、大阪、平成19年6月15日～17日.

17. 河原崎和歌子¹、石橋由孝²、藤本晃久³、亀井良政³、斉藤和英⁴、高橋公太⁴、河原崎宏雄¹、要伸也²、藤田敏郎¹（東京大学医学部附属病院腎臓内分泌内科¹、東京大学医学部附属病院腎疾患総合医療センター講座²、東京大学医学部附属病院女性診療科産科³、新潟大学医歯学総合病院泌尿器科⁴）：体外受精により妊娠出産した腎移植後患者の1例。第52回日本透析医学会学術集会・総会、大阪、平成19年6月15日～17日。
18. 河原崎宏雄¹、石橋由孝²、斎藤和英²、高橋公太²、河原崎和歌子¹、清水英樹¹、要伸也¹、藤田敏郎¹（東京大学医学部附属病院腎臓内分泌内科¹、新潟大学医歯学総合病院泌尿器科²）：ABO不適合の高齢ドナー患者からの腎移植症例。第52回日本透析医学会学術集会・総会、大阪、平成19年6月15日～17日。
19. 柴垣有吾、河原崎和歌、石橋由孝、要伸也、藤田敏郎（東京大学医学部附属病院腎臓内分泌内科）：初発のPD関連腹膜炎として発症したCandida glabrata感染症の1例。
第52回日本透析医学会学術集会・総会、大阪、平成19年6月15日～17日。
20. 石川晃¹、久米春喜¹、新美文彩¹、北村唯一¹、石橋由孝²、要伸也²、藤田敏郎³（東京大学医学部附属病院泌尿器科¹、東京大学医学部附属病院腎疾患総合医療センター講座²、東京大学医学部附属病院腎臓内分泌内科³）：直視下CAPDカテーテル留置術（久米法）の経験。第52回日本透析医学会学術集会・総会、大阪、平成19年6月15日～17日。
21. 神保りか¹、石橋由孝³、日野るみ²、高澤豊²、要伸也³、藤田敏郎²（東京大学医学部附属病院看護部¹、東京大学医学部附属病院腎疾患総合医療センター講座²、東京大学医学部附属病院腎臓内分泌内科³、東京大学医学部附属病院薬剤部⁴、東京大学医学部附属病院栄養管理部⁵）：当院の腎臓病教室についての報告。第52回日本透析医学会学術集会・総会、大阪、平成19年6月15日～17日。
22. 小林恭子¹、益田凡¹、中原小巻²、伊藤玲子¹、稲松順子¹、大野能之⁴、佐藤香織⁵、石橋由孝²、柴垣有吾³、要伸也²、藤田敏郎³（東京大学医学部附属病院泌尿器科¹、東京大学医学部附属病院腎疾患総合医療センター講座²、東京大学医学部附属病院腎臓内分泌内科³）：直視下CAPDカテーテル留置術（久米法）の経験。第52回日本透析医学会学術集会・総会、大阪、平成19年6月15日～17日。
23. 有村義宏：ANCA関連血管炎の病態と治療。新宿血管炎フォーラム，東京，平成19年6月21日。
24. 要伸也：慢性腎臓病と新しい腎機能評価法。癌研有明病院セミナー，東京，平成19年7月。

25. 有村義宏：ANCA関連血管炎の治療に関する話題—治療困難例を中心に. 京都・滋賀血管炎フォーラム，京都，平成19年8月31日.
26. 要伸也：腎不全治療におけるPDの役割. 東京CAPD講座，東京，平成19年9月.
27. 小路仁、齋藤督芸、大和恒恵、軽部美穂、中林公正、山田明：ヒトパルボウイルスB19感染後に血管極部に著明な炎症細胞浸潤を伴った管内増殖性腎炎の1症例. 第37回日本腎臓学会東部学術大会、大宮、平成19年10月5日-6日.
28. 軽部美穂、齋藤督芸、小路仁、要伸也、中林公正、山田明：クローン病による小腸切除後に高尿酸尿症を来たし、著明な間質性腎炎にて透析導入となった1例. 第37回日本腎臓学会東部学術大会、大宮、平成19年10月5日-6日.
29. 須藤京、福岡利仁、大塚貴子、遠藤哲也、有村義宏、要伸也、中林公正、山田明：リウマチ症状が先行した抗GBM抗体腎炎の一例. 第37回日本腎臓学会東部学術大会、大宮、平成19年10月5日-6日.
30. 有村義宏（教育講演）：「若手医師のためのnephrology review course」急速進行性糸球体腎炎（RPGN，第37回日本腎臓学会東部学術大会，埼玉，平成19年10月5日.
31. 倉田厚、中林公正：血管炎における成熟樹状細胞の局在の検討. 第12回血管病理研究会、盛岡、平成19年10月13日.
32. 要伸也：腎保護療法としてのARBの有用性. 高血圧治療学術講演会. 東京，平成19年10月.
33. Fukuoka K, Kaname S, Yamada A : A Study of Circulating Endothelial Progenitor Cell Counts in the Patients with Chronic Renal Failure and Chronic Kidney Disease. American Society of Nephrology. San Francisco, CA, USA. October 31-November 5 2007.
34. Kaname S^{1,3}, Hirahara I^{1,4}, Ishibashi Y¹, Shimizu H¹, Yamada A³, Ishikawa A^{1,2}, Kusano E⁴, Fujita T¹(¹Division of Total Renal Care Medicine and Department of Nephrology and Endocrinology, University of Tokyo School of Medicine Tokyo, Japan; ² Department of Urology, University of Tokyo School of Medicine Tokyo, Japan; ³Kyorin University School of Medicine

- Tokyo, Japan; ⁴Jichi Medical School Tochigi, Japan.) : High GDPs Solution Induces Peritoneal Fibrosis and Epithelial-Mesenchymal Transition in New Rat PD Model. American Society of Nephrology. San Francisco, CA, USA. October 31–November 5 2007.
35. Nakabayashi K¹, Fukuoka T¹, Arimura Y¹, Yamada A¹, Fujioka Y² (¹First Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, Mitaka, Tokyo, Japan; ²Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, Mitaka, Tokyo, Japan) : Different Clinical and Pathological Disease Subsets in Patients with Rapidly Progressive Glomerulonephritis Associated with Pulmonary Hemorrhage. American Society of Nephrology. San Francisco, CA, USA. October 31–November 5 2007.
 36. 池添亨、池谷紀子、大和恒恵、要伸也、有村義宏、中林公正、山田明：血管炎類似の症状を呈した特発性好酸球増多症候群の一例。第36回杏林医学会総会，三鷹，平成19年11月17日。
 37. 要伸也、軽部美穂、吉原堅、有村義宏、山田明：スタチン製剤が誘引と考えられる偽性高カリウム血症の一例。第54回三多摩腎疾患治療医会，三鷹，平成19年11月18日。
 38. 要伸也：慢性腎臓病（CKD）の新しい治療戦略。第19回多摩アンジオテンシン研究会、立川、平成19年11月20日。
 39. 有村義宏：ANCA関連血管炎の治療—ミゾリビン治療を中心に—。血管炎フォーラム，東京，平成19年11月22日。
 40. 要伸也：CKD時代の包括的腎臓病対策（Total Renal Care）。多摩地区アテレクトク研究会、立川、平成19年12月20日。
 41. 中林公正，吉田雅治，小林茂人，吉田俊治，古川福実，槇野博史，山田秀裕，湯村和子，天野宏一，稲葉裕，臼井 崇，遠藤平仁，大曾根康夫，兼岡秀俊，菊池弘敏，熊谷俊一，黒沢美智子，小池隆夫，鈴木康夫，住田孝之，岳野光洋，八田和夫，原まさ子，武曾恵理，有村義宏：中・小型血管炎臨床研究分科会報告 「MPO-ANCA関連血管炎に関する標準的プロトコルの有用性を明らかにする前向き臨床試験の解析」。厚生労働科学研究費補助金・難治性疾患克服研究事業・難治性血管炎に関する調査研究。平成19年度第2回班会議、東京、平成19年12月21日。

42. 小林茂人, 中林公正, 尾崎承一, JMAAV活動性評価委員会: 顕微鏡的多発血管炎 (microscopic polyangiitis: MPA) のVascular damage index (VDI)。厚生労働科学研究費補助金・難治性疾患克服研究事業・難治性血管炎に関する調査研究。平成19年度第2回班会議、東京、平成19年12月21日。
43. 中林公正, 小路仁, 軽部美穂, 有村義宏, 山田明: 顕微鏡的多発血管炎 (MPA) 症例の腎に於ける毛細血管炎について一腎間質の病変に注目して。厚生労働科学研究費補助金・難治性疾患克服研究事業・難治性血管炎に関する調査研究。平成19年度第2回班会議、東京、平成19年12月21日。
44. Arimura Y, Sudo M, Yoshihara K, Nakabayashi K, Yamada A: MPO-ANCA Negative Relapse in MPO-ANCA Associated Vasculitis. International Conference on Regulation of Inflammatory Diseases: Vasculitis and Asthma. 千葉, 平成20年1月19日
45. 有村義宏、川嶋聡子、吉原堅、中林公正、山田明: MPO-ANCA関連腎炎における糸球体内MPO陽性細胞および細胞外MPOについての腎病理組織学的検討, 平成19年度厚生労働省難治性疾患克服研究事業進行性腎障害に関する調査研究班業績発表会, 東京, 平成20年1月27日
46. 中林公正: 抗好中球細胞質抗体と血管炎。日本内科学会生涯教育講演会 東北支部 第51回講演会、仙台、平成20年2月16日。
47. 軽部美穂、大和恒恵、有村義宏: LCAP 施行中にアナフィラキシーショックを呈した一症例。 第二回西東京 RA-LCAP 症例検討会、武蔵野、平成20年2月26日。
48. 有村義宏: ANCA 関連血腎炎の治療, 腎炎フォーラム, 東京, 平成20年2月28日
49. 要伸也: 心腎連関を考慮した CKD 治療。 西東京心不全フォーラム。 東京, 平成20年2月。
50. 片山満代、濱井章、平松佐紀子、則竹敬子、要伸也、山田明: 腹膜透析患者を対象にパンフレットを使用した災害対策の取り組み～アンケート調査を試みて～、第3回多摩PD研究会、武蔵野、平成20年3月8日。
51. 有村義宏: ANCA関連腎炎の治療, ANCA関連腎炎フォーラム, 高松, 平成20年3月27日

II. 論文

1. 小路仁、山田明：ANCA関連腎炎. 医学と薬学 Vol.58 No.4 自然科学社 511-516 2007
2. 山田明：蓄尿のコツ. Medical Practice Vol.25 No.1 161 2007
3. 平松佐紀子¹、田中和子、則竹敬子、吉原堅²、山田明（¹杏林大学医学部附属病院腎・透析センター、²杏林大学医学部附属病院腎・リウマチ膠原病内科）：外来で腹膜透析を導入し短期間で職場復帰した1例. 腹膜透析2007 291-293 2007
4. Karube M, Nakabayashi K, Fujioka Y, Yoshihara K, Yamada A, Matsunaga A, Saito T:Lipoprotein glomerulopathy-like disease in a patient with type III hyperlipoproteinemia due to apolipoprotein E2(Arg158 Cys)/3 heterozygosity. Clin Exp Nephrol 11:174-179,2007
5. Fujita T¹, Ando K¹, Nishimura H², Ideura T³, Yasuda G⁴, Isshiki M¹, Takahashi K¹ (¹Department of Nephrology and Endocrinology, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, Tokyo, Japan, ²Division of Internal Medicine, Tokyo Women's Medical University Medical Center East, Tokyo, Japan, ³ Department of Internal Medicine, Showa University Fujigaoka Hospital, Yokohama, Japan, ⁴Division of Nephrology, Yokohama City University Medical Center, Yokohama, Japan: Antiproteinuric effect of the calcium channel blocker cilnidipine added to rennin-angiotensin inhibition in hypertensive patients with chronic renal disease. Kidney Int Online publication, October 17, 2007
6. 福岡利仁、中林公正：Dataで読み解く内科疾患 結節性多発動脈炎. 総合臨床増刊号56：1507-1514、2007.
7. 吉原堅、中林公正：特集 全身性疾患と腎臓病 診断と治療の実際. 血管炎と腎疾患. 総合臨床56：2094-2100、2007.
8. 福岡利仁、中林公正：現代の腎疾患へのアプローチ 腎疾患の新しい考え方と治療のあり方. 血管炎症候群における腎障害の管理と治療. Modern Physician 27：345-351, 2007.
9. 中林公正：難治性血管炎に関する調査研究 中・小型血管炎臨床研究分科会平成18年度研究報告「標準的プロトコール、JMAAV、皮膚型PN、活動性評価、寛

- 解・再発の定義」。厚生労働科学研究事業難治性血管炎に関する調査研究 平成18年度総括・分担研究報告書：67-69, 2007.
10. 中林公正、有村義宏、川嶋聡子、山田明、藤岡保範（病理学）：MPO-ANCA関連血管炎に於ける毛細血管についての病理組織学的研究；腎間質に於ける毛細血管炎について。厚生労働科学研究事業難治性血管炎に関する調査研究 平成18年度総括・分担研究報告書：83-85, 2007.
 11. 中林公正、本田恒雄：生涯教育シリーズ-73「腎・泌尿器疾患診療マニュアル小児から成人まで」。ループス腎炎。日本医師会雑誌特別号 136：S200-S201, 2007.
 12. 中林公正、池谷紀子：生涯教育シリーズ-73「腎・泌尿器疾患診療マニュアル小児から成人まで」。二次性糸球体腎炎：その他の膠原病に伴う腎症。日本医師会雑誌特別号 136：S202-S203, 2007.
 14. Suzuki K, Kobayashi S, Yamazaki K, Gondo M, Tomizawa K, Arimura Y, Nakabayashi K, Ozaki S, Yoshida M, Yoshida T, Tusaka N, Muso E, Okazaki T, Hashimoto H: Analysis of risk epitopes of anti-neutrophil antibody MPO-ANCA in vasculitis in Japanese population. *Microbiol Immunol* 51: 1215-1220 2007.
 15. 有村義宏：血管炎による腎疾患治療ガイド，腎と透析62：541-545, 2007
 16. 吉原堅，有村義宏：半月体形成性腎炎（抗GBM抗体腎炎，ANCA関連腎炎），内科97(増大号)：1070-1071, 2006
 17. 有村義宏：ANCA関連腎炎．総合臨床56：2057-2062, 2007
 18. 有村義宏：半月体形成性腎炎．腎と透析62：38-40, 2007
 19. 有村義宏：血管炎に基づく腎疾患 治療ガイド．腎と透析62：541-545, 2007
 20. 清水英樹，要伸也，藤田敏郎：高血圧の輸液．腎と透析（臨時増刊号）輸液のすべて：394-398、東京医学社，2007.
 21. 要伸也，藤田敏郎：尿細管性アシドーシス．腎疾患・透析 最新の治療 2008-2010, 2007.

22. 要伸也：ケトン体．透析患者の検査値の読み方（改訂第2版）163-164，日本メディカルセンター，東京，2007．
23. 要伸也：マグネシウムの異常．内科 99(6):1493-98, 2007.
24. Shimizu H, Ishibashi Y, Kumagai T, Kaname S, Fujita T, Sai K, Nishi T, Mise N, Tagawa H, & Sugimoto T: Long-term effect of peritoneal dialysis fluid with neutral pH and low glucose degradation product concentration on a peritoneum: a case report. *Perit Dial Int* 27: 92-94, 2007.
25. Nishi H, Tojo A, Onozato ML, Jimbo R, Nangaku M, Uozaki H, Hirano K, Isayama H, Omata M, Kaname S, & Fujita T: Anti-carbonic anhydrase II antibody in autoimmune pancreatitis and tubulointerstitial nephritis. *Nephrol Dial Transplant* 22, 1273-75, 2007.
26. Kawarazaki H, Ishibashi Y, Kawarazaki W, Shimizu H, Takara Y, Kume H, Sasahira N, Kaname S, & Fujita T: Successful management of catheter obstruction by endoscopic naso-pancreatic drainage tube. *Perit Dial Int* 27: 467, 2007.
27. Takemoto F, Ubara, Kaname S, et al.: Hyporeninemic hypoaldosteronism from secondary amyloidosis. *Kidney Int*, in press
28. Kumagai T, Ishibashi Y, Kawarazaki H, Kawarazaki W, Shimizu H, Kaname S, & Fujita T: Effects of nocturnal oxygen therapy on sleep apnea syndrome in PD patients. *Clin Nephrol*, in press.

Ⅲ. 著書

1. 山田明：全身性血管炎の診断と治療—結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、アレルギー性肉芽腫性血管炎、ウェゲナー肉芽腫症—．SELECTED ARTICLES 2008 1033-1043 2007
2. 山田明：尿毒症．看護のための最新医学講座〔第2版〕 第6巻 腎疾患と高血圧 日野原重明、井村裕夫監修、岩井郁子、北村聖監修協力、佐々木成編集 中山書店 111-117 2007
3. 山田明：腎疾患患者の初診外来—病歴聴取のポイント・身体所見の取り方—．腎臓病を外来で見る 林松彦、飯野靖彦編集 診断と治療社 2-7 2007
4. 山田明：抗核抗体（抗DNA抗体など特異抗体含む）．透析患者の検査値の読み

方 黒

川 清監修、深川雅史、秋澤忠男、山田明、鈴木正司編集 日本メディカルセンター 285-286 2007

5. 山田明：薬剤性腎障害. 腎不全治療マニュアルJUL. 2007 腎不全予防医学調査研究委員会編 日本透析医学会 182-190 2007
6. 山田明：ネフローゼ症候群. ファーマシューティカルケア・ファーストステップ 高久史麿、白神誠、藤上雅子監修 ライフメディコム 109-112 2007
7. 山田明：中毒性腎障害. 内科学 杉本恒明、矢崎義雄総編集 朝倉書店 1281-1282 2007
8. 山田明：薬剤によって引き起こされる腎障害. 腎・泌尿器疾患診療マニュアル 五十嵐隆、鈴木洋通、丸茂健監修：編集 日本医師会 320-321 2007
9. 山田明：薬物療法. 血液浄化療法ハンドブック 透析療法合同専門委員会企画・編集 協同医書出版社 281-288 2007
10. 山田明：膜性増殖性糸球体腎炎. 「腎疾患・透析 最新の治療2008-2010」 飯野靖彦、槇野博史、秋澤忠男編集, 南江堂 133-135 2007
11. 山田明：腎疾患の診断. 「新体系看護学全書 成人看護学⑦ 腎」山田明、斉藤しのぶ編集、メヂカルフレンド社 41-58 2007
12. 山田明：腎疾患の主な診療法. 「新体系看護学全書 成人看護学⑦ 腎」山田明、斉藤しのぶ編集、メヂカルフレンド社 59-74 2007
13. 山田明：関節炎とリウマチ性疾患. (翻訳) ワシントンマニュアル第11版、高久史麿、和田 攻監訳、メディカル・サイエンス・インターナショナル 749-782 2008
14. 中林公正、本多恒雄：ループス腎炎. 腎・泌尿器疾患診療マニュアル 五十嵐隆、鈴木洋通、丸茂健監修：編集 日本医師会 200-201 2007
15. 有村義宏：Goodpasture症候群. 腎・泌尿器疾患診療マニュアル 五十嵐隆、鈴木洋通、丸茂健監修：編集 日本医師会 192-193 2007
16. 中林公正、池谷紀子：その他の膠原病に伴う腎症. 腎・泌尿器疾患診療マニ

ユアル 五十嵐隆、鈴木洋通、丸茂健監修：編集 日本医師会 202-203
2007

17. 中林公正（分担執筆）：内科から見る眼内炎症性疾患の病因と治療． Practical Ophthalmology：眼内炎症診療のこれから（眼科プラクティス）． 田野保雄、樋田哲也、他編． 東京、文光堂、2007． P. 253-258.
18. 中林公正：二次性糸球体疾患 膠原病性腎障害． 看護のための最近医学講座． 佐々木成編． 東京、中山書店、2007、P. 274-289.
19. 有村義宏（分担執筆）：抗好中球細胞質抗体（ANCA）． 透析患者の検査値の読み方． 黒川 清編． 東京，日本メディカルセンター，2007． p289-291.
20. 有村義宏（分担執筆）：半月体形成性腎炎． 看護のための最新医学講座第2版 腎疾患と高血圧，日野原重明，井村裕夫編，東京，中山書店，2007． p243-251.
21. 有村義宏（分担執筆）：腎疾患で生じる主な症状．新体系看護学全書第20巻成人看護学⑦．山田 明編．東京，メジカルフレンド社，2007． p20-40.
22. 有村義宏（分担執筆）：血管炎に伴う腎症．腎疾患・透析 最新の治療．飯野靖彦，榎野博史，秋澤忠男編．東京，南江堂，2007． p198-201.
23. 吉原堅，有村義宏、（分担執筆）：発熱、紫斑、息切れを訴えた来院した69歳男性，New 専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 膠原病・リウマチ，橋本博史編．東京，日本医事新報社，2008． p220-229.

IV. その他

1. 山田明：保存期腎不全の腎保護療法． 腎不全対策キャンペーン講演会． 三鷹、平成19年7月1日．
2. 要伸也：腎不全における保存期治療戦略． PD多摩塾． 府中、平成19年7月8日．
3. 福岡利仁：腹膜透析療法の概要について． PD多摩塾． 府中、平成19年7月8日．
4. 山田明：腎臓領域におけるアルドステロンブロッカーの可能性． MEET THE EXPERT． 武蔵野、平成19年9月21日．

5. 山田明：「薬物療法」． 第29回透析技術認定士認定講習会，東京，平成20年2月25日．
6. 有村義宏：難病講演会「関節痛からみた膠原病・リウマチ性疾患」、三鷹、平成20年3月11日

第一内科（神経）

I. 口演（学会等）

1. 西山和利：最新の脳梗塞治療：特に慢性期治療について．三鷹医師会学術講演会，武蔵野，平成19年4月11日
2. 笹森寛生¹，脊山英徳¹，山田深²，西山和利，栗田浩樹¹，塩川芳昭¹，山口芳裕³（¹杏林大・脳外科，²杏林大・リハビリテーション科，³杏林大・救命救急科）：特徴的脳血管撮影所見を呈した脳底動脈解離の2例．第102回日本脳神経外科学会関東支部，東京，平成19年4月21日．
3. 内堀歩，楠進¹，千葉厚郎（¹近畿大・神経内科）：急性小脳性運動失調症で出現する抗TPI抗体のペプチドアレーによるエピトープ解析．第19回日本神経免疫学会学術集会，金沢，平成19年4月12-13日．
4. 千葉厚郎，内堀歩，楠進¹（¹近畿大・神経内科）：ヒト動眼神経におけるGQ1b糖鎖抗原と各種糖脂質糖鎖抗原のcolocalization検討．第19回日本神経免疫学会学術集会，金沢，平成19年4月12-13日．
5. 笹森寛生¹，脊山英徳¹，山田深²，西山和利，栗田浩樹¹，塩川芳昭¹，山口芳裕³（¹杏林大・脳外科，²杏林大・リハビリテーション科，³杏林大・救命救急科）：特徴的脳血管撮影所見を呈した脳底動脈解離の2例．第53回三多摩神経疾患懇話会，東京，平成19年4月21日．
6. 西山和利：最新の脳卒中診療－超急性期から慢性期まで．第682回松本市医師会生涯教育講座，松本，平成19年4月26日．
7. 千葉厚郎，内堀歩，楠進¹（¹近畿大・神経内科）：ヒト動眼神経におけるGQ1b糖鎖抗原と各種糖脂質糖鎖抗原のcolocalization検討．第48回日本神経学会総会，名古屋，H19年5月16-18日．
8. 内堀歩，楠進¹，千葉厚郎（¹近畿大・神経内科）：急性小脳性運動失調症で出現する抗TPI抗体の抗原エピトープはTPIのC末端に存在する．第48回日本神経学会総会，名古屋，H19年5月16-18日．
9. 西山和利，栗田浩樹¹，山田深²，松田剛明³，松本由美⁴，岡島康友²，塩川芳昭¹，山口芳裕³（¹杏林大・脳外科，²杏林大・リハビリテーション科，³杏林大・救命救急科，⁴杏林大・看護部）：脳卒中センター開設が脳卒中診療へもたらす効果の検討．第48回日本神経学会総会，名古屋，平成19年5月16-18日．
10. 岡野晴子，西山和利，大石知瑞子，栗田浩樹¹，宮崎泰，千葉厚郎（¹杏林大・脳外科）：MRI 拡散強調画像で脳梁膨大部高信号病変を認めた3症例の検討．第48回日本神経学会総会，名古屋，平成19年5月16-18日．
11. 大石知瑞子，松田剛明¹，西山和利，山口芳裕¹，千葉厚郎（¹杏林大・救命救急科）：救急外来における神経内科医の需要についての検討．第48回日本神経学会総会，名古屋，平成19年5月16-18日．

12. 門馬博 1, 山田深 1, 手塚純一 1, 森光代 1, 松本由美 2, 下斗米由美 2, 栗田浩樹 3, 西山和利, 岡島康友 1, 山口芳裕 4 (1 杏林大・リハビリテーション科, 2 杏林大・看護部, 3 杏林大・脳外科, 4 杏林大・救命救急科): 当院脳卒中センターにおけるリハビリテーション介入効果の検討. 第 42 回日本理学療法学会大会, 新潟, 平成 19 年 5 月 24-26 日.
13. 岩畔哲也, 長田純理, 内堀歩, 宮崎泰, 千葉厚郎: クロナゼパムが失調症状にも著効した opsoclonus-polymyoclonia 症候群の 31 歳男性例. 第 181 回日本神経学会関東地方会, 東京, 平成 19 年 6 月 2 日.
14. Momma H 1, Yamada S 1, Tezuka J 1, Mori M 1, Matsumoto Y 2, Shimotomai Y 2, Kurita H 3, Nishiyama K, Okajima Y 1 & Yamaguchi Y 4 (1 杏林大・リハビリテーション科, 2 杏林大・看護部, 3 杏林大・脳外科, 4 杏林大・救命救急科): Outcome of early acute-phase rehabilitation in our stroke unit and analysis of factors affecting discharge destination. The 15th World Physical Therapy Congress, Vancouver, June 2-6, 2007.
15. Oishi C, Sonoo M1, Kurono H2, Shimizu T1, Chiba A & Sakuta M (1 Department of Neurology Teikyo University School of Medicine, Japan, 2 Department of Neurology International Medical Center of Japan, Japan): A NEW PITFALL IN SENSORY CONDUCTION STUDY OF LAC: SPREAD TO THE RADIAL NERVE. International SFEMG Course and IXth Quantitative EMG Conference, Ljubljana, June 2-6, 2007.
16. 脊山英徳 1, 栗田浩樹 1, 窪田博 2, 西山和利, 山田深 3, 松本由美 4, 下斗米友美 4, 門馬博 3, 塩川芳昭 1, 山口芳裕 5 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・心臓血管外科, 3 杏林大・リハビリテーション科, 4 杏林大・看護部, 5 杏林大・救命救急科): 心臓血管外科手術を要した脳梗塞の 2 症例. 第 35 回多摩脳神経外科懇話会, 東京, 平成 19 年 6 月 7 日.
17. 大石知瑞子, 松田剛明 1, 西山和利, 栗田浩樹 2, 千葉厚郎, 山口芳裕 1 (1 杏林大・医・救急医学科, 2 杏林大・医・脳神経外科): 救急外来における神経内科医の需要についての検討. 第 21 回日本神経救急学会学術集会、京都、平成 19 年 6 月 16 日.
18. 伊東貴雄, 鬼島正典 1, 作田学, 西山和利 (1 国立病院機構千葉医療センター・神経内科): 末梢神経超音波検査による加齢と尺骨神経断面積の関係の解析. 第 7 回日本抗加齢医学総会, 京都, 平成 19 年 7 月 20-21 日.
19. 伊東貴雄, 鬼島正典 1, 作田学, 西山和利 (1 国立病院機構千葉医療センター・神経内科): 末梢神経超音波検査による加齢と脛骨神経断面積の解析. 第 7 回日本抗加齢医学総会, 京都, 平成 19 年 7 月 20-21 日.
20. 栗田浩樹 1, 脊山英徳 1, 山口竜一 1, 西山和利, 岡野晴子, 山田深 2, 松本由美 3, 加藤雅江 4, 山口芳裕 5, 塩川芳昭 1 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・医療福祉相談室, 5 杏林大・救命救急科): 脳卒中センター開設が大学病院の脳卒中診療をどのように変えたかー杏林大学の経験. 第 26 回 Mt Fuji Workshop on CVD, 大阪, 平成 19 年 9 月 1 日.
21. 新名由利子 1, 岡崎雅代 1, 山田深 2, 松本由美 3, 下斗米友美 3, 門馬博 2, 岡島康友 2, 栗田浩樹 4, 西山和利, 山口芳裕 5 (1 杏林大・看護部, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・リハビリテーション科, 4 杏林大・脳外科, 5 杏林大・救命救急科): 脳卒中による摂食・嚥下障害に対する摂食機能療法: Stroke Unit における看護介入の効果. 第 26 回 Mt Fuji Workshop on CVD, 大阪, 平成 19 年 9 月 1 日.
22. 脊山英徳 1, 栗田浩樹 1, 窪田博 2, 西山和利, 山田深 3, 藤岡保範 4, 塩川芳昭 1, 山口芳裕 5 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・心臓血管外科, 3 杏林大・リハビ

- リテーション科, 4 杏林大・病理学, 5 杏林大・救命救急科): 心臓血管外科手術を必要とした脳梗塞の 6 症例. 第 26 回 Mt Fuji Workshop on CVD, 大阪, 平成 19 年 9 月 1 日.
23. 輪千督高, 長田純理, 内堀歩, 宮崎泰, 千葉厚郎: 最重症 Guillain-Barre 症候群を繰り返した 48 歳男性例. 第 182 回日本神経学会関東地方会, 東京, 平成 19 年 9 月 1 日.
 24. 野末恭子 1, 栗田浩樹 1, 脊山英徳 1, 西山和利, 岡野晴子, 山田智美, 山田深 2, 松本由美 3, 塩川芳昭 1, 山口芳裕 4 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・救命救急科): 当院脳卒中センターで 14 ヶ月間に施行した rt-PA 静注療法 53 例の治療成績. 第 103 回日本脳神経外科学会関東地方会, 東京, 平成 19 年 9 月 8 日.
 25. 西山和利: 杏林大学病院脳卒中センターにおける超急性期脳梗塞 t-PA 療法の現状. 帝京 脳・神経セミナー, 東京, 平成 19 年 9 月 10 日
 26. 岡崎雅代 1, 新名由利子 1, 山田深 2, 下斗米友美 1, 松本由美 1, 栗田浩樹 3, 西山和利, 岡島康友 2, 山口芳裕 4 (1 杏林大・看護部, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・脳外科, 4 杏林大・救命救急科): 急性期脳卒中ユニットにおける口腔ケア介入効果. 第 13 回日本摂食嚥下リハ学会, 大宮, 平成 19 年 9 月 14-15 日.
 27. Okano H, Nishiyama K, Kurita H 1, Seyama H 1, Yamada S, Yamada S 2, Matsumoto Y 3, Chiba A & Yamaguchi Y 4 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・救命救急科): Reversible splenium lesion of the corpus callosum accompanied by intracranial hemorrhage: A case report. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep. 27-28, 2007.
 28. Nishiyama K, Kurita H 1, Yamada S 2, Matsuda T 3, Kato M 4, Matsumoto Y 5, Chiba A, Okajima Y 2, Shiokawa Y 1 & Yamaguchi Y 3 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・救命救急科, 4 杏林大・医療福祉相談室, 5 杏林大・看護部): How do foundation of stroke care unit and establishment of hotline between ambulance and stroke care unit change acute stroke medicine in urban area of Japan. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep. 27-28, 2007.
 29. Nemoto K 1, Kato M 1, Kurita H 2, Yamada S 3, Seyama H 2, Nishiyama K, Okano H, Momma H 3, Matsumoto Y 4, Shimotomai Y 4 & Yamaguchi Y 5 (1 杏林大・医療福祉相談室, 2 杏林大・脳外科, 3 杏林大・リハビリテーション科, 4 杏林大・看護部, 5 杏林大・救命救急科): Impact of social and famial support on living alone stroke survivors during the subacute recovery stage. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep. 27-28, 2007.
 30. Yamaguchi R 1, Kurita H 1, Seyama H 1, Yamada S 2, Nishiyama K, Matsumoto Y 3, Shimotomai Y 3, Momma H 2, Yamaguchi Y 4 & Shiokawa Y 1 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・救命救急科): Treatment of ruptured anterior chroidal artery aneurysms: 12-year experience with 20 cases. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep. 27-28, 2007.
 31. Kurita H 1, Shiokawa Y 1, Yamaguchi R 1, Seyama H 1, Nishiyama K, Yamada S 2, Momma H 2, Matsumoto Y 3, Shimotomai Y 3, Kato M 4 & Yamaguchi Y 5 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・医療福祉相談室, 5 杏林大・救命救急科): Functional carotid artery trapping and reconstruction with radial artery graft for ruptured carotid blister-like aneurysms of the anterior wall: long-term results. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep. 27-28, 2007.

32. Niina Y 1, Yamada S 2, Okazaki M 1, Matsumoto Y 1, Shimotomai Y 1, Kurita H 3, Nishiyama K, Okajima Y 2 & Yamaguchi Y 4 (1 杏林大・看護部, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・脳外科, 4 杏林大・救命救急科) : Effectiveness of a systematic oral care program for acute stroke unit care. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep. 27-28, 2007.
33. Sakai T 1, Yamada S 1, Momma H 1, Okajima Y 1, Kurita H 2, Nishiyama K, Seyama H 2, Okano H, Matsumoto Y 3 & Yamaguchi Y 4 (1 杏林大・リハビリテーション科, 2 杏林大・脳外科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・救命救急科) : Rehabilitation course and outcome of stroke patients treated with t-PA. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep. 27-28, 2007.
34. Ishita K 1, Yamada S 1, Mori M 1, Okajima Y 1, Kurita H 2, Nishiyama K, Matsumoto Y 3 & Yamaguchi Y 4 (1 杏林大・リハビリテーション科, 2 杏林大・脳外科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・救命救急科) : Rehabilitation outcomes of unilateral spatial neglect caused by posterior cerebral artery lesion. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep. 27-28, 2007.
35. Saegusa Y 1, Yamada S 2, Kuroda T 1, Matsumoto Y 1, Shimotomai Y 1, Mori M 2, Kurita H 3, Nishiyama K, Okajima Y 2 & Yamaguchi Y 4 (1 杏林大・看護部, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・脳外科, 4 杏林大・救命救急科) : A Validation Study of the FIM for Use in Acute Stroke Unit Care Settings. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep. 27-28, 2007.
36. Sasamori H 1, Kurita H 1, Seyama H 1, Nishiyama K, Uchibori A, Miyazaki T, Yamada S 2, Matsumoto Y 3, Shimotomai Y 3, Momma H 2, Kato M 4, Okajima Y 2, Shiokawa Y 1 & Yamaguchi Y 5 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・医療福祉相談室, 5 杏林大・救命救急科) : Characteristic angiographic findings in basilar artery dissection: report of two cases. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep. 27-28, 2007.
37. Yamada S 1, Okajima Y 1, Wada Y 1, Kurita H 2, Nishiyama K, Matsumoto Y 3 & Yamaguchi Y 4 (1 杏林大・リハビリテーション科, 2 杏林大・脳外科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・救命救急科) : Significance of ADL evaluation by the FIM among stroke patients who are transferred to the rehabilitation hospital. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep. 27-28, 2007.
38. Kato M 1, Nemoto K 1, Kurita H 2, Yamada S 3, Seyama H 2, Nishiyama K, Okano H, Momma H 3, Matsumoto Y 4, Shimotomai Y 4 & Yamaguchi Y 5 (1 杏林大・医療福祉相談室, 2 杏林大・脳外科, 3 杏林大・リハビリテーション科, 4 杏林大・看護部, 5 杏林大・救命救急科) : Effect of organized social working for discharge in a stroke unit. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep. 27-28, 2007.
39. 野末恭子 1, 栗田浩樹 1, 脊山英徳 1, 西山和利, 岡野晴子, 山田深 2, 松本由美 3, 下斗米友美 3, 加藤雅江 4, 岡島康友 2, 門馬博 2, 山口竜一 1, 山口芳裕 5, 塩川芳昭 1 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・医療福祉相談室, 5 杏林大・救命救急科) : 都市型脳卒中センターを新規開設した杏林大学病院における 1 年間の脳卒中診療の総括. 第 66 回日本脳神経外科学会総会, 東京, 平成 19 年 10 月 3-5 日.
40. 脊山英徳 1, 野末恭子 1, 栗田浩樹 1, 西山和利, 岡野晴子, 塩川芳昭 1, 山口芳裕 2 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・救命救急科) : 当院で rt-PA 静注療法施行体制をとった 100 例の検討. 第 66 回日本脳神経外科学会総会, 東京, 平成 19 年 10

月 3-5 日.

41. 笹森寛生 1, 脊山英徳 1, 山田深 2, 栗田浩樹 1, 西山和利, 塩川芳昭 1, 山口芳裕 3 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・救命救急科): 特徴的脳血管撮影所見を呈した脳底動脈解離の 2 例. 第 66 回日本脳神経外科学会総会, 東京, 平成 19 年 10 月 3-5 日.
42. 宮澤顕子 1, 廣田和成 1, 平形明人 1, 桶田哲夫 1, 西山和利, 橋本洋一郎 2 (1 杏林大・眼科, 2 熊本市市民病院・神経内科): 卵円孔開存を伴った片頭痛発作後の若年性網膜中心動脈閉塞症の一例. 第 61 回日本臨床眼科学会, 京都, 平成 19 年 10 月 11-14 日.
43. 西山和利: 最新の脳梗塞治療の動向. 世田谷・杉並脳卒中勉強会, 東京, 平成 19 年 10 月 18 日.
44. 千葉厚郎: 免疫性ニューロパチーの病態・診断・治療について. 第 1 回臨床神経懇話会, 呉, 平成 19 年 11 月 2 日.
45. Tokisaki Y 1, Kuroda T 1, Matsumoto Y 1, Shimotomai Y 1, Mori M 2, Yamada S 2, Kurita H 3, Nishiyama K & Yamaguchi Y 4 (1 杏林大・看護部, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・脳外科, 4 杏林大・救命救急科): A variation study of FIM in acute stroke unit settings. The 13th Interim Meeting of World Federation of Neurosurgical Societies and 12th Asian-Australasian Congress of Neurological Surgeons., Nagoya, Nov. 18-21, 2007.
46. 東佑佳, 脊山英徳 1, 野末恭子 1, 本田有子 1, 林基高 1, 松本由美 2, 山田深 3, 西山和利, 栗田浩樹 1, 山口芳裕 4 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・看護部, 3 杏林大・リハビリテーション科, 4 杏林大・救命救急科): 杏林大学病院脳卒中センターにおける非高血圧性脳出血の解析. 第 36 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 19 年 11 月 17 日.
47. 瀧浦俊彦, 西山和利, 岡野晴子, 山田智美, 脊山英徳 1, 山田深 2, 松本由美 3, 栗田浩樹 1, 山口芳裕 4 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・救命救急科): 突発性難聴様の発症形式を呈し、その後同側 Wallenberg 症候群を合併した AICA 梗塞の一例. 第 36 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 19 年 11 月 17 日.
48. 阿部昌之, 西山和利, 岡野晴子, 山田智美, 新田勇介 1, 山田深 2, 松本由美 3, 栗田浩樹 1, 山口芳裕 4 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・救命救急科): 脳塞栓の二次予防中にワルファリン抵抗症と判明した一例. 第 36 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 19 年 11 月 17 日.
49. 黒田恵子, 西山和利, 岡野晴子, 新田勇介 1, 山田深 2, 松本由美 3, 栗田浩樹 1, 山口芳裕 4 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・救命救急科): 脳梗塞急性期に発生する脳塞栓再発についての検討. 第 36 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 19 年 11 月 17 日.
50. 乾俊哉, 西山和利, 岡野晴子, 山田智美, 山田深 1, 松本由美 2, 栗田浩樹 3, 山口芳裕 4 (1 杏林大・リハビリテーション科, 2 杏林大・看護部, 3 杏林大・脳外科, 4 杏林大・救命救急科): 全身性エリテマトーデス・抗リン脂質抗体症候群を合併した脳出血の一例. 第 36 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 19 年 11 月 17 日.
51. 茂呂順久, 長田純理, 内堀歩, 宮崎泰, 小路仁 1 (1 杏林大・腎臓リウマチ膠原病科): 小脳炎を繰り返した GNS lupus の 24 歳女性例. 第 183 回日本神経学会関東地方会, 東京, 平成 19 年 12 月 1 日.
52. 西山和利: 脳卒中診療の最近の動向と医療連携. 西東京市脳卒中病診連携勉強会, 西東京, 平成 19 年 12 月 13 日.
53. 脊山英徳 1, 栗田浩樹 1, 西山和利, 山田深 2, 塩川芳昭 1, 山口芳裕 3 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・救命救急科): 杏林

- 大学病院脳卒中センターで tPA 静注療法にチャレンジした 160 例と実際に治療施行した 66 例の解析：問題点と今後の展望．第 13 回日本脳神経外科救急学会，東京，平成 20 年 1 月 18-19 日．
54. 河合拓也 1, 土屋一洋 2, 脊山英徳 1, 西山和利, 栗田浩樹 1, 塩川芳昭 1 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・放射線科) : Flow-Sensitive Black Blood (FS-BB) 法による中大脳動脈穿通枝の評価．第 31 回日本脳神経 CI 学会総会, 東京, 平成 20 年 2 月 21-22 日．
 55. 西山和利 : 最新の脳梗塞治療 : 超急性期から慢性期まで．三鷹医師会学術講演会, 三鷹, 平成 20 年 2 月 27 日
 56. 長田純理, 内堀歩, 宮崎泰, 千葉厚郎 : 脳腫瘍様病変を呈した Behcet 病の 38 歳男性例．第 184 回日本神経学会関東地方会, 東京, 平成 20 年 3 月 1 日．
 57. 西山和利, 脊山英徳 1, 岡野晴子, 山田智美, 松本由美 2, 山田深 3, 栗田浩樹 1, 千葉厚郎, 山口芳裕 4 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・看護部, 3 杏林大・リハビリテーション科, 4 杏林大・救命救急科) : 脳梗塞急性期におけるシロスタゾール投与開始方法に関する検討．第 33 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日．
 58. 阿部昌之, 西山和利, 岡野晴子, 新田勇介 1, 山田智美, 松本由美 2, 山田深 3, 栗田浩樹 1, 山口芳裕 4 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・看護部, 3 杏林大・リハビリテーション科, 4 杏林大・救命救急科) : ワルファリン抵抗性の自験例報告と当センターにおけるワルファリン療法の現状．第 33 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日．
 59. 山田深 1, 門馬博 1, 栗田浩樹 2, 西山和利, 松本由美 3, 岡島康友 1, 山口芳裕 4 (1 杏林大・リハビリテーション科, 2 杏林大・脳外科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・救命救急科) : 脳卒中ユニットにおけるリハ帰結と予後予測．第 33 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日．
 60. 木内善太郎, 西山和利, 脊山英徳 1, 岡野晴子, 河合拓也 1, 山田智美, 山田深 2, 松本由美 3, 栗田浩樹 1, 山口芳裕 4 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・救命救急科) : 脳出血における早期痙攣発作発現の臨床的検討 : 特に視床出血、被殻出血に注目して．第 33 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日．
 61. 瀧浦俊彦, 西山和利, 岡野晴子, 脊山英徳 1, 山田智美, 松本由美 2, 山田深 3, 栗田浩樹 1, 山口芳裕 4 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・看護部, 3 杏林大・リハビリテーション科, 4 杏林大・救命救急科) : 突発性難聴様の発症形式を呈し他の中枢神経症状を欠いた AICA 梗塞の一例．第 33 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日．
 62. 脊山英徳 1, 栗田浩樹 1, 西山和利, 山田深 2, 塩川芳昭 1, 山口芳裕 3 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・救命救急科) : 杏林大学病院脳卒中センターで施行した tPA 静注療法 66 例の解析．第 33 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日．
 63. 栗田浩樹 1, 山口竜一 1, 池田俊貴 1, 脊山英徳 1, 西山和利, 山田深 2, 松本由美 3, 門馬博 2, 山口芳裕 3, 塩川芳昭 1 (1 杏林大・脳外科, 2 杏林大・リハビリテーション科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・救命救急科) : 救命救急・脳卒中センターにおける破裂 AVM の臨床像と急性期治療．第 33 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日．
 64. 石田幸平 1, 山田深 1, 門馬博 1, 境哲生 1, 前田直 1, 栗田浩樹 2, 西山和利, 松本由美 3, 岡島康友 1, 山口芳裕 4 (1 杏林大・リハビリテーション科, 2 杏林大・脳外科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・救命救急科) : アルテプラゼ (t-PA) 静注療法後の高次脳機能障害とリハビリテーション介入．第 33 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日．

65. 東條友紀子 1, 山田深 1, 和田勇治 1, 岡島康友 1, 門馬博 1, 前田直 1, 栗田浩樹 2, 西山和利, 松本由美 3, 山口芳裕 4 (1 杏林大・リハビリテーション科, 2 杏林大・脳外科, 3 杏林大・看護部, 4 杏林大・救命救急科): 急性期一回復期施設間連携における FIM の信頼性. 第 33 回日本脳卒中学会総会, 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日.

II. 論文

1. des Senanayake P, Drazba J, Shadrach K, Milsted A, Rungger-Brandle E, Nishiyama K, Miura S, Karnik S, Sears JE & Hollyfield JG: Angiotensin II and its Receptor Subtypes in the Human Retina. Invest Ophthalmol Visual Sci 48:3301-3311, 2007.
2. 西山和利, 作田学: 難治性疾患としての神経・筋サルコイドーシス. 日本サルコイドーシス学会誌. 27:37-42, 2007.

III. 著書

1. 山田深, 栗田浩樹, 西山和利: 脳卒中リハビリテーション連携パス. 連携パス実例集 3 (急性期) 都市型脳卒中診療連携の一例. 東京, 医学書院, 2007. p. 87-92.
2. 千葉厚郎: Fisher 症候群. 末梢神経—基礎から臨床まで. Clinical Neuroscience. 東京, 中外医学社, 2007. p. 771-773.
3. 西山和利: 末梢神経エコー. 末梢神経—基礎から臨床まで. Clinical Neuroscience. 東京, 中外医学社, 2007. p. 804-806.
4. 西山和利, 折津愈: サルコイドーシスの臓器病変-診断と治療 4) 神経病変. 呼吸器科-サルコイドーシスの基礎と臨床 Up-to-date. 東京, 科学評論社, 2007. p. 424-431.
5. 千葉厚郎: Reversible posterior leukoencephalopathy syndrome と薬物. 薬物と神経筋障害: 診断と治療の進歩. 日本内科学会雑誌. 東京, 日本内科学会, 2007. p. 1657-1663.
6. 千葉厚郎: ナースのための早引き脳神経疾患ハンドブック. 千葉厚郎監修. 東京, ナツメ社, 2008.

IV. その他

1. 西山和利「大都市型脳卒中診療体制構築研究会」世話人
2. 西山和利「首都圏脳卒中フォーラム」代表世話人
3. 千葉厚郎「日本神経学会関東地方会」世話人
4. 千葉厚郎「三多摩神経懇話会」世話人
5. 千葉厚郎「Clinical Neurology Club」世話人
6. 千葉厚郎「多摩ムーブメントディスオーダーズ研究会」世話人
7. 千葉厚郎「多摩神経免疫研究会」世話人
8. 千葉厚郎「多摩パーキンソン病・運動障害フォーラム」世話人
9. 千葉厚郎「多摩 Stroke 研究会」世話人
10. 千葉厚郎「大都市型脳卒中診療体制構築研究会」世話人
11. 千葉厚郎「北多摩南部脳卒中ネットワーク研究会」世話人

第二内科（血液）

I. 口演

1. 横山明弘, 高山信之, 佐藤範英, 鈴木亮, 甫守正史, 吉野秀朗: EB ウイルス関連血球貪食症候群 4 症例の検討. 第 69 回日本血液学会総会・第 49 回日本臨床血液学会総会, 横浜, 平成 19 年 10 月 12 日.
2. 高山信之, 造血幹細胞移植の現状と今後の課題. 日野市医師会学術講演会, 東京, 平成 19 年 11 月 20 日
3. 新倉量太, 高山信之, 佐藤範英, 横山明弘, 鈴木亮, 甫守正史, 吉野秀朗: 巨赤芽球性貧血に対するビタミン B12 投与から 1 年後に pure erythroid leukemia に移行した 1 例. 第 160 回日本臨床血液学会例会, 埼玉, 平成 20 年 2 月 16 日

II. 著書

1. 高山信之: APL における至適な維持療法は何か? EBM 血液疾患の治療 2008-2009. 押味和夫, 別所正美, 岡本真一郎, 加藤淳編. 東京, 中外医学社, 2007, p. 226-234.

内科学教室（第二）＜循環器＞

口 演

1. 池田隆徳: 心室中隔ペーシングの効果と手技方法. 第2回心室中隔ペーシングワークショップ、東京、平成19年4月7日
2. 池田隆徳: CCUにおける心室頻拍・細動に対してのIII群薬の使い方. 第3回九州アミオダロン研究会、福岡、平成19年4月14日
3. 吉野秀朗: 心筋バイアビリティの評価. 第15回New Horizon for Cardiology循環器病を新しい視点から探る、東京、平成19年4月21日
4. 池田隆徳: 不整脈治療の基本: 抗不整脈薬の使い方を中心に. 狛江市医師会学術講演会、狛江、平成19年4月25
5. 宮越 睦、池田隆徳、三輪陽介、榊 桂、石黒晴久、阿部敦子、塚田雄大、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀朗: 第4回不整脈薬物治療フォーラム、東京、平成19年4月21日
6. Namba T (マッピング解析ワーキンググループ), Toda T, Yao T, Ashihara T, Haraguchi R, Nakazawa K, Ikeda T: Bipolar electrode potential available for evaluating the local myocardial repolarization. *32th ISCE (International Society of Computerized Electrocardiology)*, Cancun, April 23, 2007
7. Ikeda T: Noninvasive Sudden Cardiac Death Risk Stratification: A Multinational Perspective: Current approach to risk stratification for sudden cardiac death in Japan. *28th HRS (Heart Rhythm Society)*, Denver, May 9, 2007
8. Ikeda T, Singh BN, Kamiya K, Yamada S: Efficacy of intravenous amiodarone in hemodynamically destabilizing ventricular tachycardia or fibrillation. *28th HRS (Heart Rhythm Society)*, Denver, May 10, 2007
9. Sakaki K, Ikeda T, Miwa Y, Miyakoshi M, Ishiguro H, Tsukada T, Abe A, Mera H, Nakamura K, Yusu S, Yoshino H: Absence of correlation between

conventional microvolt T-wave alternans and newly developed ambulatory electrocardiogram-based T-wave alternans. *28th HRS (Heart Rhythm Society)*, Denver, May 10, 2007

10. Nakamura K, Ikeda T, Yusu S, Miwa Y, Sakaki K, Miyakoshi M, Ishiguro H, Tsukada T, Abe A, Mera H, Sakata K, Yoshino H: Myocardial scar detected by contrast-enhanced magnetic resonance imaging and electrophysiological risk-stratification markers in patients with nonischemic cardiomyopathy. *28th HRS (Heart Rhythm Society)*, Denver, May 11, 2007

11. Ashihara T (マッピング解析ワーキンググループ), Yao T, Ito M, Horie M, Namba T, Haraguchi R, Nakazawa K, Ikeda T, Trayanova NA: Steep APD restitution curve is not essential for microvolt T-wave alternans: Insights from computer simulations. *28th HRS (Heart Rhythm Society)*, Denver, May 11, 2007

12. 池田隆徳：心室中隔ペーシングの効果と手技方法。第3回心室中隔ペーシングワークショップ、東京、平成19年5月19日

13. 吉野秀朗：循環器疾患高脂血症における最近の話題。第9回調布臨床検討会、調布、平成19年5月24日

14. 池田隆徳：重症心室性不整脈に対するIII群薬の使い方。第3回長野アミオダロン講演会、松本、平成19年5月24日

15. 南島俊徳、坂田好美、中村健太郎、高昌秀安、田口浩樹、武本和也、佐藤一樹、水野宜英、古谷充史、岡田道雄、吉野秀朗：感染性心内膜炎の経過中に胸痛を認めた1例。第41回東京心エコー研究会、東京、平成19年5月26日

16. 池田隆徳、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀明 (パネルディスカッション)：低心機能患者における突然死の予知とリスク層別化：非侵襲的指標を中心としたアルゴリズムの提唱。第22回日本不整脈学会、広島、平成19年6月2日

17. 池田隆徳、榊 桂、三輪陽介、宮越 睦、阿部敦子、石黒晴久、塚田雄大、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀明 (パネルディスカッション)：顕在化するBrugada症候群の簡易で精度の高い非侵襲的診断法。第22回日本不整脈学会、広島、平成19年6月3日

18. 中村健太郎、池田隆徳、坂田好美、三輪陽介、榊 桂、宮越 睦、石黒晴久、塚田雄大、阿部敦子、米良尚晃、柚須 悟、吉野秀朗：致死性不整脈の予知指標であるMicrovolt T-Wave Alternansと拡張不全の評価指標である心エコー組織ドプラ法で計測されるE/e'との関連性。第22回日本不整脈学会、広島、平成19年6月2日

19. 榊 桂、池田隆徳、三輪陽介、宮越 睦、石黒晴久、塚田雄大、阿部敦子、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀朗：スペクトル解析によるT-Wave Alternans とタイムドメイン解析によるT-Wave Alternansの相関関係：心筋梗塞患者での評価。第22回日本不整脈学会、広島、平成19年6月2日

20. 米良尚晃、池田隆徳、柚須悟、中村健太郎、阿部敦子、石黒晴久、塚田雄大、宮越睦、榊桂、三輪陽介、坂田好美、四倉正之、吉野秀朗：心筋梗塞の急性期に測定されたHeart Rate Turbulenceの臨床的意義。第22回日本不整脈学会、広島、平成19年6月2日

21. 瀬崎和典 (新山手病院・循環器内科)、笠岡祐二、谷口由紀子、徳永裕之、辻本哲也、沖本孝雄、鈴木文男、柚須 悟、中村健太郎、池田隆徳、吉野秀朗、山岸聖史、速水紀幸、村川裕二、野田 誠：伝導遅延が示唆されず多形性心室頻拍を合併した中年の左室緻密化障害の1例。第22回日本不整脈学会、広島、平成19年6月2日

22. 池田隆徳：CCUにおけるIII群抗不整脈薬の使い方。富山不整脈学術講演会、富

山、平成19年6月8日

23. 池田隆徳：心室中隔ペーシングの効果と手技方法。第4回心室中隔ペーシングワークショップ、東京、平成19年6月9日

24. 池田隆徳、坂田好美、吉野秀朗：日常臨床の循環器Q & A。第16回府中医師会循環器勉強会、府中、平成19年6月11日

25. 池田隆徳：致死性不整脈の検査・診断：非侵襲的検査でのICD適応決定。心臓突然死予防プログラム、東京、平成19年6月16日

26. 高昌秀安、信太研二、伊波 巧、永井 亘、家泉康宏、菊池達郎、清水尚志、吉野秀朗：3枝病変に対し同時にPCIをおこなった症例。第26回多摩地区虚血性心疾患研究会、東京、平成19年6月16日

27. 池田隆徳（教育講演）：不整脈診療の基本：ベッドサイドでの不整脈治療。第25回日本心臓病学会教育セミナー、東京、平成19年6月17日

28. 池田隆徳：不整脈治療の考え方と実際。第17回多摩アンジオテンシン研究会、立川、平成19年6月19日

29. 池田隆徳：一般内科医のための心房細動治療の実際。脳・心イベントUpstream Treatment学術講演会、武蔵野、平成19年6月20日

30. 池田隆徳：自律神経活動を標的にした不整脈に対する薬物療法。シベンゾリン/プロパフェノンワークショップ2007、東京、平成19年6月27日

31. 谷合誠一、西村徹、吉野秀朗：アデノシン負荷心筋シンチグラフィにおける症状の発現と虚血所見との関連。第17回日本心臓核医学会、東京、平成19年6月27日

32. 柚須 悟、池田隆徳、宮越 睦、三輪陽介、榊 桂、阿部敦子、石黒晴久、塚田雄大、米良尚晃、中村健太郎、吉野秀朗：杏林大学病院での徐脈性不整脈に対する心室中隔ペーシングの実際。第18回多摩不整脈研究会、武蔵野、平成19年6月30日

33. 五島 啓、笠岡祐二、杉藪康憲、村田将光、谷口由紀子、徳永裕之、沖本孝雄、千坂正毅、瀬崎和典、鈴木文男、柚須 悟、中村健太郎、池田隆徳、吉野秀朗：明かな心室内伝導障害を伴わず多形性心室頻拍を合併した中年の左室緻密化障害の1例。第18回多摩不整脈研究会、武蔵野、平成19年6月30日

34. 永井 亘、信太研二、伊波 巧、家泉泰宏、菊池達郎、高昌秀安、清水尚志、坂田好美、吉野秀朗：左冠動脈回旋枝が責任病変のAMI治療にIVUSが有用であった一例。第101回日本シネアンジオ研究会、東京、平成19年7月1日

35. 池田隆徳（ランチョンセミナー）：T-wave alternansとは：その解釈と予知指標としての位置づけ。第27回日本ホルター・ノンインベシブ心電学研究会、別府、平成19年7月7日

36. 阿部敦子、池田隆徳、石黒晴久、塚田雄大、宮越 睦、三輪陽介、榊 桂、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀朗（シンポジウム）：若年者の特発性心室細動とJ波変動との関連性：薬物効果を含めての評価。第27回日本ホルター・ノンインベシブ心電学研究会、別府、平成19年7月7日

37. 三輪陽介、池田隆徳、榊 桂、宮越 睦、石黒晴久、塚田雄大、阿部敦子、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀朗：Heart Rate TurbulenceとHeart Rate Variabilityのデータの相関性に関する検討。第27回日本ホルター・ノンインベシブ心電学研究会、別府、平成19年7月7日

38. 菊池達郎、信太研二、家泉泰宏、永井 亘、伊波 巧、高昌秀安、清水尚志、

- 吉野秀朗：重症左心不全例における腎機能障害と貧血の関与。第27回心筋梗塞研究会、東京、平成19年7月7日
39. 池田隆徳：実地医家における不整脈に対する薬物療法。臼杵・津久見医師会学術講演会、津久見、平成19年7月13日
40. 池田隆徳：CCUにおけるIII群抗不整脈薬の使い方。第5回播磨不整脈カンファレンス、姫路、平成19年7月21日
41. 池田隆徳：心室中隔ペーシングの効果と手技方法。第5回心室中隔ペーシングワークショップ、東京、平成19年7月28日
42. 吉野秀朗：他臓器の障害を合併した虚血性心疾患治療。三鷹医師会循環器研究会、三鷹、平成19年7月30日
43. 池田隆徳： β 遮断薬の魅力を探る：不整脈治療に焦点をあてて。港区学術講演会、品川、平成19年8月3日
44. 池田隆徳：救急医療における抗不整脈薬の現状と実際の使い方。釧路地区不整脈治療学術講演会、釧路、平成19年8月31日
45. 池田隆徳：突然死の予知指標の種類と考え方。日本ホルター・ノンインベシブ心電学研究会主催心電図講習会、東京、平成19年9月8日
46. 池田隆徳（ランチョンセミナー）：自律神経活動を考慮に入れた発作性心房細動に対する薬物治療。第55回日本心臓病学会、浦安、平成19年9月10日
47. 谷合誠一、西村徹、長江厚、横溝和美、山崎聡子、吉野秀朗：急性冠症候群における来院時Troponin-Iによる虚血障害の評価：BMIPP心筋シンチとの対比。第55回日本心臓病学会、浦安、平成19年9月10日
48. 池田隆徳、宮越 睦、榊 桂、三輪陽介、阿部敦子、石黒晴久、塚田雄大、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀明（シンポジウム）：ハイリスクBrugada症候群患者の非侵襲的診断法。第55回日本心臓病学会、浦安、平成19年9月11日
49. 米良尚晃、池田隆徳、柚須 悟、中村健太郎、阿部敦子、石黒晴久、塚田雄大、榊 桂、宮越 睦、三輪陽介、加地英生、坂田好美、四倉正之、吉野秀朗：急性冠症候群の急性期に測定されたHeart Rate Turbulenceの臨床的意義。第55回日本心臓病学会、浦安、平成19年9月11日
50. 高昌秀安、清水尚志、家泉泰宏、菊池達郎、伊波 巧、永井 亘、信太研二、吉野秀朗、：急性大動脈解離におけるIMHの予後。第55回日本心臓病学会、千葉、平成19年9月11日
51. 高昌秀安、清水尚志、家泉泰宏、菊池達郎、伊波 巧、永井 亘、信太研二、吉野秀朗：急性大動脈解離における心タンポナーデ合併例の検討。第55回日本心臓病学会、千葉、平成19年9月11日
52. 永井 亘、西村 徹、伊波 巧、家泉泰宏、菊池達郎、高昌秀安、信太研二、清水尚志、吉野秀朗：急性冠症候群のWeekly Variation。第55回日本心臓病学会学術集会、千葉、平成19年9月11日
53. 伊波 巧、永井 亘、家泉泰宏、菊池達郎、高昌秀安、信太研二、清水尚志、坂田好美、吉野秀朗：大動脈弁狭窄症とBNP、第55回日本心臓病学会、千葉、平成19年9月11日
54. 坂田好美、佐藤一樹、水野宜英、南島俊徳、古谷充史、田口浩樹、武本和也、吉野秀朗。安静時経静脈的心筋コントラストエコー法の虚血性心疾患症例におけるcardiac events予測評価に関する有用性について。第55回日本心臓病学会、浦安、

平成19年9月12日

55. 高野真澄（福島県立医科大学・第一内科）、林英宰、山田聡、岩倉克臣、伊藤浩、室生卓、別府慎太郎、坂田好美、河瀬吉雄、高木厚、安隆則、那須雅孝、渡部朋幸、藤澤攻、白井徹郎、竹内正明、伏見悦子、太田剛弘、吉川純一：心筋コントラストエコー法による陳旧性心筋梗塞検出：多施設共同研究ACTMCE-1 infarction 初期解析結果。第55回日本心臓病学会、千葉、平成19年9月12日
56. 岩倉克臣（桜橋渡辺病院心臓・血管センター内科）、林英宰、高野真澄、山田聡、伊藤浩、室生卓、別府慎太郎、坂田好美、河瀬吉雄、高木厚、安隆則、那須雅孝、渡部朋幸、藤澤攻、白井徹郎、竹内正明、伏見悦子、太田剛弘、吉川純一：心筋コントラストエコー多施設共同研究ACTMCE-1での心筋造影評価の読影者間における一致率について。第55回日本心臓病学会学術集会、千葉、2007年9月12日
57. 池田隆徳：心室中隔ペーシングの効果と手技方法。第7回心室中隔ペーシングワークショップ、東京、平成19年9月15日
58. 池田隆徳：心房細動に対する薬物による治療戦略。新宿循環器セミナー、東京、平成19年9月19日
59. 池田隆徳：注射剤III群抗不整脈薬の使い方とその実際。第4回東京アミオダロン講演会、東京、平成19年9月27日
60. 池田隆徳：外来に不整脈患者が来たらどうしますか？一病態から治療まで。町田不整脈講演会、町田、平成19年9月28日
61. 青柳貴之、中村健太郎、伊波 巧、佐藤範英、高山信之、池田隆徳、坂田好美、吉野秀朗：寒冷凝集素症に合併したアスペルギルス性三尖弁感染性心内膜炎の1例。第205日本循環器学会関東甲信越地方会、東京、平成19年9月29日
62. 柚須 悟、池田隆徳、榊 桂、宮越 睦、三輪陽介、石黒晴久、塚田雄大、阿部敦子、米良尚晃、中村健太郎、吉野秀朗：発作性心房細動患者における脳塞栓の発症予測：画像指標と心電学的指標はその予知に有用か？第24回日本心電学会、名古屋、平成19年10月5日
63. 榊 桂、池田隆徳、宮越 睦、三輪陽介、石黒晴久、塚田雄大、阿部敦子、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、四倉正之、吉野秀朗：タイムドメイン解析によるT-Wave Alternans：オルタナンス電位に関する検討。第24回日本心電学会、名古屋、平成19年10月5日
64. 中村健太郎、池田隆徳、柚須 悟、三輪陽介、宮越 睦、榊 桂、阿部敦子、石黒晴久、塚田雄大、米良尚晃、坂田好美、吉野秀朗：非虚血性心筋症患者における遅延造影MRIの意義：心室遅延電位と不整脈イベントとの関連性を含めての評価。第24回日本心電学会、名古屋、平成19年10月5日
65. 芦原貴司、八尾武憲、中澤優子、城日加里、伊藤英樹、杉本喜久、伊藤 誠、難波経豊、原口 亮、中沢一雄、池田隆徳、堀江 稔：心筋リモデリング下の心房細動に対するIII群抗不整脈薬の効果：ヒト心房筋モデルによるコンピュータシミュレーション。第24回日本心電学会、名古屋、平成19年10月5日
66. 池田隆徳（受賞講演）：Predictive value of microvolt T-wave alternans for sudden cardiac death in patients with preserved cardiac function after acute myocardial infarction: Results of a collaborative cohort study. 第24回日本心電学会、名古屋、平成19年10月6日
67. 難波経豊（マッピング解析ワーキンググループ）、藤堂貴弘、芦原貴司、八尾武憲、原口 亮、中沢一雄、池田隆徳、大江 透：双極電位による心筋局所の再分極完了時点の同定/双極電位マッピングによる再分極パターンの可視化。第24回日本心電学会、名古屋、平成19年10月6日

68. 原口 亮 (マッピング解析ワーキンググループ)、芦原貴司、八尾武憲、難波経豊、藤堂貴弘、池田隆徳、中沢一雄：第24回日本心電学会、名古屋、平成19年10月6日
69. 藤堂貴弘 (マッピング解析ワーキンググループ)、原口 亮、難波経豊、八尾武憲、芦原貴司、東 将浩、池田隆徳、中沢一雄：コンピュータシミュレーションを用いた致死性不整脈の発生危険度予測システムの試作。第24回日本心電学会、名古屋、平成19年10月6日
70. 米良尚晃、四倉正之、柚須 悟、中村健太郎、阿部敦子、石黒晴久、塚田雄大、榎 桂、宮越 睦、三輪陽介、池田隆徳、坂田好美、吉野秀朗：陰性T波を有する陳旧性心筋梗塞患者の運動負荷後のST-T変化と予後の関連性。第24回日本心電学会、名古屋、平成19年10月6日
71. Ikeda T: Arrhythmogenic hereditary syndrome: Diagnosis and management of Brugada syndrome. 10th *International Workshop on Cardiac Arrhythmias (Venice Arrhythmias 2007)*, Venice, October 8, 2007
72. Miwa Y, Ikeda T, Sakaki K, Miyakoshi M, Ishiguro H, Tsukada T, Abe A, Mera H, Nakamura K, Yusu S, Yoshino H: Relationship between heart rate turbulence and heart rate variability in patients with serious ventricular tachyarrhythmias. 10th *International Workshop on Cardiac Arrhythmias (Venice Arrhythmias 2007)*, Venice, October 9, 2007
73. Nishimura T, Tani ai S, Yamasaki S, Nagae A, Yokomizo K, Shimoyama K, Shimizu H, Yoshino H: Ck and troponin-I: which reflects more accurately the risk area of acute myocardial infarction? *7th International Congress on Coronary Artery Disease*, Venice, October 9, 2007
74. Tani ai S, Nishimura T, Yamasaki S, Nagae A, Yokomizo K, Shimoyama K, Shimizu H, Yoshino H: The importance of troponin-I distinguishing acute coronary syndrome. *7th International Congress on Coronary Artery Disease*, Venice, October 9, 2007
75. Abe A, Ikeda T, Ishiguro H, Tsukada T, Miwa Y, Miyakoshi M, Sakaki K, Mera H, Nakamura K, Yusu S, Yoshino H: Prevalence of J waves on 12-lead electrocardiogram in patients with syncope and no organic disorder. 10th *International Workshop on Cardiac Arrhythmias (Venice Arrhythmias 2007)*, Venice, October 10, 2007
76. 宮澤永尚、田口浩樹、南島俊徳、信太研二、中村健太郎、清水尚志、坂田好美、吉野英朗：臨床経過と胸部誘導を含めた広範な誘導でST上昇を認めたことから診断に苦慮した下壁梗塞の一例。第548回日本内科学会関東地方会、東京、平成19年10月13日
77. 田口浩樹、武本和也、南島俊徳、佐藤一樹、水野宜英、古谷充史、中村健太郎、信太研二、清水尚志、坂田好美、吉野秀朗：広範囲誘導でST上昇を認め診断に苦慮した右室梗塞の1例。第206回日本循環器学会関東甲信越地方会、東京、平成19年10月13日
78. Kohshoh H, Yoshino H, Shimizu H, Ieizumi Y, Kikuchi T, Inami T, Nagai W, Shida K, Sudo K, Yamaguchi Y: Outcome of Patients with Acute Aortic Intramural Hematoma in the Extremely Early Stage. 8th Annual International Symposium on Advances in Understanding Aortic Diseases, Tokyo, 2006.10.15日
79. 池田隆徳：心臓突然死をいかに予知するか。第6回循環器エキスパートミーティング、東京、平成19年10月15日

80. Miyakoshi M、Ikeda T、Miwa Y、Sakaki K、Ishiguro H、Abe A、Tsukada T、Mera H、Nakamura K、Yusu S、Yoshino H: Quantitative assessment on the treatment with cibenzoline of vagally mediated paroxysmal atrial fibrillation using frequency-domain heart rate variability analysis. *3rd APAFS (Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium)*、Taipei、October 18、2007
81. Ashihara T (マッピング解析ワーキンググループ)、Ikeda T、Horie M: Visualization of the mechanisms of AF: Insights from computer simulations. *3rd APAFS (Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium)*、Taipei、October 19、2007
82. 池田隆徳 (教育講演): 不整脈診療の基本: ベッドサイドでの不整脈治療。泰26回日本心臓病学会教育セミナー、金沢、平成19年10月21日
83. 池田隆徳、坂田好美、四倉正之、吉野秀朗: 日常臨床の循環器Q & A。第17回府中医師会循環器勉強会、府中、平成19年10月22日
84. 池田隆徳: 心房細動に対する薬物療法—知っておくべき知識と最近の動向。第28回臨床薬剤師循環器フォーラム、札幌、平成19年10月26日
85. 小山田 覚、小暮和雄、柚須 悟、中村健太郎、池田隆徳: ICD植え込み後のT波オーバーセンスによる不適切作動をICD設定により回避し得た一例。第23回心電情報処理ワークショップ、熱海、平成19年10月28日
86. 池田隆徳: 注射用III群抗不整脈薬の使い方とその実際。第4回北海道不整脈を診る会、札幌、平成19年11月10日
87. 池田隆徳: 突然死の予知: 有用とされる指標の解釈とその活用法。第86回予防医学事業中央会生理機能技術研修会、東京、平成19年11月16日
88. 池田隆徳: 心室中隔ペーシングの効果と手技方法。第8回心室中隔ペーシングワークショップ、東京、平成19年11月17日
89. 曾我有希子、坂田好美、古谷充史、水野宜英、佐藤一樹 南島俊徳、田口浩樹、武本和也、窪田博、須藤憲一、吉野秀朗: 左室内に可動性のある石灰化腫瘍を認めた維持透析患者の一例。第42回東京心エコー図研究会、東京、平成19年11月17日
90. 宮国泰彦、永井 亘、伊波 巧、家泉泰宏、菊池達郎、高昌秀安、信太研二、清水尚志、吉野秀朗: 診断カテテル検査中にST上昇型急性冠症候群を発症した1例。第27回多摩虚血性心疾患研究会、東京、平成19年11月17日
91. 池田隆徳: 心不全に伴う不整脈の薬物療法: β 遮断薬か、それともARBか。第3回不整脈薬物治療研究会、横浜、平成19年11月22日
92. 池田隆徳: 外来での不整脈患者にどう対応しますか?: ガイドラインに準じた治療のしかたのポイント。西多摩医師会学術講演会、青梅、平成19年11月28日
93. 三輪陽介、柚須 悟、池田隆徳、塚田雄大、石黒晴久、米良尚晃、信太研二、清水尚志、吉野秀朗: 2枝ブロックに伴い発作性房室ブロックによって失神を来したと考えられた高齢者の1例。第27回東京CCU研究会、東京、平成19年12月1日
94. 池田隆徳: ウルグアイでの生活習慣病との付き合いかた。2007国際協力機構(JICA) ウルグアイ海外医療講座、Montevideo、平成19年12月4日
95. 池田隆徳: ブラジルにおける生活習慣病と感染症の対策。2007国際協力機構(JICA) ブラジル海外医療講座、Sao Paulo、平成19年12月7日

96. 池田隆徳：パラグアイにおける生活習慣病と感染症の対策。2007国際協力機構（JICA）パラグアイ海外医療講座、Auncion、平成19年12月12日
97. 中村健太郎、池田隆徳、柚須 悟、米良尚晃、吉野秀朗（シンポジウム）：心筋梗塞患者の突然死の予測：非侵襲的検査指標を用いて。第21回日本冠疾患学会、京都、平成19年12月14日
98. 谷合誠一、西村徹、山崎聡子、長江厚、横溝和美、下山克也、清水尚志、吉野秀朗：CKとTroponin-I：どちらが急性心筋梗塞後のrisk areaをより正確に表すのか？ 第21回日本冠疾患学会学術集会、京都、平成19年12月14日
99. 三輪陽介、池田隆徳、米良尚晃、榊 桂、宮越 睦、石黒晴久、塚田雄大、阿部敦子、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀朗：難治性心室性頻脈性不整脈に対する超短時間作用型 β_1 遮断薬‘landiolol’の評価。第20回心臓性急死研究会、東京、平成19年12月15日
100. Sakata K: Comparison between myocardial contrast echocardiography and cardiac magnetic resonance imaging for the assessment of ischemic heart disease. 9th International Symposium on Ultrasound Contrast Imaging, Osaka, Dec 16, 2007
101. 池田隆徳：内科外来に心房細動患者がきたらどう対応しますか？ 浅草医師会学術講演会、東京、平成19年12月19日
102. 池田隆徳：心房細動に対しての薬物療法：知っておくべき知識と最近の動向。平成20年度臨床薬学研究会、東京、平成20年1月10日
103. 石黒晴久、池田隆徳、塚田雄大、阿部敦子、三輪陽介、榊 桂、宮越 睦、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、坂田好美、吉野秀朗：右室 Mid-Septal Pacing をCRT-D 植込み術に応用し、良好な心機能の改善が得られた拡張型心筋症の2例。第20回臨床不整脈研究会、東京、平成20年1月12日
104. 中井俊子（日本大学・循環器内科）、宮崎秀和、伊藤幸子、丹野 郁、大友建一郎、山川 健、蜂谷 仁、池田隆徳：第3回生理的ペーシングディスカッション、東京、平成20年1月18日
105. 三輪陽介、池田隆徳、米良尚晃、榊 桂、宮越 睦、石黒晴久、塚田雄大、阿部敦子、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀朗：超短時間作用型 β_1 遮断薬‘landiolol’がElectrical Stormの抑制に有効であった一例。第18回多摩不整脈研究会、三鷹、平成20年1月19日
106. 吉野秀朗：狭心症：動脈硬化性狭心症と冠攣縮性狭心症。三鷹医師会循環器研究会、三鷹、平成20年1月21日
107. 吉野秀朗：重症急性冠症候群の診断と治療。室蘭市医師会学術講演会、室蘭、平成20年1月23日
108. 池田隆徳： β ブロッカーの可能性を探る：不整脈治療の実際とそのポイントについて。 β 遮断薬フォーラム、東京、平成20年1月26日
109. 池田隆徳：非侵襲的指標の魅力を探る：心臓突然死の予知に焦点をあてて。日本ライフラインワークショップ2008、東京、2008年1月28日
110. 池田隆徳：心房細動患者を診たらどう対応しますか？ガイドラインに準じた治療のしかたのポイント。江戸川区医師会学術講演会、東京、平成20年1月29日
111. 池田隆徳：心房細動に対する治療戦略：薬物療法を中心として。山形不整脈研究会、山形、平成20年2月1日

112. 池田隆徳：ガイドラインに準じた心房細動の治療指針。第9回中越CARDIOLOGY、長岡、平成20年2月5日

113. 吉野秀朗：狭心症：動脈硬化性狭心症と冠攣縮性狭心症。調布市医師会学術講演会、調布、平成20年2月6日

114. 池田隆徳：心臓突然死の実態とその予知・予防について。多摩不整脈疾患勉強会、武蔵野、平成20年2月8日

115. 池田隆徳（イブニングセミナー）：CCUにおけるアミオダロン治療の役割。第35回日本集中治療医学会、東京、平成20年2月15日

116. 阿部敦子、池田隆徳、石黒晴久、塚田雄大、宮越 睦、榊 桂、三輪陽介、中村健太郎、柚須 悟、信太研二、吉野秀朗：失神発作をきたし、Brugada症候群に類似した臨床経過を示した冠攣縮性狭心症の一例。第6回特発性心室細動研究会、東京、平成20年2月16日

117. 池田隆徳、坂田好美、吉野秀朗：日常臨床の循環器Q & A。第18回府中医師会循環器勉強会、府中、平成20年2月18日

118. 池田隆徳：不整脈治療において β 遮断薬をうまく使うには！ 高血圧治療研究会、武蔵野、平成20年2月22日

119. 榊 桂、池田隆徳、三輪陽介、宮越 睦、石黒晴久、塚田雄大、阿部敦子、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀朗：タイムドメイン解析によるT-Wave Alternans：オルタナンス電位に関する検討。第18回体表心臓微小電位研究会、東京、平成20年2月23日

120. 池田隆徳：不整脈の診断と治療を考える：外来での不整脈患者への対応のしかた。岡山不整脈治療学術講演会、武蔵野、平成20年2月29日

121. 池田隆徳：不整脈管理における β 遮断薬の役割：内科医の立場から。Ultra Short Acting β 1-Blocker学術講演会、東京、平成20年3月1日

122. 池田隆徳：現在のペースメーカー治療を見直す：今、注目されているセレクトサイトペーシングとは。虎の門病院学術講演会、東京、平成20年3月7日

123. 池田隆徳：生理的ペーシングおよび心室中隔ペーシングの概要。第10回心室中隔ペーシングワークショップ、東京、平成20年3月8日

124. 池田隆徳：生理的ペーシングおよび心室中隔ペーシングの概要。第11回心室中隔ペーシングワークショップ、東京、平成20年3月14日

125. 池田隆徳：実地医家にとって分かりやすい心房細動の治療のしかた。三鷹医師会学術講演会、三鷹、平成20年3月18日

126. 池田隆徳（ランチョンセミナー）：日常臨床に役立つ不整脈の実践的な治療：臨床におけるIII群薬の効果的な使い方。第72回日本循環器学会総会、福岡、平成20年3月28日

127. Sakaki K, Ikeda T, Miwa Y, Miyakoshi M, Ishiguro H, Tsukada T, Abe A, Mera H, Nakamura K, Yusu S, Yoshino H: Time-domain T-wave alternans predicts cardiac mortality in a population undergoing 24-hour electrocardiogram: A prospective study. 第72回日本循環器学会総会、福岡、平成20年3月28日

128. Yusu S, Ikeda T, Nakamura K, Mera H, Ishiguro H, Abe A, Tsukada T, Miwa Y, Miyakoshi M, Sakaki K, Yoshino H: Selective site pacing in the right ventricle: First report of pacing from mid-septum in Japan. 第72回日

本循環器学会総会、福岡、平成20年3月28日

129. Ashihara T (マッピング解析ワーキンググループ)、Yao T、Nakazawa Y、Sugimoto Y、Ito M、Namba T、Haraguchi R、Nakazawa K、Ikeda T、Horie M: Effects of amiodarone and bepridil, multi-channel blockers, on spiral wave reentries in human atrial model with electrical and structural remodelings. 第72回日本循環器学会総会、福岡、平成20年3月28日

130. 志賀 剛 (東京女子医科大学・循環器内科)、吉岡公一郎、草野研吾、藤木明、池田隆徳、小松 隆、栗田隆志: 不整脈治療におけるアミオダロン注射剤 (座談会)。福岡、平成20年3月29日

131. 池田隆徳 (講演: ランチョンセンミナー): 心房細動の診かたと治療: 実践できるノウ・ハウを知る。第72回日本循環器学会総会、福岡、平成20年3月29日

132. 池田隆徳 (講演: ファイアサイドセンミナー): 心臓突然死の予知: 今、注目されている指標とは。第72回日本循環器学会総会、福岡、平成20年3月29日

133. Ikeda T、Miwa Y、Sakaki K、Miyakoshi M、Abe A、Ishiguro H、Tsukada T、Mera H、Nakamura K、Yusu S、Yoshino H (シンポジウム): Risk stratification techniques for sudden cardiac death in patients with a Brugada-type Electrocardiogram. 第70回日本循環器学会総会、名古屋、平成20年3月29日

134. Miwa Y、Ikeda T、Sakaki K、Miyakoshi M、Ishiguro H、Tsukada T、Abe A、Mera H、Nakamura K、Yusu S、Yoshino H: Assessment of heart rate turbulence determined on Holter electrocardiogram in predicting future cardiac events: A single center follow-up study. 第72回日本循環器学会総会、福岡、平成20年3月29日

135. Mera H、Ikeda T、Yusu S、Nakamura K、Abe A、Ishiguro H、Tsukada T、Miyakoshi M、Sakaki K、Miwa Y、Sakata K、Yotsukura M、Yoshino H: Visible T-waves variation after treadmill exercise testing predicts cardiac mortality in post-myocardial infarction patients with preserved cardiac function. 第72回日本循環器学会総会、福岡、平成20年3月29日

136. Ando K (PREVENT-SCDワーキンググループ)、Nobuyoshi M、Ikeda T、Yoshino H、Kazatani Y、Kajiya T、Kobayashi Y、Kato T、Mitsudo K、Ito H、Saeki A、Doi T、Haruna Y、Shizuta S、Kimura T、and PREVENT-SCD Investigators (Late Breaking Trial Session): Interim analyses of Prospective Evaluation of Ventricular Tachyarrhythmic events and Sudden Cardiac Death in patients with left ventricular dysfunction (PREVENT-SCD) study. 第72回日本循環器学会総会、福岡、平成20年3月29日

137. Nakamura K、Ikeda T、Yusu S、Mera H、Ishiguro H、Tsukada T、Abe A、Sakaki K、Miwa Y、Miyakoshi M、Sakata K、Yoshino H: Evaluation of right ventricular scar and function using contrast-enhanced magnetic resonance imaging in idiopathic dilated cardiomyopathy: Insight into device therapy. 第72回日本循環器学会総会、福岡、平成20年3月30日

138. Abe A、Ikeda T、Ishiguro H、J Tsukada T、Miwa Y、Sakaki K、Miyakoshi M、Mera H、Nakamura K、Yusu S、Yoshino H: Waves on 12-lead electrocardiogram: Comparison between patients with syncope and healthy subjects. 第72回日本循環器学会総会、福岡、平成20年3月30日

論 文

1. Ikeda T、Yusu S、Nakamura K、Yoshino H: Risk stratification for sudden cardiac death. *Circ J* 71(Suppl. A):A-106-A-114, 2007

2. 中村健太郎、池田隆徳、柚須 悟、三輪陽介、宮越 睦、榊 桂、阿部敦子、石黒晴久、塚田雄大、米良尚晃、坂田好美、吉野秀朗: 心筋梗塞サイズとマイクロ

ボルトT-wave alternansとの関連性について：Contrast-enhanced MRIを用いての評価。心臓39(Suppl. 1), 9-13, 2007

3. 芦原貴司 (マッピング解析ワーキンググループ)、八尾武憲、伊藤 誠、堀江稔、難波経豊、原口 亮、中沢一雄、池田隆徳：Microvolt T wave alternansが反映する心室性不整脈発生基質：コンピュータシミュレーションによる基礎的検討。心臓39(Suppl. 1), 14-19, 2007

4. 難波経豊 (マッピング解析ワーキンググループ)、藤堂貴弘、八尾武憲、芦原貴司、原口 亮、中沢一雄、池田隆徳、大江 透：右室心外膜の局所伝導遅延が心電図の右側胸部誘導に及ぼす影響：シミュレーションによる検討。心臓39(Suppl. 1), 57-61, 2007

5. 中沢一雄 (マッピング解析ワーキンググループ)、原口 亮、内藤博昭、東 将浩、清水 渉、芦原貴司、難波経豊、八尾武憲、藤堂貴弘、池田隆徳：薬物チャネル作用動態と器官活動：スーパーコンピュータ上の仮想心臓モデルによる心室細動発生機構の検討。心電図27:129-139, 2007

6. 池田隆徳、石黒晴久、宮越 睦、吉野秀朗：自律神経活動への影響を考慮した発作性心房細動に対する抗不整脈薬療法。Prog Med 27:970-979, 2007

7. 中村健太郎、池田隆徳、柚須 悟、阿部敦子、石黒晴久、塚田雄大、三輪陽介、宮越 睦、榊 桂、米良尚晃、吉野秀朗：上部および下部に共通路を見出せず稀有型房室結節リエントリー性頻拍に類似した伝導パターンを呈した上室頻拍の1例。臨床電気生理30:165-172, 2007

8. 米良尚晃、池田隆徳、信太研二、三輪陽介、宮越 睦、榊 桂、阿部敦子、石黒晴久、塚田雄大、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀朗：急性心筋梗塞経過中に突然認められたelectrical stormに対して超短時間作用型 β_1 遮断薬‘landiolol’が奏効した1例。心臓39(Suppl. 3):5-11, 2007

9. 宮越 睦、池田隆徳、三輪陽介、榊 桂、石黒晴久、阿部敦子、塚田雄大、米良尚晃、中村健太郎、柚須 悟、吉野秀朗：迷走神経緊張型発作性心房細動とムスカリン受容体遮断作用を有する抗不整脈薬：心拍変動のスペクトル解析を用いての検討。心電図27:645-647, 2007

10. 坂田好美：一般医のためのエコー活用法－心臓：この所見をみたら右室拡大。Medicina 44:104-114, 2007

11. 池田隆徳：Microvolt T-wave alternansが高リスク者の鑑別に有用：心臓突然死は予知指標を駆使することで予測可能。Medical Tribune 40 (4):63, 67, 2007

12. 池田隆徳：診療の秘訣：実地医家におけるBrugada症候群の簡易診断法。モダンフィジシャン27(2):258, 2007

13. 池田隆徳：レビューでわかる！いまどきのエビデンス：発作性心房細動の治療は？総合診療誌JIM 17 (3):254-259, 2007

14. 池田隆徳：私の処方：発作性心房細動に対する新たな薬物療法。モダンフィジシャン27(3):402-403, 2007

15. 池田隆徳：研修医のための心電図のよみ方入門：特集にあたって一心電図の扉を開けよう。レジデントノート9(3):351-352, 2007

16. 池田隆徳：研修医のための心電図のよみ方入門：心電図のとり方と読み方の基本。レジデントノート9(3):353-361, 2007

17. 池田隆徳：研修医のための心電図のよみ方入門：不整脈－まずはその種類と用語の意味を理解しよう！レジデントノート9(3):371-378, 2007

18. 池田隆徳：不整脈の検査：T波交互脈。臨床検査51(7):709-714, 2007
19. 池田隆徳：不整脈の識別とケア：特集にあたって。臨床看護33(8):1105-1107, 2007
20. 池田隆徳：不整脈の識別とケア：心電図のとり方・読み方の基本。臨床看護33(8):1108-1113, 2007
21. 石黒晴久、池田隆徳：循環器疾患の予防・治療ストラテジー最前線：不整脈、とくに心房細動治療。臨床のあゆみ73:18-19, 2007
22. 池田隆徳：SenseAbilityのプログラミングについて。St. Jude Medical Clinical Report - ICD 2:1-4, 2007
23. 池田隆徳、山田さつき、神谷香一郎、Singh BN：アミオダロン注射剤の血行動態不安定な心室頻拍・心室細動への有用性。Medical Tribune 40(39):68-69, 2007
24. 坂田好美：心エコー実践テクニックを探る：Prosolvによる心エコー画像ファイリング・レポートシステム。Rad Fan 6(3):1348-3498, 2008

著 書

1. Haraguchi R (マッピング解析ワーキンググループ)、Igarashi T、Owada S、Yao T、Namba T、Ashihara T、Ikeda T、Nakazawa K: Electrophysiological Heart Simulator Equipped with Sketchy 3-D Modeling. In: Wu JL、Ito K、Tobimatsu S、Nishida T、Fukuyama F (eds)、*Complex Medical Engineering*、Springer、Tokyo、2007、pp107-116
2. 池田隆徳 (分担)：心房リエントリーおよび心房細動の新しい機序。赤城循環器フォーラム (谷口興一編)、ライフサイエンス出版、東京、2007、p33-39
3. 池田隆徳 (分担)：不整脈—頻脈性不整脈。カラーで診る循環器病の救急診療マニュアル (檜田光夫編)、メディカ出版、大阪、2007、p146-159
4. 池田隆徳 (分担)：症候から診断へ：動悸。循環器内科研修チェックノート (並木 温編)、羊土社、東京、2007、p26-31
5. 池田隆徳 (分担)：症候から診断へ：めまい・失神。循環器内科研修チェックノート (並木 温編)、羊土社、東京、2007、p49-57
6. 池田隆徳 (分担)：疾患の特徴と診療：不整脈 (頻脈性・徐脈性不整脈)。循環器内科研修チェックノート (並木 温編)、羊土社、東京、2007、p85-92
7. 池田隆徳 (分担)：検査・画像診断：心臓電気生理検査。循環器内科研修チェックノート (並木 温編)、羊土社、東京、2007、p185-191
8. 池田隆徳 (分担)：薬の使い方：抗不整脈薬。循環器内科研修チェックノート (並木 温編)、羊土社、東京、2007、p271-276
9. 池田隆徳 (分担)：不整脈に対する治療。慢性腎臓病患者の循環器合併症 (長谷弘記編)、中外医学社、東京、2007、p125-134
10. 池田隆徳 (分担)：不整脈。新領域別症候群4：循環器症候群I (第2版) (矢崎義雄編)、日本臨床、東京、2007、p533-538
11. 池田隆徳 (単著)：これでわかる心房細動の診かたと治療—内科医のためのガイドラインに即した手びき、南江堂、東京、2007

その他

1. 加藤貴雄 (日本医科大学・第一内科)、田邊晃久、池田隆徳、石島正之、伊藤

誠、岩永史郎、笠尾昌史、笠卷祐二、加藤林也、鎌田弘之、久保 豊、杉 薫、高瀬凡平、丹野 郁、吉岡公一郎、渡邊英一、八島正明：家庭用心電計の評価と適正使用に関するステートメント2007（日本心電学会小委員会報告）。心電図27, 629-630, 2007

2. 大江 透（岡山大学・循環器内科）、相澤義房、新 博次、奥村 謙、笠貫 宏、鎌倉史郎、櫻田春水、矢野捷介、吉永正夫、青沼和隆、池田隆徳、草野研吾、清水涉、杉 薫、住友直方、永瀬 聡、西崎光弘、藤木 明、蒔田直昌、小川 聡、児玉逸雄、田中茂夫、中田八洲郎、平岡昌和：QT延長症候群（先天性・二次性）とBrugada症候群の診療に関するガイドライン：循環器病の診断と治療に関するガイドライン（日本循環器学会2005-2006年度合同研究班報告）。Circ J 71:1205-1253, 2007

糖尿病・代謝・内分泌科

I. 口演

石田 均（学術講演）：糖尿病の治療戦略—食後高血糖管理の重要性—。小平市医師会学術講演会，小平，平成19年4月17日。

石田 均（特別講演）：より良い血糖コントロールを目指す経口糖尿病薬の選択。第32回東京糖尿病治療セミナー，東京，平成19年4月21日。

Sakurai T¹, Nishioka H, ² Fujii H², Nakano N¹, Kizaki T¹, Izawa T³, Haga S³, Ishida H⁴, Raldak Z⁵, Ohno H¹ (¹Department of Molecular Predictive Medicine and Sport Science, Kyorin University, School of Medicine, ²Amino Up Chemical Co., Ltd., ³Tokyo Metropolitan University, ⁴Department of Internal Medicine, Kyorin University, School of Medicine, ⁵Semmelweis University): New lychee-derived polyphenol Oligonol converted into a low-molecular form reduces oxidative stress in adipocytes. 15th European Congress on Obesity (ECO) Budapest, April 22-25, 2007.

石田 均（特別講演）：心血管病変のリスクファクターとしての糖尿病。第4回多摩川フォーラム，東京，平成19年5月11日。

鈴木 清¹，小澤幸彦，三橋順子，杉本智惟子¹，菊山宗嗣²，堀江 均³，久野義和³，勝田秀紀，吉元勝彦，板垣英二，石田 均（¹市立島田市民病院糖尿病代謝科，²東京メディカルCOR（株），³三菱化学BCL）：耐糖能異常の進展に伴うプロインスリンのprocessing機構の障害とそのメカニズムについて。第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24日-26日。

小澤幸彦，勝田秀紀，田中利明，下山達宏，三代川可織，半田桂子，高橋和人，三橋順子，吉元勝彦，鈴木 清¹，石田 均（¹市立島田市民病院臨床検査部）：2型糖尿病症例におけるproinsulin processing 機構の障害にPC3活性低下が関与する。

第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24日-26日．

吉元勝彦，鈴木 清¹，三橋順子，高橋和人，関 博之，伊藤英介，勝田秀紀，山口真哉，板垣英二，石田 均（¹市立島田市民病院臨床検査科）：非肥満症における耐糖能の細分化とインスリン分泌能の病態—proinsulinのintact molecule測定を用いた検討—．第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24日-26日．

北原敦子¹，小林庸子²，浅間 泉³，森小津恵³，今野里美³，三代川可織，勝田秀紀，山口真哉，吉元勝彦，板垣英二，石田 均（¹杏林大学医学部付属病院栄養科，²杏林大学医学部付属病院薬剤師，³杏林大学医学部付属病院看護部）：減量困難な2型糖尿病と空腹時血中グレリン濃度の関連性—血中レプチン濃度との比較について．第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24日-26日．

高橋和人，山口真哉，関 博之，三代川可織，下山達宏，田中利明，勝田秀紀，伊藤英介，吉元勝彦，永松信哉¹，石田 均（¹杏林大学医学部生化学）：肥大化脂肪細胞におけるMCP-1発現と分泌の増加—JNKならびにNF- κ B経路の関与—．第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24日-26日．

藤川真理子¹，春木純淑²，野崎道郎³，赤須文彰⁴，戸塚康男⁵，丸茂恒二⁶，片山隆司⁷，吉元勝彦，菅野一男⁸，辻野元祥⁹，横山淳一¹⁰，嶋田勝一¹¹，貴田岡正史¹²，石田均，五十里一秋¹³，江川正雄¹³，友松栄二¹³（東京都多摩府中保健所保健対策課，¹東京都立府中病院内科，²武蔵野市医師会，³三鷹市医師会，⁴府中市医師会，⁵調布市医師会，⁶小金井市医師会，⁷狛江市医師会，⁸武蔵野赤十字病院内分泌代謝科，⁹東京都立府中病院内科，¹⁰東京慈恵会医科大学第三病院糖尿病代謝内分泌科，¹¹狛江市薬剤師会，¹²西東京臨床糖尿病研究会，¹³東京都多摩府中保健所）：東京都多摩府中保健所管内における糖尿病地域連携の取組み．第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24日-26日．

小林庸子¹，浅間 泉²，森小津恵²，今野里美²，小野田麻弥²，北原敦子³，山口真哉，吉元勝彦，板垣英二，石田 均（¹杏林大学医学部付属病院薬剤部，²杏林大学医学部付属病院看護部，³杏林大学医学部付属病院栄養科）：糖尿病療養指導外来における薬剤師の役割．第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24日-26日．

藤田敏郎¹，安東克之²，石田 均，石橋 俊³，及川眞一⁴，小田原雅人⁵，関根信夫⁶，山内俊一⁷，芳野 原⁸（¹東京大学大学院医学系研究科内科学，²東京大学大学院医学系研究科分子循環代謝学講座，³自治医科大学内科学，⁴日本医科大学内科学第三，⁵東京医科大学内科学三，⁶東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科，⁷帝京大学医学部内科学，⁸東邦大学医療センター大森病院糖尿病・代謝・内分泌センター

一)：肥満高血圧患者におけるアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬テルミサルタンのインスリン抵抗性に対する作用の検討：EARTH Study. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24日-26日.

今野里美¹，小野田麻弥¹，森小津恵¹，浅間 泉¹，小林庸子²，北原敦子³，半田桂子，三代川可織，山口真哉，吉元勝彦，板垣英二，石田 均（¹杏林大学医学部附属病院看護部，²杏林大学医学部附属病院薬剤部，³杏林大学医学部附属病院栄養科）：当院の糖尿病療養指導外来の問題点と今後の課題. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24日-26日.

森小津恵¹，高橋久子¹，浅間 泉¹，小林庸子²，田中利明，下山達弘，半田桂子，三代川可織，山口真哉，吉元勝彦，板垣英二，石田 均（¹杏林大学医学部附属病院看護部，²杏林大学医学部附属病院薬剤部）：当院におけるインスリン注射に関する安全講習会の開催と今後の課題. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24日-26日.

三橋順子，鈴木 清¹，黒瀬 健¹，杉本智惟子¹，藤野玲子²，勝田秀紀，山口真哉，吉元勝彦，板垣英二，石田 均（¹市立島田市民病院糖尿病代謝科，²共立薬科大学大学院）：耐糖能異常の進展と血中BNP濃度の変化—メタボリックシンドローム合併の有無による相違—. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24日-26日.

関 博之，高橋和人，伊藤英介，勝田秀紀，田中利明，下山達宏，山口真哉，吉元勝彦，永松信哉¹，石田 均（¹杏林大学医学部生化学）：膵β細胞からのMCP-1分泌に及ぼす高濃度グルコースおよび脂肪酸の影響について. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24日-26日.

三代川可織，高橋和人，山口真哉，関 博之，半田桂子，下山達宏，田中利明，勝田秀紀，吉元勝彦，永松信哉¹，石田 均（¹杏林大学医学部生化学）：脂肪細胞の*in vitro*での人為的肥大化はadiponectin分泌を増加させる. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24日-26日.

勝田秀紀，小澤幸彦，鈴木 清¹，三橋順子，田中利明，下山達宏，三代川可織，半田桂子，山口真哉，吉元勝彦，板垣英二，石田 均（¹市立島田市民病院臨床検査科）：グルカゴン負荷試験における血中グレリン濃度の動態—血中インスリン濃度の上昇との関連について. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24日-26日.

石田 均（特別講演）：糖尿病と骨代謝について—食事療法の重要性を踏まえて—

・第81回実践栄養指導勉強会，東村山，平成19年5月29日。

櫻井拓也¹，西岡 浩²，木崎節子¹，石橋義永¹，井澤鉄也³，武政 徹⁴，芳賀脩光³，石田 均，大野秀樹¹（¹衛生学公衆衛生学，²（株）アミノアップ化学，³首都大東京，⁴筑波大学）：脂肪細胞の酸化ストレスはライチ由来新規低分子化ポリフェノール Oligonolによって軽減される。第4回国際食品機能学会，東京，平成19年5月30日-6月1日。

山口真哉，板垣英二，田中利明，半田桂子，三代川可織，下山達宏，伊藤英介，勝田秀紀，吉元勝彦，石田 均：糖尿病患者における0.5mg overnight デキサメサゾン試験の検討，第80回日本内分泌学会，東京，平成19年6月14日-16日。

石田 均（特別講演）：糖尿病とレニンアンジオテンシン系の関連について。第8回ハーバー内臓脂肪フォーラム，神戸，平成19年7月5日。

石田 均（特別講演）：糖尿病の発症・進展阻止を目指す治療戦略—食後高血糖管理の重要性。ゴルフファスト錠発売3周年記念講演会，仙台，平成19年7月19日。

石田 均：日本人の非肥満2型糖尿病症例におけるプロインスリンのプロセッシング過程の異常。第7回日本人におけるインスリン分泌とインスリン抵抗性に関する調査研究委員会，大阪，平成19年7月29日。

石田 均（特別講演）：より良い血糖コントロールを目指す薬物療法の選択—インスリンを含めて—。第7回埼玉糖尿病治療セミナー，さいたま，平成19年8月4日。

石田 均（学術講演）：糖尿病の治療、とくに新しいインスリン療法について。西東京市医師会学術講演会，西東京，平成19年9月17日。

石田 均（特別講演）：メタボリックシンドロームと糖尿病。第37回山梨杏林医会，甲府，平成19年9月27日。

石田 均（特別講演）：膵β細胞を守る糖尿病治療。第1回東埼玉糖尿病フォーラム，越谷，平成19年10月5日。

石田 均（講演）：糖尿病の診断と血糖コントロール基準をもう一度考える。第6回病態栄養セミナー，東京，平成19年10月14日。

北原敦子¹，勝田秀紀，北角智子，三橋順子，西田 進，吉元勝彦，板垣英二，石田均（¹杏林大学医学部付属病院栄養科）：減量困難な2型糖尿病患者の食行動と空腹時

血中グレリン濃度の関連性について．第28回日本肥満学会，東京，平成19年10月19日-20日．

三橋順子，鈴木 清¹，杉本智惟子¹，黒瀬 健¹，半田桂子，田中利明，下山達宏，勝田秀紀，山口真哉，吉元勝彦，板垣英二，石田 均（¹市立島田市民病院糖尿病代謝科）：メタボリックシンドロームの存在が血中BNP濃度に及ぼす影響について—糖尿病合併例での検討—．第28回日本肥満学会，東京，平成19年10月19日-20日．

鈴木 清¹，三橋順子¹，黒瀬 健¹，榛葉孝弘¹，菊山宗嗣²，松林 直³，西田 進，山口真哉，吉元勝彦，板垣英二，石田 均（¹市立島田市民病院糖尿病代謝科，²東京メディカルCOR（株），³日水製薬（株））：アルドース還元酵素阻害薬による経時的な破骨細胞機能の抑制効果について．第22回日本糖尿病合併症学会，つくば，平成19年10月26日-27日．

石田 均（特別講演）：糖尿病薬物治療のポイント．第30回中信糖尿病カンファレンス，松本，平成19年11月17日．

村嶋俊隆，田中利明，飯沼 繭，下山達宏，半田桂子，森谷理恵，関 博之，高橋和人，山口真哉，板垣英二，石田 均：多飲・夜間多尿で発症し尿崩症が疑われた前立腺癌の一例．第35回内分泌代謝研究会，東京，平成19年12月1日．

中野法彦^{1,2}，宮澤伸子²，櫻井拓也²，木崎節子²，石橋義永²，鈴木健二³，井澤鉄也⁴，石田 均，大野秀樹²（¹藍野再生研，²衛生学公衆衛生学，³立命館大学情報理工，⁴首都大学東京理）：脂肪細胞の増殖・分化に対するグリクラジドの機能の解析，第30回日本分子生物学会大会 第80回日本生化学会大会 合同大会，横浜，平成19年12月11日-15日．

北原敦子¹，柴田公子¹，佐藤ミヨ子¹，勝田秀紀，板垣英二，石田 均（¹杏林大学医学部付属病院栄養科）：減量困難な2型糖尿病患者の食行動と食欲調節ホルモンとの関連性について．第11回日本病態栄養学会，京都，平成20年1月12日-13日．

石田 均（特別講演）：糖尿病専門医からみた糖尿病進展防止のストラテジー．第3回入間市糖尿病を考える会，入間，平成20年1月25日．

下山達宏，村嶋俊隆，飯沼 繭，半田桂子，三代川可織，田中利明，勝田秀紀，小澤幸彦¹，吉元勝彦，板垣英二，石田 均（¹みなみの糖クリニック）：選択的カルシウム負荷肝静脈血サンプリングにて局在診断を行ったインスリンノーマの4例．第45回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，川越，平成20年1月26日．

東海俊史¹，池田和穂¹，廣島良規¹，江角仁志¹，黄 恬瑩¹，山東生弥¹，二瓶 実¹，田中直見¹，三橋順子，石田 均（¹小山記念病院）：清涼飲料水多飲を契機にケトアシドーシスを発症し膵炎、腎不全を併発した2型糖尿病の1例．第45回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，川越，平成20年1月26日．

石田 均（特別講演）：インスリン分泌機構と2型糖尿病でのその異常．第2回福岡 Islet Biology研究会，福岡，平成20年2月8日．

石田 均（特別講演）：経口血糖降下薬とインスリンの使い方とその秘訣．第37回中国糖尿病談話会，岡山，平成20年2月23日．

石田 均（特別講演）：膵β細胞に対する新しい糖尿病治療体系．第18回糖尿病と高脂血症セミナー，神戸，平成20年3月6日．

半田桂子，小沼裕寿，森谷理恵，下山達宏，田中利明，山口真哉，吉元勝彦，板垣英二，石田 均：腫瘍摘出後高カルシウム血症を呈したCushing症候群の2例．第18回臨床内分泌代謝Update，高知，平成20年3月15日－16日．

石田 均（特別講演）：糖尿病治療と膵β細胞の保護．第17回リスクファクターフォーラム，東京，平成20年3月26日．

吉元勝彦：糖尿病の概念と療養指導総論．第8回 西東京糖尿病療養指導士養成講座，立川，平成19年9月11日．

吉元勝彦：動脈硬化性疾患の予防と予測因子 ～糖尿病の立場から～．Expert Meeting，武蔵野，平成19年9月15日．

吉元勝彦：メタボリックシンドロームの一例 ～食後高血糖への対応～ 第3回武蔵野生活習慣病カンファレンス，武蔵野，平成19年9月26日．

吉元勝彦（講演）：生活習慣病を予防するための基礎知識 日本人2型糖尿病の現状．調布市・狛江市薬剤師会講演会，狛江，平成19年10月16日．

吉元勝彦：糖尿病腎症の一例 ～経口糖尿病薬の選択～．第4回 武蔵野生活習慣病カンファレンス，武蔵野，平成20年2月6日．

吉元勝彦（講演）：日本人2型糖尿病の病態に応じた日常診療．プライマリ・ケアにおける糖尿病治療，武蔵野，平成20年2月28日．

吉元勝彦（講演）：メタボリックシンドローム型糖尿病の治療戦略． 糖尿病治療 UP DATE, 東京, 平成20年3月6日.

吉元勝彦（講演）：日本人2型糖尿病の現状と対策． 第89回 実践栄養指導勉強会, 東村山, 平成20年3月18日.

II. 論文

T.Uehara, K.Suzuki, H.Yamanaka, T.Kizaki, T.Sakurai, Y.Ishibashi, H.Ishida and H.Ohno. SHP-2 positively regulates adipogenic differentiation in 3T3-L1 cells. *Int J Mol Med* 19:895-900, 2007

N.Nakano, N.Miyazawa, T.Sakurai, T.Kizaki, K.Kimoto, K.Takahashi, H.Ishida,

M.Takahashi, K.Suzuki and H.Ohno. Gliclazide inhibits proliferation but stimulates differentiation of white and brown adipocytes. *J Biochem* 142:639-645, 2007

Y.Yamaguchi, N.Katusmi, K.Aoki, M.Toki, K.Nakamura, N.Abe, K.Morozumi, M.Sugiyama, H.Ishida, S.Takahashi. Resection area of 15 mm as dividing Line for choosing strip biopsy or endoscopic submucosal dissection for mucosal gastric neoplasm. *J Clin Gastroenterol* 41:472-476, 2007

大浦紀彦, 増田 学, 丹波光子, 竹内弘久, 松田剛明, 米田隆志, 石田 均, 齊藤英昭, 山本紳一郎, 波利井清紀. 経鼻胃管からの半固形化栄養剤：メディオエフプッシュケア投与についての検討. *静脈経腸栄養* 22(3):345-352, 2007.

勝田秀紀, 牛川憲司, 三代川可織, 関 博之, 伊藤英介, 田中利明, 山口真哉, 丸山雅弘, 片平 宏, 滝澤 誠, 吉元勝彦, 板垣英二, 石田 均. 高度の黄疸を呈したBasedow病の2症例. *ホルモンと臨床* (55増刊号):109-115, 2007.

牛川憲司, 板垣英二, 炭谷由計, 関 博之, 下山達宏, 山口真哉, 滝澤 誠, 片平宏, 吉元勝彦, 石田 均: 血液疾患に合併した中枢性尿崩症の3例. *ホルモンと臨床* 55(増): 45-58, 2007

III. 著書

石田 均. チアゾリジン薬が期待される理由. 膵保護作用. 期待されるチアゾリジン薬. 門脇 孝編. フジメディカル出版, 大阪, 2007, p75-81.

石田 均, 勝田秀紀 (翻訳). インスリンの生合成、プロセッシング、化学的性質. *ジョスリン糖尿病学* 第2版. 金澤康徳, 春日雅人, 柏木厚典, 門脇 孝, 河盛隆造, 田嶋 尚子監訳. メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京,

2007, p71-90.

伊藤英介, 石田 均. 糖尿病の病態評価、どうしよう？インスリン分泌不全、インスリン抵抗性のポイント. 糖尿病診療Q&A. 寺内康夫編著. 中外医学社, 東京, 2007, p37-40.

石田 均. 2型糖尿病のインスリン分泌異常- 病因・病態とその可逆性. カラー版糖尿病学. 門脇 孝, 石橋 俊, 佐倉 宏, 戸邊一之, 野田光彦編. 西村書店, 東京, 2007, p299-305.

石田 均. 糖代謝異常. 3) 糖尿病昏睡. 内科学 第九版. 杉本恒明, 矢崎義雄総編集. 朝倉書店, 東京, 2007, p1488-1491.

西田 進, 石田 均 (解説). 米国では10歳未満で発症する糖尿病は大半が1型. MMJ. 毎日新聞社, 東京, 2007, p976-977.

高橋和人, 関 博之, 勝田秀紀, 三橋順子, 田中 清, 石田 均 (翻訳). 栄養と慢性疾患. 糖尿病. 最新栄養学 第9版. 木村修一, 小林修平翻訳監修. 建帛社, 東京, 2007, p659-677.

石田 均. 糖尿病の発症予防・進展阻止を目指した治療戦略. Practice 24(1):85-90, 2007.

石田 均. 薬物療法 (経口薬) の基本的考え方. 糖尿病の療養指導2007. 23-27, 2007.

伊苅裕二, 森 保道, 石田 均, 川名正敏, 三浦哲嗣 (座談会). 冠動脈疾患と糖尿病. Pharma Medica 25(6):127-132, 2007.

石田 均. 合併症の診断と治療. 急性合併症 (意識障害・昏睡). 内科101 (1): 69-73, 2008.

吉元勝彦, 石田 均. 糖尿病の新しい治療. SU薬. Modern Physician 28 (2): 144-147, 2008

板垣英二: アプローチ NL '08 医師国家試験問題解説 6. 内分泌・代謝・栄養疾患. 東京, 医学評論社, 2007.

板垣英二: 第101回医師国家試験問題解説書. 医師国家試験問題解説書編集委員会編. 東京, 医学評論社, 2007. p 137, p 150, p 346, p 444-445.

板垣英二: CBT こあかり 3-II プール. 五肢択一形式篇 C, 『CBT こあかり リ・コ』編集委員会編. 東京, 医学評論社, 2007. p 393-419.

板垣英二: CBT こあかり 6 リ・コ 2008. 連問形式篇, 『CBT こあかり リ・コ』編集委員会編. 東京, 医学評論社, 2007. p 148-155, p 187-190.

板垣英二: CBT こあかり 5 リ・コ 2008. 五肢択一形式篇, 『CBT こあかり リ・コ』編集委員

会編. 東京, 医学評論社, 2007. p 337-344.

吉元勝彦：救急救命で遭遇する疾患「内分泌・代謝・栄養疾患」．救急救命レビューノート．田中秀治, 他. 東京, 文光堂, 2008, p.130-133

IV. その他

吉元勝彦（対談）：聞いてみよう薬剤師の知りたいこと 82 「糖尿病」．調剤と情報 14：29-37. 2008.

第三内科 消化器

I. 口演

1. 森秀明, 小樽二世, 塚田幾太郎, 本田普久, 松本茂藤子, 峯佳毅, 西川かおり, 石田均, 高橋信一, 嶋田都¹, 竹内章浩¹ (¹フィリップスエレクトロニクスジャパンメディカルシステムズ) : Philips medical Systems社製 iU-22, HD11XEを用いた造影超音波検査－Sonazoidを用いた検討－. 第20回日本腹部造影エコー・ドプラ診断研究会. 名古屋, 平成19年4月7日.

2. 高橋信一 (ランチョンセミナー) : 消化性潰瘍. 第93回日本消化器病学会総会, 青森, 平成19年4月20日.

3. Takahashi S, Nishikawa K & Itoh T¹ (¹Tokyo Kenbikyoin Foundation): Isolation of *Helicobacter Heilmannii*-like organism from a cynomolgus monkey and its colonization in mice. International Symposium on *Helicobacter Heilmannii*, Tokyo, April 25, 2007.

4. Matsui H¹, Aikawa C¹, Sekiya Y¹, Takahashi S, Somay Y. Murayama¹ & Nakamura M¹ (¹Kitasato institute for life sciences, Kitasato Univ.): Effect of the eradication of *Helicobacter Heilmannii* by triple therapy on the formation of gastric MALT lymphoma in mice. International Symposium on *Helicobacter Heilmannii*, Tokyo, April 25, 2007.

5. 森秀明：ここに注目！見直そう上腹部エコー 肝臓編．東京都臨床検査技師会学術部生理検査研究会，東京，平成19年4月25日．

6. Nakamura M¹, Matsui H², Somay Y. Murayama², Aikawa C², Sekiya Y², Serizawa H³, Suzuki H⁴, Suzuki M⁵, Takahashi S, Hibi T⁴, Mukai M⁶ &

Tsuchimoto K¹ (¹School of pharmaceutical sciences, Kitasato Univ. ²Kitasato institute for life sciences, Kitasato Univ. ³Department of Internal Medicine, Kitasato Institute Hospital, the Kitasato institute, ⁴Department of Internal Medicine, Keio Univ., ⁵Div. of Gastroenterology, National Hospital Organization Tokyo Medical Center, ⁶Department of Pathology, Keio Univ.): Newly-designed PCR study has revealed more than 40% of MALT lymphoma cases positive to *Helicobacter Heilmannii*-like organism and HP in Japan. The 12th Taishotoyama International Symposium on Gastroenterology, Shimoda, April27,2007.

7. 西川かおり：Bモードでどこまで鑑別できるかー肝腫瘍性病変ー．日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会 平成19年度超音波部会セミナー，東京，平成19年4月28日．

8. 土岐真朗，山口康晴，村山隆夫，畑英行，比嘉晃二，田内優，中村健二，青木圭，勝見直也，森秀明，安部孝，高橋信一：午後施行する上部消化管内視鏡検査の有用性の検討．第73回日本消化器内視鏡学会総会，東京，平成19年5月9日．

9. 田内優，林田真理，今瀬教人，山田雄二，小山元一，松岡弘芳¹，正木忠彦¹，跡見裕¹，高橋信一（¹杏林大・医・外科）：原因不明消化管出血を契機に診断に至った転移性小腸腫瘍の1例．第73回日本消化器内視鏡学会総会，東京，平成19年5月10日．

10. 岩畔哲也，奥山秀平，根津佐江子，中村一久，松岡弘泰，浅葉宣之，佐藤悦久，川村直弘，森秀明，高橋信一：原発性胆汁性肝硬変と診断後，自己免疫性肝炎へ移行した 1例．第294回日本消化器病学会関東支部例会，東京，平成19年5月12日．

11. 森秀明：ランチョンセミナー4 腹部超音波診断における最新技術の応用．日本超音波医学会第80回学術集会，鹿児島，平成19年5月18日．

12. Uegaki S¹, Tanaka A¹, Shibuya A², Nezu S, Kikuchi K³, Miyakawa H³, Takahashi S & Takikawa H¹ (¹Department of Internal Medicine, Teikyo Univ., School of Medicine, ²Department of Gastroenterology, Kitasato Univ., School of Medicine, ³4th Department of Internal Medicine, Teikyo Univ., School of Medicine) : Genetic Association of Vitamin D Receptor Polymorphisms with Progression of Primary Biliary Cirrhosis in Japan. Digestive Disease Week 2007 and Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, Washington, D.C., May20,2007.

13. Nakamura M¹, Takahashi S, Matsui H², Nishikawa K, Serizawa H³, Hibi T⁴ &

Tsuchimoto K¹ (¹School of pharmaceutical sciences, Kitasato Univ. ²Kitasato institute for life sciences, Kitasato Univ. ³Department of Internal Medicine, Kitasato Institute Hospital, the Kitasato institute, ⁴Department of Internal Medicine, Keio Univ.): Interaction of VEGF and Its Receptors to Expansion of Gastic MALT lymphoma by *Helicobacter Heilmannii* infection. Digestive Disease Week 2007 and Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, Washington, D.C., May20, 2007.

14. Nakamura M¹, Matsui H², Somay Y. Murayama², Aikawa C², Sekiya Y², Serizawa H³, Suzuki H⁴, Suzuki M⁵, Takahashi S, Hibi T⁴ & Tsuchimoto K¹ (¹School of pharmaceutical sciences, Kitasato Univ., ² Kitasato institute for life sciences, Kitasato Univ., ³ Department of Internal Medicine, Kitasato Univ., ⁴ Department of Internal Medicine, Keio Univ., ⁵Div. of Gastroenterology, National Hospital Organization Tokyo Medical Center) : Newly-Designed PCR Study Has Revealed One Third of MALT lymphoma Cases Dubly Positive to *Helicobacter Heilmannii*-like Organism and HP in Japan. Digestive Disease Week 2007 and Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, Washington, D.C., May20, 2007.

15. 峯佳毅, 森秀明, 西川かおり, 松本茂藤子, 小樽二世, 本田普久, 岸野智則¹, 島田都², 石田均, 高橋信一, 松下彌生¹, 春名芳郎² (¹杏林大・医・臨床検査医学, ²フィリップスメディカルシステムズ) : 腹部領域におけるVolumetric Imaging の有用性. 日本超音波医学会第80回学術集会, 鹿児島, 平成19年5月20日.

16. 高橋信一 (特別講演) : 消化管疾患の最近の話題- カプセル内視鏡とピロリ菌感染症を中心に-. 東村山市医師会学術講演会, 東村山, 平成19年5月29日.

17. 田中篤¹, 上垣佐登子¹, 渋谷明隆², 根津佐江子, 菊池健太郎³, 宮川 浩³, 三神昌樹¹, 相磯光彦¹, 高橋信一, 滝川一¹ (¹帝京大・医・内科, ²北里大・医・消化器内科, ³帝京大溝口病院・第四内科) : 第43回日本肝臓学会総会, 東京, 平成19年5月31日.

18. 高橋信一 : 胃の健康とピロリ菌. 満尾クリニック5周年記念講演会, 東京, 平成19年6月3日.

19. 森秀明 : 慢性肝疾患における超音波診断のこつ~肝細胞癌を念頭においたフロー~. 第6回入間肝臓懇話会, 入間, 平成19年6月13日.

20. 森秀明 : 腹部超音波診断におけるPhilips最新技術の応用. Philips最先端超音

波セミナー，大阪，平成19年6月16日．

21. 河合隆¹，川上浩平²，山岸哲也¹，湯川育子，八木健二²，片岡幹統²，森安史典²，林原絵美子³，野口雅久³，笹津備規³，高橋信一（¹東京医科大・内視鏡センター，²東京医科大・消化器内科，³東京薬科大・病原微生物）（シンポジウム）：糞便を用いた新しいCAM耐性*H. pylori* 検出に基づくテーラーメイド除菌療法の検討．第13回日本ヘリコバクター学会，大津，平成19年6月22日．

22. 東京Hp研究会；徳永健吾，鈴木秀和，松久威史，河合隆，川上浩平，伊藤慎芳，鈴木雅之，大草敏史，永原章仁，加藤俊二，田代博一，鳥居明，峯徹哉，榊信廣，高橋信一（シンポジウム）：MNZを含む二次除菌不成功症例に対するPPI+AMPC+GFLXによる*H. pylori*三次除菌療法の検討-東京都内多施設共同調査結果から-．第13回日本ヘリコバクター学会，大津，平成19年6月22日．

23. 松井英則¹，中村正彦²，村山そう明¹，高橋信一（¹北里大・北里生命科学研究所，²北里大・薬・臨床薬学研究センター）（ワークショップ）：胃MALTリンパ腫形成を指標とした，*Helicobacter heilmannii* 感染マウスの3剤除菌治療の効果．第13回日本ヘリコバクター学会，大津，平成19年6月22日．

24. 田中昭文，野口雅久¹，河合隆²，林原絵美子¹，徳永健吾，笹津備規¹，高橋信一（¹東京薬科大・薬・病原微生物学，²東京医科大・内視鏡センター）：糞便を用いたNested-PCR Direct Sequencing法によるclarithromycin耐性・感受性混在*Helicobacter pylori* の検出．第13回日本ヘリコバクター学会，大津，平成19年6月22日．

25. 東京Hp研究会；川上浩平，河合隆，伊藤慎芳，永原章仁，松久威史，徳永健吾，鈴木秀和，峯徹哉，鈴木雅之，加藤俊二，高橋信一，榊信廣：3剤療法による*Helicobacter pylori*除菌率の経年的推移-東京都内多施設共同調査結果から-．第13回日本ヘリコバクター学会，大津，平成19年6月22日．

26. 高橋信一：胃の病気の予防，診断と治療．滋賀医科大学市民公開講座，大津，平成19年6月22日．

27. 土岐真朗，村山隆夫，比嘉晃二，田内優，中村健二，下山達宏，青木 圭，勝見直也，山口康晴，阿部展次¹，森 秀明，杉山政則¹，跡見 裕¹，高橋信一（¹杏林大・医・外科）：超音波内視鏡検査及び選択的カルシウム負荷肝静脈血サンプリングにて診断に至ったインスリノーマの一例．第38回日本膵臓学会総会，福岡，平成19年6月28日．

28. 今瀬教人, 大平和彦, 櫻庭彰人, 山田雄二, 林田真理, 米山大, 小山元一, 高橋信一: 当院の小腸疾患診断に対するダブルバルーン内視鏡の有用性に関する検討. 第35回武蔵野消化器病談話会, 東京, 平成19年6月30日.
29. 森秀明: 腹部疾患の超音波診断. 三鷹医師会超音波勉強会, 三鷹, 平成19年7月11日.
30. 倉田勇, 川村直弘, 奥山秀平, 中村一久, 松岡弘泰, 根津佐江子, 佐藤悦久, 森秀明, 高橋信一: IFNの再投与, 長期投与を繰り返しSVRに至ったC型慢性肝炎の一例. 第46回三多摩肝臓談話会, 武蔵野, 平成19年7月13日.
31. 土岐真朗, 山口康晴, 村山隆夫, 川越圭, 田部井弘一, 畑英行, 比嘉晃二, 田内優, 中村健二, 青木圭, 徳永健吾, 勝見直也, 高橋信一, 黒田忠英¹, 安部 孝¹, 杉山恵子²(¹浅草寺病院内科, ²浅草寺病院栄養科): 高齢者に対して午後施行する上部消化管内視鏡検査の有用性の検討. 第10回日本高齢消化器病学会, 札幌, 平成19年7月14日.
32. 高橋信一 (特別講演): 新胃潰瘍診療ガイドラインとガストローム. 日本医師会生涯教育講座南空知医師会学術講演会, 岩見沢, 平成19年7月18日.
33. 田中昭文, 河合隆¹, 野口雅久², 林原絵美子², 加藤文美², 徳永健吾, 笹津備規², 高橋信一 (¹東京医科大学・内視鏡センター, ²東京薬科大・薬・病原微生物学): *H. pylori* 除菌療法におけるclarithromycin耐性の影響- 糞便CAM耐性*H. pylori* 検出法による検討-. 第39回胃病態機能研究会, 東京, 平成19年7月21日.
34. 高橋信一 (特別講演): *H. pylori*除菌療法 最近の話題. 上部消化管疾患カンファランス, 武蔵野, 平成19年7月27日.
35. 森秀明: 教育講演(3)「肝悪性腫瘍」. 第67回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会, 宇都宮, 平成19年9月1日.
36. 奥山秀平, 根津佐江子, 中村一久, 松岡弘泰, 佐藤悦久, 川村直弘, 森秀明, 高橋信一: 免疫抑制剤治療を試みた難治性症候性原発性胆汁性肝硬変の一例. 第43回臨床肝臓懇話会, 東京, 平成19年9月8日.
37. 高橋信一: ピロリ菌除菌療法の実際. 第二回大手町パレスフォーラム, 東京, 平成19年9月13日.
38. 森秀明: 腹部疾患の超音波診断. 三鷹医師会超音波勉強会, 三鷹, 平成19年9

月19日.

39. 高橋信一： *H. pylori* 除菌療法 ガイドラインからの最新の話題. *H. pylori* 二次除菌効能取得講演会. 東京, 平成19年9月22日.

40. 峯佳毅, 森秀明, 塚田幾太郎, 本田普久, 小樽二世, 岸野智則, 西川かおり, 石田均, 高橋信一： iu-22 (Philips) を用いたソナゾイド造影超音波検査の経験. 第23回超音波ドプラ研究会, 東京, 平成19年9月22日.

41. 高橋信一 (特別講演)：新ガイドラインによる胃潰瘍治療の実際. 第212回プライマリーケア談話会, 四日市, 平成19年10月12日.

42. 高橋信一：ピロリ菌は何をしているの? 日本消化器病学会関東支部市民公開講座, 横浜, 平成19年10月13日.

43. 坂本知行^{1, 2}, 田中靖人¹, 奥村明彦³, 佐藤悦久, 奥瀬千晃⁴, 杉山真也¹, 日下部篤宣², 新海 登², 菅内文中², 城 卓志², 溝上雅史¹ (¹名古屋市大・臨床分子情報医学, ²名古屋市大・臨床機能内科学, ³愛知医大・消化器内科, ⁴聖マリアンナ医大・消化器肝臓内科)：日本国内の異なる3地域で認めたHBV genotype G / Ae recombinantの検討. DDW-Japan 2007, 神戸, 平成19年10月18日.

44. Tanaka A, Kawai T¹, Noguchi N², Rimbara E², Kato A², Tokunaga K, Sasatsu M², Takahashi S (¹ Endoscopy Center, Tokyo Medical Univ., ² Department of Microbiology, Tokyo Univ. of Pharmacy and Life Science): Evaluation of clarithromycin-resistant influence for *Helicobacter pylori* eradication by Nested-PCR direct sequencing using DNA extracted from feces. APDW 2007, Kobe, October 18, 2007.

45. 中村健二, 山口康晴, 高橋信一：切除径を考慮したESD, strip biopsy法の使い分け. DDW-Japan 2007, 神戸, 平成19年10月20日.

46. 土岐真朗, 村山隆夫, 畑 英行, 比嘉晃二, 塚田幾太郎, 田内優, 中村健二, 本田普久, 青木 圭, 峯 佳毅, 勝見直也, 両角克朗, 森 秀明, 高橋信一：当院における高齢者胆道感染症の検討. DDW-Japan 2007, 神戸, 平成19年10月20日.

47. 大野亜希子, 中村健二, 比嘉晃二, 田内優, 土岐真朗, 青木 圭, 勝見直也, 山口康晴, 両角克朗, 高橋信一：若年男性に発症した結核性腹膜炎の1例. DDW-Japan 2007, 神戸, 平成19年10月20日.

48. 林田真理, 今瀬教人, 桜庭彰人, 山田雄二, 池井洋子, 米山大, 小樽二世, 小山元一, 松岡弘芳¹, 正木忠彦¹, 跡見裕¹, 高橋信一 (¹杏林大・医・消化器外科): カプセル内視鏡の滞留を契機に診断に至った原因不明消化管出血の1例. DDW-Japan 2007, 神戸, 平成19年10月21日.

49. Tanaka A, Kawai T¹, Noguchi N², Rimbara E², Tokunaga K, Sasatsu M², Takahashi S (¹Endoscopy Center, Tokyo Medical Univ., ² Department of Microbiology, Tokyo Univ. of Pharmacy and Life Science): Evaluation of clarithromycin-resistant influence for *Helicobacter pylori* eradication by Nested-PCR direct sequencing using DNA extracted from feces. 15th United European Gastroenterology Week, Paris, October 29, 2007.

50. 川野詳子¹, 岸野智則, 森秀明, 清水雪絵², 横山琢磨², 西川かおり, 峯佳毅, 松本茂藤子, 小樽二世, 本田普久, 塚田幾太郎, 岸野智則³, 司茂幸英¹, 後藤元², 高橋信一, 渡辺卓³ (¹ 杏林大・中央臨床検査部, ² 杏林大・医・第1内科, ³ 杏林大・臨床検査医学) : 肝および脾内に短期間に同時多発した仮性動脈瘤の一例. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第19回学術集会, 東京, 平成19年11月10日.

51. 森秀明: 初心者のための腹部カラードプラのABC. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第19回学術集会, 東京, 平成19年11月11日.

52. 西川かおり: フィルムリーディングフォーラム@お台場2007「ここまでわかる腹部超音波検査～読影のポイントと撮影のポイント～」. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第19回学術集会, 東京, 平成19年11月11日.

53. 村山隆夫, 土岐真朗, 畑英行, 川越圭, 田部井弘一, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 中村健二, 青木圭, 山口康晴, 森秀明, 高橋信一: 当科における上部消化管異物の検討. 第36回杏林医学会総会, 三鷹, 平成19年11月17日.

54. 高橋信一 (ランチョンセミナー): *H. pylori*感染症の最新知見- 二次除菌保険適応を踏まえて-. 機器展示会, 幕張, 平成19年11月18日.

55. 森秀明: 腹部疾患の超音波診断. 三鷹医師会超音波勉強会, 三鷹, 平成19年11月21日.

56. 田部井弘一, 土岐真朗, 村山隆夫, 畑英行, 川越圭, 蓮江智彦, 比嘉晃二, 田内優, 中村健二, 青木圭, 山口康晴, 高橋信一: 特異な内視鏡所見を呈した若年進行膵癌胃直接浸潤の一例. 第85回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 平成19

年11月24日.

57. 高橋信一（特別講演）：改訂胃潰瘍診療ガイドラインとピロリ菌除菌. 千葉県医師会生涯教育講座君津木更津医師会学術講演会，木更津，平成19年11月30日.

58. 高橋信一：食事とがん予防について. 第49回日本消化器病学会大会市民公開講座，武蔵野，平成19年12月9日.

59. Nakamura M¹, Takahashi S, Matsui H² & Tsuchimoto K¹ (¹School of pharmaceutical sciences, Kitasato Univ. , ² Kitasato institute for life sciences, Kitasato Univ.): VEGF receptor monoclonal antibodies suppress formation of microcirculatory network of gastric MALT lymphoma by *Helicobacter heilmannii* infection. Keystone symposium, Vancouver, January 14, 2008.

60. 森秀明：腹部疾患の超音波診断. 三鷹医師会超音波勉強会，三鷹，平成20年1月16日.

61. 塚田幾太郎，峯佳毅，本田普久，西川かおり，森秀明，高橋信一：当科における転移性肝癌に対するRFAの成績と予後. 第27回多摩消化器シンポジウム，立川，平成20年1月26日.

62. 川村直弘：分岐鎖アミノ酸製剤の就寝前投与(LES)の有用性. 第13回 多摩Hp・肝炎研究会，立川，平成20年2月2日

63. 田中昭文，河合 隆¹，徳永健吾，菅野 朝，高橋信一（¹東京医科大・内視鏡センター）：H. pylori除菌療法におけるclarithromycin耐性の影響 - 糞便CAM耐性H. pylori検出法による検討- . 第4回日本消化管学会総会，大阪，平成20年2月7日.

64. 菅野朝，畑英行，内田康仁，徳永健吾，田中昭文，高橋信一：S-1+docetaxel(DOC)腹腔内投与にて腹水コントロールが良好となった癌性腹膜炎を伴った4型胃癌の1例. 第4回日本消化管学会総会，大阪，平成20年2月7日.

65. 土岐真朗，村山隆夫，川越圭，畑英行，田部井弘一，蓮江智彦，比嘉晃二，田内優，中村健二，青木圭，勝見直也，山口康晴，高橋信一，大倉康男¹（¹杏林大・医・病理学）：剖検にて診断し得た胃印環細胞癌の直腸転移の一例. 第4回日本消化管学会総会，大阪，平成20年2月7日.

66. 山田雄二, 櫻庭彰人, 林田真理, 今瀬教人, 小山元一, 高橋信一: 出血性直腸カルチノイドの1例. 第4回日本消化管学会総会, 大阪, 平成20年2月7日.
67. 松井英則¹, 中村正彦², 高橋信一, 土本寛二¹ (¹北里大・北里生命科学研究所, ²北里大・薬・臨床薬学研究センター) (トピックフォーラム): *Helicobacter heilmanii*感染と胃粘膜傷害, 特にMALTリンパ腫形成に対するVEGF受容体モノクローナル抗体の効果. 第4回日本消化管学会総会, 大阪, 平成20年2月8日.
68. 林田真理, 大平和彦, 櫻庭彰人, 山田雄二, 今瀬教人, 米山大, 小山元一, 高橋信一: クロウン病の診断にダブルバルーン内視鏡が有用であった1症例. 第4回日本消化管学会総会, 大阪, 平成20年2月8日.
69. 徳永健吾, 田中昭文, 菅野朝, 高橋信一: 胃過形成性ポリープに対する*H. pylori*除菌療法の有用性の検討. 第5回*Helicobacter heilmannii*研究会. 松本, 平成20年2月9日.
70. 徳永健吾: 地域連携パスの意義と今後の展望, 第11回三鷹Digestive Disease Conference, 三鷹, 平成20年2月13日.
71. 徳永健吾: 地域連携パスの意義と今後の展望, 第11回三鷹Digestive Disease Conference, 三鷹, 平成20年2月13日.
72. 田中昭文: *H. pylori*二次除菌療法- 薬剤耐性菌と除菌治療の現状-. 第11回三鷹Digestive Disease Conference, 三鷹, 平成20年2月13日.
73. 奥山秀平, 根津佐江子, 中村一久, 松岡弘泰, 佐藤悦久, 川村直弘, 田中篤¹, 高橋信一 (¹帝京大・医・内科): 原発性胆汁性肝硬変における抗核抗体核膜型陽性例の臨床的特徴の検討. 第18回若手PBCフォーラム, 東京, 平成20年2月16日.
74. 田中篤¹, 根津佐江子, 高橋宏樹², 菊池健太郎³, 大平弘正⁴, 滝川一¹ (¹帝京大・医・内科, ²東京慈恵医科大・消化器肝臓内科, ³帝京大溝口病院・第四内科, ⁴福島医大・第二内科): 日本人PBC患者の疲労度の評価 (中間報告). 第18回若手PBCフォーラム, 東京, 平成20年2月16日.
75. 高橋信一 (特別講演): Functional dyspepsia (FD)とは?- 上腹部不定愁訴とピロリ菌-. 多摩消化器懇話会, 多摩, 平成20年2月20日.
76. Tanaka A, Kawai T¹, Noguchi N², Rimbara E², Tokunaga K, Sugano H, Sasatsu M², Takahashi S (¹ Endoscopy Center, Tokyo Medical Univ., ²

Department of Microbiology, Tokyo Univ. of Pharmacy and Life Science):
Evaluation of clarithromycin-resistant influence for *Helicobacter pylori*
eradication by Nested- PCR direct sequencing using DNA extracted from
feces. 7th China-Korea-Japan Joint Conference on *Helicobacter* Infection,
Kyoto, February 22, 2008.

77. 徳永健吾, 田中昭文, 菅野朝, 森秀明, 高橋信一: 胃過形成性ポリープに対する
H. pylori 除菌療法の有用性の検討~当科6症例からの検討~. 第298回日本消化
器病学会関東支部例会, 東京, 平成20年2月23日.

78. 川村直弘: 慢性肝炎の診断と治療. 地域で行う肝臓病教室- 三鷹モデル-, 三
鷹, 平成20年2月29日

79. 畑英行, 奥山秀平, 中村一久, 松岡弘泰, 佐藤悦久, 根津佐江子, 川村直弘,
高橋信一: 腹痛と黄疸を契機に診断に至った赤芽球性プロトポルフィリン症の一
例. 第5回多摩山梨肝炎肝癌研究会, 東京, 平成20年3月1日.

80. 本田普久, 峯佳毅, 松下彌生¹, 塚田幾太郎, 小樽二世, 岸野智則², 西川かお
り, 森秀明, 高橋信一 (¹東芝メディカルシステムズ, ²杏林大学臨床検査医学):
普及機でのソナゾイド造影超音波の試み. 第24回超音波ドプラ研究会, 東京, 平成
20年3月8日.

81. 高橋信一 (教育講演): ヘリコバクター感染症診療の実際. 日本内科学会生涯
教育講演会, 大阪, 平成20年3月9日.

82. 森秀明: 知っておきたい超音波診断. 第182回多摩エコー研究会, 武蔵境, 平
成20年3月13日.

83. 森秀明: 腹部疾患の超音波診断. 三鷹医師会超音波勉強会, 三鷹, 平成20年3
月19日.

II. 論文

1. 青木圭, 高橋信一: *H. pylori*感染と胃発癌の疫学- 未分化癌, 分化癌の胃癌の
リスクと*H. pylori*感染について. 臨床消化器内科 22: 803-807, 2007.

2. Imase K, Tanaka A, Tokunaga K, Sugano H, Ishida H & Takahashi S :
Lactobacillus reuteri tablets suppress *Helicobacter pylori* infection- A
double-blind randomized placebo-controlled cross-over clinical study-. J
J A Inf d 81:387-393, 2007

3. 河合 隆¹, 山岸哲也¹, 林原絵美子², 野口雅久², 笹津備規², 田中昭文, 徳永健吾, 高橋信一 (¹東京医科大・内視鏡センター, ²東京薬科大・薬・病原微生物学): (*Helicobacter pylori* Q&A) *Helicobacter pylori*のクラリスロマイシン耐性を迅速に診断する方法を教えてください. *Helicobacter Research* 11: 87-90, 2007.
4. Noguchi N¹, Rimbara E¹, Kato A¹, Tanaka A, Tokunaga K, Kawai T², Takahashi S & Sasatsu M¹, (¹Department of Microbiology, Tokyo Univ. of Pharmacy and Life Science, ²Endoscopic Center, Tokyo Medical Univ.): Detection of mixed clarithromycin-resistant and -susceptible *Helicobacter pylori* using nested PCR direct sequencing of DNA extracted from faeces. *J Medical Microbiol* 56:1174-1180, 2007
5. Tanaka A¹, Nezu S, Uegaki S¹, Mikami M¹, Okuyama S, Kawamura N, Aiso M¹, Gershwin ME², Takahashi S, Selmi C^{2,3} & Takikawa H¹ (¹ Department of Medicine, Teikyo Univ., School of medicine, ²Division of Rheumatology, Allergy and Clinical Immunology, Univ. of California at Davis, School of Medicine, ³Division of Internal Medicine, “Luigi Sacco” Department of Clinical Sciences, Univ. of Milan): The Clinical Significance of IgA Antimitochondrial Antibodies in Sera and Saliva in Primary Biliary Cirrhosis. *Ann N.Y. Acad Sci* 1107: 259-270, 2007
6. Yamaguchi Y, Katsumi N, Aoki K, Toki M, Nakamura K, Abe N¹, Morozumi K, Sugiyama M¹, Ishida H & Takahashi S (¹The First Department of Surgery, Kyorin Univ. School of Medicine) : Resection area of 15mm as dividing line for choosing strip biopsy or endoscopic submucosal dissection for mucosal gastric neoplasm. *J Clin Gastroenterol* 41:472-476, 2007.
7. 森秀明 : 高齢者における肝・胆道疾患の超音波診断. *日本老年医学会雑誌* 44 : 456-458, 2007.
8. 菅野朝, 高橋信一 : 「メトロニダゾールによる*H. pylori*除菌」質疑応答Q&A. *日本医事新報* 4364: 91-92, 2007.
9. 青木圭, 山口康晴, 高橋信一 : 高齢者消化性潰瘍に対する内視鏡治療. *臨床消化器内科* 22:1693-1697, 2007
10. 土岐真朗, 青木圭, 勝見直也, 高橋信一 : Prostaglandin 産生抑制. *日本臨床* 65:1807-1811, 2007

11. 森秀明：臓器からみた腹部エコー 胆嚢. *medicina*44：280－285, 2007.
12. Kobayashi I¹, Murakami K², Kato M³, Kato S⁴, Azuma T⁵, Takahashi S, Uemura N⁶, Katsuyama T⁷, Fukuda Y⁸, Haruma K⁹, Nasu M¹⁰ & Fujioka T² (¹Dokkyo Univ. school of Medicine, ²Oita Univ. school of Medicine, ³Hokkaido Univ. school of Medicine, ⁴Tohoku Univ. Graduate school of Medicine, ⁵Kobe Univ. school of Medicine, ⁶International Medical Center of Japan, ⁷Shinshu Univ. Graduate school of Medicine, ⁸Hyogo College of Medicine, ⁹Kawasaki Medical school, ¹⁰Oita Nakamura Hospital): Changing antimicrobial susceptibility epidemiology of *H. pylori* strains in Japan between 2002 and 2005. *J Clin Microbiol* 45: 4006-4010, 2007.
13. 中村一久, 佐藤悦久, 川越圭, 浅葉宣之, 平田真理, 徳永健吾, 川村直弘, 森秀明, 石田均, 高橋信一：ループス腹膜炎を初発症状とした高齢発症の全身性エリテマトーデスの1例. *日消誌* 104: 1486-1491, 2007.
14. 森秀明：腹部超音波検査のコツ. *Medical Practice*25: 710, 2008.
15. 比嘉晃二, 勝見直也, 田内優, 土岐真朗, 中村健二, 青木圭, 山口康晴, 高橋信一：胃びまん性嚢胞性形成異常の1例. *臨床消化器内科* 23: 127-131, 2008.
16. 中村健二, 山口康晴, 青木圭, 高橋信一：NERD診療の現状と問題点. *内科* 101:745-752, 2008
17. 徳永健吾, 田中昭文, 菅野朝, 高橋信一：抗菌薬を用いた三次除菌療法. *Helicobacter Research* 12: 46-52, 2008.
18. 奥山秀平, 根津佐江子, 中村一久, 松岡弘泰, 浅葉宣之, 佐藤悦久, 川村直弘, 高橋信一：原発性胆汁性肝硬変診断後早期に自己免疫性肝炎へ移行した一例. *診療と新薬*: 45:32-36, 2008
19. 田中篤¹, 根津佐江子, 上垣佐登子¹, 菊池健太郎¹, 宮川浩², 渋谷明隆³, 大平弘正⁴, 高橋信一, 滝川一¹ (¹帝京大・医・内科, ²帝京大溝口病院・第四内科, ³北里大学医学部消化器内科, ⁴福島医大・第二内科)：Vitamin D receptor遺伝子多型とPBCの疾患感受性・進行度との関連. *診療と新薬*: 45:37-39, 2008
20. 奥山秀平, 根津佐江子, 中村一久, 松岡弘泰, 佐藤悦久, 川村直弘, 森秀明, 高橋信一：免疫抑制療法を試みた難治性症候性原発性胆汁性肝硬変の1例.

21. 日本ヘリコバクター学会耐性菌サーベイランス委員会（村上和成，小林寅哲，加藤元嗣，加藤晴一，東健，高橋信一，上村直実，勝山努，福田能啓，春間賢，那須勝）：わが国における薬剤耐性*Helicobacter pylori*の現状 - 平成17年度（第4年度）耐性菌サーベイランスの集計報告と過去3年間との比較 -. 日本ヘリコバクター学会誌 9(2)：93-97, 2008.

22. 土岐真朗，山口康晴，田部井弘一，中村健二，青木圭，原留弘樹¹，勝見直也，大倉康男²，高橋信一（¹杏林大・医・放射線科，²杏林大・医・病理学）：特異な内視鏡所見を呈した進行膵尾部癌胃直接浸潤および内腔穿通の1例．臨床消化器内科 23:409-412, 2008.

23. 峯佳毅：病気を知る 健康を知る「肝臓の病気」．健康ライフ6．大日本印刷健康保険組合：3-6，2008.

24. Imase K, Takahashi M, Tanaka A, Tokunaga K, Sugano H, Tanaka M, Ishida H, Kamiya S, Takahashi S. Efficacy of *Clostridium butyricum* preparation concomitantly with *Helicobacter pylori* eradication therapy in relation to changes in the intestinal microbiota. Microbiology and Immunology52: 156-161, 2008.

Ⅲ. 著書

1. 徳永健吾，高橋信一：透析患者の検査値の読み方．「*Helicobacter pylori*」．黒川 清監修，東京．株式会社日本メディカルセンター．2007，p324-326.

2. 桑原美樹，小山元一，高橋信一：8. 消化管憩室．必携 女性の医療学- 外来で役立つ実践ガイド- ．本庄英雄，島田和幸編，大阪，永井書店，2007.p.451-452.

3. 高橋信一：3. *H. pylori* の診断．EBMに基づく胃潰瘍診療ガイドライン第2版．胃潰瘍ガイドラインの適応と評価に関する研究班編，東京，じほう，2007. p.28-30.

4. 勝見直也，青木 圭，高橋信一：2 functional dyspepsia. 胃の臨床．田尻久雄，齋藤大三，北野正剛編，東京，日本メディカルセンター，2007.p.54-58.

5. 森秀明，竹内真一¹（¹桐蔭横浜大・医用工学部臨床工学科）：腹部超音波 A side-基礎と臨床のキーポイント37-. メジカルビュー社，東京，2007.

6. 森秀明：腹部超音波フルコース（韓国版）．メジカルビュー社，韓国，2008.
7. 森秀明：C. 脛 1. 脛の正常解剖（発生を含む）・超音波解剖．USスクリーニング．東京，医学書院．2008．p182-185.
8. 中村健二，高橋信一：胃食道逆流症．看護学学習辞典（第3版），東京，学習研究社．2008，p709-713

IV. その他

1. 高橋信一（抄訳）：内視鏡的粘膜切除術(EMR)後の人工潰瘍に対する治療効果はファモチジンよりオメプラゾールのほうが優れているかもしれない- 前向き無作為化プラセボ対照比較試験- ．APT Digest 10(3)：24-26，2007.
2. 高橋信一（抄訳）：米国において*Helicobacter pylori* 除菌の普及とその感染率の低下は，消化性潰瘍による入院件数を減少させていない．APT Digest 11(1)：36-38，2008.
3. 林田真理，山口康晴，中村健二，土岐真朗，高橋信一（抄訳）：データ解説．Frontiers in Gastroenterology 13(1)：50-59，2008.
4. 工藤正俊¹，森秀明，丸山紀史²，堀田直樹³（¹近畿大・消化器内科，²千葉大・消化器内科，³増子記念病院肝・消化器内科）：Philips腹部超音波3Dを語ろう会 第2回．映像情報medical 40：206-213，2008.
5. 森秀明：腹部超音波診断の進歩（腹部超音波診断における最新技術）．杏林大学医学部同窓会誌51：12-13，2007.

2007年度口演追加

- ・東京Hp研究会；川上浩平，河合 隆，鈴木秀和，永原章仁，徳永健吾，松久威史，鈴木雅之，高橋信一，榊 信廣，大草敏史（シンポジウム）：3剤療法による*Helicobacter pylori*除菌率の経年的推移-東京都内多施設共同調査結果から-．第12回日本ヘリコバクター学会，神戸，平成18年6月23日.
- ・中村正彦¹，松井英則²，高橋信一，土本寛二¹（¹北里大学薬学部，²北里大学北里生命科学研究所）（ワークショップ）：*Helicobacter heilmanii* 感染と胃粘膜障害，特にMALTリンパ腫形成，微少循環系，VEGFに関して．第12回日本ヘリコバクター学会，神戸，平成18年6月23日.

2007年度論文追加

・高橋信一：第12回日本ヘリコバクター学会学術集会レポート「シンポジウム4 *H. pylori*とGERDの関連 - EastはWestと同じか。」日本ヘリコバクター学会誌 8(2)：6-7, 2007.

・日本ヘリコバクター学会耐性菌サーベイランス委員会（小林寅哲，村上和成，加藤元嗣，加藤晴一，東健，高橋信一，上村直実，勝山努，福田能啓，春間賢，那須勝）：わが国における薬剤耐性*Helicobacter pylori*の現状 - 平成16年度耐性菌サーベイランスの集計報告および平成14年度，15年度との比較- . 日本ヘリコバクター学会誌 8(2)：48-52, 2007.

2007年度著書追加

・高橋信一：胆道寄生虫症。「内科学 I」金澤一郎，北原光夫，山口徹，小俣政男編，東京，医学書院，2006. p.1629-1631.

2007年度その他追加

・胃潰瘍診療ガイドラインの適用と評価に関する研究班（菅野健太郎，浅香正博，井口秀人，上村直実，高木淳司，高橋信一，千葉勉，春間賢，平石秀幸，藤岡利生，水野元夫，溝上裕士，芳野純治，森實敏夫，佐藤貴一，中村孝司，中澤三郎，山口直比古）：厚生労働科学研究補助金医療安全・医療技術評価総合研究事業「胃潰瘍診療ガイドラインの適用と評価に関する研究」総括研究報告書．2007.3.

高齢医学教室

口演

1. 大荷満生：ハイリスク脂質異常症に対する積極的脂質低下療法の有効性を検証する. 多摩脂質異常症フォーラム, 東京, 平成19年4月10日.
2. 鈴木訓之, 大荷満生：重症肺炎により高度の低脂血症を呈したDubin-Johnson症候群の一例. 多摩脂質関連疾患研究会, 立川, 平成19年4月19日.
3. 大荷満生：脂質異常症の最適な治療のために新ガイドラインをどう活かすか. Cardiovascular & Metabolic Science Symposium 2007, 東京, 平成19年4月21日.
4. 鳥羽研二：転倒予防について. 第1回三鷹市老人クラブ連合会講演会, 三鷹, 平成19年4月27日.
5. 鳥羽研二：高齢者における排尿障害の位置付け. 第20回日本老年泌尿器科学会, 長崎, 平成19年5月12日.
6. 神崎恒一：高齢者の高脂血症へのアプローチ. 第6回関東老年疾患セミナー, 東京, 平成19年5月17日.

7. Koichi Kozaki:Effect of exercise on healthy elderly individuals Symposium of Geriatric Medicine. - Metabolic syndrome in old age- Taipei, May 26, 2007.
8. 永井久美子, 神崎恒一, 鳥羽研二: 心血管イベント予測因子としての非侵襲的動脈硬化検査法の有用性. 臨床血圧脈波研究会, 大阪, 平成19年6月2日.
9. 鳥羽研二: もの忘れ予防といきいき長寿. 実践体育学体操三井島システム40周年記念会教育講演, 鹿児島, 平成19年6月10日.
10. 大荷満生: 廃用症候群のリハビリテーションの実学-低栄養に対する対応-. 第44回日本リハビリテーション医学会学術集会パネルディスカッション, 神戸, 平成19年6月6日.
11. 大荷満生: 脂質異常症の日常診療における課題と対策-メタボリック症候群の生活指導に焦点をあてて-. Cardiovascular & Metabolic Science Symposium 2007, 町田, 平成19年6月14日.
12. 大荷満生: 老いの周辺 -上手な医療との付き合い方-. 獨協大学オープンカレッジ. 東京, 平成19年6月16日.
13. 鳥羽研二: ランチョンセミナー「介護」. 第49回日本老年医学会学術集会, 札幌, 平成19年6月20日.
14. 鳥羽研二: シンポジウム「循環器疾患の老年医学」QOLを見据えた循環器疾患の管理. 第49回日本老年医学会学術集会, 札幌, 平成19年6月21日.
15. 鳥羽研二: 認知症のタイプによる介護負担の高齢者総合的機能評価を用いた比較検討. 第49回日本老年医学会学術集会, 札幌, 平成19年6月21日.
16. 鳥羽研二: もの忘れ予防といきいき長寿. 第49回日本老年医学会学術集会, 札幌, 平成19年6月22日.
17. 鳥羽研二, 山田如子, 木村紗矢香, 小林義雄, 田中克明, 園原和樹, 鈴木訓之, 守屋佑貴子, 長谷川 浩, 神崎恒一: 認知症のタイプによる介護負担の高齢者総合的機能評価を用いた比較検討. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
18. 小川純人¹, 山田思鶴², 浜達哉², 神崎恒一, 秋下雅弘¹, 大内尉義¹, 鳥羽研二 (¹東京大学老年病科) (²介護老人保健施設まほろばの郷): 高齢者のボディコンポジションに対する運動療法の長期効果. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
19. 長谷川 浩, 小林義雄, 田中克明, 清水昌彦, 塚原大輔, 井上慎一郎, 竹下実希, 永井久美子, 神崎恒一, 鳥羽研二: 中高年女性における脊柱矯正・柔軟体操の経年的効果(4年次報告). 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
20. 中居龍平¹, 浜達哉¹, 山田思鶴¹, 菊地令子, 小林義雄, 田中克明, 神崎恒一, 鳥羽研二 (¹介護老人保健施設まほろばの郷): 「もの忘れ外来」における認知症と重心動揺検査での視覚補正機能の関係. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
21. 山田思鶴¹, 浜達哉¹, 井上慎一郎, 小島太郎², 秋下雅弘², 大内尉義², 神崎恒一, 鳥羽研二 (¹介護老人保健施設まほろばの郷) (²東京大学老年病科): 介護予防基本チ

- チェックリストを用いた特定高齢者の生活機能の検討. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
22. 浜達哉¹, 堰免雄一¹, 井上慎一郎, 山田思鶴¹, 山口潔², 秋下雅弘², 大内尉義², 神崎恒一, 鳥羽研二 (¹介護老人保健施設まほろばの郷) (²東京大学老年病科) : 特定高齢者における転倒予防プログラムへの参加希望と問題点. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
 23. 木村紗矢香, 山田如子, 小林義雄, 田中克明, 園原和樹, 中居龍平, 神崎恒一, 鳥羽研二: 認知症疾患患者における認知機能と生活機能の特徴の検討. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
 24. 山田如子, 木村紗矢香, 小林義雄, 田中克明, 園原和樹, 中居龍平, 神崎恒一, 鳥羽研二: 認知症例の高齢者総合機能評価を用いた縦断解析による「もの忘れセンター」の効果との課題. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
 25. 菊地令子, 小林義雄, 田中克明, 園原和樹, 山田如子, 木村紗矢香, 長谷川浩, 神崎恒一, 鳥羽研二: 認知症における転倒関連検査の意義. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
 26. 川島有実子, 秋下雅弘¹, 長谷川 浩, 神崎恒一, 鳥羽研二 (¹東京大学老年病科) : 軽度認知機能障害患者におけるストレス反応性昇圧とN型カルシウム拮抗薬の効果. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
 27. 田中克明, 山田如子, 小林義雄, 園原和樹, 長谷川 浩, 中居龍平, 神崎恒一, 鳥羽研二: もの忘れ外来通院中の患者20名に施行した個人回想法における効果及び問題点の検討. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
 28. 守屋佑貴子, 園原和樹, 木村紗矢香, 山田如子, 鈴木訓之, 小林義雄, 田中克明, 長谷川浩, 神崎恒一, 鳥羽研二: 知症高齢者にシロスタゾールを投与した7例. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
 29. 八木達也, 清水昌彦, 長谷川 浩, 神崎恒一, 田中克明, 小林義雄, 園原和樹, 守屋佑貴子, 鈴木訓之, 鳥羽研二: 高血圧患者におけるARB(バルサルタン)の認知機能に与える影響. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
 30. 菊地令子, 小林義雄, 田中克明, 園原和樹, 山田如子, 木村紗矢香, 長谷川 浩, 神崎恒一, 鳥羽研二: 認知症における転倒関連検査の意義. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
 31. 神崎恒一, 鳥羽研二, 小川純人, 秋下雅弘, 大内尉義, 浜達哉, 山田思鶴. 地域在住高齢者における運動の効果. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
 32. 菊地令子, 岩田安希子, 守屋佑貴子, 鈴木訓之, 小林義雄, 田中克明, 杉山陽一, 長谷川 浩, 神崎恒一, 鳥羽研二: 運動習慣を持つ高齢集団における転倒. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
 33. 山口潔¹, 秋下雅弘¹, 山田思鶴², 浜達哉², 梅田祐美¹, 神崎恒一, 大内尉義, 鳥羽研二 (¹東京大学老年病科) (²介護老人保健施設まほろばの郷) : 地域在宅高齢者における食生活習慣と転倒リスクの関連第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.

34. 山口潔¹, 秋下雅弘¹, 山田思鶴², 西谷弘美², 梅田祐美¹, 神崎恒一, 鳥羽研二, 大内尉義¹, (¹東京大学老年病科) (²介護老人保健施設まほろばの郷) : 地域在宅高齢者における食生活習慣の性差. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
35. 金子光伸, 大荷満生, 鈴木訓之, 末光有美, 水川真二郎, 神崎恒一, 鳥羽研二 : Knee-heightを用いた身長推定値の有用性についての検討. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
36. 末光有美, 大荷満生, 鈴木訓之, 金子光伸, 水川真二郎, 神崎恒一, 鳥羽研二 : 急性期疾患をもつ高齢患者の栄養評価法としてのGeriatric Nutritional Risk Indexの有用性に関する検討. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
37. 林秀生¹, 臼沢英一郎¹, 浜達哉², 井上慎一郎, 山田思鶴², 神崎恒一, 秋下雅弘¹, 大内尉義¹, 鳥羽研二 (¹東京大学老年病科) (²介護老人保健施設まほろばの郷) : 通所サービスの利用による閉じこもり予防、支援と認知機能への効果. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
38. 園原和樹, 小林義雄, 田中克明, 鈴木訓之, 守屋佑貴子, 木村紗矢香, 山田如子, 長谷川 浩, 神崎恒一, 鳥羽研二 : 脳血流SPECT検査を用いた脳皮質下虚血病変と意欲低下に関する検討. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
39. 岩田安希子, 園原和樹, 小林義雄, 田中克明, 鈴木訓之, 守屋佑貴子, 長谷川浩, 神崎恒一, 鳥羽研二 : 早期Alzheimer病型認知症診断支援システム(VSRAD)を用いた海馬容積と認知機能に関する検討. 第49回日本老年医学会, 札幌, 2007年6月19-22日.
40. 鳥羽研二 : 認知症の診断について. 介護老人保健施設平成19年度認知症研修会, 東京, 平成19年6月30日.
41. 鳥羽研二 : 非薬物性治療を含む認知症の治療について. 介護老人保健施設平成19年度認知症研修会, 東京, 平成19年6月30日.
42. 大荷満生, 鈴木訓之, 末光有美, 金子光伸, 水川真二郎, 鳥羽研二, 秦葭哉¹, (¹常磐大学大学院コミュニティー振興学研究科) : 肥満男性における血中脂肪酸組成とメタボリック症候群および炎症性サイトカインの関係. 第39回日本動脈硬化学会総会, 大阪, 平成19年7月13-14日.
43. 大荷満生, 鈴木訓之, 末光有美, 金子光伸, 水川真二郎, 鳥羽研二, 秦葭哉¹, (¹常磐大学大学院コミュニティー振興学研究科) : 非糖尿病肥満男性における尿中微量アルブミンとメタボリック症候群の関係について. 第39回日本動脈硬化学会総会, 大阪, 平成19年7月13-14日.
44. 末光有美, 大荷満生, 鈴木訓之, 金子光伸, 水川真二郎, 鳥羽研二, 秦葭哉¹, (¹常磐大学大学院コミュニティー振興学研究科) : 肥満男性におけるメタボリック症候群の危険因子の重積と炎症性サイトカインの関係. 第39回日本動脈硬化学会総会, 大阪, 平成19年7月13-14日.
45. 永井久美子, 神崎恒一, 橋本正良, 秋下雅弘, 鳥羽研二 : 非侵襲的動脈硬化検査法の心血管系イベント予測因子としての有用性. 第39回日本動脈硬化学会総会, 大阪, 平成19年7月13-14日.

46. 大荷満生：脂質異常症の臨床-新ガイドラインを踏まえて-。町田市医師会学術講演会，町田，平成19年7月24日。
47. 神崎恒一：もの忘れセンターについて -紹介と成績-。第8回老年疾患研究会，軽井沢，平成19年7月28日
48. 鳥羽研二：Overview of Geriatrics and Missions of Doctors for the elderly community. 国際老年学会アジア・オセアニア地区老年医学教育セミナー，ソウル，平成19年8月18日。
49. Koichi Kozaki: Approach to cognitive dysfunction and subcortical ischemia
SNU Advanced Training Course for Gerontology and Geriatrics By Asia Oceania Region of International Association of Gerontology and Geriatrics
Seoul, Aug 18, 2007.
50. 鳥羽研二：療養病床の再編と在宅医療。平成19年度第1回かかりつけ医・介護保険研修会，北九州，平成19年9月1日。
51. 神崎恒一：介護老人保健施設における高血圧心不全の治療。全国老人保健施設協会平成19年度医師研修会，浦安，平成19年9月7日。
52. 鳥羽研二：高齢者の正しい理解とよりよい介護。NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク第13回全国の集い in 東京2007，国立，平成19年9月17日。
53. 大荷満生：食事脂肪・脂肪酸組成の生体に及ぼす影響-メタボリック症候群を中心に-。第72回榊原記念病院定例講演会，調布，平成19年9月19日。
54. 田中克明：認知症の周辺症状に対する抑肝散の効果：杏林東洋医学会，三鷹，平成19年9月26日。
55. 守屋佑貴子，金子光伸，岩田安希子，須藤紀子，神崎恒一，鳥羽研二：遺伝性球状赤血球症を背景とした好酸球性肺炎の一例。第46回日本老年医学関東甲信越地方会，東京，平成19年9月29日。
56. 柴崎孝二，浜達哉，山田思鶴，神崎恒一，秋下雅弘，大内尉義，鳥羽研二：デイケアにおける任意選択制作業療法の効果について。第46回日本老年医学関東甲信越地方会，東京，平成19年9月29日。
57. 山田思鶴，園原和樹，西谷弘美，神崎恒一，秋下雅弘，大内尉義，鳥羽研二：高齢女性に対するDHEA長期投与の効果。第46回日本老年医学関東甲信越地方会，東京，平成19年9月29日。
58. 竹下実希，清水昌彦，塚原大輔，長谷川 浩，神崎恒一，須藤紀子，鳥羽研二：腹直筋血腫を生じたワルファリン服用患者の1例。第46回日本老年医学関東甲信越地方会，東京，平成19年9月29日。
59. 鳥羽研二：転倒予防-転ばぬ先の杖？-。新潟骨粗鬆症治療学術講演会，新潟，平成19年10月4日。

60. 神崎恒一:脳皮質下虚血病変と老年症候群.高知動脈硬化フォーラム, 高知,平成19年10月11日.
61. Ohni M, Mizukawa S, Ohnuki H, Nakajima K, Toba K, Hata Y: Inflammatory cytokines in the development of metabolic syndrome in male obese subjects. XIV Internal Symposium on Drugs Affecting Lipid Metabolism. Oct 4 2007, New York, USA
62. Ohni M, Mizukawa S, Ohnuki H, Nakajima K, Toba K, Hata Y: Relationship of plasma fatty acids composition to inflammatory cytokines and serum lipids in male obese subjects. XIV Internal Symposium on Drugs Affecting Lipid Metabolism. Oct 4 2007, New York, USA
63. Hasegawa H:Kozaki K, Toba K: An effect (a 4 next report) of aging of back pillar straightening calisthenics in an old and middle age woman. 8th Asia/Oceania Reagional Congress of Gerontology and Geriatrics. Beging China October 22-25, 2007.
64. Hasegawa H:The introduction of the Center for Comprehensive Care on Memory Disorder Kyorin University Hospital. 8th Asia/Oceania Reagional Congress of Gerontology and Geriatrics. Beging China October 22-25, 2007.
65. Tanaka K:Individual reminiscence therapy for demented individuals . 8th Asia/Oceania Reagional Congress of Gerontology and Geriatrics. Beging China October 22-25, 2007.
66. Kikuchi R:Toba K.:Fall risk assessment in patients with cognitive decline. 8th Asia/Oceania Reagional Congress of Gerontology and Geriatrics. Beging China October 22-25, 2007.
67. 大荷満生, 鳥羽研二, 秦葭哉¹, (¹常磐大学大学院コミュニティー振興学研究科): 肥満男性における血中脂肪酸組成と血清脂質・糖代謝の関係について. 第14回日本未病システム学会学術総会, 金沢, 平成19年11月2日.
68. 鳥羽研二: 在宅療養における多職種協働について-老年医学の観点から-. 平成19年度第2回在宅医研修会, 東京, 平成19年11月11日.
69. 鳥羽研二: もの忘れセンター開設一年を振り返って-認知症の医療とケア-. 第36回
杏林医学会公開講演会, 三鷹, 平成19年11月17日.
70. 大荷満生, 中島久実子¹, 秦葭哉², (¹山梨学院短期大学食物栄養科) (²常磐大学大学院コミュニティー振興学研究科): シンポジウム「メタボリック症候群とどう向き合うか(診断から治療まで)」メタボリック症候群の発症に及ぼす血中脂肪酸組成および炎症性サイトカインの影響. 第29回日本臨床栄養学会総会, 京都, 平成19年11月17日.
71. 大荷満生: 脂質異常症の日常診療における課題と対策-食事・生活指導に焦点をあてて-. 八王子医師会学術講演会, 東京, 平成19年11月21日.

72. 永井久美子, 奚 航, 神崎恒一, 平野泰之, 鳥羽研二: 4-ヒドロキシノネナールによるマトリックスメタロプロテアーゼ2の活性化と内皮細胞アポトーシスの誘導. 第15回日本血管生物医学会学術大会, 福岡, 平成19年11月29-30日.
73. 鳥羽研二: 「早期診断のアプローチ」「認知症とその対応・治療」. 平成19年度かかりつけ医認知症対応力向上研修会, 府中, 平成19年12月5日.
74. 大荷満生: 職場におけるメタボリック症候群予防のための栄養指導. 町田市産業医研修プログラム, 町田, 平成19年12月8日.
75. 鳥羽研二, 園原和樹, 中居龍平: 意欲の指標その後の発展. 第3回加齢医学研究会, 名古屋, 平成20年1月12日.
76. 鳥羽研二: 認知症患者のトータルケア. 平成19年度かかりつけ医認知症対応力向上研修会, 武蔵野, 平成20年1月19日.
77. 大荷満生: 食事脂肪とメタボリック症候群. 東村山市・小平市医師会学術講演会, 東村山市, 平成20年1月22日.
78. 鳥羽研二: 認知症治療の最新情報と漢方治療. 認知症と漢方セミナー, 松本, 平成20年11月25日.
79. 鳥羽研二: 老年症候群と総合的機能評価. 日本内科学会生涯教育講演会, 大阪, 平成20年2月3日.
80. 鳥羽研二: 気になりませんか? もの忘れ!. 第21回諏訪地区保健補導員等研究大会, 岡谷, 平成20年2月9日.
81. 鳥羽研二: 高齢者における排尿障害の位置づけ. 学術講演会, 宮崎, 平成20年2月21日.
82. 神崎 恒一: ガイドラインに基づいた動脈硬化性疾患の治療. 日本心臓病学会教育セミナー, 大阪, 平成20年2月24日.
83. 鳥羽研二: 治療とケア編. かかりつけ医認知症対応力向上研修会, 調布, 平成20年2月27日.
84. 小林義雄, 末光有美, 岩田安希子, 守屋佑貴子, 水川真二郎, 神崎恒一, 鳥羽研二: ヘミバリスムの出現を機に糖尿病と診断された糖尿病性舞踏病の一例. 第47回日本老年医学関東甲信越地方会, 筑波, 平成20年3月8日.
85. 守屋佑貴子, 桐井里英, 小林義雄, 田中克明, 木村紗也香, 山田如子, 町田綾子, 長谷川 浩, 神崎恒一, 鳥羽研二: 意味性認知症に言語リハビリテーションが著効した1例. 第47回日本老年医学関東甲信越地方会, 筑波, 平成20年3月8日.
86. 鳥羽研二: 高齢者総合的機能評価. 老年病専門医研修会, 東京, 平成20年3月1日、平成20年3月22-23日.
87. 鳥羽研二: 認知症高齢者のケアについて. 全国老人保健施設協会平成19年度認知症高齢者ケア研修会, 東京, 平成20年3月13日.
88. 長谷川 浩: 高齢者の不定愁訴. 杏林総合臨床研究会. 三鷹, 平成20年3月13日.
89. 鳥羽研二: 高齢者の総合機能評価. 老年病専門医研修会, 仙台, 平成20年3月15日.
90. 井上慎一郎, 長谷川 浩, 鳥羽研二: 高齢者石綿肺の一例. 多摩COPDセミナー, 武

蔵野，平成20年3月26日．

論文

1. 鳥羽研二，榊原隆次，後藤百万，梶原淳子，武田正之：高齢者の排尿障害の管理とQOL. *Geriat.Med*45（4）：469～483，2007.
2. 鳥羽研二：高齢者の排尿障害・管理の諸問題. *Geriat.Med*45（4）：393～397，2007.
3. 鳥羽研二：認知症高齢者の早期発見 臨床的観点から. *日老医誌*44(3)：305～307，2007.
4. 金信敬¹，鳥羽研二²，折茂肇¹（¹健康科学大学，²杏林大学高齢医学）：太極拳運動実施高齢者の健康関連QOL－同年代国民標準値との比較－. *日老医誌*44(3)：339～344，2007.
5. 久野木順一，鳥羽研二，田口敏彦，中村利孝：高齢者の腰痛の取り扱い. *Geriat.Med*45（8）：1019～1031，2007.
6. 神崎恒一，鳥羽研二：高齢医学からみた脳卒中. *分子脳血管病*6(4)：53(425)～59(431)，2007.
7. 鳥羽研二：新たな認知症のケアネットワークの構築に向けて. *Geriat.Med*45（9）：1073～1076，2007.
8. 鳥羽研二：ケアネットワークの構築 1) 新しい認知症のケアネットワーク 中核施設：もの忘れセンター. *Geriat.Med*45（9）：1089～1092，2007.
9. 中井川誠，浦上克哉，遠藤英俊，鳥羽研二：認知症ケアネットワーク，現状と課題. *Geriat.Med*45（9）：1179～1190，2007.
10. 鳥羽研二，菊地令子，岩田安希子：転倒ハイリスク者の早期発見における‘転倒スコア’の有用性. *日本臨床*65(9)：597～601，2007.
11. 大荷満生：各種病態における二次性高脂血症発症機序とその治療 -アルコールによる高脂血症-. *日本臨床*65(7)：421-425，2007.
12. 大荷満生：背景因子別高脂血症 -高齢者高脂血症の臨床的特徴とその治療-. *日本臨床*65(7)：518-521，2007.
13. 大荷満生：高齢者医療にけるSarcopeniaの臨床的意義. *日老医学会誌*44(3)：294-298，2007
14. 大荷満生：Ezetimibeによる高齢者脂質異常症の治療. *Geriatric Medicine*.45(12)：1205-1209，2007.
15. 大荷満生：高齢者の栄養評価、そのポイントとup to date. *静脈経腸栄養*22(4)：297-3003，2007.
16. 平山俊一，菊地令子，井上慎一郎，塚原大輔，末光有美，小林義雄，杉山陽一，長谷川浩，神崎恒一，井上剛輔，鳥羽研二：超高齢者におけるクレアチニンクリアランス推定式の比較検討. *日老医誌*.44:91-4，2007.
17. 神崎恒一：高齢者における生活習慣病 病態、臨床的特徴、診断、治療 高齢者における生活習慣病高脂血症. *日老医誌*44:181-184，2007

18. 神崎恒一：循環器疾患の老年医学 QOLを見据えた循環器疾患の管理. 日老医誌 44:711-3, 2007.
19. 長谷川 浩, 井上慎一郎：摂食・嚥下障害の薬物療法. Geriatric Medicine 45: 1313-1316, 2007.
20. 清水昌彦, 長谷川 浩, 鳥羽研二：【輸液のすべて 基本から実際まで】 各種病態での輸液の実際 高齢者の輸液：腎と透析63 Page329-332, 2007.
21. Xi H, Akishita M, Nagai K, Yu W, Hasegawa H, Eto M, Kozaki K, Toba K: Potent free radical scavenger, edaravone, suppresses oxidative stress-induced endothelial damage and early atherosclerosis. Atherosclerosis. 191:291-9, 2007.
22. Son BK, Kozaki K, Iijima K, Eto M, Nakano T, Akishita M, Ouchi Y: Gas6/Axl-PI3K/Akt pathway plays a central role in the effect of statins on inorganic phosphate-induced calcification of vascular smooth muscle cells. Eur J Pharmacol. 556:1-8, 2007.
23. Tanaka K, Yamada Y, Kobayashi Y, Sonohara K, Machida A, Nakai R, Kozaki K, Toba K. Improved cognitive function, mood and brain blood flow in single photon emission computed tomography following individual reminiscence therapy in an elderly patient with Alzheimer's disease. Geriatr Gerontol Int. 7:305-9, 2007.
24. 鳥羽研二：高齢者の半数に老年症候群の病態が認められる. The Mainichi Medical Journal Vol.4 No.1 : 28~29, 2008.
25. Kenji Toba : Risk assessment for falls in the elderly population. Geriatrics Gerontology International 8(Suppl.1) : S26~S28, 2008.
26. Masutani S, Little WC, Hasegawa H, Cheng HJ, Cheng CP: Restrictive left ventricular filling pattern does not result from increased left atrial pressure alone. Circulation. 25:1550-4. 2008.
27. 鳥羽研二：アルツハイマー認知症にみられる精神・行動障害（問題行動）への対応－抑肝散の位置づけ－. Geriat.Med46 (3) ; 229~234, 2008.
28. 大荷満生：見直そう廃用症候群－廃用症候群と低栄養－. Clinical Rehabilitation. 17(2):129-133, 2008.
29. 大荷満生：高齢者の低栄養の問題点と医療経済に及ぼす影響. 治療学 42(3):281-284, 2008.
30. 水川真二郎：患者，家族および医療従事者に対する「高齢者の終末期医療」について の意識調査 . 日老医誌 45(1):50-58, 2008.
31. 神崎恒一, 村田久, 菊地令子, 杉山陽一, 長谷川浩, 井形昭弘, 鳥羽研二. 活力度指

標の信頼性、妥当性および、活力度指標と加齢、運動との関連性に関する検討。
日老医誌 45:188-195, 2008.

著書

1. 神崎恒一：メタボリックシンドロームの性差、加齢との関係．日本医師会雑誌 136:S56-58, 2007.
2. 神崎恒一：高脂血症・脂質異常症・治療/実地医家の治療の実際 高齢者(更年期以後も含む)の高脂血症治療のポイント．Medical Practice 24:1253-7, 2007.
3. 神崎恒一, 永井久美子：動脈硬化患者へのアプローチ法 動脈硬化をきたした高齢者の診療．Medicina 44:1476-80, 2007.
4. 神崎恒一, 鳥羽研二：関連領域からみた脳卒中 高齢医学からみた脳卒中．分子脳血管病．6: 425-31, 2007.
5. 神崎恒一：動脈硬化症とアルツハイマー型認知症．老年精神医学雑誌18:1083-90, 2007.
6. 神崎恒一：松本論文に対するEditorial Comment．心臓39:1077, 2007.
7. 永井久美子, 秋下雅弘：血管の生理と病態モデル 4. 血管障害モデル．血管医学8(3)：287-92, 2007
8. 鳥羽研二：在宅医学 (The Japanese Academy of Home Care Physicians)．第3章 在宅医療の対象別諸課題 A高齢者 I 総論 高齢者医療総論 1生理学的観点 2臨床の観点 3福祉 4まとめ．日本在宅医学会テキスト編集委員会編．東京, (株)メディカルレビュー社, 248～251, 2008.
9. 鳥羽研二：アルツハイマー認知症にみられる精神・行動障害(問題行動)への対応ー抑肝散の位置づけー．Geriatr.Med46 (3) ; 229～234, 2008.
10. 大荷満生：栄養管理法-高齢者-. 今日の病態栄養療。渡辺明治, 福井富穂編 南江堂p96-99, 2008.
11. 須藤紀子:高齢者の薬物療法---副作用と注意すべきポイント. 消化器疾患の薬物療法. Journal of clinical rehabilitation. 17(3): 280-284, 2008.
12. 須藤紀子：介護術upミニ作戦 気をつけたい冬の食事・入浴事故．NHK社会福祉セミナー．1～3月号：74-77, 2008.
13. 須藤紀子：肝硬変．ベッドサイドの高齢者の診かた．葛谷雅文・秋下雅弘編．南山堂, P.124-132. 2008
14. 須藤紀子：吐・下血．ベッドサイドの高齢者の診かた．葛谷雅文・秋下雅弘編．東京, 南山堂, 2008. P.217-224.

その他

1. 鳥羽研二：効率的転倒予測技術の開発と転倒予防介入による生活機能の持続的改善効果に関する縦断研究．厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)総括分担研究報告書．

2. 鳥羽研二：心血管疾患のハイリスク患者スクリーニングのための新たな診断システムの構築とその臨床応用．厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患等生活習慣病対策総合事業）分担研究報告書．
3. 鳥羽研二：認知症の包括的ケア提供体制の確立に関する研究．厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）分担研究報告書．
4. 鳥羽研二：高齢者包括的・全人的医療に関わる標準的医療システムの開発に関する研究．長寿医療研究委託事業 分担研究報告書．
5. 鳥羽研二：療養病床、老人保健施設における急性期医療の引継ぎ構造とスタッフ・デベロップメントに関する研究．厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）分担研究報告書．
6. 神崎恒一：厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）「効果的転倒予測技術の開発と転倒予防介入による生活機能の持続的改善効果に関する縦断研究」分担研究．
7. 神崎恒一：厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）「男性ホルモン低下に起因する老年病の治療戦略とその機序に関する総合研究」分担研究．
8. 神崎恒一：平成19年度文部科学省科学研究費補助金基盤C「アミノ酸トランスポーターを標的とする血管障害に対する新規治療戦略」．
9. 神崎恒一：三井住友海上福祉財団「高齢者の虚弱増悪因子として的大脑白質病変の臨床的意義に関する研究」．
10. 神崎恒一：財団法人慢性疾患・リハビリテーション研究振興財団「脳皮質下虚血病変と認知機能・老年症候群に関する横断的・縦断的研究」．
11. 水川真二郎：高齢者の介護と終末期医療に関する意識調査－外来通院高齢患者を対象にした調査研究．厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）分担研究報告書．
12. 小林義雄：財団法人千代田健康開発事業団「社会厚生事業助成金（医学研究助成）」・認知症高齢者の転倒の特徴と予防に関する研究．
13. 末光有美, 大荷満生：ストレスと皮膚疾患．あなたの健康雑誌 主治医556:3-6, 2007.
14. 鳥羽研二：ランチョンセミナー座長「認知症の精神・行動障害に対する漢方治療」．
第49回日本老年医学会学術集会，札幌，平成19年6月22日．
15. 鳥羽研二：シンポジウム座長「医療と福祉の連携」．第11回高齢者介護・看護・医療フォーラム，東浦，平成19年9月22日．
16. 鳥羽研二：ワークショップ司会「高齢者の健診・保健指導における医療従事者の関わり方」．第14回日本未病システム学会学術総会，金沢，平成19年11月1日．
17. 鳥羽研二：座長 J-A Symposium 1[Health/Social insurance and education]
第7回Men's Health医学会 The Second Japan-ASEAN Men's Health&Aging

Conference, 加賀, 平成19年11月16日.

18. 鳥羽研二：セッション座長「老化・老年病等長寿科学技術分野」. 長寿科学総合研究成果発表会（研究者向け）, 東京, 平成20年2月2日.
19. 鳥羽研二：座長 第11回認知症を語る会, 東京, 平成20年2月16日.
20. 鳥羽研二：座長「21世紀最大の社会的な生活習慣病COPD(肺粗しょう症)－ディープインパクトに学ぶ最新治療の重要性－」. 多摩地区COPDセミナー, 武蔵野, 平成20年3月26日.

外科学2教室

I 口演

1. 井本 滋, 愛甲 孝, 北川雄光, 北島政樹：T1-2N0 乳癌における標準的なセンチネルリンパ節生検法の確立に関する多施設共同研究 (Sentinel Node Navigation Surgery 研究会)：第1報. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 平成19年4月11-12日
2. 興石義彦, 大野陽子, 吉田勤, 柴田英克, 有村隆明, 荻田真, 古屋敷剛, 武井秀史, 長島鎮, 呉屋朝幸：肺癌治療の世界的標準化は可能か－症例バックグラウンドの差について. 第107回日本外科学会総会, 大阪, 平成19年4月11-12日
3. 斉藤春洋¹, 増井一夫, 山田耕三¹, 浅野久敏¹, 中里顕英¹, 加藤靖文¹, 伊藤宏之¹, 尾下文浩¹, 中山治彦¹, 亀田陽一¹, 野田和正¹ (¹神奈川県立がんセンター呼吸器科)：新診断技術 小型肺腺癌の Thin-section 縦隔条件画像が示す病変部分の病理組織と臨床像の検討. 第47回日本呼吸器学会学術集会, 東京, 平成19年5月10-12日.
4. 田中良太, 中里宜正, 呉屋朝幸：広範囲胸壁合併切除および再建を必要とした巨大肺癌の一例. 第24回日本呼吸器外科学会総会, 横浜, 平成19年5月17-19日.
5. 田中良太, 中里宜正, 呉屋朝幸：新しい自動縫合器 (カーブドカッター) を用いた気管支断端処理. 第24回日本呼吸器外科学会総会, 横浜, 平成19年5月17-19日.
6. 橋啓盛, 中川加寿夫¹, 板谷徹¹, 大出泰久¹, 奥村武弘¹, 近藤晴彦¹ (¹静岡県立静岡がんセンター 呼吸器外科)：同時性多発肺癌に対する治療戦略 ～縮小手術の役割と妥当性～. 第24回日本呼吸器外科学会総会, 京都, 平成19年5月17-19日.
7. 吉田勤, 古屋敷剛, 有村隆明, 柴田英克, 荻田真, 中里陽子, 武井秀史, 長島鎮, 興石義彦, 呉屋朝幸：膿胸腔下行結腸瘻の1例. 第24回日本呼吸器外科学会総会, 横浜, 平成19年5月17-19日
8. 関恵理奈, 高橋博人¹, 青山克彦¹, 天川和久², 白井 哲², 野澤 誠², 諸井文子², 堀場昌英², 高杉知明², 芳賀孝之³ (¹独立行政法人国立病院機構東埼玉病院 呼吸器外科, ²同・呼吸器内科, ³同・研究検査科)：当院における肺結核に対する外科的治療の検討. 第24回日本呼吸器外科学会総会, 横浜, 平成19年5月17-19日.
9. 大岩加奈¹, 中里顕英¹, 浅野久敏¹, 加藤靖文¹, 伊藤宏之¹, 中山治彦¹, 増井一夫, 亀田陽一¹, 井上宏司² (¹神奈川県立がんセンター呼吸器科 ²東海大・医・呼吸器外科)：結節型肺アミロイドーシスの2手術例. 第24回日本呼吸器外科学会総会, 横浜, 平成19年5月17-19日.
10. 中山治彦¹, 伊藤宏之¹, 加藤靖文¹, 浅野久敏¹, 中里顕英¹, 大岩加奈¹, 増井一夫 (¹神奈川県立がんセンター呼吸器外科)：肺癌縮小手術としての区域切除・部分切除

- の役割と将来の展望 術前CT所見に基づいた小型末梢肺腺がんに対する縮小切除：遠隔成績から見た縮小切除の妥当性の検討. 第24回日本呼吸器外科学会総会, 横浜, 平成19年5月17-19日.
11. 伊坂泰嗣：ドセタキセルを用いた術後補助療法の検討, 多摩乳腺研究会, 立川, 平成19年5月23日
 12. Imoto S, Kitajima M, Aikou T, Kitagawa Y: Multi-center prospective study on sentinel node navigation surgery in early breast cancer. Ann. Meet. of 2007 ASCO. Chicago, June 2, 2007.
 13. 田中良太, 中里宜正, 吉野麗子, 湊 浩一：小型肺腺癌におけるMRIを用いた質的診断の有用性. 第30回日本呼吸器内視鏡学会総会, 東京, 平成19年6月8日.
 14. 大岩加奈¹, 斉藤春洋¹, 山田耕三¹, 尾下文浩¹, 中里顕英¹, 浅野久敏¹, 増井一夫, 加藤靖文¹, 伊藤宏之¹, 中山治彦¹, 横瀬智之¹, 亀田陽一¹, 井上宏司², 野田和正¹ (¹神奈川県立がんセンター呼吸器科 ²東海大・医・呼吸器外科)：塩酸イリノテカンを含む化学療法が奏効したLarge cell neuroendocrine carcinomaの検討. 第30回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 東京, 平成19年6月7-8日.
 15. Imoto S, Kitajima M, Aikou T, Kitagawa Y: Current Status of Sentinel Node Navigation Surgery in Breast Cancer. Presented at the International College of Surgeons, the 17th Joint Congress of Asia & Pacific Federations and the 53rd Annual Congress of the Japan section. 京都 June 10, 2007.
 16. 荘司輝昭^{1, 2}. (¹織本病院外科, ²杏林大・医・外科)：終末期における透析中止の一考察. 第52回日本透析医学会学術総会, 大阪, 平成19年6月15-17日.
 17. 荘司輝昭^{1, 2}. (¹織本病院外科, ²杏林大・医・外科)：在宅ターミナルケアでの検案対象となった症例についての諸問題. 第12回日本緩和医療学会総会, 岡山, 平成19年6月22-23日.
 18. 荘司輝昭^{1, 2}. (¹織本病院外科, ²杏林大・医・外科)：終末期における透析中止の一考察. 第12回日本緩和医療学会総会, 岡山, 平成19年6月22-23日
 19. 興石義彦：呼吸器外科手術のピットフォール. 第32回日本外科系連合学会、東京、平成19年6月22-23日.
 20. 武井秀史, 中里陽子, 丸野誓子, 吉田勤, 橘啓盛, 苅田真, 増井一夫, 古屋敷剛, 長島鎮, 興石義彦, 呉屋朝幸：肺癌の術後合併症とその対策 肺癌手術時の予防的抗生剤投与についてCDCガイドラインに沿った抗生剤投与. 第32回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 平成19年6月22-23日.
 21. 井本 滋, 和田徳昭, 酒村智子, 松原伸晃, 田中仁寛, 土屋沙渚, 長谷部孝裕：HE染色診断によるpN0(sn)乳癌症例に対する免疫組織染色によるITC同定の臨床的意義. 第15回日本乳癌学会総会, 横浜, 平成19年6月29-30日
 22. 中山英里, 伊坂泰嗣, 伊美建太郎, 伊東大樹, 井本滋, 菅間博¹ (¹杏林大・医・病理学)：乳腺浸潤性小葉癌胃転移の一例. 第15回日本乳癌学会学術総会, 横浜, 平成19年6月29-30日.
 23. 河内利賢, 鈴木健司¹, 蔦幸治², 渡辺俊一¹, 浅村尚生¹ (¹国立がんセンター中央病院呼吸器外科, ²同・病理)：悪性リンパ腫に対する化学療法施行後に増大し、悪性化が認められた前縦隔腫瘍の1例. 第149回肺癌学会関東支部会, 東京, 平成19年7月7日.
 24. 武井秀史, 中里陽子, 丸野誓子, 吉田勤, 橘啓盛, 苅田真, 増井一夫, 古屋敷剛, 長島鎮, 興石義彦, 呉屋朝幸：生検によって消失した中枢扁平上皮癌の1例. 第121回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 東京, 平成19年7月7日.
 25. 伊美建太郎, 河原正樹¹, 田中一成¹, 大野烈士¹, 杉下岳夫¹, 児玉俊¹, 藤田省吾¹, 高田厚¹, 小林洋明¹, 瀧野陽子¹, (¹関東中央病院外科)：広汎腸管壊死をきたしたNOMI(非閉塞性腸管虚血症)の1救命例. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 東京, 平成19年7月18-20日

26. 呉屋朝幸：胸部 X 線読影の基本．第 81 回城西画像研究会，武蔵野，平成 19 年 7 月 31 日．
27. Tachibana K, Nakagawa K¹, Endo M², Ohde Y¹, Okumura T¹, Ito I³, Kameya T³, Kondo H¹ (Shizuoka cancer center • ¹Division of Thoracic surgery, ²Radiology, ³Pathology) : Differences in high-resolution computed tomography (HRCT) Findings between mucinous and non-mucinous Bronchioloalveolar Carcinoma (BAC) less than 3cm. 12th World Conference on Lung Cancer, Seoul, Sep. 2-6, 2007.
28. Takei H, Nakazato Y, Yoshida T, Karita S, Masui K, Furuyashiki G, Koshiishi Y, Goya T : The relationship between surgical diagnosis and pathological diagnosis of lymph node metastasis. 12th World Conference on Lung Cancer, Seoul, Sep. 2-6, 2007.
29. Nakazato Y, Tanaka R¹, Iijima M², Yoshizumi M³, Kato M³, Kozawa K³, Goya T (¹Division of Thoracic Surgery, and ²Division of Diagnostic Pathology, Gunma Prefectural Cancer Center, ³Gunma Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences) : Successful Differential Diagnosis of Primary Versus Metastatic Pulmonary Adenocarcinomas by Using Gene Mutation Analyses. 12th World Conference on Lung Cancer, Seoul, Sep. 2-6, 2007
30. 藤田敦，小池輝明¹，渡辺健寛¹，富樫賢一¹，土田正則¹，青木正¹，大関一¹，金沢宏¹，吉井新平¹，諸久永¹，井上政昭¹，林純一¹ (¹新潟呼吸器外科研究グループ) : 2001 年新潟県肺がん手術症例の術後生存率．第 31 回新潟肺癌研究会，新潟，平成 19 年 9 月 8 日．
31. 伊東大樹，井本滋，中山英理，伊美健太郎，伊坂泰嗣，呉屋朝幸：頸髄腫瘍を伴う乳癌の 1 例：第 75 回城西外科研究会，東京，平成 19 年 9 月 8 日．
32. 伊坂泰嗣：乳がん検診の現状と乳がんについて．あきる野市市民講座，あきる野，平成 19 年 9 月 9 日．
33. 武井秀史，中里陽子，丸野誓子，吉田勤，橘啓盛，増井一夫，苅田真，古屋敷剛，長島鎮，輿石義彦，呉屋朝幸：巨大肺嚢胞に対する治療法—手術と嚢胞ドレナージの比較—．第 11 回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会，東京，平成 19 年 9 月 14—15 日
34. 吉田勤，古屋敷剛，伊坂泰嗣，中里陽子，寺岡秀郎，輿石義彦，飯原久仁子¹，管間博¹，呉屋朝幸 (¹杏林大・医・病理) : 副甲状腺機能亢進症を呈した上皮小体癌の 1 例．第 40 回日本甲状腺外科学会学術集会，東京，平成 19 年 10 月 18-19 日．
35. 呉屋朝幸：肺癌ガイドラインの検証—欧米との比較—．第 45 回日本癌治療学会総会，京都，平成 19 年 10 月 24—26 日．
36. 須田一晴，藤田敦¹，佐藤英夫²，岩島明²，輿石義彦，呉屋朝幸 (¹長岡中央総合病院呼吸器外科，²同・呼吸器内科) : 原発性肺癌の副腎転移に対する外科的治療．第 48 回肺癌学会総会，名古屋，平成 19 年 11 月 8-9 日．
37. 関恵理奈，青山克彦¹，植田守¹，芳賀孝之² (¹独立行政法人国立病院機構東埼玉病院呼吸器外科，²同・研究検査科) : 胸腺原発 mucinous adenocarcinoma の 1 切除例．第 48 回日本肺癌学会総会，名古屋，平成 19 年 11 月 8-9 日．
38. 田中良太，堀越浩幸，中里宜正，吉野麗子，飯島美砂，湊浩一：MRI 画像解析による原発性肺腺癌の浸潤度診断．第 48 回日本肺癌学会総会，名古屋，平成 19 年 11 月 8-9 日．
39. 大野陽子，輿石義彦，丸野誓子，吉田勤，橘啓成，苅田真，増井一夫，古屋敷剛，武井秀史，長島鎮，呉屋朝幸：高齢者小細胞肺癌の検討．第 48 回日本肺癌学会総会，名古屋，平成 19 年 11 月 8-9 日．
40. 増井一夫，輿石義彦，吉田勤，橘啓盛，苅田真，須田一晴，藤田敦，中里陽子，古

- 屋敷剛, 武井秀史, 長島鎮, 輿石義彦, 呉屋朝幸: 肺葉別組織型についての検討. 第 48 回日本肺癌学会総会, 名古屋, 平成 19 年 11 月 8-9 日.
41. 大岩加奈¹, 斉藤春洋¹, 山田耕三¹, 尾下文浩¹, 中里顕英¹, 浅野久敏¹, 加藤靖文¹, 伊藤宏之¹, 中山治彦¹, 野田和正¹, 増井一夫, 亀田陽一¹, 横瀬智之¹, 井上宏司², (¹ 神奈川県立がんセンター呼吸器科, ² 東海大・医・呼吸器外科): Large cell neuroendocrine(LCNEC)の進行例に対し化学療法が奏効した 2 例. 第 48 回日本肺癌学会総会, 名古屋, 平成 19 年 11 月 8-9 日.
 42. 長島鎮, 柴田英克, 吉田勤, 橋啓盛, 増井一夫, 苅田真, 中里陽子, 古屋敷剛, 武井秀史, 輿石義彦, 呉屋朝幸: G-CSF 産生肺癌の 2 例. 第 48 回日本肺癌学会総会, 名古屋, 平成 19 年 11 月 8-9 日.
 43. 柴田英克, 野守裕明, 大場康臣, 池田公英, 小林広典, 岩谷和典, 森毅: 小型肺腺癌の診断に対する Acetate PET の有用性の検討. 第 48 回日本肺癌学会総会, 名古屋, 平成 19 年 11 月 8-9 日.
 44. 中山英里, 伊美建太郎, 伊東大樹, 伊坂泰嗣, 松田実, 福島久喜, 井本滋, 原由紀子¹, 菅間博¹ (¹ 杏林大・医・病理学): 神経内分泌腫瘍の形質を有する浸潤性乳管癌の 1 例. 第 4 回日本乳癌学会関東地方会, 大宮, 平成 19 年 11 月 17 日.
 45. 呉屋朝幸: 標準術式から学エビデンス (ビデオ) - 肺 -. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 横浜, 平成 19 年 11 月 29 日-12 月 1 日.
 46. 橋啓盛, 武井秀史, 吉田勤, 増井一夫, 苅田真, 中里陽子, 古屋敷剛, 長島鎮, 輿石義彦, 呉屋朝幸: 気管支原性嚢胞切除例の検討. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 横浜, 平成 19 年 11 月 29 日-12 月 1 日.
 47. 井本 滋, 和田徳昭, 酒村智子, 呉屋朝幸: センチネルリンパ節生検による腋窩温存症例の長期予後. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 横浜, 平成 19 年 11 月 29 日-12 月 1 日.
 48. 武井秀史, 中里陽子, 橋啓盛, 吉田勤, 増井一夫, 苅田真, 古屋敷剛, 長島鎮, 輿石義彦, 呉屋朝幸: 肺癌手術の予防的抗生剤投与. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 横浜, 平成 19 年 11 月 29 日-12 月 1 日.
 49. 古屋敷剛, 吉田勤, 増井一夫, 輿石義彦, 呉屋朝幸: 肝転移に TS-1 単独治療が奏功した非小細胞肺癌の 2 再発例. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 横浜, 平成 19 年 11 月 29-12 月 1 日.
 50. 伊東大樹, 井本滋, 中山英理, 伊美建太郎, 伊坂泰嗣: 頸髄腫瘍による四肢麻痺、呼吸不全をきたした進行乳癌の 1 例. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 横浜, 平成 19 年 11 月 29 日-12 月 1 日.
 51. 吉田勤, 輿石義彦, 橋啓盛, 苅田真, 増井一夫, 中里陽子, 古屋敷剛, 武井秀史, 長島鎮, 呉屋朝幸: 臨床病期 I 期の肺癌手術におけるピットフォール. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 横浜, 平成 19 年 11 月 29 日-12 月 1 日.
 52. 関恵理奈, 青山克彦¹, 植田守¹, 芳賀孝之² (¹ 独立行政法人国立病院機構東埼玉病院呼吸器外科, ² 同・研究検査科): 胸肋鎖骨肥厚症の 1 例. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 横浜, 平成 19 年 11 月 29 日-12 月 1 日.
 53. Kawachi R, Watanabe S, Suzuki S, Asamura H: Clinical Application of Costal Coaptation Pins Made of Hydroxyapatite and Poly-L-Lactide (HA/PLLA) Composite for Posterolateral Thoracotomy. The 4th meeting of Asian thoracic surgical club, Taipei, December 1-2, 2007.
 54. 伊美建太郎, 井本滋, 伊坂泰嗣, 伊東大樹, 中山英里, 菅間博¹ (¹ 杏林大・医・病理学): 男性乳癌の 1 例. 第 807 回外科集談会, 東京, 平成 19 年 12 月 8 日.
 55. 呉屋朝幸: 肺癌と私と患者さん~for the patient の思い~. 群馬県立がんセンター講演会, 太田, 平成 19 年 12 月 14 日.
 56. 都島由紀雄, 鈴木健司¹, 栃木直文², 蔦幸治², 渡邊俊一¹, 浅村尚生¹ (¹ 国立がんセンター中央病院呼吸器外科, ² 同・臨床検査部病理): 巨大 solitary fibrous

- tumor の 1 例. 第 150 回日本肺癌学会関東部会, 東京, 平成 19 年 12 月 15 日
57. 中里宜正, 田中良太¹, 飯島美砂², 吉住正和³, 加藤政彦³, 小澤邦寿³, 呉屋朝幸 (¹群馬県がんセ 呼吸器外科, ²群馬県がんセ 病院病理部, ³群馬県衛環研): 原発性肺癌と転移性肺腫瘍の鑑別診断に補助的な遺伝子解析を用いた一例. 第 150 回日本肺癌学会関東部会, 東京, 平成 19 年 12 月 15 日.
 58. 輿石義彦, 中里陽子, 吉田勤, 増井一夫, 呉屋朝幸: 肺癌根治手術後合併症と肥満. 第 42 回日本成人病学会総会, 東京, 平成 20 年 1 月 12 日.
 59. 近藤恵里, 苅田真, 吉田勤, 橘啓盛, 増井一夫, 中里陽子, 古屋敷剛, 武井秀史, 長島鎮, 輿石義彦, 呉屋朝幸: FDG-PET で陽性を示し多発結節影を伴った肺クリプトコッカス症の 1 例. 第 145 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 平成 20 年 2 月 9 日.
 60. 柴田英克, 大場康臣, 吉本健太郎, 小林広典, 岩谷和典, 森毅, 野守裕明熊本大・医・呼吸器外科): 胸腺腫における Acetate-PET の有用性の検討. 第 27 回日本胸腺研究会, さいたま, 平成 20 年 2 月 16 日.
 61. Imoto S, Aiko T, Kitagawa Y Kitajima M: Multi-center prospective study on sentinel node navigation surgery in early breast cancer. Presented at the 6th International Sentinel Node Conference, Sydney, February 18, 2008.
 62. 河内利賢, 渡辺俊一¹, 鈴木健司¹, 浅村尚生¹ (¹国立がんセンター呼吸器外科): 肺内神経鞘腫の一例. 肺癌学会関東支部会, 東京, 平成 20 年 3 月 15 日.

II 論文

1. 福島淳一, 安西尚彦¹, 坂田武^{1,2,3}, 岡安勲², 金井好克¹, 遠藤仁^{1,3}, 呉屋朝幸 (¹杏林大・医・薬理, ²北里大・医・病理, ³(株)富士バイオメディックス): 胃癌におけるアミノ酸トランスポーター LAT 1 (L-type amino acid transporter1) および 4F2hc 発現についての免疫組織化学的検討. 診断病理 24: 283-288, 2007.
2. 田中仁寛, 井本 滋, 和田徳昭, 酒村智子, 長谷部孝裕: 術前化学療法後のセンチネルリンパ節生検にて術中迅速病理診断が偽陰性となった浸潤性小葉癌の 1 例. 乳癌の臨床 22: 409-412, 2007
3. 武井秀史, 呉屋朝幸: 診断に役立つ肉眼像と組織像. マクロからミクロ像を読む 肺悪性腫瘍. 臨床外科 62: 581-587, 2007.
4. 田中良太, 橋本美由岐: がんの進行に伴う緊急病態と対応-腫瘍塞栓-. 看護技術 53: 359-361, 2007.
5. 田中良太, 小嶋香織: がんの進行に伴う緊急病態と対応-がん性胸膜炎-. 看護技術 53: 382-384, 2007.
6. 田中良太: 胸部外科領域における最新の診断法-迅速細胞診-. 胸部外科 60: 745-751, 2007.
7. 丸野誓子, 河内理賢, 中里陽子, 古屋敷剛, 輿石義彦, 呉屋朝幸: 経過中に増大し、胸膜剥皮術を施行した円形無気肺の 3 例. 日臨外会誌 68: 2982-2986, 2007
8. 輿石晴也¹, 高橋英介¹, 小関啓太², 森健一郎¹, 後藤博志¹, 岡村孝¹, 南智仁¹, 玉本文彦³, 坂庭信行², 林永信², 輿石義彦 (¹都立大塚病院・外科, ²杏雲堂病院・呼吸器科, ³都立大塚病院・放射線科): 癌性胸膜炎合併非小細胞肺癌に対する気管支動脈内抗癌剤注入療法 (BAI) の検討. 癌と化療 34: 2068-2070. 2007.
9. 輿石晴也¹, 安井俊行², 高橋英介¹, 柿本慶貴¹, 岡村孝¹, 南智仁¹, 馬場美智子², 林永信³, 輿石義彦 (¹都立大塚病院・外科, ²都立大塚病院・内科, ³杏雲堂病院・呼吸器科): 血液透析中肺小細胞癌に対する Carboplatin+CPT-11 化学療法の実験. 癌と化療 34: 2071-2073, 2007.
10. 喜多秀文¹, 輿石義彦, 増井一夫, 藤田敦, 大塚弘毅, 古屋敷剛, 中里陽子, 武井秀史,

- 呉屋朝幸 (¹結核予防会複十字病院呼吸器外科) : I 期非小細胞肺癌例における術後再発の危険因子. 胸部外科60巻10号 : 883-887, 2007.
11. 中里宜正, 田中良太 ¹, 飯島美砂 ², 呉屋朝幸 (¹群馬県がんセ 呼吸器外科, ²群馬県がんセ 病院 病理部) : FDG-PET が陽性で肺癌術後再発が疑われた Anthracotic and anthracosillicotic spindle cell proliferation の一例. 日呼外誌 21: 895-898, 2007.
 12. Nagai K, Sohara Y, Tsuchiya R, Goya T, Miyaoka E : Prognosis of resected non-small cell lung cancer patients with intrapulmonary metastases. J Thorac Oncol 2, 282-286, 2007.
 13. Koike T, Tsuchiya R, Goya T, Sohara Y, Miyaoka, E : Prognostic factors in 3315 completely resected cases of clinical stage I non- small cell lung cancer in Japan. J Thorac Oncol 2 : 408-413, 2007.
 14. Asamura H, Goya T, Koshiishi Y, Sohara Y, Eguchi K, Mori M, Nakanishi Y, Tsuchiya R, Shimokata K, Inoue H, Nukiwa T, Miyaoka E : A Japanese lung cancer registry study. Prognosis of 13,010 resected lung cancers. J Thorac Oncol 3 : 46-52, 2008.
 15. Yamauchi C, Hasebe T, Iwasaki M, Imoto S, Wada N, Fukayama M, Ochiai A : Accurate assessment of lymph vessel tumor emboli in invasive ductal carcinoma of the breast according to tumor areas, and their prognostic significance. Hum Pathol 38 : 247-259, 2007.
 16. Imoto S, Wada N, Hasebe T, Ochiai A, Kitoh T : Serum *c-erbB-2* protein (ErbB-2) is a useful marker for monitoring tumor recurrence of the breast. Int J Cancer 120 : 357-361, 2007.
 17. Inagaki M, Yoshikawa E, Matsuoka Y, Sugawara Y, Nakano T, Akechi T, Wada N, Imoto S, Murakami K, Uchitomi Y : Smaller regional volumes of brain gray and white matter demonstrated in breast cancer survivors exposed to adjuvant chemotherapy. Cancer 109 : 146-156, 2007.
 18. Wada N, Sakemura N, Imoto S, Hasebe T, Ochiai A, Moriyama N. Sentinel node biopsy in primary breast cancer: Radioactive detection and metastatic disease. Eur J Surg Oncol 33 : 691-695, 2007.
 19. Nagamine M, Matsuoka Y, Mori E, Fujimori M, Imoto S, Kim Y, Uchitomi Y : Relationship between heart rate and emotional memory in subjects with a past history of post-traumatic stress disorder. Psychiatry Clin Neurosci 61 : 441-443, 2007.
 20. Matsuoka Y, Nagamine M, Mori E, Imoto S, Kim Y, Uchitomi Y : Left hippocampal volume inversely correlates with enhanced emotional memory in healthy middle-aged women. J Neuropsychiatry Clin Neurosci. 19 : 335-338, 2007.
 21. Hakamata Y, Matsuoka Y, Inagaki M, Nagamine M, Hara E, Imoto S, Murakami K, Kim Y, Uchitomi Y : Structure of orbitofrontal cortex and its longitudinal course in cancer-related post-traumatic stress disorder. Neurosci Res 59 : 383-389, 2007.
 22. Nagamine M, Matsuoka Y, Mori E, Imoto S, Kim Y, Uchitomi Y. Different emotional memory consolidation in cancer survivors with and those without a history of intrusive recollection. J Trauma Stress 20 : 727-736, 2007.
 23. Kurosumi M, Takatsuka Y, Watanabe T, Imoto S, Inaji H, Tsuda H, Akiyama F, Sakamoto G, Ikeda T, Noguchi S : Histopathological assessment of anastrozole and tamoxifen as preoperative (neoadjuvant) treatment in

- postmenopausal Japanese women with hormone receptor-positive breast cancer in the PROACT trial. *J Cancer Res Clin Oncol* 134 : 715-722, 2008.
24. Wada N, Imoto S: Clinical evidence of breast cancer micrometastases in the era of sentinel node biopsy. *Int J Clin Oncol* 13 : 24-32, 2008.
 25. Tanaka K, Imoto S, Wada N, Sakemura N, Hasebe T: Invasive apocrine carcinoma of the breast: clinicopathologic features of 57 cases. *Breast J* 14 : 164-168, 2008.
 26. Hasebe T, Yamauchi C, Iwasaki M, Ishii GI, Wada N, Imoto S: Grading system for lymph vessel tumor emboli for prediction of the outcome of invasive ductal carcinoma of the breast. *Hum Pathol* 39 : 427-436, 2008.
 27. Tokuda Y, Tajima T, Narabayashi M, Takeyama K, Watanabe T, Fukutomi T, Chou T, Sano M, Igarashi T, Sasaki Y, Ogura M, Miura S, Okamoto S, Ogita M, Kasai M, Kobayashi T, Fukuda H, Takashima S, Tobinai K; Autologous Bone Marrow Transplantation Study Group; Breast Cancer Study Group of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG): Phase III study to evaluate the use of high-dose chemotherapy as consolidation of treatment for high-risk postoperative breast cancer: Japan Clinical Oncology Group study, JCOG 9208. *Cancer Sci* 99 : 145-151, 2008.
 28. Tanaka R, Nakazato Y, Fukura H, Horikoshi H, Sawada T, Goya T: Partial Anomalous Pulmonary Venous Connection in Right Lung Cancer: Report of a Case. *Surg Today* 38:147-149, 2008.
 29. Nakayama H, Ichinose S, Kato Y, Ito H, Masui K, Kameda Y: Long-term Survival After a Surgical Resection of Pulmonary Metastases from Gastric Cancer. Report of a Case. *Surgery Today* 38 : 150-153, 2008.
 30. Nakazato Y, Tanaka R¹, Seki E¹, Iijima M², Kojima M², Yoshizumi M³, Kato M³, Kimura H⁴, Kozawa K³, Goya T (¹Division of Thoracic Surgery, and ²Division of Diagnostic Pathology, Gunma Prefectural Cancer Center, Gunma, Japan ³Gunma Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences, Maebashi, Gunma, Japan ⁴Infectious Disease Surveillance Center, National Institute of Infectious Diseases) : Differential Diagnosis of Primary Versus Metastatic Pulmonary Adenocarcinomas Using Gene Mutation Analyses. *J Thorac Onc*, in press, Feb. 2008.

III 著書

1. 井本 滋: センチネルリンパ節生検. これからの乳癌診療, 福田 護, 池田 正, 佐伯 俊昭, 鹿間 直人編 東京, 金原出版, 2008. P 31-34.
2. 河内利賢, 浅村尚生: 悪性胸膜中皮腫の外科治療. 呼吸器科. 渋谷昌彦, 東京, 科学評論社, 2007年(12巻4号). P 327-331.
3. 河内利賢, 浅村尚生: 肺葉切除と系統的リンパ節郭清(標準術式). 呼吸器ケア. 岡田守人, 大阪, メディカ出版, 2008年(6巻3号). P86-90.
4. 中里陽子, 呉屋朝幸: 臨床症状と診断(病期診断). 肺癌ナーシングケアQ&A 徹底ガイド 肺がんケアQ&A. 加藤治文監修、平野隆、坪井正博編. 東京. 総合医学社. 2007 P 74-75.
5. 吉田 勤, 興石義彦: 治療時の看護の要点. 肺癌ナーシングケアQ&A 徹底ガイド 肺がんケアQ&A. 加藤治文監修、平野隆、坪井正博編. 東京. 総合医学社. 2007. P 170-171.

IV. その他

1. 井本 滋 : 第3回乳癌低侵襲治療研究会 当番世話人 横浜, 2007年6月30日
2. 土屋了介¹、奥石義彦 (¹国立がんセ中央) : 18 指-1 難治がんの総合的な対策に関する研究 より良い肺癌診療のための新たなデータの検討に関する研究。厚生労働省がん研究助成金による研究報告集 平成18年度: 477-488、2007
3. 肺癌登録合同委員会: 1999年肺癌外科切除例の全国集計に関する報告. 肺癌 47: 299-311、2007
4. 肺癌登録合同委員会: 1999年肺癌外科切除例の全国集計に関する報告. 日呼外会誌 21: 740-752, 2007

小児外科学教室

I. 口演

1. 葺澤融司、伊藤泰雄、浮山越史、渡辺佳子、種村比呂子: シンポジウム「ヒルシュスプルング病の病因論」sporadic に発症したヒルシュスプルング病における遺伝子異常の解析. 第44回日本小児外科学会学術集会、東京、平成19年5月31日
2. 葺澤融司、伊藤泰雄、浮山越史、渡辺佳子、種村比呂子: Hirschsprung病で増生する外来神経に関する研究. 第44回日本小児外科学会学術集会、東京、平成19年6月1日
3. 種村比呂子、伊藤泰雄、葺澤融司、浮山越史、渡辺佳子: vanishing testis の健側精巣容積に関する検討. 第44回日本小児外科学会学術集会、東京、平成19年6月2日
4. 吉田史子、鎌形正一郎¹、広部誠一¹、東間未来¹、奥村健児¹、武藤 充¹、岡部圭介¹、林 奂¹ (¹: 都立清瀬小児病院外科) : 小児腓外傷の治療方針. 第44回日本小児外科学会学術集会、東京、平成19年6月2日
5. 渡辺佳子、伊藤泰雄、葺澤融司、浮山越史、吉田史子: 治療を拒否した十二指腸閉鎖症・ダウン症の1例. 第100回東京小児外科研究会、東京、平成19年6月12日
6. 種村比呂子、本名敏郎¹、黒田達夫¹、森川信行¹、渡辺宏治¹、田中秀明¹、寺脇 幹¹、松久保 真¹ (¹: 国立成育医療センター外科) : 当科における染色体異常に対する新生児外科治療. 第100回東京小児外科研究会、東京、平成19年6月12日
7. 浮山越史、伊藤泰雄、葺澤融司、渡辺佳子、種村比呂子: パネルディスカッション、小児救急医に求められる力- 小児外科医の立場から-. 第21回日本小児救急医学会、鹿児島、平成19年6月15日
8. 吉田史子、鎌形正一郎¹、広部誠一¹、東間未来¹、奥村健児¹、武藤 充¹、岡部圭介¹、林 奂¹ (¹: 都立清瀬小児病院外科) : 腸重積症における非観血的整復の整復率の検討-適切な整復方法の選択. 第21回日本小児救急医学会、鹿児島、

平成19年6月16日

9. 吉田史子、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、渡辺佳子：経陰囊的精巣固定後対側精巣が触知不能であった1例．第42回日本小児外科学会関東甲信越地方会、三鷹、平成19年10月27日
10. 渡辺佳子、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、吉田史子：結腸多発ポリープにて発症したPeutz-Jeghers 症候群の1例．第42回日本小児外科学会関東甲信越地方会、三鷹、平成19年10月27日
11. 渡辺佳子、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、吉田史子：高度の貧血を伴った後腹膜リンパ管腫の1例．第101回東京小児外科研究会、東京、平成19年12月11日
12. 渡辺佳子、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、吉田史子、塩川芳昭¹、永根基雄¹（1杏林大・医・脳神経外科）：当院における小児在宅ターミナルケアの試み．第23回日本小児がん学会、仙台、平成19年12月16日
13. 渡辺佳子、伊藤泰雄、葦澤融司、浮山越史、吉田史子：パネルディスカッション「小児腹部救急疾患の診断と治療のstrategy」外科的疾患との鑑別を要した病原性大腸菌感染症の検討．第44回日本腹部救急医学会、東京、平成20年3月15日
14. 伊藤泰雄：基調講演「小児腹部救急疾患の診断と治療のstrategy」．第44回日本腹部救急医学会、東京、平成20年3月15日

II. 論文

1. 浮山越史、伊藤泰雄、葦澤融司、渡辺佳子、吉田史子：重症外傷患児の感染予防対策 治療．小児外科 39：1438-1442, 2007
2. 浮山越史、伊藤泰雄、葦澤融司、渡辺佳子、種村比呂子：口径差のある小腸小腸吻合：乳児へのfunctional end-to-end anastomosis. 小児外科43：13-17, 2007
3. 葦澤融司：第42回日本腹部救急医学会総会パネルディスカッション「小児腸重積の治療：あなたはどのようにしていますか？」アナライザー集計結果．日腹部救急医学会誌 26：725-730, 2007
4. 伊藤泰雄：小児の腹部外傷ってどんな手順で戦えばいいの？ ERマガジン 4(4)：583-586、2007
5. Etsuji Ukiyama, Masao Endo, Fumiko Yoshida, Toshihiko Watanabe: Light guided procedure for congenital pyriform sinus fistula; new and simple procedure for impalpable fistula. *Pediatr Surg Int* 23: 1241-1243, 2007
6. 吉田史子, 鎌形正一郎¹, 広部誠一¹, 東間未来¹, 奥村健児¹, 武藤充¹, 岡部圭介¹, 浅井宣美¹, 林 奂¹(¹都立清瀬小児病院外科) 腸重積症に対するdelayed repeated enemaの検討. *日本小児救急医学会雑誌* 6(2)：200-204、2007
7. 吉田史子, 鎌形正一郎¹, 広部誠一¹, 東間未来¹, 奥村健児¹, 武藤充¹, 岡部圭介¹, 浅井宣美¹, 林 奂¹(¹都立清瀬小児病院外科) 小児腸重積症の治療—パワー

ドップラー検査により治療方針は変わるか. 日本腹部救急医学会雑誌27 (5) :
721-724、2007

III. 著書

1. 菫澤融司 (分担執筆) 誤飲・誤嚥. 内科医・小児科研修医のための小児救急治療ガイドライン (市川光太郎編) 診断と治療社 東京 2007. p372-375.
2. 菫澤融司 (分担執筆) 小児外傷. 標準小児外科学第5版 (岡田 正監修) 医学書院 東京 2007. p254-263
3. 伊藤泰雄 (分担執筆) 腹部外傷 小児救急治療ガイドライン (市川光太郎編集) 診断と治療社、東京2007. p 384-388
4. 伊藤泰雄 (分担執筆) 鼠径ヘルニア 小児科診療ガイドラインー最新の治療指針 (五十嵐 隆編集) 総合医学社、東京 2007. p 164-166
5. 伊藤泰雄 (分担執筆) 小児外科概論 標準小児外科学第5版 (岡田 正監修) 医学書院 東京 2007. p1-5
6. 伊藤泰雄 (分担執筆) 消化管閉鎖症・狭窄症 標準小児外科学第5版 (岡田 正監修) 医学書院 東京 2007. p159-165

IV. その他

1. 伊藤泰雄：特別講演「小児に多い外科疾患の診断と専門医に送るタイミング」第10回調布小児科研修会 平成19年7月18日
2. 渡辺佳子：そけいヘルニア. 日本小児外科学会関東甲信越地方会市民公開講座 平成19年10月28日、三鷹
3. 吉田史子：虫垂炎. 日本小児外科学会関東甲信越地方会市民公開講座 平成19年10月28日、三鷹
4. 浮山越史：停留精巣. 日本小児外科学会関東甲信越地方会市民公開講座 平成19年10月28日、三鷹
5. 菫澤融司：包茎. 日本小児外科学会関東甲信越地方会市民公開講座 平成19年10月28日、三鷹

救急医学教室

I. 口演 (学会等)

1. 山口芳裕：特殊な災害に対する医療対応－NBCテロ－. 第 27 回日本医学会総会, 大阪, 平成 19 年 4 月 7 日 (土).
2. 島崎修次, 松田剛明, 山口芳裕：日本の医療の危機－専門分野の偏在と救急医療の危機－. 第 27 回日本医学会総会, 大阪, 平成 19 年 4 月 7 日 (土).
3. 山本明彦, 山口芳裕, 島崎修次：大災害時における災害拠点病院外科医の役割. 第 107 回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 平成 19 年 4 月 12 日 (木).
4. 樽井武彦, 武井秀史¹, 小泉健雄, 松田剛明, 大浦紀彦, 興石義彦¹, 呉屋朝幸¹, 島崎修次, 山口芳裕 (¹杏林大・医・外科)：重症熱傷後の高度気道狭窄－発症機序と治療戦略－. 第 107 回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 平成 19 年 4 月 13 日 (金).
5. 山田賢治, 関谷繁樹¹, 山口芳裕, 伊藤正裕¹ (¹赤心堂病院整形外科)：虫様筋が原因と考えられた両側手根管症候群の 1 例－症例報告と病態研究－. 第 50 回日本手の外科学会学術集会, 山形, 平成 19 年 4 月 20 日 (金).
6. 大石知瑞子¹, 松田剛明, 西山和利¹, 山口芳裕, 千葉厚郎¹ (¹杏林大・医・神経内科)：救急外来における神経内科医の需要についての検討. 第 48 回日本神経学会総会, 三重, 平成 19 年 5 月 7 日 (木).
7. 梅垣修, 玉田尚, 山口芳裕, 重松史子, 宮脇有紀, 佐野秀：敗血症性ショック時のバゾプレシン投与の有効性. 社団法人日本麻酔科学会第 54 回学術集会, 札幌, 平成 19 年 5 月 31 日 (木).
8. Yamaguchi Y: Pathophysiological Mechanism and Therapeutic Strategy of Burn-Induced Acute Lung Injury. The 6th Asia Pacific Burns Congress, Seoul, June 4, 2007.
9. 大浦紀彦, 岡崎睦¹, 後藤英昭, 小泉健雄, 樽井武彦, 多久嶋亮彦¹, 西田光², 波利井清紀¹ (¹杏林大・医・形成外科, ²野村病院リハビリテーション科)：2 次損傷創に対するカデキソマー・ヨウ素軟膏；カデックス軟膏[®]の有効性. 第 33 回日本熱傷学会総会・学術集会, 金沢, 平成 19 年 6 月 7 日 (木).
10. 海田賢彦, 樽井武彦, 小泉健雄, 後藤英昭, 島崎修次, 山口芳裕：重症熱傷患者の搬入時検査所見による熱傷初期病態評価の試み. 第 33 回日本熱傷学会総会・学術集会, 金沢, 平成 19 年 6 月 7 日 (木).
11. 小泉健雄, 後藤英昭, 海田賢彦, 樽井武彦, 山口芳裕：採皮面積を指標とした赤血球濃厚液必要量の予測－熱傷手術標準化を目指して－. 第 33 回日本熱傷学会総会・学術集会, 金沢, 平成 19 年 6 月 7 日 (木).
12. 三澤里織¹, 城間敏子¹, 木村雅彦¹, 岡島康友¹, 小泉健雄, 後藤英昭, 大浦紀彦, 和田貴子, 島崎修次, 山口芳裕, 中澤千香², 高見佳宏³, 田中秀治⁴ (¹杏林大・医・リハビリテーション室, ²取手協同病院・リハビリテーション科, ³西部総合病院・形成外科, ⁴国士舘大学・体育学部・スポーツ医科学科)：熱傷の作業療法. 第 33 回日本熱傷学会総会・学術集会, 金沢, 平成 19 年 6 月 7 日 (木).
13. 青木大¹, 田中秀治¹, 今川理映子¹, 明石優美¹, 島崎修次¹ (¹特定非営利活動法人日本スキンバンクネットワーク事務局)：NPO 法人日本スキンバンクネットワークの現状と今後の展望. 第 33 回日本熱傷学会総会・学術集会, 金沢, 平成 19 年 6 月 8 日 (金).
14. 明石優美^{1, 2}, 田中秀治¹, 青木大^{1, 2}, 今川理映子^{1, 2}, 島崎修次^{1, 2}, 山口芳裕² (¹特定非営利活動法人日本スキンバンクネットワーク事務局, ²杏林大学医学部付属病院組織移植センター)：日本スキンバンクネットワークの採皮状況と同種皮膚移植の臨床効果. 第 33 回日本熱傷学会総会・学術集会, 金沢, 平成 19 年 6 月 8 日 (金).
15. 大石知瑞子¹, 松田剛明, 西山和利², 栗田浩樹³, 千葉厚郎¹, 山口芳裕 (¹杏林大・医・神経内科, ²杏林大・医・神経内科・脳卒中センター, ³杏林大・医・脳神経外科・脳卒中センター)：救急外来における神経内科医の需要についての検討. 第 21 回日本神経救

- 急学会学術集会, 京都, 平成 19 年 6 月 16 日 (土).
16. Yamaguchi Y: Medical response to emergency and disaster in Japan. Tentative Schedule for Disaster Section, Taipei, 平成 19 年 6 月 23-24 日.
 17. 明石優美¹, 田中秀治², 青木大², 今川理映子², 小塚寛太², 島崎修次, 山口芳裕 (杏林大医学部属病院組織移植センター,² 日本スキンバンクネットワーク): 日本スキンバンクネットワークにおける同種皮膚移植の臨床効果. 第 6 回日本組織移植学会, 大阪, 平成 19 年 8 月 4 日 (土).
 18. 小塚寛太¹, 田中秀治¹, 青木大¹, 今川理映子¹, 明石優美², 島崎修次, 山口芳裕 (NPO 日本スキンバンクネットワーク (JSBN) 事務局,² 杏林大医学部附属病院組織移植センター): 全国の分担採皮システムの構築—6 年目となった採皮分担制度の現状分析—. 第 6 回日本組織移植学会, 大阪, 平成 19 年 8 月 4 日 (土).
 19. 宮内洋, 梅垣修, 井上孝隆, 海田賢彦, 山口芳裕: 循環作動薬としてのバゾプレッシンが著効した開心術後の 1 症例. 第 16 回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 横浜, 平成 19 年 8 月 25 日 (土).
 20. 塚原大介, 山崎香織, 夏目真紀, 今泉和子, 石部芳文, 谷井知鶴子, 梅垣修, 二ノ倉歩: 輸液ライン接続に焦点を当てた安全性の検証. 第 16 回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 横浜, 平成 19 年 8 月 25 日 (土).
 21. 島崎修次: 本邦における救急医療の崩壊と再生. 鹿児島救急医学会 30 周年記念学会, 鹿児島, 平成 19 年 9 月 1 日 (土).
 22. 玉田尚, 梅垣修, 窪田靖志¹, 飯島毅彦¹, 巖康秀¹ (杏林大・医・麻酔科): 急激な経過を辿ったセロトニン症候群の一例. (社) 日本麻酔科学会東京・関東甲信越支部第 47 回合同学術集会, 栃木, 平成 19 年 9 月 22 日 (土).
 23. 宮内洋, 島崎修次, 山口芳裕: 高度救命救急センター 3 次部門における小児救急医療の現状と問題点について. 第 35 回日本救急医学会総会・学術集会, 大坂, 平成 19 年 10 月 16 日 (火).
 24. 小泉健雄, 山口芳裕: 救急医と生命倫理—DNAR の調査を通じて—. 第 35 回日本救急医学会総会・学術集会, 大坂, 平成 19 年 10 月 16 日 (火).
 25. 樽井武彦, 松田剛明, 島崎修次, 山口芳裕: Sepsis 重症度評価の試み—重症度に応じた新しい sepsis 治療ガイドラインの作成に向けての具体的方策. 第 35 回日本救急医学会総会・学術集会, 大坂, 平成 19 年 10 月 17 日 (水).
 26. 井上孝隆, 宮内洋, 後藤英昭, 山口芳裕: Capnocytophaga Canimorsus による敗血症性ショックの一例. 第 35 回日本救急医学会総会・学術集会, 大坂, 平成 19 年 10 月 17 日 (水).
 27. 岡本博照¹, 大滝憲夫², 島崎修次, 寺澤秀一³, 井清司⁴, 山口芳裕, 角田透¹ (杏林大・医・衛生学公衆衛生学,² 石川県立中央病院・救命救急センター,³ 福井大・医・救急総合診療部,⁴ 熊本赤十字病院・救命救急センター): 救急医師の診療業務管理についての検討—診察患者数を労働負荷として評価する可能性について—. 第 35 回日本救急医学会総会・学術集会, 大坂, 平成 19 年 10 月 17 日 (水).
 28. Shimazaki S: Financial Support to Emergency Medical Service in JAPAN. Annual Meeting of the Korean Society of Emergency Medicine, Seoul, Nov. 16, 2007.
 29. 山口芳裕: 分析と臨床のグッド・コミュニケーション. 第 54 回日本臨床検査医学会学術集会第 47 回日本臨床化学会年次学術集会連合大会, 大坂, 平成 19 年 11 月 24 日 (土).
 30. 宮城博幸¹, 梶原正弘², 司茂幸秀¹, 江上照夫¹, 大西宏明³, 山口芳裕, 渡邊卓^{1,4} (杏林学病院臨床検査部,² 杏林大・医・法医学,³ 杏林大・医・臨床検査医学): LC/MS ライブラリーとライブラリー検索ソフトを活用した LC/MS による薬物スクリーニング法の検討 第 2 報. 第 54 回日本臨床検査医学会学術集会第 47 回日本臨床化学会年次学術集会連合大会, 大坂, 平成 19 年 11 月 24 日 (土).
 31. 山口芳裕: 院外の災害対策について. 第 13 回東海 MODS 研究会, 大垣, 平成 19 年 12 月

- 8日(土).
32. 山口芳裕：シンポジウム「私大に学ぶ」各施設の現状について．第29回 全国国立大学病院救急部協議会，岐阜，平成20年1月23日(水)．
 33. 山口芳裕：感染症対策．第16回全国救急隊委員シンポジウム，静岡，平成20年1月25日(金)．
 34. 島崎修次：AED普及・啓発シンポジウム，和歌山，平成20年1月26日(土)．
 35. 山田賢治，関谷繁樹¹ (¹赤心堂病院整形外科)：尺骨鉤状突起単独骨折による肘関節亜脱臼の1例．第20回日本肘関節学会学術集会，東京，平成20年2月2日(土)．
 36. 庄司高裕，山口芳裕，後藤英昭，小泉健雄，大畑徹也，井上孝隆：肛門周囲膿瘍を契機とし，臀部・腰背部に進展したガス壊疽の一例．第58回日本救急医学会関東地方会，埼玉，平成20年2月9日(土)．
 37. 松寄志穂里，小泉健雄，井上孝隆，松田岳人，樽井武彦，後藤英昭，島崎修次，山口芳裕：甲状腺クリーゼによる急性肺水腫に対する経皮的補助人工心肺(PCPS)の使用経験．第58回日本救急医学会関東地方会，埼玉，平成20年2月9日(土)．
 38. 三宅康史¹，有賀徹¹，井上健一郎¹，奥寺敬²，北原孝雄²，島崎修次²，鶴田良介²，前川剛志²，横田裕行² (¹昭和大・救急医学科，²日本救急医学会熱中症特別検討委員会)：室内における熱中症発生の実態－熱中症STUDY2006より－．第35回日本集中治療医学会学術集会，東京，平成20年2月14日(木)．
 39. 玉田 尚，山口芳裕，長濱誉佳¹ (¹国立国際医療センター救急部)：急激な経過を辿り救命し得なかったセロトニン症候群の一症例．第35回日本集中治療医学会学術集会，東京，平成20年2月15日(金)．
 40. 小倉裕司^{1,2}，丸藤哲²，池田寿昭²，石倉宏恭²，射場敏明²，上山昌史²，江口豊²，大友康裕²，岡本好司²，久志本成樹²，小関一英²，齋藤大蔵²，真弓俊彦²，遠藤重厚²，島崎修次² (¹大阪大学高度救命救急センター，²日本救急医学会DIC特別委員会)：SIRS-associated coagulopathy (SAC)．第35回日本集中治療医学会学術集会，東京，平成20年2月15日(金)．

II. 論文

1. Hagiwara A, Murata A, Matsuda T, Sakaki S, Shimazaki S: Thyroid Storm After Blunt Thyroid Injury: A Case Report. J TRAUMA 63 (3): E85-E87, 2007.
2. 岡本博照¹，角田透¹，照屋浩司^{1,2}，山口芳裕，島崎修次 (¹杏林大・医・衛生学公衆衛生学，²杏林大・保・公衆衛生学)：救急医療と救急医に対する医学生の意識調査：パイロット研究．日本臨床救急医学会雑誌 10 (4)：397-403, 2007.
3. 小泉健雄，後藤英昭，田中秀治¹，島崎修次，山口芳裕 (¹国士舘大学体育学部スポーツ医科学科)：熱傷初期治療におけるレシチン化SOD(PC-SOD)の効果－熱傷ラットによる検討－．熱傷 33 (5)：243-247, 2007.
4. 石川秀樹¹，織田成人²，村田厚夫^{3*}，島崎修次³，平澤博之²，相川直樹¹ (¹慶応義塾大学医学部救急医学，²千葉大学医学部救急集中治療医学，³杏林大学医学部救急医学，*現所属：福岡和白病院)：救急・集中治療領域における深在性真菌症の診断・治療ガイドラインの影響－患者背景について－．The Japanese Journal of Antibiotics 61 (1)：18-28, 2008.
5. 織田成人¹，石川秀樹²，村田厚夫^{3*}，島崎修次，平澤博之¹，相川直樹² (¹千葉大学医学部救急集中治療医学，²慶応義塾大学医学部救急医学，³杏林大学医学部救急医学，*現所属：福岡和白病院)：救急・集中治療領域における深在性真菌症の診断・治療ガイドラインの影響－ガイドライン準拠、非準拠と転帰への影響－．The Japanese Journal of Antibiotics 61 (1)：29-41, 2008.
6. Ogura H¹，Gando S²，Iba T³，Eguchi Y⁴，Ohtomo Y⁵，Okamoto K⁶，Koseki K⁷，Mayumi T⁸，Murata A，Ikeda T⁹，Ishikura H¹⁰，Ueyama M¹¹，Kushimoto S¹²，Saitoh D¹³，Endo S¹⁴，Shimazaki S; Japanese Association for Acute Medicine Disseminated

Intravascular Coagulation Study Group (¹Department of Traumatology and Acute Critical Medicine, Osaka University Medical School; ²Division Acute and Critical Care Medicine, Department of Anesthesiology and Critical Care Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine; ³Department of Surgery, Juntendo University Urayasu Hospital; ⁴Critical and Intensive Care Medicine, Shiga University of Medical Science; ⁵Department of Critical Care and Traumatology, National Disaster Medical Center; ⁶Department of Surgery, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health; ⁷Emergency and Critical Care Medicine, Kawaguchi Municipal Medical Center; ⁸Department of Emergency Medicine and Intensive Care, Nagoya University School of Medicine; ⁹Department of Critical Care and Emergency Medicine, Tokyo Medical University Hachioji Medical Center; ¹⁰Department of Emergency and Critical Care Medicine and Burn Center, Social Insurance Chukyo Hospital; ¹¹Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School; ¹²Department of Traumatology and Critical Care Medicine, National Defense Medical College; and ¹³Department of Critical care Medicine, School of Medicine, Iwate Medical University) : SIRS - Associated Coagulopathy and Organ Dysfunction in Critically Ill Patients with Thrombocytopenia. SHOCK 28(4):411-417, 2007.

7. Gando S¹, FCCM; Saitoh D¹, Ogura H¹, Mayumi T¹, Koseki K¹, Ikeda T¹, Ishikura H¹, Iba T¹, Ueyama M¹, Eguchi Y¹, Ohtomo Y¹, Okamoto K¹, Kushimoto S¹, Endo S¹, Shimazaki S¹ (¹Japanese Association for Acute Medicine Disseminated Intravascular Coagulation (JAAM DIC) Study Group) : Natural history of disseminated intravascular coagulation diagnosed based on the newly established diagnostic criteria for critically ill patients: Results of a multicenter, prospective survey. Critical Care Medicine 36(1):145-150, 2008.

III. 著書

1. 高見佳宏¹, 榊 聖樹², 宮内洋, 後藤英昭 (¹西部総合病院, ²西部総合病院外科) : [2] 救急外来搬入時の診察と処置. 熱傷治療マニュアル. 木所昭夫編著. 東京, 中外医学社, 2007. p. 72-76.
2. 小泉健雄, 島崎修次, 山口芳裕 : [6] 合併症対策②呼吸不全. 熱傷治療マニュアル. 木所昭夫編著. 東京, 中外医学社, 2007. p. 115-122.
3. 和田貴子 : [7] スキンバンク. 熱傷治療マニュアル. 木所昭夫編著. 東京, 中外医学社, 2007. p. 239-249.

皮膚科学教室

口 演

1. 塩原哲夫：ウイルスの再活性化と多臓器病変を伴う重症薬疹．第 104 回日本内科学会，シンポジウム 1. 薬物による健康障害の早期発見とその対策，大阪，平成 19 年 4 月 3 日．
2. Mizukawa Y, Kitagaki H¹, Shiohara T (¹Ako Research Institute, Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd.): Neuromedin U mediates innate-type immediate hypersensitivity responses and limits allergic inflammation. The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Yokohama, Apr. 18th, 2007.
3. Takahashi R¹, Shiohara T(¹Div. of Flow Cytometry): Dramatic expansion of Tregs with skin-homing potential followed by sequential reactivations of herpesviruses, The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Yokohama, Apr. 18th, 2007.
4. 川島 眞¹，古川福実²，塩原哲夫，他(¹東京女子医大・皮膚科²和歌山県立医大・皮膚科): ランチョンセミナー アトピー性皮膚炎(AD)の患者アンケート調査報告．第 106 回日本皮膚科学会総会，横浜，平成 19 年 4 月 20 日．
5. 浅野祐介，早川 順，狩野葉子，塩原哲夫：杏林大学皮膚科におけるヒトパルボウイルス B19 感染症の検討．第 106 回日本皮膚科学会総会，横浜，平成 19 年 4 月 20-22 日．
6. 塩原哲夫，狩野葉子：教育講演 DLST の結果をどう解釈するか．第 106 回日本皮膚科学会総会，横浜，平成 19 年 4 月 22 日．
7. 福原麻里：乾癬を合併した Vogt-小柳-原田病の 2 例．多摩専門皮膚科医会例会，武蔵野，平成 19 年 5 月 12 日．
8. 狩野葉子：ランチョンセミナー 見逃しやすい薬疹の臨床像と病態．第 23 回日本臨床皮膚科医会総会，広島，平成 19 年 5 月 20 日．
9. 福田知雄，浅野祐介，塩原哲夫：5-aminolevulinic acid 外用 photodynamic therapy 臨床像に応じた治療法の検討．第 25 回日本臨床皮膚外科学会・第 22 回日本皮膚外科学会合同学術大会，東京，平成 19 年 6 月 9 日．
10. 塩原哲夫：第 31 回専門医教育セミナー「薬物アレルギー」．第 19 日本アレルギー学会春季臨床大会，東京，平成 19 年 6 月 12 日．
11. 五味方樹，白石由佳，満山陽子，堀田隆之，平原和久，水川良子，塩原哲夫：マイコプラズマ肺炎の経過中に発症した toxic epidermal necrolysis(TEN)の 1 例．日本皮膚科学会第 812 回東京地方会（城西地区），東京，平成 19 年 6 月 16 日．
12. 青田典子，平原和久，堀田隆之，早川和人，塩原哲夫：眼窩先端部症候群を伴

- った眼部帯状疱疹の 1 例. 日本皮膚科学会第 812 回東京地方会 (城西地区), 東京, 平成 19 年 6 月 16 日.
13. 石田 正, 青田典子, 福田知雄: 鏡検陰性で診断に苦慮した *exophiala jeanselmei* によるクロモミコーシスの 1 例. 日本皮膚科学会第 812 回東京地方会 (城西地区), 東京, 平成 19 年 6 月 16 日.
 14. 浅野祐介, 狩野葉子: インフリキシマブ®投与後に発症した真性皮膚結核の 1 例. 第 813 回日本皮膚科学会合同臨床東京地方会, 東京, 平成 19 年 7 月 21 日.
 15. 早川 順, 塩原哲夫: 蕁麻疹患者における発汗障害の解析ーアトピー性皮膚炎患者との比較ー. 第 15 回日本発汗学会総会, 川越, 平成 19 年 8 月 24 日.
 16. 井上桐子, 青田典子, 平原和久, 狩野葉子, 塩原哲夫: 初診時 Stevens-Johnson syndrome (SJS) が疑われたヘルペス関連多形紅斑 (HAEM). 第 814 回日本皮膚科学会東京地方会 (城西地区), 東京, 平成 19 年 9 月 8 日.
 17. 白石由佳, 五味方樹, 満山陽子, 水川良子, 塩原哲夫: 蜂窩織炎に続発したアナフィラクトイド紫斑様皮疹. 第 814 回日本皮膚科学会東京地方会 (城西地区), 東京, 平成 19 年 9 月 8 日.
 18. 早川 順, 塩原哲夫: 蕁麻疹患者の発汗障害と臨床症状は、保湿剤外用により改善しうるか? 第 71 回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 札幌, 平成 19 年 9 月 22-23 日.
 19. 塩原哲夫: 薬疹における常識と非常識. 日本皮膚科学会東部支部学術大会, 札幌, 平成 19 年 9 月 23 日.
 20. 塩原哲夫: 非ステロイド外用剤とアトピー性皮膚炎. 第 32 回小児皮膚科学セミナー, 東京, 平成 19 年 10 月 13 日.
 21. 平原和久, 佐藤洋平, 何川宇啓, 早川和人, 塩原哲夫: ジクロフェナクナトリウム (ボルタレン®) により粘膜症状のみ出現した薬疹の 1 例. 第 58 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 京都, 平成 19 年 10 月 20 日.
 22. 石田 正, 平原和久, 早川和人, 塩原哲夫, 橋本 隆¹(¹久留米大・医・皮膚科): 当初 Stevens-Johnson 症候群を疑った Linear IgA/IgG bullous dermatosis の 1 例. 第 58 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 京都, 平成 19 年 10 月 20 日.
 23. 榎本久子^{1,2}, 早川和人, 塩原哲夫, 他(¹筑波大学大学院人間総合科学研究科皮膚病態医学, ²筑波大学大学院人間総合科学研究科遺伝医学): ミニシンポジウム アトピー性皮膚炎. 日本人アトピー性皮膚炎家系を用いた全ゲノム連鎖解析. 第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 横浜, 平成 19 年 11 月 1 日.
 24. 五味方樹: 尋常性乾癬の経過中に発症した落葉状天疱瘡の 1 例. 多摩皮膚科専門医会例会, 武蔵野, 平成 19 年 11 月 10 日.
 25. Aota N, Fukuhara M, Hirahara K, Kano Y, Shiohara T: Lupus erythematosus presenting with subacute necrotizing lymphadenitis (SNL) associated with

- Epstein-Barr virus(EBV) reactivation. The 8th Congress of the German-Japanese Society of Dermatology, Yokohama, Nov. 17th, 2007.
26. Inoue K, Kagawa H, Hirahara K, Kano Y, Shiohara T: A short course of valacyclovir therapy followed by systemic corticosteroids is associated with an increased risk for the development of herpes simplex virus-associated erythema multiforme. The 8th Congress of the German-Japanese Society of Dermatology. Yokohama, Nov. 17th, 2007.
 27. 早川 順, 平原和久, 早川和人, 狩野葉子, 塩原哲夫: 当科で経験した HIV 陽性患者に生じた帯状疱疹の臨床的検討. 第 36 回杏林医学会総会, 三鷹, 平成 19 年 11 月 17 日.
 28. 井手麻衣子, 平原和久, 早川和人, 塩原哲夫, 満山陽子: デング熱の 2 例. 第 815 回日本皮膚科学会東京地方会(城西地区), 東京, 平成 19 年 11 月 17 日.
 29. 堀江千穂, 浅野祐介, 水川良子, 塩原哲夫: 星状神経節ブロック後に生じた慢性苔癬状秕糠疹の 1 例. 第 815 回日本皮膚科学会東京地方会(城西地区), 東京, 平成 19 年 11 月 17 日.
 30. 浅野祐介, 福田知雄: 杏林大学皮膚科における光線力学療法. 第 7 回世田谷区医師会医学会, 東京, 平成 19 年 12 月 8 日.
 31. 塩原哲夫: シンポジウム I. 接触皮膚炎とアトピー性皮膚炎の接点. 第 37 回日本皮膚アレルギー・日本接触皮膚炎学会, 名古屋, 平成 19 年 12 月 14 日.
 32. 狩野葉子: シンポジウム 薬疹 2007. 薬疹の今後の方向. 日本接触皮膚炎・アレルギー学会, 名古屋, 平成 19 年 12 月 16 日.
 33. 満山陽子, 白石由佳, 平原和久, 塩原哲夫: 多彩な臨床像を呈するプフェキサマクによる接触皮膚炎の検討. 第 37 回日本皮膚アレルギー接触皮膚炎学会, 名古屋, 平成 19 年 12 月 16 日.
 34. 水川良子: 鑑別診断が難しい皮膚疾患 - これってアトピー?- : 第 3 回 TAP (Tokyo scientific forum for Atopic Dermatitis and Psoriasis), 東京, 平成 19 年 12 月 22 日.
 35. 何川宇啓, 狩野葉子, 塩原哲夫: 気管支粘膜病変を認めた成人水痘肺炎の 1 例. 第 817 回日本皮膚科学会東京地方会(城西地区), 東京, 平成 20 年 1 月 19 日.
 36. 五味方樹, 水川良子, 塩原哲夫: Psoriasis vulgaris の経過中に発症した pemphigus foliaceus の 1 例. 第 817 回日本皮膚科学会東京地方会(城西地区), 東京, 平成 20 年 1 月 19 日.
 37. 福原麻里, 早川和人, 塩原哲夫, 岡田アナベルあやめ¹ (¹ 杏林大・医・眼科): 尋常性乾癬と合併した Vogt-小柳-原田病の 2 例. 第 817 回日本皮膚科学会東京地方会(城西地区), 東京, 平成 20 年 1 月 19 日.
 38. 青田典子, 浅野祐介, 塩原哲夫: インフルエンザワクチン接種後に生じた線状扁平苔癬の 1 例. 第 817 回日本皮膚科学会東京地方会(城西地区), 東京, 平

成 20 年 1 月 19 日.

39. 塩原哲夫: DIHS の謎に迫る. 東海地区合同皮膚科医会, 名古屋, 平成 20 年 2 月 3 日.
40. 塩原哲夫: シンポジウム 21 世紀を迎えて皮膚科研究は何が起こっているか. 研究は臨床に役立っているか. 第 71 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 平成 20 年 2 月 10 日.
41. 福田知雄: 爪甲下グロムス腫瘍に対する「トレパン使用のくりぬき手術」—私の工夫—. 第 71 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 平成 20 年 2 月 10 日.
42. 浅野祐介, 堀江千穂, 青田典子, 水川良子, 塩原哲夫: 単純ヘルペスウイルスは尋常性天疱瘡の粘膜疹形成に関与するか? 第 71 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 平成 20 年 2 月 10 日.
43. 平原和久, 井手麻衣子, 塩原哲夫: 当科に入院した麻疹患者の解析—麻疹が流行した 2007 年の症例—. 第 71 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 平成 20 年 2 月 10 日.
44. 井上桐子, 井手麻衣子, 石田 正, 早川和人, 塩原哲夫: 当院におけるブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群の経験例のまとめ. 第 71 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 平成 20 年 2 月 10 日.
45. 福原麻理: parallel ridge pattern を呈した足底の色素性母斑. 多摩専門皮膚科専門医会例会, 武蔵野, 平成 20 年 2 月 16 日.

論 文

1. 福田知雄: 杏林大学皮膚科における美容外科的治療の考え方. *Skin Surgery* 16(1): 2-5, 2007.
2. Shiohara T, Mizukawa Y: Fixed drug eruption: a disease mediated by self-inflicted responses of intraepidermal T cells. *Eur J Dermatol* 17(3): 201-208, 2007.
3. 武林亮子, 浅野祐介, 狩野葉子, 塩原哲夫: つけまつ毛用接着剤によるアナフィラキシー. *皮膚病診療* 29(4): 397-400, 2007.
4. Kano Y, Sakuma K, Shiohara T: Sclerodermoid graft-versus-host disease-like lesions occurring after drug-induced hypersensitivity syndrome. *Br J Dermatol* 156(5): 1061-1063, 2007.
5. Shiohara T, Iijima M¹, Ikezawa Z², Hashimoto K³ (¹ Depart. of Dermatol. Showa Univ. ,² Depart. of Dermatol. Yokohama City Univ. , ³Depart. of Dermatol. Ehime Univ.): The diagnosis of a DRESS syndrome has been sufficiently established on the basis of typical clinical features and viral reactivations. *Br J Dermatol* 156(5): 1083-1084, 2007.

6. 狩野葉子：最近話題の皮膚疾患 AGEP(acute generalized exanthematous pustulosis). 臨皮 61(5増): 8-11, 2007.
7. 狩野葉子：皮膚科セミナリウム 皮膚のウイルス感染症. ウイルス性発疹症. 日皮会誌 117(5): 777-782, 2007.
8. 塩原哲夫：DRESS (drug rash with eosinophilia and systemic symptoms) 症候群. Medical Practice 24(6): 1108-1110, 2007.
9. 塩原哲夫：薬剤性過敏症症候群. MEDICO 38(6): 202-206, 2007.
10. 塩原哲夫：羅針盤 知らないことは“恥”である. Visual Dermatology 6(6): 569, 2007.
11. 平原和久, 塩原哲夫：知らないとはずかしい皮膚疾患 口囲皮膚炎. Visual Dermatology 6(6): 583-584, 2007.
12. 狩野葉子：知らないとはずかしい皮膚疾患 プラントン皮膚炎. Visual Dermatology 6(6): 599-600, 2007.
13. 塩原哲夫：知らないとはずかしい皮膚疾患 光沢苔癬. Visual Dermatology 6(6): 601-602, 2007.
14. 水川良子：知らないとはずかしい皮膚疾患 アカツキ病. Visual Dermatology 6(6): 627-628, 2007.
15. 早川 順：知らないとはずかしい皮膚疾患 Symmetrical lividities of the soles of the feet. Visual Dermatology 6(6): 629-630, 2007.
16. 福田知雄, 塩原哲夫：知らないとはずかしい皮膚疾患 爪下外骨腫. Visual Dermatology 6(6): 631-632, 2007.
17. 塩原哲夫：専門医のためのアレルギー学講座 薬物過敏症のアレルギー機序とその検査. アレルギー 56(7): 649-654, 2007.
18. Hasannejad H, Takahashi R¹, Kimishima M, Hayakawa K, Shiohara T(¹Div. of Flow Cytometry): Selective impairment of Toll-like receptor 2-mediated proinflammatory cytokine production by monocytes from patients with atopic dermatitis. J Allergy Clin Immunol 120(1): 69-75, 2007.
19. Kano Y, Mitsuyama Y, Hirahara K, Shiohara T: Mycoplasma pneumoniae infection-induced erythema nodosum, anaphylactoid purpura, and acute urticaria in 3 people in a single family. J Am Acad Dermatol 57: S33-35, 2007.
20. Tezuka H¹, Abe Y¹, Iwata M², Takeuchi H², Ishikawa H³, Matsushita M⁴, Shiohara T, Akira S⁵, Ohteki T¹ (¹Depart. of Immunol., Akita Univ. Graduate School of Med. ²Faculty of Pharmaceut. Sciences, Tokushima Bunri Univ. ³Depart. of Microbiol. and Immunol., Keio Univ. School of Med. ⁴Mitsubishi Kagaku Institute of Life Sciences ⁵Depart. of Host Defense, Research Institute for Microbial Diseases, Osaka Univ.):

- Regulation of IgA production by naturally occurring TNF/iNOS-producing dendritic cells. *Nature* 448(7156):929-933, 2007.
21. Enomoto H^{1,2}, Noguchi E¹, Iijima S³, Takahashi T², Hayakawa K, Ito M⁴, Kano T⁵, Aoki T⁶, Suzuki Y⁷, Koga M¹, Tamari M⁸, Shiohara T, Otsuka F², Arinami T¹ (¹Depart. of Med. Genetics, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, Univ. of Tsukuba ²Depart. of Dermatol, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, Univ. of Tsukuba. ³Mito Saiseikai General Hosp. ⁴Mito Red Cross Hosp. ⁵Ibaraki Prefectural Central Hosp. ⁶Depart. of Pediatr., Tsukuba Med. Center Hosp. ⁷Depart. of Public Health, Chiba Univ. Graduate School of Med. ⁸Laboratory of Genetics of Allergic Disease, RIKEN SNP Research Center): Single nucleotide polymorphism-based genoma-wide linkage analysis in Japanese atopic dermatitis families. *BMC Dermatol* 7:5, 2007.
 22. 塩原哲夫: 薬疹とウイルス感染症 薬疹とウイルス感染症の病態. 診断と治療 95(9): 1477-1485, 2007.
 23. 塩原哲夫: 薬疹とウイルス感染症 薬剤性過敏症症候群(DIHS). 診断と治療 95(9): 1486-1492, 2007.
 24. 塩原哲夫: 薬物による健康障害の早期発見とその対策. ウイルスの再活性化と多臓器病変を伴う重症薬疹. 日本内科学会雑誌 96(9): 1883-1887, 2007.
 25. 青田典子, 福原麻里, 平原和久, 塩原哲夫, 福岡利仁¹ (¹杏林大・医・腎膠原病内科): 亜急性壊死性リンパ節炎を契機に発症した SLE の 1 例. 臨皮 61(10): 799-802, 2007.
 26. Shiohara T, Kano Y: A complex interaction between drug allergy and viral infection. *Clin Rev Allergy Immunol* 33(1-2): 124-133, 2007.
 27. 福原麻里, 早川和人, 塩原哲夫, 藤野 節¹ (¹杏林大・医・病理): 悪性黒色腫を思わせた乳癌皮膚転移の 1 例. 臨皮 61(11): 921-924, 2007.
 28. 狩野葉子: 医薬品副作用学—薬剤の安全使用アップデート—. じんま疹. 日本臨床 65 (8 増): 344-348, 2007.
 29. 塩原哲夫: 最新外用薬治療戦略—私はこうしている—. 非ステロイド系抗炎症外用薬をどう使うか. *Monthly Book Derma*. No.132: 90-95, 2007.
 30. 狩野葉子, 武林亮子: 重症皮膚疾患のフラッグサイン. 壊疽性膿皮症. *Visual Dermatology* 6(11): 1148-1149, 2007.
 31. 満山陽子, 堀田隆之, 福田知雄, 早川和人, 塩原哲夫, 橋本 隆¹ (¹久留米大・医・皮膚科): 喉頭狭窄をきたした抗ラミニン 5 型瘢痕性類天疱瘡の 1 例. 臨皮 61(12): 975-978, 2007.
 32. 塩原哲夫: 感染症とアレルギーをめぐって. 衛生仮説を検証する. *Topics in Atopy* 6(4): 26-30, 2007.

33. 塩原哲夫, 狩野葉子: 薬剤過敏症の疫学 性差を中心に. アレルギー・免疫 15(1): 48-55, 2007.
34. 塩原哲夫: 羅針盤 マフラーとスカーフとネクタイと. Visual Dermatology 6(12): 1237, 2007.
35. 平原和久, 塩原哲夫: 同じ病気でもこんなに違う! [感染症編]. マイコプラズマ感染症. Visual Dermatology 6(12): 1240-1248, 2007.
36. 早川和人: 同じ病気でもこんなに違う! [感染症編]. 溶連菌感染症. Visual Dermatology 6(12): 1250-1256, 2007.
37. 浅野祐介, 塩原哲夫: 同じ病気でもこんなに違う! [感染症編]. ヒトパルボウイルス B19 感染症. Visual Dermatology 6(12): 1258-1264, 2007.
38. 福田知雄, 塩原哲夫: 同じ病気でもこんなに違う! [感染症編]. 帯状疱疹. Visual Dermatology 6(12): 1286-1291, 2007.
39. 早川 順, 塩原哲夫: 同じ病気でもこんなに違う! [感染症編]. HIV 感染症. Visual Dermatology 6(12): 1292-1298, 2007.
40. 塩原哲夫: 同じ病気でもこんなに違う!: 総論 - 感染症編 -. Visual Dermatology 6(12): 1316-1320, 2007.
41. Kano Y, Hirahara K, Mitsuyama Y, Takahashi R, Shiohara T: Utility of the lymphocyte transformation test in the diagnosis of drug sensitivity: dependence on its timing and the type of drug eruption. Allergy 62(12): 1439-1444, 2007.
42. 狩野葉子: 専門医のためのアレルギー学講座. 分子標的薬剤による臓器障害の病態と治療. アレルギー 56(12): 1485-1491, 2007.
43. 狩野葉子: 薬物による健康障害. 薬疹を疑う臨床症状・検査成績. 治療 89(12): 3259-3263, 2007.
44. 塩原哲夫: 薬物による健康障害. 薬剤性過敏症症候群とウイルス感染. 治療 89(12): 3264-3270, 2007.
45. 石田 正, 水川良子, 塩原哲夫, 塩川滋達¹, 岩下光利¹ (¹杏林大・医・産婦人科): 卵巣癌の姑息的手術後に改善がみられた皮膚筋炎. 臨皮 61(13): 1039-1042, 2007.
46. 五味方樹, 満山陽子, 堀田隆之, 福田知雄, 塩原哲夫: MRI 所見が合致しなかった G 群溶連菌による壊死性筋膜炎の 1 例. 臨皮 61(13): 1051-1053, 2007.
47. 浅野祐介, 狩野葉子, 塩原哲夫: TNF - α 阻害薬による真性皮膚結核の 1 例. 臨皮 61(13): 1057-1060, 2007.
48. 塩原哲夫: 薬疹の病態と検査の考え方 DLST の結果をどう解析するか. 日皮会誌 117(13): 2261-2262, 2007.
49. Nanno M¹, Kanari Y², Naito T^{3,4}, Inoue N⁵, Hisamatsu T⁵, Chinen H⁵, Sugimoto K^{6,7}, Shimomura Y^{6,7}, Yamagishi H², Shiohara T, Ueha S⁸,

- Matsushima K⁸, Suematsu M⁴, Mizoguchi A^{6,7}, Hibi T⁵, Bhan AK^{6,7}, Ishikawa H³ (¹Yakult Central Institute for Microbiol. Research ²Depart. of Biophysics, Graduate School of Science, Kyoto Univ. ³Depart. of Microbiol. and Immunol., Keio Univ. School of Med. ⁴Depart. of Biochem. and Integrative Med. Biology, Keio Univ. School of Med. ⁵Depart. of Intern. Med., Keio Univ. School of Med. ⁶Center for the Study of Inflammatory Bowel Disease, Massachusetts General Hosp. ⁷Depart. of Pathol., Massachusetts General Hosp. ⁸Depart. of Molecular Preventive Med., Graduate School of Med., Univ. of Tokyo): Exacerbating role of gammadelta T cells in chronic colitis of T-cell receptor alpha mutant mice. *Gastroenterology* 134(2):481-490, 2008.
50. 塩原哲夫: 21 世紀を迎えて皮膚科研究は何が起っているか? 研究は臨床に役立っているのか?. *Visual Dermatology* 7(2)205-207, 2008.
 51. 五味方樹, 白石由佳, 満山陽子, 平原和久, 堀田隆之, 水川良子, 塩原哲夫: マイコプラズマ肺炎の経過中に発症した toxic epidermal necrolysis の 1 例. *臨皮* 62(2): 120-123, 2008.
 52. 塩原哲夫: DLST を用いて原因検索を行った薬剤アレルギー. *Visual Dermatology* 7(3): 287-289, 2008.
 53. Mizukawa Y, Takahashi R, Yamazaki Y, Kimishima M, Shiohara T: Fucosyltransferase VII-positive, skin-homing T cells in the blood and skin lesions of atopic dermatitis patients. *Exp Dermatol* 17(3): 170-176, 2008.
 54. 狩野葉子: 薬剤がもたらす皮膚病変 (1) 薬疹を理解するために. *医薬ジャーナル* 44(3): 5-6, 2008.
 55. 稲岡峰幸, 狩野葉子: 薬剤がもたらす皮膚病変 (2) 点滴刺入部に生じる皮膚病変. *医薬ジャーナル* 44(3): 7-10, 2008.
 56. 狩野葉子: 薬疹, 特に薬剤性過敏症症候群の原因薬剤について. *日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌* 2(1): 9-13, 2008.
 57. 青田典子, 平原和久, 早川和人, 塩原哲夫, 工藤かんな¹ (¹杏林大・医・眼科): 眼窩先端部症候群を伴った眼部帯状疱疹の 1 例. *臨皮* 62(3): 220-223, 2008.
 58. 堀田隆之, 満山陽子, 浅野祐介, 早川和人, 狩野葉子, 塩原哲夫: 東京都多摩地区で発生した恙虫病の 2 例. *臨皮* 62(3): 224-227, 2008.
 59. Asano Y, Kano Y, Shiohara T: Atypical cutaneous tuberculosis in a patient with rheumatoid arthritis treated with infliximab. *Acta Derma Venereol* 88(2):183-184, 2008.
 60. 塩原哲夫: 内科医に役立つ皮膚科の知識「薬疹の検査法」. *内科* 101(4):761-

764, 2008.

61. 塩原哲夫: DIHS 薬剤性過敏症症候群. 感染・炎症・免疫 38(1): 80-82, 2008.

著書

1. Shiohara T, Takahashi R, Kano Y: Drug-induced hypersensitivity syndrome and viral reactivation. In: Drug Hypersensitivity. Pichler WJ (Ed.). Basel, Karger, 2007. p. 251-266.
2. Shiohara T, Kano Y: Lichen planus and lichenoid dermatoses. In: Dermatology 2nd edn. Bologna JL, Jorizzo JL, Rapini RP (Eds.). London, Mosby, 2008. p.159-180.
3. 塩原哲夫: DLST(drug-induced lymphocyte stimulation test)はどこまで信頼できる? WHAT' S NEW in 皮膚科学 2008-2009. 宮地良樹編. 東京, メディカルレビュー社, 2007. p.166-167.
4. 狩野葉子: ウイルス性疣贅(いぼ), 伝染性軟属腫. 今日の治療指針. 山口徹, 北原光夫, 福井次矢編. 東京, 医学書院, 2008. p.893-894.
5. 塩原哲夫: 薬疹. 今日の診療のために ガイドライン外来診療 2008. 東京, 日経メディカル開発, 2008. p.279-286.

その他

1. 早川和人: 成人アトピー性皮膚炎の治療方針. 北多摩耳鼻咽喉科医会, 東京, 平成19年4月11日.
2. 塩原哲夫: Aaron B. Lerner 先生を悼む. 日皮会誌 117(5): 755-757, 2007.
3. 狩野葉子: 見逃しやすい薬疹の臨床と病態. 第23回日本臨床皮膚科医会総会, 広島, 平成19年5月20日.
4. 福田知雄: 白癬～水虫のいろいろ～. 長野市医師会学術講演会, 長野, 平成19年5月25日.
5. 早川 順: 麻疹について. 院内感染防止講演会, 三鷹, 平成19年5月30日.
6. 福田知雄: 爪白癬－爪白癬は治るようになったのか?－. 第2回武蔵野 Derma Forum, 吉祥寺, 平成19年6月1日.
7. 塩原哲夫: 薬疹とウイルス感染. 金沢小児皮膚免疫アレルギー研究会, 金沢, 平成19年6月20日.
8. 狩野葉子: 紫斑になる疾患. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 平成19年6月26日.
9. 塩原哲夫: 薬疹を見逃さないために. 昭和医学会臨時例会, 東京, 平成19年6月27日.
10. 塩原哲夫, 斎藤博久, 竹田 潔: 座談会 自然免疫とアレルギー. 皮膚アレルギーの旅 6(3): 1-6, 2007.

11. 塩原哲夫：薬疹とヒトヘルペスウイルス感染症．ラジオ NIKKEI，平成 19 年 7 月 21 日．
12. 塩原哲夫：皮膚の乾燥がもたらすもの．所沢小児医会，所沢，平成 19 年 7 月 24 日．
13. 狩野葉子：ウイルス性発疹症における皮膚科の話題．昭和大学藤が丘皮膚科医会，横浜，平成 19 年 10 月 13 日．
14. 塩原哲夫：乾燥性皮膚疾患に対する知識．文京区薬剤師会，東京，平成 19 年 10 月 17 日．
15. 塩原哲夫：NSAIDs 外用剤の落とし穴．第 8 回蒲田皮膚科医会，東京，平成 19 年 10 月 27 日．
16. 狩野葉子：日常診療で見逃しやすい薬疹．第 4 回 文京区アレルギー研究会，東京，平成 19 年 11 月 12 日．
17. 狩野葉子：日常診療で見逃しやすい薬疹．小金井市三師会学術講演会，小金井，平成 19 年 11 月 14 日．
18. 塩原哲夫：Book Review 「こどものあざによくみる 50 症状 どう診て・どう対応するか」．Visual Dermatology 6(11): 1192, 2007.
19. 福田知雄：糖尿病患者の足病変と細菌感染．第 13 回糖尿病フットケア研究会，東京，平成 19 年 12 月 1 日．
20. 塩原哲夫：アトピー性皮膚炎はどのようにして増えたのか？ 釧路アトピーフォーラム市民公開講座，釧路，平成 19 年 12 月 5 日．
21. 塩原哲夫：感染症とアレルギーをめぐって「衛生仮説を検証する」．Topics in Atopy 6(4):26-30, 2007.
22. 福田知雄：下肢救済・フットケア 皮膚科．第 1 回多摩地区下肢救済・フットケアミーティング，三鷹，平成 20 年 1 月 10 日．
23. 狩野葉子：保湿剤をどのように使いこなすか - 応用編．第 2 回多摩東地区スキンケアセミナー，調布，平成 20 年 1 月 12 日．
24. 白石由佳：紅皮症に疥癬が合併した難治例 - ストロメクトール内服後、CPK 上昇を認めた紅皮症の 1 例- ．第 2 回多摩東地区スキンケアセミナー，調布，平成 20 年 1 月 12 日．
25. 早川和人：症例呈示 薬疹かと思ったら，実は皮膚筋炎だった！．皮膚アレルギーの旅 7(1): 8-9, 2008 年 1 月．
26. 塩原哲夫：DIHS の謎に迫る．第 5 回 TDA 講演会，東京，平成 20 年 1 月 31 日．
27. 塩原哲夫：DIHS の謎に迫る．第 13 回香川・岡山小児感染免疫懇話会，岡山，平成 20 年 2 月 3 日．
28. 塩原哲夫：内科医に必要な皮膚疾患の見分け方．薬疹とウイルス性皮疹の見分け方．杉並内科医会，東京，平成 20 年 2 月 8 日．
29. 塩原哲夫：ウイルス感染と薬疹．第 25 回大田区小児喘息勉強会，東京，平成

20年2月19日.

30. 塩原哲夫：薬物アレルギー，特にアレルギー性薬疹の臨床最前線．DLST 実施のタイミングは？ Q&A でわかるアレルギー疾患 4(1)：11-13，2008.
31. 狩野葉子：薬物アレルギー，特にアレルギー性薬疹の臨床最前線．グリペック® とイレッサ® の薬疹の特徴は？ Q&A でわかるアレルギー疾患 4(1)：28-30，2008.
32. 塩原哲夫，堀川達弥，池澤善郎：薬物アレルギー，特にアレルギー性薬疹の臨床最前線．座談会 薬物アレルギーにおける皮膚テストと DLST. Q&A でわかるアレルギー疾患 4(1)：41-64，2008.
33. 塩原哲夫：重症薬疹を見逃さないために．自衛隊中央病院講演会，東京，平成20年3月14日.
34. 塩原哲夫：薬疹における常識と非常識．ラジオ NIKKEI，平成20年3月27日.
35. 狩野葉子：Clinical Exercise 緑膿菌性毛包炎．臨皮 62(3)：179-180，2008.

形成外科学教室

I. 口演

1. 岡崎 睦，多久嶋亮彦，朝戸裕貴 1，朝蔭孝宏 2，平野浩一，海老原敏，波利井清紀（1 獨協医科大学・形成外科，2 東京大学・耳鼻咽喉科）：頭頸部癌切除後の、有茎皮弁による再建の適応の検討．第 50 回日本形成外科学会総会・学術集会，東京，平成 19 年 4 月 11-13 日.
2. 尾崎峰，多久嶋亮彦，百澤明，波利井清紀：Suture suspension による顔面神経麻痺再建術の検討．第 50 回日本形成外科学会総会・学術集会，東京，平成 19 年 4 月 12 日.
3. 木下幹雄，白石知大，波利井清紀，朴修三 1，上野紫穂 1（1 静岡県立こども病院・形成外科）：Cantrell 症候群に対する胸腹壁再建、臍形成術の経験．第 50 回日本形成外科学会総会・学術集会，東京，平成 19 年 4 月 12-14 日.
4. 栗田昌和，尾崎 峰，当山拓也，白石知大，岡田見布江，波利井清紀：臍形成における pudendal thigh flap の経験．第 50 回日本形成外科学会総会・学術集会，東京，平成 19 年 4 月 11-13 日.
5. 白石知大，多久嶋亮彦，尾崎 峰，宮本慎平，栗田昌和，波利井清紀：重度のリンパ浮腫に対する象皮病根治術（Charles の手術）の経験と工夫．第 50 回日本形成外科学会総会・学術集会，東京，平成 19 年 4 月 11-13 日.
6. Ozaki M, Satoh S, Kurita M, Takushima A, Harii K: Gradual reduction of condylar fractures with internal bone distraction device: A short follow-up and some considerations. 3rd Asia Pacific Congress on Craniofacial Surgery and Distraction Osteogenesis, Maldives, May 3, 2007.
7. 大浦紀彦：局所治療－感染のコントローラー．日本褥瘡学会関東甲信越地方会第 2 回教育セミナー，大宮，平成 19 年 5 月 18 日.
8. 多久嶋亮彦，岡崎睦，大浦紀彦，百澤明，朝戸裕貴，波利井清紀：顔面神経不全麻痺に対する mini latissimus dorsi muscle transfer．第 30 回日本顔面神経研究会，名古屋，平成 19 年 6 月 1 日.

9. 大浦紀彦, 岡崎 睦, 後藤英昭, 小泉健雄, 樽井武彦, 多久嶋亮彦, 西田 光, 波利井清紀: ヨウ素添加 カデキソマー; カデックス軟膏®の 2 次損傷創に対する有効性. 第 33 回日本熱傷学会総会, 金沢, 平成 19 年 6 月 7 日.
10. 大浦紀彦, 山田信幸, 与座 聡, 波利井清紀: カンボジアにおける化学熱傷; Acid Burn の現状 - 医療ボランティア活動による経験から -. 第 33 回日本熱傷学会総会, 金沢, 平成 19 年 6 月 7 日.
11. 岡崎 睦, 去川俊二 1, 大河内真之 2, 菅 浩隆 3, 宮本慎平, 多久嶋亮彦, 平野浩一, 朝戸裕貴 4, 海老原敏, 波利井清紀 (1 自治医科大学・形成外科, 2 福島県立医科大学・形成外科, 3 東京大学・形成外科, 4 獨協医科大学・形成外科): 術後拘縮の予防と機能温存に配慮した口腔・咽頭再建について. 第 31 回日本頭頸部癌学会, 横浜, 平成 19 年 6 月 14-15 日.
12. 佐藤 英, 岡崎 睦, 平野浩一, 宮本慎平, 海老原敏, 波利井清紀: 舌癌切除術後の再建に用いた腹直筋皮弁に皮弁発癌を認めた 1 症例. 第 31 回日本頭頸部癌学会, 横浜, 平成 19 年 6 月 15 日.
13. 尾崎 峰, 栗田昌和, 加地展之, 波利井清紀: 硬化療法及び色素レーザー照射療法により軽快した胸腹部表在性静脈瘤・静脈拡張症の 1 例. 第 27 回日本静脈学会総会, 京都, 平成 19 年 6 月 19 日.
14. 栗田昌和, 平野浩一, 海老原敏, 宮本慎平, 波利井清紀: リンパ節転移病巣の自然退縮を来した舌根部扁平上皮癌の 1 例. 第 31 回頭頸部癌学会, 横浜, 平成 19 年 6 月 13-15 日.
15. 栗田昌和, 尾崎 峰, 加地展之, 成島三長, 波利井清紀: 四肢の筋肉内静脈奇形に対する硬化療法の経験. 第 27 回静脈学会総会, 京都, 平成 19 年 6 月 18-20 日.
16. Takushima A, Okazaki M, Ohura N, Momosawa A, Harii K: One-stage latissimus dorsi transfer for facial animation. The 14th International Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery. Berlin, Germany, June, 26-30, 2007.
17. Takushima A, Okazaki M, Ohura N, Momosawa A, Harii K: Cosmetic surgical approach in the treatment of incompletely-paralyzed face. The 14th International Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery. Berlin, Germany, June, 26-30, 2007.
18. Okazaki M, Takushima A, Asato H1, Harii K (1Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Dokkyo University School of Medicine): Versatility of end-to-side arterial anastomosis in free flap transfers for the head and neck reconstruction. The 14th International Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery. Berlin, Germany, June, 26-30, 2007.
19. Kinoshita M, Park S1, Shiraishi T, Ueno S1, Harii K (1Shizuoka prefectural child Hospital): Thoracoabdominal reconstruction with umbilicoplasty in Cantrell' s syndrome. The 14th International Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery. Berlin, Germany, June, 26-30, 2007.
20. Kurita M, Yoshimura K 1, Matsumoto D 1, Harii K (1 Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Graduate School of Medicine, Tokyo University): Effects of centrifugation on aspirated fat tissues - An implication for enhancement of survivability of free injective autologous fat transfer-. The 14th International Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic

- Surgery. Berlin, Germany, June, 26-30, 2007.
21. Kurita M, Ichioka S1, Umekawa K2, Suzuki Y3, Oshima Y3, Harii K (1 Plastic and Reconstructive Surgery, Saitama Medical School University, 2Plastic Surgery, Horinouti Hospital, 3Plastic Surgery, Tomei-Atsugi Hospital) : An assessment tool To evaluate the risk of surgery in patients With pressure sores: Utilit y of an orthopedic POSSUM scoring system . The 14th International Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery. Berlin, Germany, June, 26-30, 2007.
 22. Shiraishi T, Park S, Harii K : Congenital hypertrophy of intrinsic muscles of the foot. The 14th International Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery. Berlin, Germany, June, 26-30, 2007.
 23. 辻 直子, 岡崎 睦, 大浦紀彦, 三鍋俊春, 波利井清紀, 井本 滋 1, 伊東大樹 1, 伊美健太郎 1 (1 杏林大学・医・乳腺外科) : 大学病院におけるシリコンインプラントを用いた乳房再建 –倫理委員会通過報告–. 第 15 回日本乳癌学会学術集会, 横浜, 平成 19 年 6 月 29・30 日.
 24. 栗田昌和, 岡崎睦, 岡田見布江, 多久嶋亮彦, 波利井清紀 : Pudendal thigh flap による直腸腫瘍の治療経験. 第 250 回日本形成外科学会関東支部東京地方会, 東京, 平成 19 年 7 月 7 日.
 25. 波利井清紀 : 大学病院における美容外科 –あり方と将来像–. 大阪大学美容医療学寄附講座設立講演会, 大阪, 平成 19 年 7 月 21 日.
 26. 大浦紀彦 : High risk 患者のフットマネージメント ; 創傷管理 TOPIC 教育講演, 東京, 平成 19 年 7 月 24 日.
 27. 木下幹雄, 大浦紀彦 : 褥瘡・難治性潰瘍へのアプローチ外用剤と被覆材の選択. 杏林大学病院院内セミナー, 東京, 平成 19 年 8 月 10 日.
 28. 波利井清紀 : 陳旧性顔面神経麻痺の治療戦略–Total Facial Reanimation について–. 徳島大学講演会, 徳島, 平成 19 年 8 月 12 日.
 29. Ohura N, Shiokawa I, Takushima A, Ichioka S, Shibata M , Harii K : Development of in vivo model with total skin flap chamber for visualizing vascular network remodeling. 8th World Congress for Microcirculation Milwaukee, US, 平成 19 年 8 月 15-17 日.
 30. 大浦紀彦, 波利井清紀 : ジェルシートの臨床効果と便宜性. 第 2 回瘢痕・ケロイド治療研究会イブニングセミナー, 東京, 平成 19 年 8 月 26 日.
 31. 木下幹雄, 尾崎峰, 平野浩一, 波利井清紀 : 潰瘍形成部より大量出血を来した軟口蓋多形性腺腫の一例. 第 251 回日本形成外科学会関東支部東京地方会, 東京, 平成 19 年 9 月 1 日.
 32. 佐藤英, 多久嶋亮彦, 塩川一郎, 川人龍夫, 波利井清紀 : 先天性示指伸筋腱欠損に対して腱移行術を行った 1 症例. 第 251 回 日本形成外科学会関東支部東京地方会, 東京, 平成 19 年 9 月 1 日.
 33. 大浦紀彦, 丹波光子, 栗田昌和, 木下幹雄, 平山千登勢, 松下恭子, 北原敦子, 多久嶋亮彦, 波利井清紀 : 半固化栄養剤 ; メディエフプッシュケア®の褥瘡予防・治療における有用性. 第 9 回日本褥瘡学会, 前橋, 平成 19 年 9 月 6 日.
 34. Tanba M, Ohura, N : Efficacy of topical negative pressure therapy for para-ilostomal ulceration in patients with behcet ' s disease. 11th Congress of Asian Federation of Coloproctology, 東京, 平成 19 年 9 月 21 日.
 35. 波利井清紀, 谷野隆三郎 1, 大森喜太郎 2, 保阪善昭 3, 中川秀己 4, 宇津木龍一 5, 川島眞 6 (1 東海大学東京病院形成外科, 2 クリニカ市ヶ谷, 3 昭和

- 大学・形成外科， 4 東京慈恵会医科大学・皮膚科， 5 クリニークウツギ， 6 東京女子医科大学・皮膚科）：日本人の眉間表情皺に Botox® (AGN191622) を単回投与した際の有効性および安全性の評価（治験報告）．第 30 回日本美容外科学会，札幌，平成 19 年 10 月 6 日．
36. 多久嶋亮彦，百澤 明，波利井清紀，朝戸裕貴：顔面神経不全麻痺に対する美容外科的アプローチ．第 30 回日本美容外科学会総会，札幌，平成 19 年 10 月 6 日．
 37. 岡崎 睦，波利井清紀：皮膚における色素沈着病態のメカニズム．パネルディスカッション，第 16 回日本形成外科学会基礎学術集会，神戸，平成 19 年 10 月 11-12 日．
 38. 大浦紀彦，柴田政廣，塩川一郎，岡崎 睦，多久嶋亮彦，波利井清紀：微小循環可視化モデルによる褥瘡発生のメカニズムの検討．第 16 回日本形成外科学会基礎学術集会，神戸，平成 19 年 10 月 11 日．
 39. 飯田匠子，上田和毅 1，多久嶋亮彦，波利井清紀（1 福島県立医科大・形成外科）：血管分岐部付近での血栓形成に関する血行動態の分析．第 16 回日本形成外科基礎学術集会，神戸，平成 19 年 10 月 11-12 日．
 40. 栗田昌和，尾崎 峰，加地展之，波利井清紀：当院における増殖期いちご状血管腫レーザー治療．第 4 回血管腫・血管奇形研究会プログラム・抄録集会，兵庫，平成 19 年 10 月 13 日．
 41. 多久嶋亮彦，波利井清紀：当科における微小血管吻合術．第 34 回日本マイクロサージャリー学会学術集会，福島，平成 19 年 10 月 18 日．
 42. 岡崎 睦，大河内真之 1，菅 浩隆 2，宮本慎平，去川俊二 3，多久嶋亮彦，平野浩一，朝戸裕貴 4，波利井清紀（1 福島県立医科大学・形成外科，2 東京大学・形成外科，3 自治医科大学・形成外科，4 獨協医科大学・形成外科）：遊離皮弁を用いた頭頸部再建における動脈吻合様式のバリエーション．第 34 回日本マイクロサージャリー学会学術集会，福島，平成 19 年 10 月 18-19 日．
 43. 飯田匠子，上田和毅 1，多久嶋亮彦，波利井清紀（1 福島県立医科大・形成外科）：血管分岐部付近での血行動態の分析．第 34 回日本マイクロサージャリー学会学術集会，福島，平成 19 年 10 月 18-19 日．
 44. 栗田昌和，岡崎 睦，尾崎 峰，宮本慎平，多久嶋亮彦，波利井清紀： 頬部遊離皮弁移植術の移植床血管の選択．第 34 回日本マイクロサージャリー学会学術集会，福島，平成 19 年 10 月 18-19 日．
 45. 栗田昌和，岡崎 睦，木下幹雄，白石知大，多久嶋亮彦，朝戸裕貴，波利井清紀： 手術用顕微鏡光源が遊離皮弁移植術に与える影響．第 34 回日本マイクロサージャリー学会学術集会，福島，平成 19 年 10 月 18-19 日．
 46. 白石知大，岡崎 睦，多久嶋亮彦，朝戸裕貴，中塚貴志，波利井清紀：遊離複合組織移植による下顎骨欠損に対する二次性硬性再建症例の検討．第 34 回マイクロサージャリー学会学術集会，福島，平成 19 年 10 月 18-19 日．
 47. 大浦紀彦，岡崎 睦，佐藤 英，栗田昌和，白石知大，大森見布江，樋口眞一，中山玲玲，松永恵里奈，尹 琇暎，大坪里織，塩田紀子，多久嶋亮彦，波利井清紀：重症下肢虚血に対する HBO の経験．（パネルディスカッション） 第 42 回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 ，横浜，平成 19 年 11 月 2 日．
 48. 岡崎 睦，佐々木京子 1，白石知大，上田和毅 2，波利井清紀（1 堀の内病院・形成外科，2 福島県立医科大学・形成外科，）：Expanded subcutaneous-pedicled forehead flap を用いた前額再建．第 25 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，東京，平成 19 年 11 月 8-9 日．
 49. 尾崎 峰，栗田昌和，佐藤 英，白石知大，岡田見布江，多久嶋亮彦，波利井清紀：「頬骨骨折治療の標準化」 睫毛下切開を回避するための頬骨骨折の術中診断法．第 25 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，東京，平成 19 年 11 月 8 日

50. 木下幹雄, 多久嶋亮彦, 岡崎睦, 波利井清紀: 顔面神経麻痺に対して頬部に既に用いられている側頭筋を眼瞼に移行しなおして兔眼の治療を行った 2 例の経験. 第 25 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 東京, 平成 19 年 11 月 8-9 日.
51. 栗田昌和, 樋口慎一, 尾崎峰, 大浦紀彦, 波利井清紀: 多発顔面骨骨折、頭蓋底骨折による汎下垂体機能低下症の治療経験—診断に苦慮した 1 例. 第 25 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 東京, 平成 19 年 11 月 8-9 日.
52. 白石知大, 多久嶋亮彦, 百澤 明, 岡崎 睦, 波利井清紀: 顔面神経不全麻痺に伴う表情筋切除術とその評価. 第 25 回頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 東京, 平成 19 年 11 月 8-9 日.
53. 多久嶋亮彦: 形成外科領域における内視鏡の利用. 第 36 回杏林医学会総会, 東京, 平成 19 年 11 月 17 日.
54. 大浦紀彦: 下腿潰瘍の診断・治療について. 平成 19 年度日本 E T/WOC 協会 東京ブロック勉強会 教育講演, 東京, 平成 19 年 11 月 17 日.
55. 大浦紀彦, 波利井清紀: 微小循環から見た褥瘡発生機序. 第 2 回東京創傷マネージメント研究会セミナー (コンバテック), 東京, 平成 19 年 12 月 1 日.
56. 松永恵里奈, 岡崎 睦, 辻 直子, 大浦紀彦, 波利井清紀, 伊美健太郎 1, 伊東大樹 1, 井本滋 1 (1 杏林大学・乳腺外科): シリコン注入による豊胸術後に乳がんを発症した 1 例. 日本形成外科学会第 252 回東京地方会, 東京, 平成 19 年 12 月 1 日.
57. 大浦紀彦, 岡崎 睦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 創傷治癒に乾燥は必要か. 第 37 回日本創傷治癒学会, 横浜, 平成 19 年 12 月 6 日.
58. 波利井清紀: 陳旧性顔面神経麻痺の手術治療. 東京都耳鼻医会, 東京, 平成 19 年 12 月 8 日.
59. 栗田昌和, 尾崎 峰, 加地展之, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 杏林大学形成外科における血管腫の治療. 第 7 回世田谷区医師会医学会, 東京, 平成 19 年 12 月 8 日.
60. 大浦紀彦: 手術室での褥瘡の予防、最新の褥瘡治療. チーム医療支援セミナー (ムトウ), 東京, 平成 19 年 12 月 15 日.
61. Takushima A: Total facial reanimation for established facial paralysis. Italian Society of Cranial Base, Milan., Jan. 26, 2008.
62. 大浦紀彦: 創傷ケアの最新の動向～下肢潰瘍ケアにおける皮膚・排泄ケア認定看護師の役割～. 皮膚・排泄ケア認定看護師のためのフォローアップ研修 日本看護協会, 平成 20 年 1 月 11 日.
63. Takushima A: Total facial reanimation for established facial paralysis. Scuola di Specializzazione in Chirurgia Maxillo-Facciale, Sapienza Università di Roma, Roma, Jan. 31, 2008.
64. Okazaki M, Ueda K1, Sasaki K2, Shiraishi T, Kurita M, Harii K. (1Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Fukushima Medical University, 2 Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Horinouchi Hospital): Expanded subcutaneous-pedicled island forehead flap for forehead reconstruction. The 9th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery, Okinawa, Feb. 21-23, 2008.
65. Tsuji N, Okazaki M, Oura N, Matsunaga E, Nakayama R, Harii K:: Breast reconstruction after mastectomy; multidisciplinary approach to breast cancer at the Kyorin University, The 9th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery, Okinawa, Feb. 21, 2008.
66. Kinoshita M, Park S1, Shiraishi T, Ueno S1, Harii K(1Shizuoka prefectural child Hospital): Thoracoabdominal reconstruction with umbilicoplasty in Cantrell's

- syndrome. The 9th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery, Okinawa, Feb. 21-23, 2008.
67. Kurita M, Okazaki M, Ozaki M, Miyamoto S, Takushima A, Harii K : Thermal effect of microsurgical illumination on free flap transfer: Experimental study and clinical implications. The 9th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery, Okinawa, Feb. 21-23, 2008.
 68. Shiraishi T, Takushima A, Okazaki M, Harii K : Selective neurectomy and myectomy in the treatment of postparetic facial synkines; Quntitative assessment of facial expression with optical flow method. The 9th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery, Okinawa, Feb. 21-23, 2008.
 69. 樋口慎一, 栗田昌和, 白石知大, 木下幹雄, 大森見布江, 尾崎 峰, 波利井清紀, 宮本慎平, 塩川一郎, 当山拓也 : 当科における切断指症例の経験. 東京大学医学部形成外科学教室 19 回同門学術集会, 東京, 平成 20 年 2 月 2 日.
 70. 大浦紀彦, 木下幹雄, 岡崎 睦, 栗田昌和, 塩田紀子, 多久嶋亮彦, 丹波光子, 波利井清紀 : 重症下肢虚血に対する HBO の効果についての検討. 第 6 回日本フットケア学会, 東京, 平成 20 年 2 月 9 日.
 71. Takushima A, Okazaki M, Ohura N, Momosawa A, Harii K: Cosmetic surgical approach in the treatment of incompletely-paralyzed face. Cosmetic surgical approach in the treatment of incompletely-paralyzed face. The 19th International Society of Aesthetic Plastic Surgery. Melbourne, Australia, Feb.10, 2008.
 72. 大浦紀彦 : 最新の褥瘡治療. 『褥瘡ケアセミナー in さいたま』(モルテン), 浦和, 平成 20 年 2 月 11 日.
 73. 波利井清紀 : 自動車外傷の治療ー形成外科の立場よりー. 平成 19 年度第 2 回学術講演・自賠責保険研修会, 東京, 平成 20 年 2 月 21 日.
 74. 大浦紀彦, 塩川一郎, 市岡 滋, 塩田紀子, 岡崎 睦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀, 柴田政廣 : Development of in vivo model with total skin flap chamber for visualizing vascular network remodeling. 第 33 回日本微小循環学会総会, 東京, 平成 20 年 2 月 21 日.
 75. 大浦紀彦 : 最新の褥瘡治療. 第 4 回松戸褥瘡ケアフォーラム (ケーブ), 松戸, 平成 20 年 3 月 14 日.
 76. 大浦紀彦 : 経管栄養の工夫 「あの手この手の褥瘡ケア」. 第 5 回日本褥瘡学会 関東甲信越地方会東京支部フォーラム, 東京, 平成 20 年 3 月 29 日.

II 論文

1. 波利井清紀 : 上顎・頭蓋底癌切除後の再建法の標準化に向けてー厚生労働科学研究費がん臨床研究事業報告よりー. 形成外科 50(8) : 847-857, 2007.
2. 波利井清紀 : 陳旧性顔面神経麻痺の手術治療. 都耳鼻会報 125(3) : 70-74, 2008.
3. 朝戸裕貴 1, 鈴木康俊 1, 菅 浩隆 2, 岡崎 睦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀 (1 獨協医科大学・形成外科, 2 東京大学・形成外科) : 上顎癌切除後の二次変形の治療-再建材の選択ー. 形成外科 50(8) : 877-885, 2007.
4. 多久嶋亮彦, 波利井清紀 : 血管柄付き遊離腓骨移植による下顎再建. 形成外科 50(1) : 71-80, 2007.
5. 多久嶋亮彦, 波利井清紀 : 再建部位による材料の選択と移植のコツ 下顎骨 PEPARS 15 : 47-54, 2007.
6. 多久嶋亮彦, 波利井清紀 : 顔面神経麻痺に対する標準的治療法. 形成外科 50 (増刊

- 号) : S93-S100, 2007.
7. Takushima A, Harii K, Okazaki M, Ohura N, Momosawa A, Asato H: Reconstruction of maxillectomy defects with free flaps-comparison of immediate and delayed reconstruction: a retrospective analysis of 51 cases. *Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg* 41:14-21, 2007.
 8. 岡崎 睦, 波利井清紀, 辻 直子, 大浦紀彦: 特集/乳癌の治療戦略—エビデンスとガイドラインの使い方. 乳房再建術. *臨床外科* 62(7): 903-909, 2007.
 9. 岡崎 睦, 朝戸裕貴 1, 去川俊二 2, 大河内真之 3, 菅 浩隆 4, 多久嶋亮彦, 朝蔭孝宏 5, 中尾一成 5, 二藤隆春 5, 木村美和子 5, 平野浩一, 海老原敏, 波利井清紀 (1 獨協医科大学・形成外科, 2 自治医科大学・形成外科, 3 福島県立医科大学・形成外科, 4 東京大学・形成外科, 5 東京大学・耳鼻咽喉科): 遊離空腸パッチ移植を用いた再建: 90 度回転した方向での移植法. *頭頸部癌* 33(3):394-399, 2007.
 10. 岡崎 睦, 辻 直子: 乳房インプラント法による乳癌切除後の乳房再建. *医学のあゆみ* 224: 638-640, 2008.
 11. Okazaki M, Asato H, Takushima A, Sarukawa S, Nakatsuka T, Yamada A, Harii K: Analysis of salvage treatments following failure of the free flap transfer due to vascular thrombosis in reconstruction for head and neck cancer. *Plast Reconstr Surg* 119: 1223-1232, 2007.
 12. Okazaki M, Asato H, Okochi M, Suga H: One-segment double vascular pedicled free jejunum transfer for the reconstruction of pharyngoesophageal defects. *J Reconstr Microsurgery* 23: 213-218, 2007.
 13. Okazaki M, Asato H, Takushima A, Sarukawa S, Okochi M, Harii K: Reconstruction with rectus abdominis myocutaneous flap for total glossectomy with laryngectomy. *J Reconstr Microsurgery* 23: 243-249, 2007.
 14. 時岡一幸, 長谷川宏美, 向田雅司, 大浦紀彦, 高戸 毅, 中塚貴志: 赤唇三角弁を用いた片側唇裂初回手術—Noordhoff 法の経験. *日本形成外科学会会誌* 27: 424-431, 2007.
 15. 大浦紀彦, 増田 学, 丹波光子, 竹内弘久, 松田剛明, 米田隆志, 石田 均, 齋藤英昭, 山本紳一郎, 波利井清紀: 経鼻胃管からの半固形化栄養剤 メディエフプッシュケア投与についての検討. *静脈経腸栄養* 22: 345-352, 2007.
 16. 大浦紀彦, 栗田昌和, 丹波光子, 当山拓也, 宮本慎平, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 接触型の仙骨部褥瘡に対する粉状皮膚保護剤の有用性. *日本褥瘡学会誌* 9 : 221-227, 2007.
 17. 大浦紀彦: 【創傷管理の新知見】 Wound bed preparation とは. *形成外科* 50 : 533-541, 2007.
 18. 大浦紀彦, 山田信幸, 与座 聡: カンボジアにおける acid burn の治療経験. *熱傷* 34 : 64-69, 2008.
 19. 丹波光子, 大浦紀彦: 褥瘡ケアの変化 褥瘡と栄養の関係 栄養剤半固形化の有用性. *Expert Nurse* 24 64-66, 2008.
 20. 大浦紀彦: 分類・管理方法のトピックス 褥瘡のステージ分類が 4 つではなくなるの? 「DTI」って何? *Expert Nurse* 24 40-43, 2008.
 21. Ichioka S, Okabe K, Ohura N, Yokogawa H, Nakajima M, Nakatsuka T. Versatility of the Limberg flap and the V-Y flap (based on a distal perforator) for covering sacral ulcers. *Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg* 41: 65-69, 2007.
 22. Tanaka R, Ichioka S, Sekiya N, Ohura N, Uchino S, Ojima A, Itoh Y,

- Ishihara O, Nakatsuka T, Ikebuchi K: Elastic plasma protein film blended with platelet releasate accelerates healing of diabetic mouse skin wounds. *Vox Sang* 93 : 49-56, 2007.
23. Ohura T, Ohura N, Oka H: Incidence and clinical symptoms of hourglass and sandwich-shaped tissue necrosis in Stage 4 pressure ulcers. *Wounds* 19:310-319, 2007.
 24. Ohura N, Okazaki M, Tanba M, Kinoshita M, Takushima A, Harii K.: Topical negative pressure therapy for para-ileostomal ulceration in a patient with Behçet's disease. *J Wound Care* 17 86-89. 2008.
 25. Ohura T, Takahashi M, Ohura N : Influence of external forces (pressure and shear force) on superficial layer and subcutis of porcine skin and effects of dressing materials: Are dressing materials beneficial for reducing pressure and shear force in tissues? *Wound Repair Regen* 16:102-107, 2008.
 26. 尾崎 峰, 百澤 明, 波利井清紀 : 3 D-CT を根拠とした多発顔面骨骨折の診断 . 形成外科 50(11) : 1239-1246, 2007.
 27. 尾崎 峰, 波利井清紀 : 読み落としやすい顔面骨骨折の画像診断. *PEPARS* 18 : 1-9, 2007.
 28. 木下幹雄, 尾崎峰, 平野浩一, 波利井清紀 : 潰瘍形成部より大量出血を来たした軟口蓋多形性腺腫の一例 形成外科 51:211-215, 2008.
 29. 佐藤 英, 小林よう, 栗田昌和, 百澤明, 多久嶋亮彦, 波利井清紀 : 表面局所麻酔剤ハリケーンゲルの使用によって生じたと考えられるメトヘモグロビン血症の1例. 形成外科 50(10) : 1201~1205, 2007.
 30. 栗田昌和, 波利井清紀, 松山 裕, 出月康夫 : 形成外科領域における特殊縫合糸の使用実態調査. *日本形成外科学会会誌* (0389-4703)27 : 5 353-356, 2007 .
 31. Kurita M, Hirano K, Ebihara S, Takushima A, Harii K, Fujino T, Fujioka Y : Spontaneous regression of cervical lymph node metastasis in a case of meso-pharyngeal squamous cell carcinoma of the tongue: Possible association of apoptosis and tumor regression. *Int J Clin Oncolol*; 12:458-454, 2007.
 32. Kurita M, Takushima A, Momosawa A, Okazaki M, Ozaki M, Miyamoto S, Shiraishi T, Harii K : Impairment of the brachial plexus after harvest of the latissimus dorsi muscle for reanimation of a paralysed face. *Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg* 41::236-242, 2007.
 33. 栗田昌和, 百澤 明, 尾崎 峰, 大浦紀彦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀 : 頬骨骨折治療における術中超音波エコーの使用経験. 形成外科 51(2) : 195-201, 2008 .
 34. Kurita M, Matsumoto D, Shigeura T, Sato K, Gonda K, Harii K, Yoshimura K : Influences of centrifugation on cells and tissues in liposuction aspirates: optimized centrifugation for lipotransfer and cell isolation., *Plast Reconstr Surg* 121(3) : 1033-41, 2008.
 35. Kurita M, Okazaki M, Ozaki M, Miyamoto S, Takushima A, Harii K : Thermal effect of illumination on microsurgical transfer of free flaps: Experimental study and clinical implications. *Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg* 42(2) : 58-66, 2008.
 36. Yoshimura K, Sato K, Aoi N, Kurita M, Hirohi T, Harii K: Cell-assisted lipotransfer for cosmetic breast augmentation: supportive use of adipose-derived stem/stromal cells. *Aesthetic Plast Surg*. 32(1):48-55, 2008.

37. Miyamoto S, Takushima A, Asato H, Yamada A and Harii K.: Secondary reconstruction of the eye socket in a free flap transferred after complete excision of the orbit. Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 41(2):59-64, 2007.
38. Miyamoto S, Takushima A, Momosawa A, Iida T, Ozaki M, Harii K: Camouflaging a cleft lip scar with single-hair transplantation using a Choi hair transplanter. Plast Reconstr Surg 120(2):517-520, 2007.
39. Minabe T, Harii K: Dorsal intercostal artery perforator flap: anatomical study and clinical applications. Plast Reconstr Surg 120(3):681-689, 2007 Sep.
40. Momosawa A, Kurita M, Ozaki M, Miyamoto S, Kobayashi Y, Ban I, Harii K: Combined therapy using Q-switched ruby laser and bleaching treatment with tretinoin and hydroquinone for periorbital skin hyperpigmentation in asians. Plast Reconstr Surg 121(1):282-288, 2008.
41. Miyamoto S, Minabe T, Harii K: Effect of recipient arterial blood inflow on free flap survival area. Plast Reconstr Surg 121(2):505-513, 2008.

III. 著書

1. 波利井清紀: Text 形成外科学第 2 版 2 刷 (波利井清紀監修), 東京, 南山堂, 2007.
2. 多久嶋亮彦, 波利井清紀: Hemifacial microsomia (3) 軟部組織の再建. 形成外科アドバンスシリーズ 1-5 頭蓋顎顔面外科最近の進歩 第 2 版 (波利井清紀監修), 東京, 克誠堂出版, pp166-174, 2008.

IV. その他

1. 研究成果 多久嶋亮彦: 17-5 がん外科治療における形成再建手技の確立に関する研究. 平成 19 年度厚生労働省がん研究助成金木股班, 補助 (厚生労働省) がん研究助成金, 分担研究者, 形成外科学, 12,000 千円
2. 研究成果 多久嶋亮彦: 生存率と QOL の向上をめざした癌切除後の形成再建手技の標準化. 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 中塚班、厚生労働省科学研究費補助金, 分担研究者, 形成外科学, 20,000 千円
3. 研究成果 多久嶋亮彦: 顔面神経麻痺治療のための新デバイス開発. 平成 19 年度科学研究費基盤研究 (B)、文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金・公的研究費, 代表, 形成外科学, 6,000 千円
4. 奨励賞 Okazaki M, Suzuki Y, Yoshimura K, Harii K.: Construction of pigmented skin equivalent and its application for the study of congenital disorder of skin pigmentation. 日本形成外科学会基礎研究部門学術奨励賞, 平成 19 年 4 月 12 日.
5. 研究成果 岡崎 睦: 下咽頭癌・喉頭癌に対する、喉頭機能温存再建術の臨床研究. 財団法人がん研究振興財団 がん助成金受賞
6. 学会ポスター、論文 Ohura N, Shiokawa I, Takushima A, Ichioka S, Shibata M, Harii K: Development of in vivo model with total skin flap chamber for visualizing vascular network remodeling. 8th World Congress for Microcirculation (Jilian H. Lombard) Milwaukee, Wisconsin, USA, Aug.15-19, 2007.
7. 学会主催 大浦紀彦: 第 1 回多摩地区 podiatry meeting 杏林大学・大学院講堂, 三鷹, 平成 20 年 1 月 10 日.

8. 学会主催 大浦紀彦：第1回日本褥瘡学会在宅セミナー東京支部，杏林大学・大学院講堂，三鷹，平成20年1月19日。
9. 研究成果 栗田昌和：吸引脂肪に対する遠心分離操作の影響についての研究．平成18-19年度科学研究費補助金（若手B）
10. 研究成果 飯田匠子：血管分岐部付近での血栓形成に関する血行動態の分析．平成19年度科学研究費補助金（若手B）

泌尿器科学教室

I. 口演

1. 奴田原紀久雄，宍戸俊英，桶川隆嗣，東原英二：多発性嚢胞腎患者における経時的腎機能の推移について．第95回日本泌尿器科学会総会，神戸，平成19年4月14日。
2. 奴田原紀久雄，東原英二：ビデオシンポジウム3 尿管鏡及び周辺機器の進歩．第95回日本泌尿器科学会総会，神戸，平成19年4月15日。
3. 原秀彦，桶川隆嗣，奴田原紀久雄，東原英二：腎癌に対する腫瘍内インターフェロン α 遺伝子導入と同種造血幹細胞移植複合療法の抗腫瘍効果の検討．第95回日本泌尿器科学会総会，神戸，平成19年4月15日。
4. 宍戸俊英，榎本香織，藤田直之，林建二郎，村田憲彦，板谷直，多武保光宏，渡辺和吉，野田治久，藤森雅博，桶川隆嗣，奴田原紀久雄，東原英二：当院における経尿道的前立腺核出術(HoLEP)の臨床的検討．第95回日本泌尿器科学会総会，神戸，平成19年4月15日。
5. 林建二郎，榎本香織，藤田直之，板谷直，野村昌史，多武保光宏，渡辺和吉，野田治久，藤森雅博，宍戸俊英，桶川隆嗣，奴田原紀久雄，東原英二：膀胱移行上皮癌に対する根治的膀胱全摘術後の遠隔・局所再発に関するリスク因子の検討．第95回日本泌尿器科学会総会，神戸，平成19年4月16日。
6. 加藤司顯，小田金哲広，永島淳一¹（¹多摩北部医療センター・放射線科）：多摩北部医療センターでのI-125シードを用いた前立腺癌密封小線源永久挿入療法の経験．第95回日本泌尿器科学会総会，神戸，平成19年4月16日。
7. 桶川隆嗣，奴田原紀久雄，東原英二：Cell Track Prep システムを用いた末梢血循環前立腺癌細胞の同定と有用性．第95回日本泌尿器科学会総会，神戸，平成19年4月17日。
8. 野田治久，多武保光宏，板谷直，野村昌史，林建二郎，渡辺和吉，藤森雅博，宍戸俊英，桶川隆嗣，奴田原紀久雄，東原英二：杏林大学におけるTULの治療成績．第95回日本泌尿器科学会総会，神戸，平成19年4月17日。
9. 多武保光宏，藤田直之，榎本香織，鈴木敦，板谷直，野村昌史，林建二郎，野田治久，渡辺和吉，宍戸俊英，桶川隆嗣，奴田原紀久雄，東原英二：血清HER2/neuによるstage D前立腺癌の再燃予測．第95回日本泌尿器科学会総会，神戸，平成19年4月17日。

10. 奴田原紀久雄, 桶川隆嗣, 東原英二: 常染色体優性多発性嚢胞腎患者の腎機能の推移と影響因子. 第50回日本腎臓学会学術総会, 浜松, 平成19年5月25日.
11. 奴田原紀久雄: 1. PNL 2. 新しい尿管鏡の話題. 第9回浜松泌尿器科手術手技研究会, 浜松, 平成19年6月8日. (特別講演)
12. 村田憲彦, 多武保光宏, 野田治久, 藤森雅博, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 小腸憩室膀胱瘻の1例. 第589回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成19年6月21日.
13. 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: Cell Track Prep システムを用いた末梢血循環前立腺癌細胞の同定と有用性. 第16回日本がん転移学会, 富山, 平成19年7月9日.
14. 林建二郎, 榎本香織, 村田憲彦, 板谷直, 野田治久, 藤森雅博, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: サング状結石に合併した腎盂扁平上皮癌の2例. 第590回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成19年7月12日.
15. 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 内分泌不応性前立腺癌におけるCellSearch Systemの臨床応用. 第72回日本泌尿器科学会東部総会, 札幌, 平成19年8月29日.
16. 榎本香織, 村田憲彦, 板谷直, 林建二郎, 多武保光宏, 野田治久, 藤森雅博, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当科における精巣腫瘍の臨床的検討. 第72回日本泌尿器科学会東部総会, 札幌, 平成19年8月30日.
17. 藤森雅博, 榎本香織, 村田憲彦, 板谷直, 林建二郎, 多武保光宏, 野田治久, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 杏林大学泌尿器科における手術を施行した急性陰嚢症111例の検討. 第72回日本泌尿器科学会東部総会, 札幌, 平成19年8月30日.
18. 林建二郎, 榎本香織, 村田憲彦, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 野田治久, 藤森雅博, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 膀胱尿路上皮癌における予後因子としてのlymph node densityの有用性についての検討. 第72回日本泌尿器科学会東部総会, 札幌, 平成19年8月30日.
19. 多武保光宏: シンポジウム: 尿路結石の予防と治療ー尿路結石の治療TULー. 第72回日本泌尿器科学会東部総会, 札幌, 平成19年8月31日.
20. 奴田原紀久雄, 榎本香織, 村田憲彦, 林建二郎, 板谷直, 多武保光宏, 野田治久, 藤森雅博, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二: 腎盂尿管ビデオスコープXURF-Vの使用経験. 第72回日本泌尿器科学会東部総会, 札幌, 平成19年8月31日.
21. 宍戸俊英, 榎本香織, 林建二郎, 村田憲彦, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 藤森雅博, 野田治久, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二, 設楽敏也¹ (¹淵野辺総合病院・泌尿器): ホルミウムレーザー前立腺核出術(HoLEP)の合併症と機器取扱の注意点. 第72回日本泌尿器科学会東部総会, 札幌, 平成19年8月31日.
22. 奴田原紀久雄, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二: 多発性嚢胞腎患者における腎容積の変化について. 第15回嚢胞性腎疾患研究会, 東京, 平成19年9月1日.
23. 奴田原紀久雄: 一般外来における膀胱症状のみかた. 三鷹市医師会学術講演会,

東京，平成19年9月13日。（講演）

24. 桶川隆嗣：増えつつける前立腺癌－最新の治療と診断－．前立腺癌勉強会，東京，平成19年9月14日．
25. 桶川隆嗣，奴田原紀久雄，東原英二：進行性前立腺癌におけるCellSearch Systemの臨床応用．第45回日本癌治療学会，京都，平成19年9月20日．
26. 原秀彦，榎本香織，林建二郎，村田憲彦，板谷直，多武保光宏，藤森雅博，野田治久，宍戸俊英，桶川隆嗣，奴田原紀久雄，東原英二：副腎腫瘍と鑑別困難であった横隔膜下に発生した肺分画症の1例．第591回日本泌尿器科学会東京地方会，東京，平成19年9月20日．
27. 原秀彦，榎本香織，林建二郎，村田憲彦，板谷直，多武保光宏，藤森雅博，野田治久，宍戸俊英，桶川隆嗣，奴田原紀久雄，東原英二：副腎腫瘍と鑑別困難であった横隔膜下に発生した肺分画症の1例．第91回多摩泌尿器科医会，立川，平成19年9月28日．
28. Hara H, Kobayashi A¹, Kondoh A¹, Yoshida K¹, Yoshida T² & Aoki K¹ (¹Section for Studies on Host-Immune Response and ²Genetics Division, National Cancer Center Research Institute) : Interferon- α gene transfer enhances antitumor activity of allogeneic HSCT against solid cancers. 第66回日本癌学会学術総会，横浜，平成19年10月3日．
29. 奴田原紀久雄，東原英二：腎臓病学研究の進歩 多発性嚢胞腎の最新の薬物療法．第37回日本腎臓学会東部学術大会，大宮，平成19年10月5日．（教育講演）
30. 桶川隆嗣：増えてきた前立腺癌がん．杏林大学公開講座 八王子いちよう塾，八王子，平成19年10月13日．
31. 桶川隆嗣：高齢者の泌尿器疾患 プライマリケアでの治療ポイント．多摩臨床検討会，東京，平成19年10月19日．
32. Nutahara K, Shishido T, Okegawa T & Higashihara E: Experience with a prototype of flexible uretero-renovideoscope. 25 th World Congress of Endourology & SWL. Cancun, Mex. Nov. 1, 2007.
33. 奴田原紀久雄：尿路結石 治療の最前線 - 内視鏡を用いた結石治療- ．第57回日本泌尿器科学会中部総会，奈良，平成19年11月8日．（ランチョンセミナー講演）
34. 桶川隆嗣：前立腺骨転移患者に対するゾレドロン酸投与によるNTXの推移．泌尿器科癌骨病変の治療フォーラム，東京，平成19年11月14日．
35. 榎本香織，村田憲彦，板谷直，林建二郎，多武保光宏，野田治久，藤森雅博，宍戸俊英，桶川隆嗣，奴田原紀久雄，東原英二：当科における精巣腫瘍の臨床的検討．第36回杏林医学会総会，三鷹，平成19年11月17日．
36. 桶川隆嗣（ワークショップ）：杏林大学における腹腔鏡下手術コスト削減の検討．第20回日本内視鏡外科学会，仙台，平成19年11月20日．
37. 奴田原紀久雄，榎本香織，村田憲彦，小田金哲広，林建二郎，板谷直，多武保光宏，野田治久，宍戸俊英，藤森雅博，桶川隆嗣，東原英二：オリンパス社製

- 軟性腎盂尿管鏡ビデオスコープXURF-Vの使用経験. 第21回Endourology・ESWL学会, 東京, 平成19年11月27日.
38. 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 鏡視下腎摘除術(経腹膜的到達法、後腹膜的到達法)および開腹腎摘除術の臨床的検討. 第21回日本Endourology・ESWL学会, 東京, 平成19年11月27日.
 39. 宍戸俊英, 榎本香織, 林建二郎, 村田憲彦, 板谷直, 多武保光宏, 原秀彦, 野田治久, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: ホルミウムレーザー前立腺核出術(HoLEP)の合併症予防策とモーセレーション時の注意点. 第21回Endourology・ESWL学会, 東京, 平成19年11月27日.
 40. 小田金哲広, 多武保光宏, 野田治久, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当科における限局性前立腺癌に対する高密度焦点式超音波治療(HIFU)の検討. 第21回Endourology・ESWL学会, 東京, 平成19年11月27日.
 41. 宍戸俊英, 榎本香織, 林建二郎, 村田憲彦, 板谷直, 多武保光宏, 藤森雅博, 野田治久, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: HoLEPの合併症回避と入院期間短縮の工夫. 第3回内視鏡的前立腺治療研究会, 東京, 平成19年11月28日.
 42. 多武保光宏, 榎本香織, 原秀彦, 藤森雅博, 野田治久, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 当科における軟性尿管鏡によるTULの治療成績. 第21回Endourology・ESWL学会, 東京, 平成19年11月28日.
 43. 村田憲彦, 榎本香織, 小田金哲広, 板谷直, 林建二郎, 多武保光宏, 野田治久, 藤森雅博, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二, 寺戸雄一¹(¹杏林大・医・病理): 腎盂内反腫瘍の一例. 第92回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 平成19年11月30日.
 44. 奴田原紀久雄: 尿路結石 治療の最前線. 第4回群馬泌尿器セミナー, 前橋, 平成19年12月6日.(特別講演)
 45. 村田憲彦, 榎本香織, 小田金哲広, 林建二郎, 板谷直, 多武保光宏, 野田治久, 藤森雅博, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 腎盂に発生した内反性尿路腫瘍の1例. 第592回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成19年12月6日.
 46. 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 再燃前立腺癌に対する抗アンドロゲン剤交替療法の有効性. 第23回前立腺シンポジウム『再燃前立腺がんの治療』, 東京, 平成19年12月9日.
 47. 板谷直, 榎本香織, 村田憲彦, 小田金哲広, 林建二郎, 多武保光宏, 野田治久, 藤森雅博, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: 縦隔および頸部リンパ節転移を発症した腎癌の長期生存の1例. 第593回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 平成20年1月24日.
 48. 桶川隆嗣: 増えてきた前立腺癌がん. 三鷹ネットワーク大学, 東京, 平成20年1月25日.
 49. 原秀彦, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二, 青木一教¹(¹国立がんセンター研究所・がん宿主免疫): 固形がんに対する腫瘍内インターフェロン α 遺伝子導

入と、同種造血幹細胞移植複合療法の抗腫瘍効果についての検討．第17回泌尿器科分子・細胞研究会，東京，平成20年2月16日．

50. 桶川隆嗣：当院での前立腺骨転移に対するゾレドロン酸使用成績の現状報告．第2回多摩前立腺癌骨転移研究会，東京，平成20年2月22日．
51. 桶川隆嗣，奴田原紀久雄，東原英二：進行性前立腺癌におけるCellSearch Systemを用いた末梢血循環前立腺癌細胞の有用性．第6回日本臨床腫瘍学会，福岡，平成20年3月21日．
52. 板谷直，榎本香織，小田金哲広，村田憲彦，林建二郎，多武保光宏，野田治久，藤森雅博，宍戸俊英，桶川隆嗣，奴田原紀久雄，東原英二：縦隔及び頸部リンパ節転移を認めた腎癌長期生存の1例．第94回多摩泌尿器科医会，武蔵野，平成20年3月28日．
53. 林建二郎，榎本香織，小田金哲広，村田憲彦，板谷直，多武保光宏，野田治久，藤森雅博，宍戸俊英，桶川隆嗣，奴田原紀久雄，東原英二：膀胱尿路上皮癌における予後因子としてのL y m p h n o d e d e n s i t yの有用性について．第94回多摩泌尿器科医会，武蔵野，平成20年3月28日

II. 論文

1. Tambo M, Okegawa T, Nutahara K & Higashihara E : Prostatic cyst arising around the bladder neck-cause of bladder outlet obstruction : two case reports. Acta Urol Jpn 53: 401-404, 2007
2. Tambo M, Fujimoto K¹, Miyake M¹, Hoshiyama F¹, Matsushita C¹ & Hirao Y¹ (¹Department of Urology, Nara Medical University) : Clinicopathological review of 46 primary retroperitoneal tumors. Int J Urol 14: 785-788, 2007.
3. Kobayashi A^{1, 3}, Hara H, Ohashi M², Nishimoto T¹, Yoshida K¹, Ohkohchi N³, Yoshida T² & Aoki K¹ (¹Section for Studies on Host-Immune Response and ²Genetics Division, National Cancer Center Research Institute, ³Department of Surgery, University of Tsukuba) : Allogeneic MHC Gene Transfer Enhances an Effective Antitumor Immunity in the Early Period of Autologous Hematopoietic Stem Cell Transplantation. Clin Cancer Res 2007 13: 7469-7479
4. 狩野臨，林建二郎，板谷直，多武保光宏，渡辺和吉，野田治久，宍戸俊英，武井秀史¹，桶川隆嗣，奴田原紀久雄，呉屋朝幸¹，東原英二 (¹杏林大・医・呼吸器外科) : びまん性過誤腫性肺脈管筋腫症に合併した腎血管筋脂肪腫の1例．泌外 20 (6) : 817-819, 2007.
5. 金城真実，谷口珠実，桶川隆嗣，奴田原紀久雄，東原英二：女性尿失禁患者に対する骨盤底筋体操の有効性．日女性骨盤底医会誌4 (1) : 153-155, 2007.
6. 東原英二 (総説) : 第49回日本腎臓学会学術総会と多発性嚢胞腎．泌の最近の進歩 23 : 5-8, 2007.
7. 東原英二 (総説) : 【腎臓病のすべて】 腎臓の病気 多発性嚢胞腎．からだの科学

- 255 : 57-61, 2007.
8. 東原英二 (総説) : 特集【エディトリアル】 嚢胞性疾患と内視鏡下手術 各科にわたる嚢胞性疾患に対応するために. 日内視鏡学会誌 12(5) : 481, 2007.
 9. 奴田原紀久雄, 東原英二 (総説) : ESWLの現状と功罪 尿路結石症診療ガイドラインにおけるESWLの役割. 泌外 20臨増刊 : 489-490, 2007.
 10. 奴田原紀久雄 (総説) : ESWLの現状と功罪 ディベート 尿路結石に対するESWLとTUL TUL派. 泌外 20臨増 : 491- 492, 2007.
 11. 奴田原紀久雄, 東原英二 (総説) : 多発性嚢胞腎の病態と治療の展望 多発性嚢胞腎の高血圧治療. 泌外 20 : 1187-1189, 2007.
 12. 奴田原紀久雄, 東原英二 (総説) : 【腎・泌尿器疾患診療マニュアル 小児から成人まで】 常染色体優性多発性嚢胞腎. 日医師会誌 136特別号 (2) S 260-261, 2007.
 13. 奴田原紀久雄 (総説) : 【主な泌尿器科疾患のFollow-up計画】 尿路結石ESWL後のfollow-up計画. 泌外 20 (11) : 1395-1399, 2007.
 14. 桶川隆嗣, 東原英二 (総説) : 【内視鏡外科手術 合併症を起こさない手技と工夫】 腹腔鏡下腎摘除術. 手術 61 (9) : 1267-1274, 2007.
 15. 桶川隆嗣 (総説) : 【鏡視下手術のための局所解剖アトラス】 腹腔鏡下副腎摘除. 消外 30 (6) : 1000-1014, 2007.
 16. 桶川隆嗣 (総説) : 【前立腺癌 基礎・臨床研究のアップデート】 臨床研究診断 PSA PSAアイソフォーム. 日臨 65増刊10前立腺癌 : 243-247, 2007.
 17. 宍戸俊英 (総説) : 【外科疾患データブック】 頭頸部、体表、内分泌 副腎腫瘍. 外科 69 (12) : 1386-1390, 2007.
 18. 宍戸俊英 (総説) : 【日常診療で遭遇する尿路トラブル】 尿閉、膀胱タンポナーデ. 腎と透析 63 (2) : 163-168, 2007.
 19. 加藤司顕, 小田金哲広, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二 (総説) : 【嚢胞性疾患と内視鏡下手術】 嚢胞性腎疾患 多発性嚢胞腎・単純性腎嚢胞に対する内視鏡下手術. 日内視鏡学会誌 12(5) : 535-540, 2007.
 20. 桶川隆嗣, 東原英二 (総説) : 【泌尿器ケアのDo & Do Not】 ESWL後は発熱と疼痛に注意しなければならない. 泌ケア 冬季増刊 : 93-95, 2007.
 21. 宍戸俊英, 東原英二 (総説) : 【泌尿器ケアのDo & Do Not】 TUR-Bt術後は膀胱タンポナーデに注意しなければならない. 泌ケア 冬季増刊 : 86-88, 2007.
 22. 野田治久, 東原英二 (総説) : 【泌尿器ケアのDo & Do Not】 泌尿器科手術における深部静脈血栓症を軽視してはいけない. 泌ケア 冬季増刊 : 73-76, 2007.
 23. 多武保光宏, 東原英二 (総説) : 【泌尿器ケアのDo & Do Not】 術後、カテーテルを抜去した後の排尿状態に注意しなければならない. 泌ケア 冬季増刊 : 89-92, 2007.
 24. 林建二郎, 東原英二 (総説) : 【泌尿器ケアのDo & Do Not】 尿閉の患者さんの導尿を一気に行ってはいけない. 泌ケア 冬季増刊 : 86-88, 2007.
 25. 村田憲彦, 東原英二 (総説) : 【泌尿器ケアのDo & Do Not】 TURP術後に尿量が

増えないからといって、安易に利尿薬を使用してはいけない。泌ケア 冬季増刊：80-82，2007。

26. 金城真実，関口由紀¹，東原英二（¹横浜元町女性医療クリニックLUNA）：無治療女性過活動膀胱患者におけるイミダフェナシンの効果発現時期と有効性・安全性に関する検討。新薬と臨 57（2）：145-149，2008。
27. 宍戸俊英，榎本香織，藤田直之，鈴木敦，林建二郎，野村昌史，板谷直，多武保光宏，渡辺和吉，野田治久，桶川隆嗣，奴田原紀久雄，東原英二：初期治療経験に基づくホルミウムレーザー前立腺核出術（HoLEP）とTUR-Pの比較検討。日泌会誌 99：543-550，2008。
28. 桶川隆嗣，東原英二（総説）：外科的処置を要する泌尿器科領域の重症感染症。泌外 21（3）：471-476，2008。

III. 著書

1. 東原英二，奴田原紀久雄，加藤司顯：嚢胞性腎疾患。「内科学」第九版。杉本恒明，矢崎義雄編集。東京，朝倉書店，2007。p.1282-1285。
2. 奴田原紀久雄，加藤司顯，東原英二：閉塞性腎・尿路疾患。「内科学」第九版。杉本恒明，矢崎義雄編集。東京，朝倉書店，2007。p.1285-1287。
3. 加藤司顯，奴田原紀久雄，東原英二：腎尿路系の疾患 泌尿器科的治療。「内科学」第九版。杉本恒明，矢崎義雄編集。東京，朝倉書店，2007。p.1193-1194。
4. 奴田原紀久雄，東原英二：第9章血管病変 A. 腎血管性高血圧症，B. 腎動脈瘤，C. 腎梗塞，D. 腎動静脈瘻。「NEW 泌尿器科学」改訂第2版。西沢理，松田公志，武田正之編集。東京，南江堂，2007。p.259-266。
5. 東原英二（総説）：V腎臓病の対策 11. 常染色体優性多発性嚢胞腎。腎不全治療マニュアル。腎不全予防医学調査研究委員会編。東京，社団法人日本透析医学会，2007。p.161-163。
6. 奴田原紀久雄，東原英二：第2章 病理・病態生理 腎嚢胞性疾患と結石。最新医学別冊 新しい診断と治療のABC 52 腎結石・尿路結石 腎6。小川由英編集。大阪，最新医学社，2007。p.109-113。
7. 桶川隆嗣：緩和ケア。Resident compass泌尿器科編。野々村祝夫，鈴木啓悦監修。東京，ライフ・サイエンス，2007。p.217-223。
8. 東原英二：泌尿器科領域の歩み 多発性嚢胞腎。社団法人日本腎臓学会創立50周年記念誌。東京，日本腎臓学会，2007。p.83。
9. 奴田原紀久雄：泌尿器科領域の注目すべき疾患 7. 尿路結石。腎疾患・透析最新の治療2008-2010。飯野靖彦，榎野博史，秋澤忠男編集。東京，南江堂，2007。p.260-263。
10. 桶川隆嗣，東原英二：第2部各論 5. 腎血管病変 1) 腎血管性高血圧、2) 腎動脈瘤、3) 腎動静脈瘻。最新「泌尿器科診療指針」。村井勝，塚本泰司，小川修編集。東京，永井書店，2008。p.193-200。

IV. その他

(4) 監修・編集

1. 東原英二（編集代表・監修），宍戸俊英，榎本香織：泌尿器科腹腔鏡手術シリーズNo. 30 腹腔鏡下左腎莖部リンパ管遮断術．インターメディカ 2007.
2. 東原英二（監修）：前立腺肥大症 ぐらしの千恵．神奈川新聞社 342号 p. 26-27, 2008

産科婦人科学

口演

1. 嘉治真彦，塩川滋達，杉原一廣，酒井啓治，岩下光利：卵巣悪性腫瘍におけるアミノ酸トランスポーターLAT1の発現と生理的役割．第59回日本産科婦人科学会，京都，平成19年4月14-17日．
2. 杉原一廣¹，酒井啓治，塩川滋達，岩下光利（¹浜松医大・産婦人科）：着床におけるCD98 heavy chain (CD98hc)の機能は $\alpha v \beta 3$ インテグリンのinside-out, outside-in活性調節である．第59回日本産科婦人科学会，京都，平成19年4月14-17日．
3. 和地祐一，酒井啓治，松本浩範，井澤朋子，杉原一廣¹，岩下光利（¹浜松医大・産婦人科）：胎盤由来ステロイドホルモンは脱落膜由来Insulin-like growth factor (IGF) binding protein-1を修飾しIGFの作用を調節する- 第2報- ．第59回日本産科婦人科学会，京都，平成19年4月14-17日．
4. 橋本玲子，酒井啓治，杉原一廣¹，岩下光利（¹浜松医大・産婦人科）：絨毛細胞の移動能におけるInsulin-like growth factor-1 (IGF-I)/insulin hybrid receptorの意義．第59回日本産科婦人科学会，京都，平成19年4月14-17日．
5. 野口顕一，田中逸人，橋本玲子，井澤朋子，塩川滋達，矢島正純，岩下光利：ATXOL-CBDCA (TJ)療法抵抗卵巣癌に対するCPT-11+CDDP (CPT-P)療法の20症例における検討．第59回日本産科婦人科学会，京都，平成19年4月14-17日．
6. 澁谷裕美，井澤朋子，松本浩範，酒井謙，安藤素，矢島正純，岩下光利：子宮動脈塞栓術 (UAE) 後妊娠例の予後の検討．第59回日本産科婦人科学会，京都，平成19年4月14-17日．
7. 塩川滋達，酒井啓治，杉原一廣，岩下光利：卵巣癌におけるアミノ酸トランスポーターLAT1の生理的意義．第59回日本産科婦人科学会，京都，平成19年4月14-17日．
8. Sakai K, Matsumoto H, Wachi Y, & Iwashita M (poster) : Polymerization of IGFBP-1 in Trophoblast Cell Cultures. The Endocrine Society's 89th Annual Meeting, Toronto, Canada, June 2-5, 2007.
9. Shibuya H, Sakai K, & Iwashita M (poster) : Insulin-Like Growth Factor Binding Protein in Peritoneal Fluid during Pregnancy. The Endocrine

Society' s 89th Annual Meeting, Toronto, Canada, June 2-5, 2007.

10. Hashimoto R, Sakai K, & Iwashita M (poster) : Tumor Necrosis Factor- α (TNF- α) Attenuates Insulin-Like Growth Factor-I (IGF-I) Sensitivity through IGF-I/Insulin Hybrid Receptor in Human Trophoblast Cell Cultures. The Endocrine Society' s 89th Annual Meeting, Toronto, Canada, June 2-5, 2007.

11. 手塚彩子, 宮越敬¹, 岸見有紗¹, 松岡美杉², 森定徹², 西村修², 矢久保和美², 福井谷達郎¹ (¹さいたま市立病院周産期母子医療センター・産婦人科) : 下大動脈フィルター留置および抗凝固療法による管理で良好な経過を辿った妊娠中期発症の肺血栓塞栓症の一例. 第113回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 東京, 平成19年6月3日.

12. 鈴木雅代, 澁谷裕美, 伊藤路奈, 和地祐一, 酒井啓治, 安藤索, 岩下光利 : 妊娠初期より出血が持続し分娩時子宮破裂に至った1例. 第113回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 東京, 平成19年6月3日.

13. 井澤朋子, 松澤由記子, 橋本玲子, 塩川滋達, 矢島正純, 岩下光利 : 悪性腫瘍との鑑別が困難であったMeigs症候群の一例. 第113回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 東京, 平成19年6月3日.

14. Iwashita M: Physiological Significance of IGF System in Follicle. 2007 Workshop on ART, Individualization of ART. Kunming, China, June 13-15, 2007.

15. 伊野塚喜代乃, 松島美穂, 和地祐一, 橋本玲子, 酒井啓治, 橋口和生, 岩下光利 : 出産後増悪したSLE合併妊娠の一例. 第357回四水会, 東京, 平成19年6月20日

.

16. 松澤由記子, 矢島正純, 井澤朋子, 塩川滋達, 岩下光利 : 再発を繰り返す外陰 low grade sarcomeの1例. 第341回日本産科婦人科学会東京地方部会, 東京, 平成19年6月25日.

17. 松本浩範, 酒井啓治, 岩下光利 : 胎盤ステロイドホルモンは脱落膜由来IGFBP-1を修飾しIGFの作用を調節する. 第43回日本周産期・新生児医学会, 東京, 平成19年7月8-10日.

18. 山井礼子, 安藤索, 嘉治真彦, 酒井謙, 岩下光利 : 当院不妊内分泌外来における洗浄AIH妊娠症例の検討. 第25回日本受精着床学会, 仙台, 平成19年8月30, 31日

.

19. 松島美穂, 伊野塚喜代乃, 谷垣伸治, 和地祐一, 橋本玲子, 酒井啓治, 橋口和生, 岩下光利 : 出産後増悪したSLE合併妊娠の一例. 第343回日本産婦人科学会東京地方部会, 東京, 平成19年9月15日.

20. Matsumoto N, Sakai K, and Iwashita M (poster) Insulin-like growth factor (IGF) binding protein-1 stimulates decidualization of human endometrial stromal cells via alpha5 beta1 integrin.. The XXth Asian and Oceania Congress of Obstetrics and Gynecology, Tokyo, September 21-25,

2007.

21. Shibuya H, Sakai K, & Iwashita M (poster) : Profiles of insulin-like growth factor binding proteins in peritoneal fluid during pregnancy. The XXth Asian and Oceania Congress of Obstetrics and Gynecology, Tokyo, September 21-25, 2007.
22. Hashimoto R, Sakai K, & Iwashita M (poster) : Tumor necrosis factor- α (TNF- α) attenuates insulin-like growth factor-I (IGF-I) sensitivity through IGF-I/insulin hybrid receptor in human trophoblast cell cultures. The XXth Asian and Oceania Congress of Obstetrics and Gynecology, Tokyo, September 21-25, 2007.
23. 伊野塚喜代乃, 和地祐一, 谷垣伸治, 橋本玲子, 松島実穂, 酒井啓治, 橋口和生, 岩下光利 : 既往帝王切開後の前置胎盤 (癒着胎盤) の2症例. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 前橋, 平成19年10月14日.
24. 井上慶子, 矢島正純, 澁谷裕美, 松本浩範, 安藤素, 岩下光利 : 著明な男性化徴候を認めた卵巣腫瘍の1例. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 前橋, 平成19年10月14日.
25. 松尾典子, 松本浩範, 井澤朋子, 矢島正純, 岩下光利 : 重症感染を伴った変性子宮筋腫の2例. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 前橋, 平成19年10月14日.
26. 井上慶子, 澁谷裕美, 安藤素, 岩下光利 : 多胎妊娠に及ぼすARTの影響に関する検討. 第52回日本生殖医学会, 秋田, 平成19年10月24, 25日.
27. 岩下光利 : 我が国の周産期医療に対する学会の取り組み. 第54回埼玉リプロダクティブヘルス研究会, 大宮, 平成19年11月4日.
28. 谷垣伸治 : セミオープンシステムの紹介. 第2回北多摩産婦人科医療懇話会, 三鷹, 平成19年11月8日.
29. 岩下光利 : INVOLVEMENT OF IGF AND IGF-BINDING IN PLACENTAL DEVELOPMENT AND FUNCTIONSESSION -14-4, Trophoblast Differentiation and Fetomaternal Disease. 第14回世界絨毛性疾患会議, 第15回日本胎盤学会, 第25回日本絨毛性疾患研究会, 福岡, 平成19年11月11-14日.
30. Tamura N¹, Sugihara K¹, Kabir-Salmani M, Shiokawa S, Sakai K, Kanayama N¹ & Iwashita M : (¹Dept. of Ob/Gyn, Hamamatus Univ. School of Medicine) (poster) : CD98hc ACTIVATES $\alpha v \beta 3$ INTEGRIN SIGNALS AT THE HUMAN EMBRYO-MATERNAL INTERFACE. 第14回世界絨毛性疾患会議, 第15回日本胎盤学会, 第25回日本絨毛性疾患研究会, 福岡, 平成19年11月11-14日.
31. 松本浩範, 澁谷裕美, 安藤素, 矢島正純, 岩下光利 : 当科におけるTCRについて. 第36回杏林医学総会, 三鷹, 平成19年11月17日.
32. 伊野塚喜代乃, 澁谷裕美, 松本浩範, 安藤素, 矢島正純, 岩下光利 : 円錐切除後に子宮口閉鎖をきたし子宮摘出となった一例. 第344回日本産科婦人科学会東京

地方部会例会，東京，平成19年12月5日。

33. 松島実穂，谷垣伸治，伊野塚喜代乃，橋本玲子，伊藤路奈，鈴木雅代，酒井啓治，橋口和生，岩下光利：感染防止策を施行し、妊娠継続しえたpPROMの検討．第358回四水会，東京，平成19年12月12日．

34. 岩下光利：生殖周産期領域におけるIGF結合蛋白の-1の意義．日本産科婦人科学会富山地方部会第5回例会・特別講演会，富山，平成20年2月1日．

35. 鈴木雅代：当科における体外受精・胚移植（ART）の臨床統計．第20回多摩産婦人科臨床研究会，武蔵野，平成20年2月9日．

36. 松島実穂，谷垣伸治，橋本玲子，伊藤路奈，酒井啓治，橋口和生，岩下光利：前置胎盤を伴った子宮奇形合併妊娠の1例．第345回日本産科婦人科学会東京地方部会，武蔵野，平成20年2月16日．

37. 岩下光利：不定愁訴．第8回杏林総合臨床研究会，武蔵野，平成20年3月13日．

論文

1. 安藤索，岩下光利：女性外来診療マニュアル，子宮卵管造影法．産婦人科治療94増刊：143-148，2007．

2. 安藤索：産婦人科外来ベストナビゲーション- ここが聞きたい105例の対処と処方，III不妊症【排卵障害】，排卵障害の治療を行っている患者です。排卵誘発薬のほかに、漢方療法の併用を希望しています。臨婦産 61:526-527，2007．

3. 安藤索：産婦人科外来ベストナビゲーション- ここが聞きたい105例の対処と処方，III不妊症【排卵障害】，排卵障害のが不妊原因と推測され、クロミフェン投与で排卵が認められるようになった患者です。しかし、なかなか妊娠できません。臨婦産 61:523-525，2007．

4. 安藤索：産婦人科外来ベストナビゲーション- ここが聞きたい105例の対処と処方，III不妊症【排卵障害】，ゴナドトロピン値が高く、低エストロゲン状態で早期閉経状態となっている挙児希望の患者です。臨婦産 61:527-529，2007．

5. Ohnishi H¹, Kaniyu K¹, Iwashita M, Tanaka A² & Watanabe T¹ (¹Dept. of Laboratory Med., ²Dept. of Clinical Pathology, Hachioji Medical Center, Tokyo Medical University): Fibrin monomer complex in normal pregnant women: a potential thrombotic marker in pregnancy. Ann Clin Biochem 44:449-454, 2007.

6. 岩下光利：女性とPCOSとインスリン抵抗生改善薬．産と婦 74:397-403，2007．

7. 酒井啓治：産婦人科外来マニュアル，周産期，血液型不適合妊娠のスクリーニング検査．産と婦 74特大号:1298-1302，2007．

8. 安藤索，岩下光利：産婦人科外来マニュアル，不妊・内分泌，AIH（配偶者間人工授精）の限界と工夫．産と婦 74特大号:1390-1393，2007．

9. 矢島正純，岩下光利：産婦人科外来マニュアル，炎症・感染症，萎縮性膣炎．産と婦 74特大号:1508-1510，2007．

10. 岩下光利：産婦人科検査法，内分泌・不妊検査法，排卵時期の推定法．日産婦

誌 59 研修コーナー:N-49-N51, 2007.

11. 酒井啓治：肺水腫・ARDSへの対応. 臨婦産 61:727-729, 2007.

12. 酒井啓治：内分泌臓器としての胎盤. 産と婦 74:795-800, 2007

13. 松澤由記子, 矢島正純, 井澤朋子, 塩川滋達, 岩下光利：再発を繰り返す外陰 low grade fibromyxoid sarcomaの1例. 日産婦東京会誌 56:240-243, 2007.

14. 橋口和生, 岩下光利：産婦人科Data Book, 血小板減少性紫斑病・血小板減少症合併妊娠. 産婦人科の実際 56:1900-1903, 2007.

15. 安藤索, 岩下光利：産婦人科International Radiology, 子宮筋腫に対する IVR-UAE-, 子宮動脈塞栓療法後の妊娠. 産婦人科の実際 56:2101-2108, 2007.

16. 松島実穂, 橋口和生, 谷垣伸治, 伊野塚喜代乃, 和地祐一, 伊藤路奈, 鈴木雅代, 酒井啓治, 岩下光利：SLE合併妊娠の検討. 日産婦東京会誌 56:525-528, 2007.

17. Sugihara K^{1, 2}, Kabir-Salmani M, Byne J³, Wolf D.P.³, Lessey B⁴, Iwashita M, Aoki D⁵, Nakayama J⁶ & Fukuda M N.¹ (¹Cancer Research Center, Burnham Institute for Medical Research, ²Dept of Ob/Gy, Hamamatsu Univ. School of Med., ³Div. of Reproductive Sciences, Oregon National Primate Research Center, ⁴Center for Women's Med., Greenville Hospital System, ⁵Dept. of Ob/Gy, Keio Univ., School of Med., ⁶Dept of Pathology, Shinshu Univ. School of Med.): Induction of trophoblast in human endometrial surface epithelia by CG β and IL-1 β . FEBS Letters 582:197-202, 2008.

18. 岩下光利：子宮内膜におけるLeukemia inhibitory factor (LIF)の生理学的意義. 産婦人科の実際 57:203-210, 2008.

19. 安藤索, 岩下光利：不妊症と多嚢胞性卵巣症候群. 総合臨床 74: 512-515, 2008.

20. 谷垣伸治, 岩下光利：頸管縫縮術, 切迫早産の診断と治療180-188, 2008.

21. Kabir-Salmani M, Fukuda N. M⁴, Kanai-Azuma M³, Ahmed N¹, Shiokawa S, Akimoto Y¹, Sakai K, Nagamori S², Kanai Y¹, Sugihara K, & Iwashita M (¹Dept. of Anatomy, Pharmacology and Toxicology, Kyorin Univ. School of Med., ²Dept. of General Medicine, Kyorin Univ. School of Med., ³Molecular and Cellular Research Center, Faculty of Medicine, Shahid Beheshti Medical Univ., and Dept. of Medical Genetics, National Institute of Genetic Engineering and Biotechnology, ⁴Tumor Microenvironment Program, Cancer Research Center, Burnham Institute for Medical Research): The Membrane-Spanning Domain of CD98 Heavy Chain Promotes $\alpha v \beta 3$ Integrin Signals in Human Extravillous Trophoblasts. Mol Endocrinol 22:707-715, 2008.

著書

1. 岩下光利：早産の生化学的診断, 早産. 最新の知見と取り扱い. 金山尚裕, 海野信也, 松田義雄, 正岡直樹, 高木健次郎編. 東京, メジカルビュー社, 2007. p. 74-80.

2. 酒井啓治, 岩下光利: 急速遂娩. プライマリケア産婦人科, ベッドサイドで役立つ30症例. 佐川典正, 小西郁生, 杉野法広編. 京都, 金芳堂, 2007. p.68-74.
3. 岩下光利: 性腺機能低下症 (女性). 内分泌代謝専門医ガイドブック. 成瀬光栄, 平田結喜緒, 島津章編. 東京, 診断と治療社, 2007. p.211-213.
4. 岩下光利: 産婦人科疾患, 多胎妊娠. 今日の治療指針2008版. 山口徹, 北原光夫, 福井次矢編. 東京, 医学書院, 2008. p.980.
5. 岩下光利: 産褥異常の管理と処置, 子宮復古不全. MFICU (母体・胎児ICU) マニュアル. MFICU (周産期医療) 連絡協議会編. 東京, MCメディカ出版, 2008. P.375-378.
6. 谷垣伸治, 岩下光利: 頸管縫縮術. 切迫早産の診断と治療. 岩下光利編. 大阪, メディカルレビュー社, 2008, p.180-188.

放射線医学教室

口演 (学会等)

1. 土屋一洋, 立石秀勝, 吉田真衣子, 天神美穂, 本谷啓太, 似鳥俊明, 木村徳典1, 池戸雅人1 (1東芝メディカルシステムズ): black blood法MRAによる血流情報を加えた磁化率強調画像 (SWI)の初期臨床応用. 第66回日本医学放射線学会学術集会, 横浜, 平成19年4月.
2. 土屋一洋: 小児の中樞神経疾患の画像診断の最近の進歩. 第110回日本小児科学会学術集会, 京都, 平成19年4月.
3. 横山健一, 似鳥俊明, 鈴木清寿, 今井昌康, 高橋修司, 竹本周平1, 久原重英1 (1東芝メディカルシステムズ): 心筋遅延造影MRIにおける心拍内データ収集時相と壁進展度に関する検討. 第66回日本医学放射線学会学術発表会, 横浜, 平成19年4月13日-15日.
4. 仲村明恒1, 大倉康男2, 原留弘樹1, 岩元香保理1, 鈴木清寿1, 本田 崇1, 依光美佐子1, 勝見直也3, 青木圭3, 阿部展次4, 竹内弘久4, 高橋信一3, 跡見裕4, 似鳥俊明1 (1杏林大・放射線医学, 2同・病理学, 3同・消化器内科, 4同・消化器一般外科): 陥凹型早期胃癌の組織型鑑別におけるX線所見の検討. 第66回日本医学放射線学会総会, 神奈川, 平成19年4月13-15日.
5. 原留弘樹, 仲村明恒, 魚住和史, 本田崇, 小俣高宏, 似鳥俊明, 松本伸明1, 跡見裕1 (1杏林大・医・消化器外科): 膵癌診断における腹部拡散強調画像とMRCP併用の有用性. 第66回日本医学放射線学会総会, 横浜, 平成19年4月14日.
6. 本谷啓太: 放射線科主導によるPACSプロジェクトの500日-超1000床既存施設の、機種選定から完全フィルムレス化まで-. SYNAPSEセミナー, 横浜, 平成19年4月14日.
7. 土屋一洋: 脳卒中の初期診療におけるCT・MRI. 第1回西多摩放射線技師勉強会, あきる野, 平成19年5月.
8. 本谷啓太: 放射線科主導によるPACSプロジェクトの500日-超1000床既存施設での、機種選定から完全フィルムレス化まで-. 放射線科講演会, 岩手, 平成

19年5月11日.

9. 稲岡祥幸：奇静脈血管腫の1例. 第36回胸部研究会東京部会，東京，平成20年5月19日.
10. Haradome H, Nakamura A, Honda T, Nitatori T : Effect of superparamagnetic iron oxide on high-b-value diffusion-weighted imaging for evaluation of focal hepatic lesions . International Society for Magnetic Resonance in Medicine (ISMRM) Proceeding, Berlin, May. 19-25, 2007.
11. 増田裕，森永圭吾，本谷啓太，本田崇，岩元香保里，高橋修司，似鳥俊明：術後に生じた門脈本幹狭搾に対しステントを留置した3例の検討. 第36回日本IVR学会総会，金沢，平成19年5月24-26日.
12. 土屋一洋：脳腫瘍の画像診断の最近の進歩. 第32回日本外科系連合学会学術集会，東京，平成19年6月.
13. Tsuchiya K, Tateishi H, Honya K, Yoshida M, Amagami M, Nitatori T : Cervical CT angiography using a reduced dose of contrast material at a high concentration in combination with a saline flush. The 45th Annual Meeting of the American Society of Neuroradiology, Chicago, June. 11-14, 2007.
14. Tsuchiya K, Tateishi H, Honya K, Yoshida M, Amagami M, Nitatori T : Cerebral CT angiography using a reduced dose of contrast material at a high concentration in combination with a saline flush. The 45th Annual Meeting of the American Society of Neuroradiology, Chicago, June. 11-14, 2007.
15. 今井昌康，土屋一洋，似鳥俊明，鳥羽研二1 (1杏林大・医・高齢医学)：認知症外来患者のスクリーニング頭部MRIで発見される器質的疾患. 第431回日本医学放射線学会関東地方会，東京，平成19年6月23日.
16. 土屋一洋：中枢神経系疾患における造影MRIの意義. 秋田県デジタル画像フォーラム，秋田，平成19年7月.
17. 吉田真衣子，土屋一洋，立石秀勝，五明美穂，今井昌康，似鳥俊明：原発性頭蓋内骨肉腫の1例. 第27回神経放射線ワークショップ，舞子，平成19年7月.
18. 似鳥俊明：動脈硬化の画像診断～病理の基礎からCT・MRI診断まで～. 第30回多摩地域画像診断講演会特別講演，立川，平成19年8月31日.
19. 土屋一洋：Neuroradiology Case-based Review in Osaka. 第20回記念大会誰にでもわかる画像診断の会，大阪，平成19年9月.
20. 土屋一洋，立石秀勝，吉田真衣子，今井昌康，本谷啓太，似鳥俊明，鈴木由里子1 (1フィリップスエレクトロニクスジャパン)：PRESTOシーケンスとparallel imagingを用いた脳の磁化率強調画像. 第35回日本磁気共鳴医学会大会，神戸，平成19年9月.
21. 岩元香保里：子宮筋腫塞栓療法に対するアンケート集計結果報告. 第7回子宮筋腫塞栓療法研究会，淡路，平成19年9月8日.
22. 似鳥俊明：動脈硬化の画像診断～病理学の基礎から最新CT・MRI診断まで～. 第3回上越画像カンファレンス特別講演会，上越，平成19年9月21日.

23. 原留弘樹, 仲村明恒, 魚住和史, 本田崇, 小俣高宏, 似鳥俊明, 松本伸明1, 跡見裕1(1杏林大・医・消化器外科): 膵癌診断における腹部拡散強調画像とMRCP併用の有用性: 造影ダイナミックMD-CT及び造影ダイナミックMRIとの比較. 第35回日本磁気共鳴医学大会, 神戸, 平成19年9月28日.
24. 土屋一洋: 頭蓋内感染症の画像診断-知っておくべき検査法の選択とその所見-. 第36回断層映像研究会, 東京, 平成19年10月.
25. 似鳥俊明: Shall We Hear t? ~心臓画像診断へのお誘い~. 第36回日本断層映像研究会教育講演, 東京, 平成19年10月13日.
26. 原留弘樹, 魚住和史, 似鳥俊明 (ワークショップ) 乏血性肝腫瘍におけるMRI診断: 利点と限界 Japan Digestive Disease Week (JDDW) 2007 Kobe. 神戸. 平成19年10月19日.
- 受賞
第67回日本医学放射線学会総会 Cy P o s 賞 (Silver Medal)
27. 今井昌康, 原留弘樹, 似鳥俊明: 経過中Groove pancreatitisの様相を呈した十二指腸癌の一例. 第43回日本医学放射線学会秋期臨床大会, 名古屋, 平成19年10月25-27日.
28. 土屋一洋: 神経放射線 Case-based Review. 第22回旭川MRI研究会, 旭川, 平成19年11月.
29. 本谷啓太: 骨・関節の画像診断, 第21回松崎ゼミナール, 東京, 平成19年11月7日.
30. Haradome H , Nakamura A , Nitatori T : High-b-value Diffusion-weighted MRImaging of Inflammatory Bowel Disease Radiological Society of North America (RSNA), Chicago, Nov. 24- 30, 2007.
31. 立石秀勝, 土屋一洋, 小柳正道1, 似鳥俊明 (1 杏林大学病院放射線部): 脳腫瘍における64列MDCTを用いたCT perfusionとCTAからの脳表画像の連続撮影. 第432回日本医学放射線学会関東地方会, 東京, 平成19年12月.
32. 戸成綾子, 名古安伸, 丸山靖, 池田郁夫, 池崎廣海, 楠田順子, 高山誠: 再建乳房に対する放射線治療の影響についての検討. 第20回日本放射線腫瘍学会学術大会, 福岡, 平成19年12月13-15日.
33. Yokoyama K, Nitatori T, Suzuki S, Yorimitsu M, Kanke N, Takahashi S, Takemoto S 1, Kuhara S 1, (1 Toshiba Medical Systems Corporation) : Relationship Between the Data Acquisition Timing in the Cardiac Cycle and the Intramural Infarction Extent Ratio in Late Gadolinium-Enhanced MRI . Society for Cardiovascular Magnetic Resonance (SCMR)11th Annual Scientific Sessions, Los Angeles, Jan.31-Feb.3,2008 .
34. 仲村明恒: 早期胃癌のX線診断の基礎. 多摩放射線技師会消化管勉強会, 東京, 平成20年2月1日.
35. 今井昌康, 土屋一洋, 似鳥俊明: 高濃度少量造影剤投与による頸部から頭部のCTA. 第37回日本神経放射線学会, 横浜, 平成20年2月14-15日.
36. 吉田真衣子, 土屋一洋, 立石秀勝, 五明美穂, 今井昌康, 似鳥俊明: 頸部から頭蓋内のCT Angiography -ヨードデリバリーレートと生食フラッシュの影響について-. 第37回日本神経放射線学会, 横浜, 平成20年2月.

37. 立石秀勝, 土屋一洋, 小柳正道 1, 似鳥俊明 (1 杏林大学病院放射線部): MDCTを用いた表在性脳腫瘍におけるCT perfusionとCTAからの脳表面像の連続撮影. 第31回2本脳神経CI学会総会, 東京, 平成20年2月.
38. 増田裕, 岩元香保里, 魚住和史, 森永圭吾, 本谷啓太, 似鳥俊明: 腹腔動脈根部狭窄に生じた膵頭十二指腸動脈瘤に対するTAE療法. 第27回日本画像医学会, 東京, 平成20年2月22-23日.
39. 本谷啓太: 肝胆膵領域, 第1回葛飾フレッシュマンズフォーラム, 東京, 平成20年2月24日.
40. 仲村明恒: 総合診療機能のさらなる充実を目指して(専門医療の総合診療機能の係り方). 野村病院診療部研究会, 東京, 平成20年3月29日.

論文

1. 土屋一洋: 「脳腫瘍類似の所見を示す病態の鑑別診断—CT・MRIを中心に—」序説. 臨床画像 23: 555, 2007.
2. Tsuchiya K, Imai M, Tateishi H, Nitatori T, Fujikawa A 1, Shuhei Takemoto 2 (1 Department of Radiology, Japan Self-Defense Forces Central Hospital, 2 Toshiba Medical Systems): Neurography of the spinal nerve roots by diffusion tensor scanning applying motion-probing gradients in six directions. Magn Reson Med Sci 6: 1-5, 2007.
3. 土屋一洋: 頭蓋内感染症の画像診断—MRIを中心に—. Neuroinfection 12: 18-22, 2007.
4. 土屋一洋: 神経放射線領域におけるMDCTでのCT angiography: 至適造影剤投与法の追求. 第6回国際MDCTシンポジウム講演集 16-20, 2007.
5. 土屋一洋: 「小児の性格変化」特徴的な臨床所見から攻略する画像診断: 中枢神経編. 臨床画像 23: 812-817, 2007.
6. 土屋一洋: 脳血管の血流情報を収集して動静脈を描出するFS-BB (Flow Sensitive Black Blood). Digital Medicine 7 (2): 10-12, 2007.
7. 土屋一洋: 「脳神経」Case-based review—珠玉の症例から学ぶ—. 画像診断 27: 1166-1172, 2007.
8. 土屋一洋: 「CTにおける造影剤投与法のトレンド」序説. 臨床画像 23: 1201, 2007.
9. 土屋一洋: 「MRAはどのような原理で撮像するのですか。読影上の注意点はありますか。」小児内科 39増刊号: 50-52, 2007.
10. 片瀬七朗, 土屋一洋: 「MR DSAはどのように撮像するのですか。脳血管造影は不要になるのでしょうか。」小児内科 39増刊号: 53-56, 2007.
11. 原留弘樹: 先天性膵胆道系疾患のMRCP (Refresher Course). 画像診断 Vol. 27 No. 9, 1132-1145, 2007.
12. 原留弘樹: 腹部拡散強調画像 基礎と臨床応用. 日本磁気共鳴学会雑誌 第27巻 3号, 87-105, 2007.

- 1 3. 原留弘樹 : 肝臓MRI 技術的背景, 検査プロトコール, 新技術 日本磁気共鳴学会雑誌 第27巻4号, 202-217, 2007.
- 1 4. 原留弘樹 : エキスパートによるRSNA2007 最新レポート CT&MRIの最新技術と罹臨床応用の動向. MRIの最新技術動向インナービジョン, 23 3 20-23, 2007.
- 1 5. 森田元穂, 土屋一洋, 小林邦典 : MRIの頭部領域への応用. 最新医学 1186-1191, 2007.
- 1 6. 鈴木清寿, 土屋一洋 : 「亜急性期脳梗塞」・「転移性脳腫瘍」 Medical Poster Session. Rad Fan 5 (10) : 12-15, 2007.
- 1 7. 今井昌康, 土屋一洋 : 「頭部CT・頭部MRI」診断ピットフォールー症例から学ぶ. 内科 99 : 1406-1412, 2007.
- 1 8. 似鳥俊明 : この患者をどう診断するか 突然の胸痛発作を主訴に救急外来を受診した症例, CLINICIAN, 340-340, 405-406, No567, 2008.

著書

1. 原留弘樹 : 症例の比較で学ぶ画像診断 腹部50選 胆道. 画像診断. 臨時増刊号 Vol. 28, 2007. No. 4, 68-87,
2. 戸成綾子, 楠田順子, 高山誠 : 乳癌ー基礎・臨床研究のアップデートー放射線治療時の被曝線量と有害事象. 日本臨床, 2007. 65(6) p. 491-494.
3. 増田裕, 似鳥俊明 : Interventional Radiology (IVR) とは. 産婦人科の実際, 第56巻第13号 2007. p. 2067-2076.
4. 鈴木清寿, 横山健一, 似鳥俊明 : 成人病と生活習慣病Vol. 37 No. 7 2007 心臓のMRI 775-782 東京医学社.
5. 鈴木清寿, 土屋一洋 : Rad FanVol. 5No. 10 2007 M-Pos 12-15 メディカル.
6. 高山誠 : 肺がんの治療法-どうして骨転移の病巣に放射線治療をするんですか?. 肺がんケアQ&A (加藤治文 監修, 平野隆, 坪井正博 編), 総合医学社, 東京, 2008. p. 96~97.
7. 土屋一洋 (共編著) : 完全攻略 ちょっとハイレベルな頭部疾患のMRI診断. 東京, 秀潤社, 2008.
8. 土屋一洋 (分担執筆) : 脳膿瘍、神経梅毒、Parry-Romberg症候群、下垂体膿瘍、先天性トキソプラズマ感染症、インフルエンザ脳症、急性小脳炎、細胞内小器官と白質脳症、その他の代謝性疾患、急性硬膜下血腫「完全攻略 ちょっとハイレベルな頭部疾患のMRI診断」(前原忠行、土屋一洋編). 東京, 秀潤社, 2008, p. 212-213, 216-217, 226-227, 244-245, 261-262, 266-267, 270-271, 290-291, .302-303, 370-371.
9. 土屋一洋 (編著) : 血管イメージング 頭部・頸部. 東京, 羊土社, 2008.
- 1 0. 土屋一洋 (分担執筆) : 神経血管圧迫、頭蓋内腫瘍性病変「血管イメージング頭部・頸部」(土屋一洋編). 東京, 羊土社, 2008. p. 137-147, 148-155.

その他

1. 編集：土屋一洋：特徴的な臨床所見から攻略する画像診断 中枢神経編。「臨床画像」，メジカルビュー社，平成19年6月号－平成20年5月号。
2. 子宮筋腫塞栓療法研究会．淡路，平成19年9月8日．
3. パンフレット：土屋一洋：脳腫瘍におけるMDCTを用いたCT perfusionとCTAからの脳表画像の100 mL造影剤での連続撮影．日本メドラッド（株）．平成19年12月．
4. 似鳥俊明：鼎談 最新の循環器画像診断．成人病と生活習慣病 38, 5-11, 2008.
5. 横山健一：シンポジウム．心臓イメージング．虚血性心疾患にMRIの役割．第27回日本画像医学会，東京，平成20年2月22－23日．
6. 編集：土屋一洋：画像再構成ワークステーションをどう使いこなすか．「臨床画像」，メジカルビュー社，平成19年12月号－平成20年3月号．

麻酔科学教室

< I 口演 >

1. 田口敦子、飯島毅彦、光田将憲、五明義就、萬知子、巖康秀：手術患者の輸血前後の抗白血球抗体の出現率について-妊娠歴および輸血歴の影響．第54回日本麻酔科学会総会，札幌，平成19年5月31日
2. 石川剛史、飯島毅彦、森山久美、小谷真理子、山科元範、巖康秀：腹部大動脈瘤手術中の尿量に影響する因子．第54回日本麻酔科学会総会，札幌，平成19年5月31日
3. 鵜澤康二、窪田靖志、山村咲子、木下尚之、萬知子、巖康秀：難治性癌性疼痛における痛みの表現と選択される鎮痛補助薬の効果．第54回日本麻酔科学会総会，札幌，平成19年5月31日
4. 飯島毅彦：TRALIの現状とその対策．第54回日本麻酔科学会総会，札幌，平成19年6月1日
5. 安田博之、萬知子、田中健介、宮下奈緒、飯田高史、巖康秀：赤血球M・A・P製剤中の経時的な乳酸値変化．第54回日本麻酔科学会総会，札幌，平成19年6月1日
6. 吉松貴史、窪田靖志、萬知子、巖康秀：抑肝散加陳皮半夏が奏効した慢性会陰

部痛の1症例. 第41回日本ペインクリニック学会総会, 横浜, 平成19年7月5日

7. 糟谷洋平、田中健介、玉田尚、萬知子、巖康秀: レミフェンタニルとセボフルランを使用した、ラリンジアルマスクによる全身麻酔管理. 第47回日本麻酔科学会 東京・関東甲信越支部 合同学術集会, 宇都宮, 平成19年9月22日

8. 宮下奈緒、長谷川綾子、中澤春政、萬知子、巖康秀: レミフェンタニルとプロポフォールを使用した、ラリンジアルマスクによる全身麻酔. 第47回日本麻酔科学会 東京・関東甲信越支部 合同学術集会, 宇都宮, 平成19年9月22日

9. 渡辺邦太郎、田口敦子、大橋夕樹、飯島毅彦、巖康秀: レミフェンタニルとプロポフォールを併用した局所麻酔下気管切開術の麻酔. 第47回日本麻酔科学会 東京・関東甲信越支部 合同学術集会, 宇都宮, 平成19年9月22日

10. 飯田高史、吉松貴史、光田将憲、窪田靖志、巖康秀: プロポフォールとレミフェンタニルを併用した胸腔鏡下肺切除術の一例. 第47回日本麻酔科学会 東京・関東甲信越支部 合同学術集会, 宇都宮, 平成19年9月22日

11. 山科元範、山村咲子、五明義就、萬知子、巖康秀: 経尿道的レーザー前立腺切除・術後に意識消失発作をきたした一例. 第47回日本麻酔科学会 東京・関東甲信越支部 合同学術集会, 宇都宮, 平成19年9月22日

12. 木下尚之、安田博之、小澤寛子、飯島毅彦、巖康秀: 全静脈麻酔による脳外科手術中、突然体動をきたした1例. 第47回日本麻酔科学会 東京・関東甲信越支部 合同学術集会, 宇都宮, 平成19年9月22日

13. 玉田尚¹、梅垣修¹、窪田靖志、飯島毅彦、巖康秀 (1 杏林大・医・救急医学): 急激な経過を辿ったセロトニン症候群の一例. 第47回日本麻酔科学会 東京・関東甲信越支部 合同学術集会, 宇都宮, 平成19年9月22日

14. 村上隆文: 術中に重症の低血圧を来たし、術後ラテックスによるアナフィラキシーショックと診断された症例. 第47回日本麻酔科学会 東京・関東甲信越支部 合同学術集会, 宇都宮, 平成19年9月22日

15. 萬知子: 診療報酬明細書作成の上での医師の役割について—麻酔科医としてのかかわり—. 国保連合会審査担当職員研修, 三鷹, 平成19年9月28日

16. 飯島毅彦: ミトコンドリア膜電位による細胞内カルシウム緩衝作用の調節と神経細胞死. 第26回日本蘇生学会, 岡山, 平成19年10月6日

17. Kensuke Tanaka, Takehiko Iijima, *Tatsuya Mishima, *Kei Suga, *Kimio Akagawa : Ca⁺⁺ buffering capacity of mitochondria after oxygen glucose deprivation in hippocampal neuron Annual meeting of American Society of Anesthesiologists, San Francisco, Oct. 13-17 2007.

18. Fukashi Kohori, Takehiko Iijima, Tomoko Yorozu, Yasuhide Iwao : Simulation of fast-track sevoflurane anesthesia induction during various modes of breathing Annual meeting of American Society of Anesthesiologists, San Francisco, Oct. 13-17 2007.

19. Harumasa Nakazawa, Takehiko Iijima, Atsuko Taguchi, Hajime Hotta, Masaru Shimizu, Tomoko Yorozu, Yasuhide Iwao : Impact of plasma products from female donors on lung function after cardiac surgery Annual meeting of American Society of Anesthesiologists, San Francisco, Oct. 13-17 2007.

20. Atsuko Taguchi, Takehiko Iijima, *Hajime Hotta, *Masaru Shimizu, Tomoko Yorozu : Impact of pregnancy, transfusion history and/or intraoperative transfusion on alloimmunization Annual meeting of American Society of Anesthesiologists, San Francisco, Oct. 13-17 2007.

21. Kumi Moriyama, Takashi Yoshimatsu, Takehiko Iijima, Tomoko Yorozu, Yasuhide Iwao : Continuous monitoring of behavioral patterns to evaluate neuropathic pain in the rat. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists, San Francisco, Oct. 13-17 2007.

22. 中澤春政、窪田靖志、吉松貴史、萬知子、巖康秀：一日一回投与のコデインが著効した頸椎症の1例。第27回日本臨床麻酔学会，東京，平成19年10月25日

23. 窪田靖志：緩和ケアとは。第一回緩和ケア講演会，三鷹，2007年10月25日

24. 吉松貴史、森山久美、金子伸一、飯島毅彦、巖康秀：The efficacy of fentanyl on pain-related movement and allodynia with respect to neuralgia in rats. 第15回アセアン麻酔学会，ペタヤ，2007年11月10日

25. 萬知子：杏林大学病院におけるオキシコンチン®錠とオキノーム®散の役割。第11回緩和ケア学術講演会，三鷹，平成19年11月16日

26. 窪田靖志：疼痛アセスメント。第二回緩和ケア講演会，三鷹，2007年12月20日

目

27. 森山久美、中澤春政、光田将憲、窪田靖志、萬 知子、飯島毅彦、巖 康秀：頸部後屈制限のある患者にエアトラックは有効か？挿管困難症例に対するエアトラックの有用性。多摩麻酔懇話会第19回大会，八王子，平成20年2月16日

< II 論文 >

1. 飯島毅彦：TRALI の現状と対策。麻酔 56 増刊号：S12-S19, 2007
2. 飯島毅彦、岡崎 仁1（1日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所）：TRALI（輸血関連急性肺障害）。麻酔 56(11)：1319-1328, 2007
3. 飯島毅彦、岡崎 仁1、清水 勝2：（1日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所、2杏林大・医・臨床検査医学）TRALI 発症のメカニズム。臨床麻酔 31(10)：1569-1575, 2007
4. 飯島毅彦、巖 康秀、清水 勝1（1杏林大・医・臨床検査医学）：新鮮凍結血漿の手術後使用についてのアンケート調査。日臨外会誌 68(6)：1-10, 2007
5. 飯島毅彦：知っておきたい周術期輸血の現状と課題：輸血ガイドラインについて麻酔科医はどのように考えているのか？。日臨麻誌 27(2)：134-140, 2007
6. 飯島毅彦、巖 康秀、萬 知子、清水 勝1（1杏林大・医・臨床検査医学）：麻酔科医の血液製剤の使用指針に対する意識調査—全国麻酔指導病院を対象としたアンケート調査。麻酔 55(10)：1282-1294, 2006
7. Yorozu T, Iijima T, Matsumoto M, Yeo X, Takagi T: Factors influencing intraoperative bradycardia in adult patients. Journal of Anesthesia, 21: 136-141, 2007

< III 著書 >

< IV その他 >

飯島毅彦、中澤春政、岡崎 仁1、橋本 志歩1、中島 文明1、大川龍之介2、矢富 裕2、高梨 美乃子3、中島 一格3、堀田 一4、大西 宏明4、渡邊 卓4、清水 勝4（1日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所、2東京大・医・医学系研究科臨床病態検査医学、3東京都赤十字血液センター、4杏林大・医・臨床検査医学）：輸血後呼吸障害に対する新鮮凍結血漿の影響に関する研究（H17-医薬-一般-053）平成19年度報告書 厚生労働省科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業

萬 知子（分担翻訳）：第54章 麻酔と腎臓・尿生殖器系。In ミラー麻酔科学（“Miller’s Anesthesia” Sixth edition Edited by Ronald D. Miller）監修 武田純三。東京，メディカル・サイエンス・インターナショナル発行。2007.

臨床検査医学業績

口演

1. 峯佳毅¹, 森秀明¹, 西川かおり¹, 松本茂籐子¹, 小樽二世¹, 本田普久¹, 岸野智則, 島田都², 石田均¹, 高橋信一¹ (¹杏林大・医・第三内科, ²株式会社フィリップス エレクトロニクス ジャパン メディカル システムズ) : 腹部領域における Volumetric Imaging の有用性. 第80回日本超音波医学会学術集会, 鹿児島, 平成19年5月20日.
2. 横山琢磨¹, 和田裕雄¹, 皿谷健¹, 倉井大輔¹, 宇留間友宣¹, 石井晴之¹, 青島正大¹, 岡崎充宏, 渡邊卓, 後藤元¹ (¹杏林大・医・第一内科) : 当院における多剤耐性肺炎球菌 (multidrug resistant *Streptococcus pneumoniae* MDRSP) の薬剤耐性年次変化の検討. 第55回日本化学療法学会総会, 仙台, 平成19年6月1日.
3. 有賀俊之 : 心臓超音波検査の実際. 多摩地区放射線科勉強会, 東京, 平成19年6月28日.
4. Ohtsuka K, Ohnishi H, Morita K, Chiba M, Ogura W, Matsushima S, Kishino T, Goya T¹, Watanbe T (¹ Department of Surgery, Kyorin University) : Relationship between tyrosine kinase domain gene mutation of epidermal growth factor receptor and respiratory function in non-small cell lung cancer. 12th World Conference on Lung Cancer. Seoul, Sep. 2-6, 2007.
5. 有賀俊之 : 僧帽弁疾患. 心エコー研修会, 東京, 平成19年9月2日.
6. 米山正芳 : 卵円形脂肪体の鑑別と意義. 尿検査フォーラム大阪2007, 大阪, 平成19年9月22日.
7. 峯佳毅¹, 森秀明¹, 塚田幾太郎¹, 本田普久¹, 小樽二世¹, 岸野智則, 西川かおり¹, 石田均¹, 高橋信一¹ (¹杏林大・医・第三内科) : iU-22 (Philips) を用いたソナゾイド造影超音波検査の経験. 第23回超音波ドプラ研究会, 東京, 平成19年9月22日.
8. 石井隆浩, 千葉直子, 江上照夫, 大西宏明, 渡邊卓 : Dimension RxL-HMによるタクロリムス試薬の基礎的検討. 第39回日本臨床検査自動化学会, 横浜, 平成19年9月28日.
9. 大西宏明, 吉野浩¹, 滝智彦², 滝田順子³, 井田孔明³, 康勝好³, 古屋彩夏³, 谷脇雅史⁴, 林泰秀⁵, 渡邊卓, 別所文雄¹ (¹杏林大・医・小児科, ²京都府立医大・医・分子病態検査医学, ³東京大・医・小児科, ⁴京都府立医大・医・血液腫瘍内科学, ⁵群馬県立小児医療センター) : MLL-p300キメラ遺伝子を認めた二次性白血病の1例. 第49回日本臨床血液学会総会, 横浜, 平成19年10月12日.
10. 川野詳子, 岸野智則, 森秀明¹, 清水雪絵², 横山琢磨², 西川かおり¹, 峯佳毅

- ¹, 松本茂藤子¹, 小樽二世¹, 本田普久¹, 塚田幾太郎¹, 司茂幸英, 後藤元², 高橋信一¹, 渡邊卓 (¹杏林大・医・第三内科, ²杏林大・医・第一内科): 肝および脾内に短期間に同時多発した仮性動脈瘤の一例. 第19回日本超音波医学会関東甲信越地方会学術集会, 東京, 平成19年11月10日.
11. 櫻井美智恵, 米山正芳, 原田喜代子, 江上照夫, 渡邊卓: サムソン液による髄液中細胞の保存性について. 関東甲信地区医学検査学会, 軽井沢, 平成19年11月10日.
 12. 宮城博幸: 救急医療における薬物分析検査の現状. 第25回臨床化学会関東支部例会, 東京, 平成19年11月15日.
 13. 石川真美, 森田恵子, 司茂幸英, 石山陽事¹, 和田裕雄², 渡邊卓 (¹杏林大・保・臨床生理学・医用応用工学, ²杏林大・医・第一内科): パルスオキシメータによる呼吸機能検査のモニタリング. 第36回杏林医学会総会, 三鷹, 平成19年11月17日.
 14. 堀田一, 関口久美子, 大西宏明, 渡邊卓: 輸血管理料取得と本学における現状. 第36回杏林医学会総会, 三鷹, 平成19年11月17日.
 15. 佐藤真由美, 原田喜代子, 米山正芳, 江上照夫, 渡邊卓: サムソン液による骨髄中細胞の保存性について. 第36回杏林医学会総会, 三鷹, 平成19年11月17日.
 16. 渡邊卓, 呉屋朝幸¹, 大西宏明, 大塚弘毅, 岸野智則 (¹杏林大・医・外科): 肺癌幹細胞の同定と分子生物学的特質の研究—耐性克服による新たな肺癌治療に向けて—. 第36回杏林医学会総会, 三鷹, 平成19年11月17日.
 17. 東克巳¹, 西村伸大¹, 関根名里子¹, 渡邊卓, 大西宏明, 高山信之² (¹杏林大・保・臨床血液, ²杏林大・医・第二内科): 新パラメーター考案によるフローサイトメトリー (FCM) での造血幹細胞の細胞特性に関する研究. 第36回杏林医学会総会, 三鷹, 平成19年11月17日.
 18. 米谷正太, 岡崎充宏, 福川陽子, 松島早月, 大塚弘毅, 岸野智則, 司茂幸英, 江上照夫, 大西宏明, 渡邊卓: 血液培養陽性ボトルからの集菌による迅速な菌種同定および薬剤感受性試験に関する検討. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪, 平成19年11月23日.
 19. 宮城博幸, 梶原正弘¹, 司茂幸英, 江上照夫, 大西宏明, 山口芳裕², 渡邊卓 (¹杏林大・医・法医学, ²杏林大・医・救急医学): LC/MSライブラリーとライブラリー検索ソフトを活用したLC/MSによる薬物スクリーニング法の検討～第2報～. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪, 平成19年11月24日.
 20. 大西宏明, 神田橋宏治¹, 川村眞智子², 大塚弘毅, 松島早月, 岸野智則, 渡邊卓 (¹東京日立病院内科, ²東京都立駒込病院小児科): 経過中にT674I変異を生じ、imatinib抵抗性となったFIP1L1-PDGFR α 陽性慢性好酸球性白血病の1例. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪, 平成19年11月24日.
 21. 浦田毅, 高野麻衣子, 持田由美子, 吉田聖子, 岡崎充宏, 司茂幸英, 石山陽事¹, 岸野智則, 大西宏明, 渡邊卓 (¹杏林大・保・臨床工学科・医用応用工学):

肘部における正中神経と主要皮静脈、上腕動脈の位置に関する検討—超音波診断装置を用いて—。第54回日本臨床検査医学会学術集会，大阪，平成19年11月24日。

22. 福川陽子，岡崎充宏，大楠清文¹，米谷正太，松島早月，大塚弘毅，岸野智則，司茂幸英，江上照夫，高山信之²，大西宏明，江崎孝行¹，渡邊卓（¹岐阜大学大学院医学研究科再生分子統御学講座病原体制御学分野，²杏林大・医・第二内科）：急性骨髄性白血病の化学療法中に血液培養から *Rothia mucilaginosa* が分離された1症例。第54回日本臨床検査医学会学術集会，大阪，平成19年11月24日。
23. 渡辺敬子，岸野智則，浦田 毅，高野麻衣子，岡崎充宏，司茂幸英，大塚弘毅，大西宏明，森秀明¹，石山陽事²，渡邊 卓（¹杏林大・医・第三内科，²杏林大・保・臨床工学科）：血中脂肪酸の組成変化と内臓脂肪厚の相関性について。第54回日本臨床検査医学会学術集会，大阪，平成19年11月24日。
24. 大塚弘毅，大西宏明，森田恵子，千葉美佐紀，小倉航，松島早月，岸野智則，呉屋朝幸¹，渡邊卓（¹杏林大・医・外科）：非小細胞肺癌における上皮増殖因子受容体チロシンキナーゼドメイン遺伝子変異と呼吸機能との関係。第54回日本臨床検査医学会学術集会，大阪，平成19年11月24日。
25. 牧野博，岡崎充宏，福川陽子，米谷正太，澤田範子，荒木光二，宿谷菜穂子，大西宏明，渡邊卓：当院において検出された *Stenotorophomonas maltophilia* の年次別薬剤耐性の動向調査。第19回日本臨床微生物学会，東京，平成20年1月26 - 27日。
26. 米谷正太，岡崎充宏，福川陽子，牧野博，澤田範子，宿谷菜穂子，荒木光二，江上照夫，大西宏明，渡邊卓：血液培養陽性ボトルからの直接集菌による同定および薬剤感受性の試み。第19回日本臨床微生物学会，東京，平成20年1月26 - 27日。
27. 高城靖志：学術講演 リスクマネージメントへの取り組み～病院であった怖い話～。第6回都臨技医学検査学会，東京，平成20年2月3日。

論文

1. Onishi H, Kaniyu K, Iwashita M¹, Tanaka A, Watanabe T (Department of Obstetrics/Gynecology) : Fibrin monomer complex in normal pregnant woman: a potential thrombotic marker in pregnancy. *Ann Clin Biochem* 44:449-454, 2007.
2. 宮崎京子，米山正芳，高橋美穂，江上照夫，大西宏明，渡邊卓：タンパク分画用の新規セルロースアセテート膜、セレカVSPの性能評価—全自動電気泳動装置（常光CTE8000）による臨床検査タンパク性能評価。生物物理化学 51：113-117, 2007.
3. 宮城博幸，梶原正弘¹，大西宏明，山口芳弘²，渡邊卓（¹杏林大・医・法医学，²杏林大・医・救急医学）：QTRAP LC/MS/MSによる多剤同時スクリーニング分析の試み。臨床病理 55：309-318, 2007.
4. 喜多秀文¹，輿石義彦²，増井一夫²，藤田敦²，大塚弘毅，古屋敷剛²，中里陽子²，

- 武井秀史², 呉屋朝幸² (¹結核予防会複十字病院・呼吸器外科, ²杏林大・医・外科): I期非小細胞肺癌例における術後再発の危険因子. 胸部外科 60: 883-887, 2007.
5. 宮城博幸, 大西宏明, 渡邊卓: 薬毒物検査の現状と課題. 検査と技術 35 : 363-365, 2007
 6. 米山正芳, 渡邊卓: 尿沈渣検査の自動化の効果的な運用法 尿沈渣検査の自動化の効果的な運用法 システムロジックについて. 臨床病理レビュー 140: 150-154, 2007.
米山正芳, 渡邊卓: 穿刺液検体の比重と総蛋白の関連性. 臨床病理レビュー 140: 183-184, 2007.
 7. 渡邊卓: Laboratory Practice 血液 採血の現況と問題点 JCCLS「標準採血法ガイドライン」. 検査と技術 35: 689-691, 2007.
 8. 大西宏明: Laboratory Practice血液 採血の現況と問題点 採血手技の実際. 検査と技術 35: 791-795, 2007.

著書

1. 岸野智則, 渡邊 卓: IV. 救急救命で遭遇する疾患 4. 消化器系疾患. 救急救命レビューノート. 田中秀治, 徳永尊彦編集. 東京, 文光堂, 2008. p. 122-125.

総合医療学教室

講演

1. 近藤太郎¹, 鈴木聰男¹, 矢島暎夫¹, 内藤裕郎¹, 目澤朗憲¹, 玉木一弘, 安藤高朗¹ (¹(社)東京都医師会): 東京都の地域医療連携. 日本医学会総会 大阪, 平成19年4月7日.
2. 小林 治, 河合 伸, 岡崎充宏¹ (¹杏林大学病院検査部): ICTによる院内耐性菌ラウンドの意義に関する検討 (ワークショップ). 第81回日本感染症学会総会, 京都, 平成19年4月11日.
3. 河合 伸: 日常診療における発熱の診断と治療. 小金井医師会講演会, 東京, 平成19年5月23日.
4. 永井義幸¹, 三輪隆¹, 原島敬一郎², 伊藤禄郎¹, 服部瑤華¹, 小見理恵子¹, 平松美帆¹, 鎮目学³, 久米雅彦¹, 能登谷洋子¹, 林潤一, 小田原雅人¹ (¹東京医科大学第3内科, ²杏林大・大学院医学研究科, ³新座志木中央総合病院内科): 75g経口ブドウ糖負荷試験における血管内皮機能の検討. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 平成19年5月25日.
5. 小林 治, 西 圭史¹, 河合 伸 (¹杏林大学病院薬剤部): 抗MRSA薬の適正使用を目的としたICTラウンドの効果. 化学療法学会総会, 仙台, 平成19年6月2日.
6. 小林 治: よく耳にする感染症 - その感染メカニズムと感染防御 -. 平成19年度福生市学校保健会講演会, 東京, 平成19年6月16日.

7. 山本実：脂質異常症の管理法．小金井市高脂血症予防教室，小金井，平成 19 年 6 月 22 日．
8. 渡辺圭一¹，神谷具巳²，中澤健悦²，原島敬一郎³，小島正義^{1, 2}，徳植純也⁴，石田信彦^{1, 2}，林潤一（¹多摩リハビリテーション学院，²メディカルフィットネスセンタープラム，³杏林大・大学院医学研究科，⁴メディカルフィットネスクリニック武蔵境）：フィットネス長期利用者における ASI（Arterial Stiffness Index）改善効果の検討．第 32 回日本運動療法学会大会，千葉，平成 19 年 6 月 30 日．
9. 神谷具巳¹，渡辺圭一²，中澤健悦¹，小島正義^{1, 2}，徳植純也³，石田信彦^{1, 2}，林潤一（¹多摩リハビリテーション病院メディカルフィットネスセンタープラム，²多摩リハビリテーション学院，³メディカルフィットネスクリニック武蔵境）：ジムトレーニング及び水中トレーニング実施によるバランス保持能力改善効果の検討．第 32 回日本運動療法学会大会，千葉，平成 19 年 6 月 30 日．
10. 小林 治：慢性緑膿菌気道感染症に関わる biofilm・QSS・好中球（教育講演）．第 21 回 Bacterial adherence & biofilm 研究会，東京，平成 19 年 7 月 7 日．
11. 小林 治：深在性真菌症の治療；最新の知見（特別講演）．兵庫県病院薬剤師学術講演会，兵庫，平成 19 年 7 月 19 日．
12. 河合 伸：重症肺炎の病態と治療戦略．学術講演会－急性肺障害セミナー，福島市，平成 19 年 7 月 20 日．
13. 玉木一弘：暮らしの場への医療提供の課題．東京都療養型病床研究会，東京，平成 19 年 7 月 22 日．
14. 佐藤秀昭，門脇弘子¹，原島敬一郎²，林潤一，柏崎一男³，篠原幸人³（¹朝日生命成人病研究所，²杏林大学大学院医学研究科，³国家公務員共済組合連合会立川病院内科）：一般健診における高分子量アディポネクチン測定による検討．第 48 回人間ドック学会学術大会，東京，平成 19 年 8 月 30 日．
15. 小林 治：咳と発熱の日常診療－ブラッシュアップ“かぜ診療”－．小金井市国分寺市医師会講演会，東京，平成 19 年 7 月 24 日．
16. 河合 伸：重症肺炎の病態と治療戦略．学術講演会－急性肺障害セミナー，和歌山市，平成 19 年 9 月 1 日．
17. 玉木一弘，山路憲夫¹，古賀健一²，熊坂義裕³，鏡諭⁴，永見理夫⁵，山口晴保⁶，青木佳之⁷（¹白梅学園大学，²厚生労働省老健局振興課長，³岩手県宮古市長，⁴埼玉県所沢市高齢者介護課，⁵東京都国立市福祉部，⁶群馬大学医学部保健学科，⁷青木内科・小児科クリニック）：パネルディスカッション「介護予防のまちづくり」．NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク，第十三回全国の集い，東京，平成 19 年 9 月 6 日．
18. 伊藤幸江，黒田浩司¹，磯邊聡²，伊藤宗親³，高瀬由嗣⁴，明翫光宣⁵，熊野正浩⁶（¹茨城大学，²千葉大学，³岐阜大学，⁴明治大学，⁵中京大学，⁶大野クリニック）：若手・中堅が考えるこれからのロールシャッハその④ 病態水準とロールシャッハの物語：発達障害のケースについて．第 26 回日本心理臨床学会大会，東京，平成 19 年 9 月 28 日．
19. 渡辺圭一¹，神谷具巳²，中澤健悦²，原島敬一郎³，小島正義^{1, 2}，徳植純也⁴，石田信彦^{1, 2}，林潤一（¹多摩リハビリテーション学院，²メディカルフィットネスセンタープラム，³杏林大・大学院医学研究科，⁴メディカルフィットネスクリニック武蔵境）：降圧薬服用者におけるフィットネス長期利用が ASI（Arterial Stiffness Index）に及ぼす改善効果の検討．第 7 回日本 AS 学会，東京，平成 19 年 9 月 29 日．
20. 佐藤秀昭，西川典子¹，柏崎一男²，菊池正男²（¹国家公務員共済組合連合会立川病院健康医学センター，²同 内科）：メタボリックシンドロームにおける ASI（Arterial Stiffness Index）の検討，第 56 回共済医学会，名古屋，平成 19

- 年 10 月 17 日.
21. 西川典子¹, 小林須磨子¹, 江澤陽子¹, 佐藤秀昭, 柏崎一男², 菊池正男² (¹ 国家公務員共済組合連合会立川病院健康医学センター, ² 同 内科): 職種によるメタボリックシンドロームの検討. 第 56 回共済医学会, 名古屋, 平成 19 年 10 月 18 日.
 22. 河合 伸: グローバルな視点から考えたわが国における抗菌薬臨床試験の問題点と今後. 「内科領域における抗菌薬臨床試験の問題点と今後」 シンポジウム 第 54 回日本科学療法学会東日本地方会・第 56 回日本感染症学会東日本地方会合同学会, 東京, 平成 19 年 10 月 27 日.
 23. 佐藤秀昭, 西川典子¹, 江澤陽子¹, 柏崎一男², 菊池正男² (¹ 国家公務員共済組合連合会立川病院健康医学センター, ² 同 内科): 減量方法によるウェスト値、検査値に与える影響の検討. 第 83 回多摩医学会講演会, 東京, 平成 19 年 10 月 27 日.
 24. 鈴木勉¹, 南雲康行¹, 倉橋香菜¹, 鈴木彰², 信川益明, 鈴木雅美¹, 成田年¹ (¹ 星薬科大学, ² ベル歯科予防センター): 視床下部由来摂食関連ペプチドの脳内報酬系に対する役割. 日本健康科学学会第 23 回学術大会, 東京, 平成 19 年 11 月 10 日.
 25. 竹野隆太¹, 天野浩之¹, 梶田雅義², 黒田素央³, 本多正史³, 石井敏弘⁴, 信川益明, 梶本修身⁵ (¹ 株式会社総合医科学研究所, ² 梶田眼科, ³ 味の素株式会社, ⁴ 聖隷クリストファー大学, ⁵ 大阪市立大学医学研究科): 調節微動(HFC)による眼精疲労定量化法の検討ー続報 HFC と疲労感の検討ー. 日本健康科学学会第 23 回学術大会, 東京, 平成 19 年 11 月 10 日.
 26. 芹田喜久¹, 信川益明, 佐藤岳人¹ (¹ ワイズフィットヘルスケア部): 中高年者の健康づくりの現状と問題点及び今後の展望ー健康日本 21, 生活習慣病, 特定検診・保健指導を踏まえてー. 日本健康科学学会第 23 回学術大会, 東京, 平成 19 年 11 月 10 日.
 27. 鈴木彰¹, 鈴木仙一², 杉山清³, 鈴木勉³, 梶本修身⁴, 信川益明 (¹ ベル歯科予防センター, ² ライオンインプラントセンター, ³ 星薬科大学, ⁴ 大阪市立大学): 乳幼児のミュータンス菌感染率の調査研究. 日本健康科学学会第 23 回学術大会, 東京, 平成 19 年 11 月 10 日.
 28. 鈴木仙一¹, 鈴木彰², 信川文秀², 松浦宏彰², 赤松哲次², 武田志保美¹, 渡辺亨⁴, 渋谷鉦³, 信川益明 (¹ ライオンインプラントセンター, ² ベル歯科予防センター, ³ 日本大学松戸歯学部, ⁴ 渡辺矯正歯科): 超高齢者にサージカルガイドを用いてインプラント治療した一症例. 日本健康科学学会第 23 回学術大会, 東京, 平成 19 年 11 月 10 日.
 29. 玉木一弘: 基調講演: 病院から暮らしにつなげる医療の展開. 日本リハビリテーション看護学会, 東京, 平成 19 年 11 月 10 日.
 30. 伊藤幸江、黒岩誠¹、元永拓郎²、早川東作³、檜木啓二⁴ (¹ 明星大学、² 帝京大学、³ 東京農工大学、⁴ 早稲田大学): 学生相談における緊急対応. 第 23 回精神衛生学会ミニシンポジウム, 東京, 平成 19 年 11 月 11 日.
 31. 竹野隆太¹, 天野浩之¹, 梶田雅義², 鈴木美千夫³, 大坪浩一⁴, 石井敏弘⁵, 信川益明, 梶本修身⁶ (¹ 株式会社総合医科学研究所, ² 梶田眼科, ³ ニデック, ⁴ 国立保健医療科学院技術評価部, ⁵ 聖霊クリストファー大学, ⁶ 大阪市立大学): 調節機能解析(AA-1)による眼精疲労評価法の検討. 第 36 回日本医療福祉設備学会, 東京, 平成 19 年 11 月 14 日.
 32. 稲富雄人: 鳥インフルエンザについて. 重慶日本商工クラブ・成都日本商工クラブ・雲南日本商工会・重慶総領事館共催在留邦人講演, 重慶, 2007 年 11 月 14 日.
 33. 河合 伸: 誤嚥性肺炎の治療と予防. イブニングシンポジウム「高齢者の呼吸

- 器障害にどう対処するか」 第 17 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会，東京，平成 19 年 11 月 15 日。
34. 信川益明（シンポジスト）：ヘルスプロモーションにおけるサプリメントの役割と評価の方法論．シンポジウム ヘルスプロモーションのための医療福祉施設と関連産業の戦略～サプリメントの正しい選択と適切な使用及び評価～．第 36 回日本医療福祉設備学会，東京，平成 19 年 11 月 15 日．
 35. 大坪浩一¹，石井敏弘²，梶本修身³，信川益明（¹ 国立保健医療科学院技術評価部，² 聖霊クリスチャー大学，³ 大阪市立大学）：地域医療計画の視点からみた「第五次改正医療法」の課題と展望．第 36 回日本医療福祉設備学会，東京，平成 19 年 11 月 15 日．
 36. 鈴木仙一¹，鈴木彰²，信川益明（¹ ライオンインプラントセンター，² ベル歯科医院）：最新のインプラントセンターのハードとソフトについて 第二報．第 36 回日本医療福祉設備学会，東京，平成 19 年 11 月 15 日．
 37. 鈴木彰¹，鈴木仙一²，梶本修身³，信川益明（¹ ライオンインプラントセンター，² ベル歯科医院，³ 大阪市立大学大学院）：最新の医療費控除支援システムのソフトとハード．第 36 回日本医療福祉設備学会，東京，平成 19 年 11 月 15 日．
 38. 渡辺圭一¹，原島敬一郎²，桑井太郎，久米雅彦³，徳植純也³，石田信彦^{1, 3}，林潤一（¹ 医療法人社団和風会リハビリテーション学院，² 杏林大・大学院医学研究科，³ 医療法人社団和風会メディカルフィットネスクリニック武蔵境）：MCFAN による全血流動性測定に及ぼすヘパリン採血とクエン酸 Na 採血の影響についての比較検討．第 1 回日本血流血管学会学術集会，東京，平成 19 年 12 月 8 日．
 39. 河合 伸：重症肺炎の病態と治療戦略．北和呼吸器カンファレンス：肺炎治療に対する新たな挑戦，奈良，平成 20 年 1 月 19 日．
 40. 玉木一弘他：医療における地域差．東京都病院協会シンポジウム，東京，平成 20 年 2 月 3 日．
 41. 山本実：脂質異常症の管理法．小金井市高脂血症予防教室，小金井，平成 20 年 2 月 8 日．
 42. 信川益明（教育講演）：わが国の医療の現状と将来像．第 5 回日本医療秘書学会学術大会，東京，平成 20 年 2 月 17 日．
 43. 野村幸史：野村病院におけるトップ・マネジメントの実際－医療事故の教訓－．認定病院患者安全推進協議会 平成 19 年度 患者安全推進全体フォーラム，東京，平成 20 年 3 月 1 日．
 44. 小林 治：新型インフルエンザの現状と対策．新型インフルエンザセミナー，上海，平成 20 年 3 月 5 日．
 45. 信川益明：包括医療の方法論と診療空間．シンポジウム 快適空間のための健康科学～未来のクリニックのための診療空間～．日本健康科学学会・CMP ジャパン合同シンポジウム，横浜，平成 20 年 3 月 19 日．
 46. 稲富雄人：新型インフルエンザと企業のパンデミック対策．2007 年度工業部会第二分科会第 9 回総会特別講演，北京，2008 年 3 月 21 日．
 47. 稲富雄人：鳥・新型インフルエンザについて．中国日本商会・北京日本人会合同「鳥インフルエンザセミナー」，北京，2008 年 3 月 24 日．

論文

1. 河合 伸：各種抗菌薬の種類と特徴・注意点 β -ラクタム系．臨床と研究 84：1311-1315，2007．
2. 西 圭史¹、中村貴枝子²、岡崎充宏³、永井 茂¹、小林 治、河合 伸（杏林大学病院・薬剤部，² 同 医療安全管理室、³ 同 検査部）：抗 MRSA 注射薬の

- 適正使用を目的とした ICT ラウンドの効果. 環境感染 22 : 85-90, 2007.
3. 河合 伸 : 慢性気道感染症－緑膿菌と宿主応答. 呼吸器科 12 : 30-36, 2007.
 4. 信川益明 : 地域ケアシステムとその評価. 月刊福祉 90(5) : 28-33, 2007.
 5. 小林 治 : 市中肺炎の治療薬. 最新医学 63 : 418-424, 2008.
 6. 佐藤秀昭, 大城正子¹, 柏崎一男¹, 藤本真人² (¹国家公務員共済組合連合会立川病院内科, ²独立行政法人産業技術総合研究所) : 当院糖尿病荻窪受講者におけるウエスト周囲径の検討, 東京都医師会雑誌 60 (4) : 120~123, 平成 19 年 5 月 15 日.
 7. 高松慶太¹, 野村幸史 (¹医療法人財団慈生会野村病院予防医学センター) : 人間ドックにおける原発性骨粗鬆症の診断基準に準拠した診断支援コンピュータシステムについて. 人間ドック 22 (1) : 7-12, 2007.
 8. 野村幸史 : メタボリックシンドローム検診検査技術マニュアル (2) 問診表一. 検査と技術 35 (11) : 1159-1167, 2007.
 9. 本田哲三¹, 玉木一弘, 堀田富士子¹, 山田拓実¹ 他 (¹(社)東京都医師会) : かかりつけ医診療所における介護予防活動の試み. 東京都医師会雑誌 60 (10) : 73-80, 2007.
- 10.

著書

1. 玉木一弘他共著 : 在宅医療ハンドブック. 東京都発行, 2008年3月.

その他

1. 信川益明 (組織委員長・実行委員長) : 日本健康科学学会シンポジウム 『快適な衣食住を演出する健康科学～快適空間によるアンチエイジングと食の安全～』, 東京医科大学病院, 東京, 平成 20 年 3 月 15 日.
2. 玉木一弘他共著 : 改正後の介護認定の円滑実施に向けた各種ガイドラインの作成報告書. 財団法人 日本公衆衛生協会 2007 年 3 月.

リハビリテーション医学教室

口演

1. 笹森寛生¹, 脊山英徳¹, 山田深, 西山和利², 栗田浩樹¹, 塩川芳昭¹, 山口芳裕³ (¹杏林大・医・脳神経外科, ²杏林大・医・神経内科, ³杏林大・医・救急医学) : 特徴的脳血管撮影所見を呈した脳底動脈解離の 2 例, 第 102 回日本脳神経外科学会関東支部会, 東京, 平成 19 年 4 月 21 日
2. 笹森寛生¹, 脊山英徳¹, 山田深, 内堀歩², 宮崎泰², 西山和利², 栗田浩樹¹, 塩川芳昭¹, 山口芳裕³ (¹杏林大・医・脳神経外科, ²杏林大・医・神経内科, ³杏林大・医・救急医学) : 特徴的脳血管撮影所見を呈した脳底動脈解離の 2 例, 第 53 回三多摩神経疾患懇話会, 東京, 平成 19 年 4 月 21 日
3. 西山和利¹, 栗田浩樹¹, 山田深, 松田剛明², 松本由美¹, 岡島康友, 塩川芳昭¹, 山口芳裕² (¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・救急医学) : 脳卒中センター開設が脳卒中診療へもたらす効果の検討, 第 48 回日本神経学会総会, 名古屋, 平成 19 年 5 月 16-18 日
4. 山田深 : <シンポジウム:脳卒中リハビリテーション・ストロークユニットの実学

- >急性期病院におけるリハビリテーション・システム 脳卒中ユニットに特化したリハビリテーション。第44回日本リハビリテーション医学会，神戸，平成19年6月6日-8日
5. 岡島康友：〈シンポジウム：リハビリテーション医の教育と質的向上〉指導医に求められることー指導医マニュアル案を含めて。第44回日本リハビリテーション医学会。神戸，平成19年6月6-8日。
 6. 林光俊¹、平川淳一²、岡島康友、川上純範³（¹杏林大・医・整形外科、²平川病院精神科、³山梨リハ病院）：精神科疾患を基礎とした身体合併症に対するリハビリテーション。第44回日本リハビリテーション医学会。神戸，平成19年6月6-8日。
 7. 山鹿眞紀夫¹，山口明¹，原寛美¹，近藤克則¹，山田深，伊勢眞樹¹，鴨下博¹，林拓男¹，大仲功一¹，門祐輔¹，藤島一郎¹，関口麻理子¹，川手信行¹，西村尚志¹（¹脳卒中リハデータバンク研究班）：FIM-BI 換算についての検討 脳卒中リハビリテーション患者データバンク 2006 年度登録データによる検討，第44回日本リハビリテーション医学会，神戸，平成19年6月6-8日
 8. 山鹿眞紀夫¹，山口明¹，原寛美¹，近藤克則¹，伊勢眞樹¹，鴨下博¹，林拓男¹，大仲功一¹，西村尚志¹，山田深¹，門祐輔¹，藤島一郎¹，関口麻理子¹，川手信行¹（¹脳卒中リハデータバンク研究班）：リハビリテーション訓練量と ADL 改善度，改善率の関連 脳卒中リハビリテーション患者データバンク 2006 年度登録データによる検討，第44回日本リハビリテーション医学会，神戸，平成19年6月6-8日
 9. 西川順治，山田深，岡島康友，山口明¹（¹武蔵村山病院・リハ科）：脳卒中リハビリテーションデータバンクを利用した ADL 予後予測の検討，第44回日本リハビリテーション医学会，神戸，平成19年6月6-8日
 10. 脊山英徳¹，栗田浩樹¹，窪田博¹，西山和利²，山田深，松本由美[#]，下斗米友美³，門馬博⁵，塩川芳昭¹，山口芳裕⁴（¹杏林大・医・脳神経外科，²杏林大・医・神経内科，³杏林大・医・脳卒中センター，⁴杏林大・医・救急医学、⁵杏林大・医・リハ室）：心臓血管外科手術を要した脳梗塞の2症例，第35回多摩脳神経外科懇話会，東京，平成19年6月7日
 11. 栗田浩樹¹，脊山英徳¹，山口竜一¹，西山和利²，岡野晴子²，山田深，松本由美³，加藤雅江³，山口芳裕⁴，塩川芳昭¹（¹杏林大・医・脳神経外科，²杏林大・医・神経内科，³杏林大・医・脳卒中センター，⁴杏林大・医・救急医学）：脳卒中センター開設が大学病院の脳卒中診療をどのように変えたかー杏林大学の経験，第26回 Mt Fuji Workshop on CVD，大阪，平成19年9月1日
 12. 新名由利子¹，岡崎雅代¹，山田深，松本由美¹，下斗米友美¹，門馬博⁵，岡島康友，栗田浩樹²，西山和利³，山口芳裕⁴（¹杏林大病院・脳卒中センター，²杏林大・脳外科，³杏林大・神経内科，⁴杏林大・救急医学、⁵杏林大：医・リハ室）：脳卒中による摂食・嚥下障害に対する摂食機能療法：Stroke Unit における看護介入の効果，第26回 Mt Fuji Workshop on CVD，大阪，平成19年9月1日
 13. 脊山英徳¹，栗田浩樹¹，窪田博¹，西山和利²，山田深，藤岡保範²，塩川芳昭¹，山口芳裕³（¹杏林大・医・脳神経外科，²杏林大・医・神経内科，³杏林大・医・救急医学）：心臓血管外科手術を必要とした脳梗塞の6症例，Mt Fuji 第26回 Mt Fuji Workshop on CVD，大阪，平成19年9月1日
 14. 野末恭子¹，栗田浩樹¹，脊山英徳¹，西山和利²，岡野晴子²，山田智美²，山田深，松本由美³，塩川芳昭¹，山口芳裕⁴（¹杏林大・医・脳神経外科，²杏林大・医・神経内科，³杏林大・医・脳卒中センター，⁴杏林大・医・救急医学、）：当院脳卒中センターで14ヶ月間に施行した rt-PA 静注療法53例の治療成績，第103回日本脳神経外科学会関東支部会，東京，平成19年9月8日
 15. 岡崎雅代¹，新名由利子¹，山田 深，下斗米友美¹，松本由美¹，栗田浩樹²，

西山和利⁴, 岡島康友, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・脳神経外科, ³杏林大・医・神経内科, ⁴杏林大・医・救急医学): 急性期脳卒中ユニットにおける口腔ケア介入効果. 第13回日本摂食嚥下リハビリテーション学会, さいたま, 平成19年9月13日

16. Okano Haruko, Kazutoshi Nishiyama, Hiroki Kurita, Seyama Hidenori, Satomi Yamada, Shin Yamada, Yumi Matsumoto, Atsuro Chiba, Yoshihiro Yamaguchi : Reversible splenium lesion of the corpus callosum accompanied by intracranial hemorrhage : A case report, 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep 27-28, 2007.
17. Kazutoshi Nishiyama, Hiroki Kurita, Shin Yamada, Takeaki Matsuda, Masae Kato, Yumi Matsumoto, Atsuro Chiba, Yasuhiro Okajima, Yoshiaki Shiokawa, Yoshihiro Yamaguchi : How do foundation of stroke care unit and establishment of hotline between ambulance and stroke care unit change acute stroke medicine in urban area of Japan, 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep 27-28, 2007.
18. Keiko Nemoto, Masae Kato, Hiroki Kurita, Shin Yamada, Hidenori Seyama, Kazutoshi Nishiyama, Haruko Okano, Hiroshi Momma, Yumi Matsumoto, Yumi Shimotomai, Yoshihiro Yamaguchi : Impact of social and famial support on living alone stroke survivors during the subacute recovery stage. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep 27-28, 2007.
19. Ryuichi Yamaguchi, Hiroki Kurita, Hidenori Seyama, Shin Yamada, Kazutoshi Nishiyama, Yumi Matsumoto, Yumi Shimotomai, Hiroshi Momma, Yoshihiro Yamaguchi, Yoshiaki Shiokawa : Treatment of ruptured anterior chroidal artery aneurysms : 12-year experience with 20 cases. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep 27-28, 2007.
20. Hiroki Kurita, Yoshiaki Shiokawa, Ryu-ichi Yamaguchi, Hidenori Seyama, Kazutoshi Nishiyama, Shin Yamada, Hiroshi Momma, Yumi Matsumoto, Yumi Shimotomai, Masae Kato, Yoshihiro Yamaguchi : Functional carotid artery trapping and reconstruction with radial artery graft for ruptured carotid blister-like aneurysms of the anterior wall : long-term results. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep 27-28, 2007.
21. Yuriko Niina, Shin Yamada, Masayo Okazaki, Yumi Matsumoto, Yumi Shimotomai, Hiroki Kurita, Kazutoshi Nishiyama, Yasutomo Okajima, Yoshihiro Yamaguchi : Effectiveness of a systematic oral care program for acute stroke unit care. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep 27-28, 2007.
22. Saegusa Y, Yamada S, Kuroda T, Matsumoto Y, Shimotomai Y, Mori M, Kurita H, Nishiyama K, Okajima Y, Yamaguchi Y : A Validation Study of the FIM for Use in Acute Stroke Unit Care Settings. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto , Sep 27-28, 2007.
23. Sasamori H, Kurita H, Seyama H, Nishiyama K, Uchibori A, Miyazaki T, Yamada S, Matsumoto Y, Shimotomai Y, Momma H, Kato M, Okajima Y, Shiokawa Y, Yamaguchi Y : Characteristic angiographic findings in basilar artery dissection : report of two cases. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep 27-28, 2007.
24. Shin Yamada, Yasutomo Okajima, Yuji Wada, Hiroki Kurita, Kazutoshi Nishiyama, Yumi Matsumoto, Yoshihiro Yamaguchi : Significance of ADL evaluation by the FIM among stroke patients who are transferred to the rehabilitation hospital. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep

- 27-28, 2007.
25. Masae Kato, Keiko Nemoto, Hiroki Kurita, Shin Yamada, Hidenori Seyama, Kazutoshi Nishiyama, Haruko Okano, Hiroshi Momma, Yumi Matsumoto, Yumi Shimotomai, Yoshihiro Yamaguchi : Effect of organized social working for discharge in a stroke unit. 2nd Meeting of Asia Stroke Forum, Kyoto, Sep 27-28, 2007.
26. 野末恭子¹, 栗田浩樹¹, 脊山英徳¹, 西山和利², 岡野晴子², 山田深, 松本由美³, 下斗米友美³, 加藤雅江³, 岡島康友, 門馬博⁵, 山口竜一¹, 山口芳裕⁴, 塩川芳昭¹ (¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・脳神経外科, ³杏林大・医・神経内科, ⁴杏林大・医・救急医学, ⁵杏林大・医・リハ室) : 都市型脳卒中センターを新規開設した杏林大学病院における1年間の脳卒中診療の総括, 第66回日本脳神経外科学会総会, 東京, 平成19年10月3-5日
27. 山田深 : 脳卒中ユニットケアの実践 第2回産業医科大学リハビリテーション医療研究会. 北九州, 平成19年10月6日
28. 東佑佳¹, 脊山英徳², 野末恭子², 本田有子², 林基高², 松本由美¹, 山田深, 西山和利³, 栗田浩樹², 山口芳裕⁴ (¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・脳神経外科, ³杏林大・医・神経内科, ⁴杏林大・医・救急医学) : 杏林大学病院脳卒中センターにおける非高血圧性脳出血の解析, 第36回杏林医学会総会, 東京, 平成19年11月17日
29. 瀧浦俊彦¹, 西山和利², 岡野晴子², 山田智美², 脊山英徳³, 山田深, 松本由美¹, 栗田浩樹³, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・神経内科, ³杏林大・医・脳神経外科, ⁴杏林大・医・救急医学) : 突発性難聴様の発症形式を呈し, その後同側 Wallenberg 症候群を合併した AICA 梗塞の一例, 第36回杏林医学会総会, 東京, 平成19年11月17日
30. 阿部昌之¹, 西山和利², 岡野晴子², 山田智美², 新田勇介³, 山田深, 松本由美¹, 栗田浩樹³, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・神経内科, ³杏林大・医・脳神経外科, ⁴杏林大・医・救急医学) : 脳塞栓の二次予防中にワルファリン抵抗症と判明した一例, 第36回杏林医学会総会, 東京, 平成19年11月17日
31. 黒田恵子¹, 西山和利², 岡野晴子², 新田勇介³, 山田深, 松本由美¹, 栗田浩樹³, 山口芳裕 (¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・神経内科, ³杏林大・医・脳神経外科, ⁴杏林大・医・救急医学) : 脳梗塞急性期に発生する脳塞栓再発についての検討, 第36回杏林医学会総会, 東京, 平成19年11月17日
32. 乾俊哉¹, 西山和利², 岡野晴子², 山田智美², 山田深, 松本由美¹, 栗田浩樹³, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・神経内科, ³杏林大・医・脳神経外科, ⁴杏林大・医・救急医学) : 全身性エリテマトーデス・抗リン脂質抗体症候群を合併した脳出血の一例, 第36回杏林医学会総会, 東京, 平成19年11月17日
33. Okazaki M, Niina Y, Shimotomai Y, Matsumoto Y, Yamada S, Kurita H, Yamaguchi Y : Significance of oral care in acute stroke unit. The 13th Interim Meeting of World Federation of Neurosurgical Societies (WFNS), and 12th Asian-Australasian Congress of Neurological Surgeons (AACNS), Nagoya, Japan, Nov18-21, 2007.
34. Tokisaki Y, Kuroda T, Matsumoto Y, Shimotomai Y, Mori M, Yamada S, Kurita H, Nishiyama K, Yamaguchi Y : A variation study of FIM in acute stroke unit settings. The 13th Interim Meeting of World Federation of Neurosurgical Societies (WFNS), and 12th Asian-Australasian Congress of Neurological Surgeons (AACNS), Nagoya, Japan, Nov18-21, 2007.
35. 山田深 : 脳卒中急性期リハビリテーションの実際. 第4回多摩 Stroke 研究会

立川 平成 20 年 2 月 14 日

36. Yamada S, Momma H, Kurita H, Nishiyamai K, Matsumoto Y, Okajima Y, Yamaguchi Y : Rehabilitation outcome and prognostic prediction in an acute stroke unit care settings. The 5th Asia Pacific Conference Against Stroke, Manila, Mar.14-16, 2008 .
37. 根本圭子¹, 加藤雅江¹, 栗田浩樹², 山田深, 脊山英徳², 西山和利³, 岡野晴子³, 門馬博⁵, 松本由美¹, 下斗米友美¹, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・脳神経外科, 杏林大・医・神経内科, ⁴杏林大・医・救急医学, ⁵杏林大・医・リハ科) : 亜急性期・回復期過程における単身生活者の社会的・家族的支援に関する影響. 第 33 回日本脳卒中学会. 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日
38. 時崎由紀¹, 黒田剛広¹, 岡崎雅代¹, 松本由美¹, 下斗米友美¹, 山田深, 栗田浩樹², 西山和利³, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・脳神経外科, ³杏林大・医・神経内科, ⁴杏林大・医・救急医学) : 脳卒中急性期における排尿障害. 第 33 回日本脳卒中学会. 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日
39. 松本由美¹, 下斗米友美¹, 山田深, 栗田浩樹², 西山和利³, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・脳神経外科, ³杏林大・医・神経内科, ⁴杏林大・医・救急医学) : 脳卒中急性期患者における看護必要度の妥当性についての検証. 第 33 回日本脳卒中学会. 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日
40. 木内善太郎¹, 西山和利², 脊山英徳³, 岡野晴子², 河合拓也³, 山田智美², 山田深, 松本由美¹, 栗田浩樹³, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・神経内科, ³杏林大・医・脳神経外科, ⁴杏林大・医・救急医学) : 脳出血における早期痙攣発作発現の臨床的検討 特に視床出血, 被殻出血に注目して. 第 33 回日本脳卒中学会. 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日
41. 西山和利¹, 脊山英徳², 岡野晴子¹, 山田智美¹, 松本由美³, 山田深, 栗田浩樹², 千葉厚郎¹, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・医・神経内科, ²杏林大・医・脳神経外科, ³杏林大・医・脳卒中センター, ⁴杏林大・医・救急医学) : 脳梗塞急性期におけるシロスタゾール投与開始方法に関する検討. 第 33 回日本脳卒中学会. 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日
42. 阿部昌之¹, 西山和利², 岡野晴子², 新田勇介³, 山田智美², 松本由美¹, 山田深, 栗田浩樹³, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医・脳神経外科, ³杏林大・医・神経内科, ⁴杏林大・救急医学) : ワルファリン抵抗性の自験例報告と当センターにおけるワルファリン療法の現状. 第 33 回日本脳卒中学会. 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日
43. 瀧浦俊彦¹, 西山和利², 岡野晴子², 脊山英徳³, 山田智美², 松本由美¹, 山田深, 栗田浩樹³, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・医・脳卒中センター, ²杏林大・医局・脳神経外科, ³杏林大・医・神経内科, ⁴杏林大・医・救急医学) : 突発性難聴様の発症形式を呈し他の中樞神経症状を欠いた前下小脳動脈梗塞の一例. 第 33 回日本脳卒中学会. 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日
44. 山田深, 門馬博⁵, 栗田浩樹¹, 西山和利², 松本由美³, 岡島康友, 山口芳裕⁴ (¹杏林大・医・脳神経外科, ²杏林大・医・神経内科, ³杏林大・医・脳卒中センター, ⁴杏林大・医・救急医学, ⁵杏林大・医・リハ室) : 脳卒中ユニットにおけるリハビリテーション帰結と予後予測. 第 33 回日本脳卒中学会. 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日
45. 脊山英徳¹, 栗田浩樹¹, 西山和利², 山田深, 塩川芳昭¹, 山口芳裕³ (¹杏林大・医・脳神経外科, ²杏林大・医・神経内科, ³杏林大・医・救急医学) : 杏林大学病院脳卒中センターで施行した tPA 静注療法の 66 例の解析. 第 33 回日本脳卒中学会. 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日
46. 栗田浩樹¹, 山口竜一¹池田俊貴¹, 脊山英徳¹, 西山和利², 山田深, 松本由美

³, 門馬博⁵、山口芳裕⁴, 塩川芳昭¹ (¹杏林大・医・脳外科, ²杏林大・医・神経内科, ³杏林大・医・脳卒中センター, ⁴杏林大・医・救急医学、⁵杏林大・医・リハ室): 救命救急・脳卒中センターにおける破裂 AVM の臨床像と急性期治療. 第 33 回日本脳卒中学会. 京都, 平成 20 年 3 月 20-22 日

論文

1. 木村雅彦¹, 高見佳宏², 渡邊彰², 山田拓実³, 岡島康友, 山口芳裕⁴, 山崎秀治⁴ (¹北里大・医療衛生・理学療法, ²西部総合病院・形成外科, ³東京都立保健科学大学・大学院, ⁴杏林大・医・救急医学): リハビリテーションによる高齢重症熱傷患者の予後改善について. 熱傷 33: 1-7, 2007.
2. 山田深: 脳卒中リハビリテーション・ストロークユニットの実学 急性期病院におけるリハビリテーション・システム 脳卒中ユニットに特化したリハビリテーション 文献的考察も含めて. リハビリテーション医学 44: 649-653, 2007
3. 山田深: 【片麻痺の手 利き手交換でいいのか?】 片麻痺の回復パターンと同側性運動路の関与. 臨床リハビリテーション 16: 919-924, 2007
4. 山田深: 【介護福祉用具実践マニュアル】 歩行器, 歩行補助つえ. MEDICAL REHABILITATION 77: 59-66, 2007
5. 岡島康友: 指導医に求められることー日本専門医認定制機構の意図ー. リハビリテーション医学 44(9): 491-494, 2007.
6. 岡島康友: リハビリテーション医療工学と情報技術. 総合リハビリテーション 35(10): 1233-38, 2007.
7. 山田深, 下斗米友美, 松本由美: よくわかる疾患のハナシ 脳卒中急性期. リハビリテーションナース 1: 58-63, 2008
8. 西川順治, 山田深, 門馬博¹, 岡島康友 (¹杏林大・医・リハ室): Stroke unit における急性期脳卒中リハビリテーション. MEDICAL REHABILITATION 85: 70-75, 2008

著書

1. 山田深, 栗田浩樹¹, 西山和利² (¹杏林大・脳外科、²杏林大・神経内科): 連携パス実例集 都市型脳卒中診療連携の一例. 脳卒中リハビリテーション連携パス. 日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会編, 東京, 2007, 医学書院, p87-92.
2. 山田深: ユットパスの実際: 排尿. 脳卒中リハビリテーション連携パス. 日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会編, 東京, 2007, 医学書院, p163-167.

その他

1. 山田深: ADLの評価~FIMを用いて~. 世田谷区立総合福祉センター事業説明会 東京 平成19年 7月12日
2. 山田深: 連携の基礎となる障害の評価~FIMを中心に~北多摩南部地域リハビリテーション支援センター講演会 武蔵野市 平成19年10月11日
3. 山田深: FIMに関する基本知識と地域での活用について. やっちゃんリハビリ 2008春. 宮崎, 平成20年3月29日

「リハビリテーション室」

口演

1. 門馬博¹, 山田深, 手塚純一¹, 森光代¹, 松本由美², 下斗米友美², 栗田浩樹², 西山和利², 岡島康友, 山口芳裕² (¹杏林大病院・リハ室、²杏林大病院・脳卒中センター): 当院脳卒中センターにおけるリハビリテーション介入効果の検討～在院日数とADL改善効率の比較～. 第42回日本理学療法学会, 新潟市, 平成19年5月24-25日

2. 西田悠一郎¹, 由利雅芳¹, 境哲生¹, 山田深, 岡島康友 (¹杏林大病院・リハ室): Churg-Strauss Syndrome (CSS) に対する長期理学療法の経験－独歩可能となった一例における回復過程－. 第42回日本理学療法学会, 新潟市, 平成19年5月25日

3. Momma H 1, Yamada S, Tezuka J 1, Mori M 1, Matsumoto Y 2, Shimotomai Y 2, Kurita H 2, Nishiyama K 2, Okajima Y & Yamaguchi Y 2 (1Div of Rehab, Kyorin Univ Hospital, 2 Stroke Ctr, Kyorin Univ Hospital): Outcome of early acute-phase rehabilitation in our stroke unit and analysis of factors affecting discharge destination. World Physical Therapy 2007, Vancouver, Jun. 2-6, 2007

4. 三澤里織¹, 城間敏子¹, 木村雅彦¹, 岡島康友, 小泉健雄³, 後藤義昭³, 和田貴子³, 島崎修次³, 中澤千香⁴, 高見佳宏³, 田中秀治³ (¹杏林大・医・リハ室, ²杏林大・医・医療福祉相談室, ³杏林大・医・熱傷センター, ⁴土浦協同病院・リハビリ科): 重篤なADL障害を呈した自殺企図患者の治療経験. 第33回日本熱傷学会. 平成19年6月7-8日

5. 門馬博¹ (¹杏林大・医・リハ室): メンタルプラクティスに効果的な運動イメージ想起方略の検討. 第17回運動学習研究会, 藤沢市, 平成19年6月16日

6. 森光代¹, 山田深, 松本由美², 岡島康友 (¹杏林大・医・リハ室、²杏林大・医・脳卒中センター): 脳卒中ユニットにおけるOT介入. 第41回日本作業療法学会, 鹿児島県鹿児島市, 平成19年6月23日

7. Ishita K 1, Yamada S, Mori M 1, Okajima Y, Matsumoto Y 2, Kurita H 2, Shimotomai Y 2, Nishiyama K 2 & Yamaguchi Y 2 (1Div of Rehab, Kyorin Univ Hospital, 2 Stroke Ctr, Kyorin Univ Hospital): Symptomatology and Rehabilitation Outcomes of Unilateral Spatial Neglect Caused by Posterior Cerebral Artery Lesion. The 2nd Meeting of Asian Stroke Forum, Kyoto, September 27-28, 2007

8. Sakai T 1, Yamada S, Momma H 1, Okajima Y, Kurita H 2, Nishiyama K 2, Seyama H 2, Okano H 2, Matsumoto Y 2, Yamaguchi R 2 (1Div of Rehab, Kyorin Univ Hospital, 2 Stroke Ctr, Kyorin Univ Hospital): Rehabilitation course and outcome of stroke patients treated with t-PA. The 2nd Meeting of Asian Stroke Forum, Kyoto, September 27-28, 2007

9. 野北一樹¹, 山田深, 栗田浩樹² (¹杏林大・医・リハ室、²杏林大・医・脳神経外科): 脳腫瘍患者に対する理学療法介入-ADL変化と転帰について-. 第25回日本

私立医科大学理学療法学会，東京都，平成19年10月7日

10. 門馬博¹，山田深，境哲生¹，石田幸平¹，前田直¹，東條友紀子¹，岡島康友
(¹杏林大・医・リハ室)：アルテプラゼ (t-PA) 静注療法後の脳卒中急性期理学療法
の経験．第4回日本理学療法士協会神経系理学療法研究部会学術集会，横浜市，
平成19年12月1-2日

11. 佐藤敦子¹，境哲生¹，山田深，小林啓一² (¹杏林大・医・リハ室、²杏林大・
医・脳神経外科)：短期間に症状の変動を認めた転移性脳腫瘍患者に対する理学療法．
第4回日本理学療法士協会神経系理学療法研究部会学術集会，横浜市，平成19
年12月2日

12. 石田幸平¹，山田 深，門馬 博¹，境 哲生¹，前田 直¹ (¹杏林大・医・リハ
室)：アルテプラゼ (t - P A) 静注療法後の高次脳機能障害とリハビリテーシ
ョン．第33回日本脳卒中学会総会，京都市，平成20年3月20日

論文

1. 前田直¹，原田貴子，岡島康友 (¹杏林大・医・リハ室)：上肢機能障害の評価
．総合リハビリテーション35：1297-1302，2007

2. 野北一樹¹，山田深，栗田浩樹² (¹杏林大・医・リハ室，²杏林大・医・脳神
経外科)：脳腫瘍患者に対する理学療法介入- ADL変化と転帰について-．日本私立
医科大学理学療法学会誌 25：65-68，2008

解剖学教室 (I)

I. 口演

1. Borke J.L. ¹，Amano K & McNeil P.L. ¹ (¹Medical College of Georgia,
Augusta, USA) : Activation of Gene Expression by Toothbrushing
Induced Cell Wounding. IADR2007, New Orleans, 2007.3.25-27. (追加)

2. 森山浩志¹，島田和幸²，原田智紀³，相澤信³，天野カオリ，松村讓兒，大塚成
人¹ (¹昭和大・医・第2解剖，²鹿児島大院・医歯学総研，³日大・医・機能形
態生体構造)：頸部郭清術の肉眼解剖：解剖体での試み．第11回臨床解剖研究
会，富山，平成19年7月7日．

3. 白石尚基：偶発的全脊椎麻痺後に改善を示した線維筋痛症の1例．第1回線維筋
痛症研究会，千代田区，平成19年9月23日．

4. 柿本光¹，灰塚嘉典²，天野カオリ，白石尚基，松村讓兒 (¹ 杏林大・医・学生，
² 杏林大・医・解剖学院生)：足底方形筋 の両側欠如が認められた一例．日本解
剖学会関東支部第95回学術集会．川越，平成19年11月10日．

5. 深瀬徹¹，永島雅文²，松村讓兒 (¹明薬大，²埼玉医大・医・解剖)：薬学におけ
る解剖学教育の現状と効果的な教育システム構築のための方策に関する考察．
日本解剖学会関東支部第95回学術集会．川越，平成19年11月10日．

6. 白石尚基, 桂戴作¹ (¹ ストレス医学研究所) : SSRI はうつ傾向を呈する脊髄性障害患者が抱えるリハビリテーション意欲の低下を改善するのか? . 第 12 回日本心療内科学会総会, 大阪市, 平成 19 年 12 月 1 日.
7. 白石尚基, 松村讓兒, 上原明仁: 足底方形筋の両側 (筋成分) 欠如例の検討. 第 113 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大分, 平成 20 年 3 月 27-29 日.
8. 白石尚基, 松村讓兒, 上原明仁: 安全な取穴のための経穴周囲の臨床解剖教材およびデータベースの作成. 第 113 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大分, 平成 20 年 3 月 27-29 日.
9. 天野カオリ, 森山浩志¹, 島田和幸², 松村讓兒 (¹ 昭和大・医・第 2 解剖, ² 鹿児島大院・医歯学総研・神経病理学・歯科応用解剖学分野) : 胎児ならびに成人耳下腺管の形態学的観察—特に頬筋との関係について—. 第 113 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大分, 平成 20 年 3 月 27-29 日.
10. 森山浩志¹, 天野カオリ, 伊藤純治², 松村讓兒, 島田和幸³, 大塚成人¹ (¹ 昭和大・医・第 2 解剖, ² 昭和大・保健医療・理学療法, ³ 鹿児島大院・医歯学総研・神経病理学・歯科応用解剖学分野) : ヒト顔面神経麻痺の形態学的研究. 第 113 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大分, 平成 20 年 3 月 27-29 日.

II. 論文

1. Kobayashi Y & Amaral D. G¹ (¹ M. I. N. D. Institute, Dept. of Psychiatry and Behavioral Sciences, Center for Neuroscience, California National Primate Research Center U.C. Davis.) : Macaque Monkey Retrosplenial Cortex: III. Cortical Efferents. *Journal Comparative neurology* 502:810-833, 2007
2. Shiraishi N & Matsumura G: Identification of Two Accessory Muscle Bundles with Anomalous Insertions in the Flexor Side of the Right Forearm. *Okajimas Folia Anat, Jpn.* 84: 35-42, 2007.
3. 白石尚基, 松村讓兒, 柿本光¹, 大森康宏¹, 氣賀澤秀明¹, 武田郁恵¹, 山崎慶一¹ (¹ 杏林大・医・学生) : 右前腕屈側にみられた 2 種類の破格筋束. *形態科学* 10: 91-94, 2007.
4. Amano K, Miyake K¹ Borke J.L. ¹, & McNeil P.L. ¹ (¹ Medical College of Georgia, Augusta, USA) : Breaking Biological Barriers with a Toothbrush. Brushing disrupts cell plasma membrane barriers in the oral cavity and activates gene expression events that may lead to local adaptive changes in tissue architecture beneficial to gingival health. *Journal of Dental Research* 86: 769-774, 2007.
5. Moriyama H¹, Amano K, Masahiko I², Shimada K³, & Otsuka N¹ (¹ Dept. of Anat. Univ. Med., ² Dept. of Anat. Tokyo Med. Univ. ³ Dept. of Neurology

Gross Anat. Section, Kagoshima Univ. Graduate School of Med. and Dental Sciences) : Morphometric aspects of peripheral nerves in adults and the elderly. Journal of Peripheral Nervous System 12 : 205-209, 2007.

6. Shiraishi N, Matsumura G & Uehara Akihito: Morphological Classification of the Anterior and Middle Talocalcaneal Joints in Terms of Biomechanical Stress Dispersion. Okajimas Folia Anat, Jpn. 84:43-48, 2007.
7. 白石尚基 : 高齢者頸椎症性脊髄症の脊髄形態計測. 形態科学 11 : 33-37, 2007.

Ⅲ. 著書

1. 松村讓兒 : 血液・免疫. 人体の正常解剖と機能. 坂井建雄, 川原克雅. 東京, 日本医事新報社, 2008. p. 471-521.
2. 松村讓兒 : PT・OT 必修シリーズ 消っして忘れない解剖学要点整理ノート. 東京, 羊土社, 2008.

Ⅳ. その他

1. 松村讓兒 (監修) : 病気がみえる 10 . 産科. 東京, メディックメディア, 2007 .
2. 松村讓兒 (訳) : ガートナー/ハイアット組織学カラーアトラス 第2版. 松村讓兒, 川上速人, 高見茂, 天野カオリ (訳), 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2007, 第5, 7-9, 14-16章.
3. 天野カオリ (訳) : ガートナー/ハイアット組織学カラーアトラス 第2版. 松村讓兒, 川上速人, 高見茂, 天野カオリ (訳), 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2007, 第4, 6, 12, 13章.
4. 松村讓兒 (監修) : 病気がみえる 4 . 呼吸器. 東京, メディックメディア, 2007.
5. 松村讓兒 (編集) : ステッドマン医学大事典 改訂第6版. 高久史磨 (総監修), 東京, メジカルビュー社, 2007.
6. 松村讓兒 (監修) : 病気がみえる 2 . 循環器 第2版. 東京, メディックメディア, 2008.
7. 松村讓兒 (監修) : 病気がみえる 1 . 消化器 第3版. 東京, メディックメディア, 2008.
8. 松村讓兒 : 人体のしくみと働きを学ぼう. 体温と熱のはなし. 看護学生 55 : 2-4, 2007.

9. 松村讓兒：人体のしくみと働きを学ぼう．消化管の役目．看護学生 55：2-4, 2007.
10. 松村讓兒：人体のしくみと働きを学ぼう．神経が圧迫されると．看護学生 55：2-4, 2007.
11. 松村讓兒：人体のしくみと働きを学ぼう．痔のはなし．看護学生 55：2-4, 2007.
12. 松村讓兒：人体のしくみと働きを学ぼう．赤ちゃんの血液循環．看護学生 55：2-4, 2007.
13. 松村讓兒：人体のしくみと働きを学ぼう．めまいの話．看護学生 55：2-4, 2007.
14. 松村讓兒：人体のしくみと働きを学ぼう．脳って何をするの？．看護学生 55：2-4, 2007.
15. 松村讓兒：人体のしくみと働きを学ぼう．頭痛のはなし．看護学生 55：2-4, 2007.
16. 松村讓兒：人体のしくみと働きを学ぼう．リンパ管のはなし．看護学生 55：2-4, 2007.
17. 白石尚基, 上原明仁：安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学 第1回目．医道の日本 772：262-263, 2008.
18. 松村讓兒：人体のしくみと働きを学ぼう．記憶のはなし．看護学生 55：2-4, 2008.
19. 白石尚基, 上原明仁：安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学 第2回目．医道の日本 773：105-111, 2008.
20. 白石尚基, 上原明仁：安全な刺鍼のための経穴臨床解剖学 第3回目．医道の日本 774：196-201, 2008.
21. 天野カオリ：第113回日本解剖学会総会・全国学術集会 献体学術賞：胎児ならびに成人耳下腺管の形態学的観察—特に頬筋との関係について—．大分，平成20年3月28日．
22. 白石尚基：平成19年度総括研究報告書．厚生労働科学研究費補助金．医療安全・医療技術評価総合研究事業：安全な取穴のための経穴周囲の臨床解剖教材の作成．
23. 白石尚基：平成19年度総合研究報告書．厚生労働科学研究費補助金．医療安全・医療技術評価総合研究事業：安全な取穴のための経穴周囲の臨床解剖教材の作成．
24. 天野カオリ：平成19年度文部科学省科学研究費．若手研究B：損傷歯髄細胞の膜修復機構—象牙芽細胞への分化誘導への検討—．

解剖学教室（Ⅱ）

【口演】

1. 秋元義弘, 岡村匡史¹, 福田稔², 松原幸枝², 植木麻衣子², 近藤由美³, 渡部智美³, 今泉美佳⁴, 永松信哉⁴, 渡邊卓⁵, 川上速人 (¹国立国際医療センター研究所、²杏林大・医・電顕室、³日本電子データム・国際技術研修センター、⁴杏林大・医・生化学、⁵杏林大・医・臨床検査医学) : 新規ヒト2型糖尿病モデル動物 (LEA-DP/Sendaiラット) の網膜、角膜における形態変化. 日本顕微鏡学会第63回学術講演会, 新潟, 平成19年5月20~22日.
2. 宮東昭彦, 川上速人 : チュートリアル「顕微鏡なんてきらいだ! - - 好きになるかもしれないヒント」. デジタルに不信感? - - 画像処理から電子投稿まで, 安心できるワークフロー. 日本顕微鏡学会第63回学術講演会, 新潟, 平成19年5月20~22日.
3. Li Y¹, Kanai-Azuma M, Kawakami H, Kanai Y¹ (¹Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine) : *LATI* deficient mice show lack of the vascular network in the dorsal region of the trunk during embryonic development. 第40回日本発生生物学会・第59回日本細胞生物学会 合同大会, 福岡, 平成19年5月28~30日.
4. Hara K¹, Tunekawa N¹, Watanabe Y¹, Sakamoto Y¹, Miura Y¹, Kanai-Azuma M, Kurohmaru M¹, Kanai Y¹ (¹Department of Veterinary Anatomy, The University of Tokyo) : Aberrant migration of primordial germ cells in the *Sox17*¹⁻ mouse embryos. 第40回日本発生生物学会・第59回日本細胞生物学会 合同大会, 福岡, 平成19年5月28~30日.
5. Hoshino A¹, Hiramatsu R¹, Matoba S¹, Kanai-Azuma M, Tsunekawa N¹, Kuromaru M¹, Kanai Y¹ (¹Department of Veterinary Anatomy, The University of Tokyo) : Analysis of *Sry* actions in gonadal sex differentiation by using *Hsp-Sry* transgenic mice. 第40回日本発生生物学会・第59回日本細胞生物学会 合同大会, 福岡, 平成19年5月28~30日.
6. 秋元義弘 : (招待講演) レクチンを用いた糖鎖情報の組織細胞化学的検出. 第108回電子顕微鏡技術研究会, 東京, 平成19年6月9日.
7. 白田茂樹¹, 宮崎浩二², 川上速人, 東原正明² (¹北里大・医・医療系大学院, ²北里大・医・血液内科) : Myosin VIの血液細胞における発現と局在の検討. 第49回日本平滑筋学会総会, 橿原, 平成19年7月4~6日.

7. Usuda S¹, Miyazaki K¹, Watanabe M¹, Mohri H², Kawakami H, Higashihara M¹
(¹Department of Internal Medicine, Kitasato University School of Medicine, ²Fujieda General Hospital): Localization and expression of myosin VI in human haematopoietic cells including platelets. XXIst Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis, Geneva, July 5-12, 2007.

8. Akimoto Y, Hart GW¹, Wells L², Vosseller K³, Yamamoto K⁴, Munetomo E⁴, Ohara-Imaizumi M⁵, Nishiwaki C⁵, Nagamatsu S⁵, Hirano H, Kawakami H
(¹Department of Biological Chemistry, Johns Hopkins University School of Medicine, USA, ²Biochemistry & Molecular Biology, Complex Carbohydrate Research Center, University of Georgia, USA, ³Department of Biochemistry and Molecular Biology, Drexel University College of Medicine, USA, ⁴Medicinal Research Laboratories, Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., ⁵Department of Biochemistry, Kyorin University School of Medicine): Elevation of the post-translational modification of proteins by O-linked N-acetylglucosamine leads to deterioration of the glucose-stimulated insulin secretion in the pancreas of diabetic Goto-Kakizaki rats. XIX International Symposium on Glycoconjugates (Glyco19), Cairns, July 15-20, 2007.

9. 宮東昭彦：画像解析ソフト（ImageJなど）の使用と展開．第32回組織細胞化学講習会，京都，平成19年8月7～8日．

10. 的場章悟¹，金井正美，平松竜司¹，恒川直樹¹，川上速人，金井克晃¹，九郎丸正道¹（¹東京大・農・獣医解剖）：マウス，セルトリ前駆細胞でのグリコーゲン蓄積の意義．第144回日本獣医学会学術集会，江別，平成19年9月2～4日．

11. 金井正美，金井克晃¹，川上速人（¹東京大・農・獣医解剖）：マウスI-typeレクチンSiglecの胎児期生殖腺における機能解析．第144回日本獣医学会学術集会，江別，平成19年9月2～4日．

12. 原健士朗¹，恒川直樹¹，渡邊陽子¹，金井正美，金井克晃¹，九郎丸正道¹（¹東京大・農・獣医解剖）：マウス始原生殖細胞の移動における腸管内胚葉の役割．第144回日本獣医学会学術集会，江別，平成19年9月2～4日．

13. 光永敬子¹，秋元義弘，藤田和将¹，服部俊治²，磯部直子²，入江伸吉²，楠慎一郎³，川上速人，坂本尚昭¹，山本卓¹，赤坂甲治⁴（¹広島大・院理・数理分子生

- 命, ²ニッピ, ³LSL, ⁴東京大・院理・臨海) : 細胞外に局在する哺乳類アリールスルファターゼ. 日本動物学会第78回大会, 弘前, 平成19年9月20~22日.
14. 小川裕子¹, 福田稔², 金井正美, 秋元義弘, 川上速人, 矢ノ下良平¹ (¹星薬大・医薬研、²杏林大・医・電顕室) : 外分泌液中のexosome様小胞の性状解析. 第51回日本薬学会関東支部大会, 東京, 平成19年10月6日.
 15. 金井正美, 川上速人 : (平成19年度杏林大学医学部研究奨励賞中間発表) Sox17ヘテロ変異動物を用いた肝疾患モデルマウスの作製と解析. 第36回杏林医学会総会, 三鷹, 平成19年11月17日.
 16. 小川裕子¹, 福田稔², 金井正美, 秋元義弘, 川上速人, 矢ノ下良平¹ (¹星薬大・医薬研、²杏林大・医・電顕室) : 外分泌液に存在する新規膜小胞の性状解析. 第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学大会 合同大会, 横浜, 平成19年12月11~15日.
 17. 藤田和将¹, 磯部直子², 服部俊治², 入江伸吉², 光永敬子¹, 秋元義弘, 川上速人, 坂本尚昭¹, 山本卓¹, 赤坂甲治³ (¹広島大・院・理, ²ニッピ・バイオマトリックス研究所, ³東京大・院・理) : マウスアリールスルファターゼAの細胞外基質としての機能に関する研究. 第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学大会 合同大会, 横浜, 平成19年12月11~15日.
 18. 帯刀章子¹, 森本理代¹, 秋元義弘 (¹帝京大・薬・生理化学) : ビタミンAによる表皮粘液化生誘導 - - 上皮-間充織相互作用におけるtgm2 / G_hの役割. 第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学大会 合同大会, 横浜, 平成19年12月11~15日.
 19. 的場章悟¹, 金井正美, 平松竜司¹, 恒川直樹¹, 九郎丸正道¹, 川上速人, 金井克晃¹ (¹東京大・脳・獣医解剖) : 性分化期のセルトリ細胞におけるSox9発現維持と高エネルギー要求性. 第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学大会 合同大会, 横浜, 平成19年12月11~15日.
 20. 小川裕子¹, 福田稔², 金井正美, 秋元義弘, 川上速人, 矢ノ下良平¹ (¹星薬大・医薬研、²杏林大・医・電顕室) : ヒト唾液に存在するエキソソームの性状解析. 日本薬学会第128年会, 横浜, 平成20年3月26~28日.

21. 秋元義弘, Hart GW¹, 平野寛, 川上速人 (¹Department of Biological Chemistry, Johns Hopkins University School of Medicine): シンポジウム「ナノワールドに於ける遺伝子産物動態」糖転移酵素による核内での糖修飾の制御. 第113回日本解剖学会総会・全国学術集会, 由布, 平成20年3月27~29日.
22. 宮東昭彦, 松原幸枝¹, 川上速人 (¹杏林大・医・電顕室): ラット下垂体Pit-1/LH β 共陽性細胞の検出. 第113回日本解剖学会総会・全国学術集会, 由布, 平成20年3月27~29日.
23. 金井正美, 金井克晃¹, 川上速人 (¹東京大・農・獣医解剖): I型レクチン Siglecのマウス生殖腺における発現と機能解析. 第113回日本解剖学会総会・全国学術集会, 由布, 平成20年3月27~29日.
25. 上村麻美¹, 原健士朗¹, 三浦雄太郎¹, 恒川直樹¹, 金井正美, 金井克晃¹, 九朗丸正道¹ (¹東京大・農・獣医解剖): 前腸の内胚葉臓器でのSox17の役割. 第145回日本獣医学会学術集会, 相模原, 平成20年3月28~30日.

【論文】 1. Ohara-Imaizumi M¹, Fujiwara T², Nakamichi Y¹, Okamura T⁴, Akimoto Y, Kawai J^{1,5}, Matsushima S³, Kawakami H, Watanabe T³, Akagawa K², Nagamatsu S¹ (¹Department of Biochemistry, ²Department of Cell physiology, ³Department Clinical Pathology, Kyorin University School of Medicine, ⁴Division of Animal Models, Department of Infectious Diseases, Research Institute, International Medical Center of Japan, ⁵Department of Medicine, Metabolism and Endocrinology, Juntendo University School of Medicine): Imaging analysis reveals mechanistic differences between first- and second-phase insulin exocytosis. *J Cell Biol* 177: 695-705, 2007.

2. Nakajyo A¹, Khoshnoodi J², Takenaka H³, Hagiwara E³, Watanabe T⁴, Kawakami H, Kurayama R¹, Sekine Y¹, Bessho F¹, Takahashi S⁵, Swiatecka-Urban A⁶, Tryggvason K⁷, Yan K¹ (Departments of ¹Pediatrics, ³Biochemistry, ⁴Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Medicine, Division of Nephrology and Hypertension, Vanderbilt University, ⁵Department of Pediatrics, Nihon University School of Medicine, ⁶Department of Cell Biology and Physiology, university of Pittsburgh School of Medicine, ⁷Department of Medical Biochemistry and Biophysics, Division of matrix Biology, Karolinska Institute): Mizoribine corrects defective nephrin biogenesis by restoring intracellular energy balance. *J Am Soc*

Nephrol 18: 2554-2564, 2007.

3. Shimoda M^{1,2}, Kanai-Azuma M, Hara K³, Miyazaki S², Kanai Y³, Monden M¹, Miyazaki J² (1Department of Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, 2Division of Stem Cell Regulation Research, Osaka University Graduate School of Medicine, 3Department of Veterinary Anatomy, The University of Tokyo)): Sox17 plays a substantial role of in late-stage differentiation of the extraembryonic endoderm in vitro. J Cell Sci 120: 3859-3869, 2007.
4. Sakamoto Y¹, Hara K¹, Kanai-Azuma M, Matsui T¹, Miura Y¹, Tsunekawa N¹, Kurohmaru M¹, Saijoh Y^{2,3}, Koopman P⁴, Kanai Y¹ (1Department of Veterinary Anatomy, The University of Tokyo, 2Department of Neurobiology and Anatomy, University of Utah, USA, 3The Program in Human molecular Biology and Genetics, The Eccles Institute of Human Genetics, University of Utah, USA, 4Institute for Molecular Bioscience, The University of Queensland, Australia): Redundant roles of *Sox17* and *Sox18* in early cardiovascular development of mouse embryos. Biochem Biophys Res Commun 360: 539-544, 2007.
5. Crane C¹, Akhter N¹, Johnson BW¹, Iruthayanathan M², Syed F¹, Kudo A, Zhou YH³, Childs GV¹ (1Department of Neurobiology and Developmental Sciences, College of Medicine, University of Arkansas for Medical Sciences, USA, 2Division of Endocrinology, Department of Internal Medicine, Roy J. and Lucille A. Carver College of Medicine, The University of Iowa, USA, 3Department of Neurological Surgery, University of California Irvine, USA): Fasting and glucose effects on pituitary leptin expression: is leptin a local signal for nutrient status? J Histochem Cytochem 55: 1059-1073, 2007.
6. Ichikawa-Shindo Y¹, Sakurai T¹, Kamiyoshi A¹, Kawate H¹, Iinuma N¹, Yoshizawa T¹, Koyama T¹, Fukuchi J¹, Iimuro S², Moriyama N³, Kawakami H, Murata T⁴, Kangawa K⁵, Nagai R², Shindo T^{1,6} (1Department of Organ Regeneration, Shinshu University Graduate School of Medicine, 2Department of Cardiovascular Medicine, University of Tokyo, 3Department of Experimental Nursing, Faculty of Nursing, Fukuoka Prefectural University, 4Department of Ophthalmology, Shinshu University Graduate School of Medicine, 5National Cardiovascular Center Research Institute, 6PRESTO, Japan Science and Technology

Agency): The GPCR modulator protein RAMP2 is essential for angiogenesis and vascular integrity. *J Clin Invest* 118: 29-39, 2008.

7. Kabir-Salmani M^{1,2}, Fukuda MN³, Kanai-Azuma M, Ahmed N⁴, Shiokawa S⁵, Akimoto Y, Sakai K⁵, Nagamori S⁶, Kanai Y⁴, Sugihara K⁵, Iwashita M⁵ (¹Molecular and Cellular Research Center, Faculty of Medicine, Shahid Beheshti Medical University, ²Department of Medical Genetics, National Institute of Genetic Engineering and Biotechnology, Iran, ³Tumor Microenvironment Program, Cancer Research Center, Burnham Institute for Medical Research, USA, ⁴Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, ⁵Department of obstetrics and Gynecology, Kyorin University School of Medicine, ⁶Department of General Medicine, Kyorin University School of Medicine): Themembrane-spanning domain of CD98 heavy chain promotes $\alpha_v\alpha_3$ integrin signals in human extravillous trophoblasts. *Mol Endocrinol* 22: 707-715, 2008.
8. Mizukami T¹, Kanai Y¹, Fujisawa M¹, Kanai-Azuma M, Kurohmaru M¹, Hayashi Y² (¹Department of Veterinary Anatomy, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, ²Department of Global Animal Resource Science, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo): Five azacytidine, a DNA methyltransferase inhibitor, specifically inhibits testicular co formation and Sertoli cell differentiation in vitro. *Mol Reprod Dev* 75: 1002-1010, 2008.

【著書】

1. 宮東昭彦, 川上速人: 画像解析ソフト (ImageJなど) の使用と展開. 組織細胞化学2007- 組織細胞化学の基本から先端技術まで-. 日本組織細胞化学会編. 東京, 学際企画, 2007. p. 181-190.

統合生理学

I 口演

1. 渋谷賢, 五十嵐一峰¹, 佐野秀仁¹, 高橋雅人¹, 里見和彦¹, 大木紫 (杏林大・医・整形外科) : リーチング運動中の視覚ターゲットの移動により引き起こされる修正運動. 第1回Motor Control研究会, 岡崎市, 平成19年6月28日
2. 八木淳一 : 虚血による組織酸性化を感知する酸感受性イオンチャネルASIC3. 第29回日本疼痛学会, 横浜市, 平成19年7月7日
3. 渋谷賢, 五十嵐一峰¹, 佐野秀仁¹, 高橋雅人¹, 里見和彦¹, 大木紫 (杏林大・医・整形外科) : 視覚ターゲットの移動がリーチング運動に及ぼす影響. 第30回日本神経科学学会, 横浜市, 平成19年9月12日
4. 平井直樹, 佐々木成人¹, 内藤公郷¹, 本郷利憲¹ (東京都神経科学研究所) : サルの道具使用概念形成の萌芽. 第30回日本神経科学学会, 横浜市, 平成19年9月12日
5. 平井直樹, 佐々木成人¹, 内藤公郷¹, 本郷利憲¹ (東京都神経科学研究所) : 道具使用に伴う感覚運動統合の形成過程. 第61回日本人類学会, 新潟市, 平成19年10月8日
6. Ohki Y, Nakajima T¹, Tazoe T², Sakamoto M³, Endoh T⁴, Shibuya S, Komiyama T^{2,5} (¹国立リハセンター研究所・運動障害部、²東京学芸大学・連合大学院、³早稲田大学・スポーツ科学学術院、⁴順天堂大学・スポーツ健康科学部、⁵千葉大学・教育学部) : Task-dependent excitations from indirect corticomotoneuronal pathways in a human arm muscle. Society for Neuroscience's 37 th Annual Meeting・San Diego, 2007年11月4日
7. Shibuya S, Igarashi K¹, Sano H¹, Takahashi M¹, Satomi K¹ & Ohki Y¹ (杏林大・医・整形外科) : Asymmetric adjustments of human reaching movement by target shift. Society for Neuroscience 37th annual meeting (San Diego) 2007年11月6日
8. 五十嵐一峰¹, 渋谷賢, 佐野秀仁¹, 高橋雅人¹, 里見和彦¹, 大木紫 (杏林大・医・整形外科) : リーチング運動を用いた頸髄症患者の運動評価. 第37回臨床神経生理学会, 宇都宮市, 平成19年11月22日
9. 渋谷賢 : Asymmetric corrections of human reaching movement by target jump. 第34回日本スポーツ心理学会, 東京, 平成19年11月24日

10. 渋谷賢, 五十嵐一峰¹, 佐野秀仁¹, 高橋雅人¹, 里見和彦¹, 大木紫 (杏林大・医・整形外科) : 視覚ターゲットの移動がリーチング運動に及ぼす影響. 随意運動の調節機構とその病態生理研究会, 横浜市, 平成19年12月1日

11. 渋谷賢, 五十嵐一峰¹, 佐野秀仁¹, 高橋雅人¹, 里見和彦¹, 大木紫 (杏林大・医・整形外科) : 視覚ターゲットの移動がリーチング運動に及ぼす影響. 第26回日本基礎心理学会, 東京, 平成19年12月8日

学会発表・講演

12. 大木紫、渋谷賢、関口浩文¹、門田宏¹、竹内成生¹、中島八十一¹ (国立リハセンター研究所・感覚障害部) : ヒトの到達運動中の一次視覚野抑制効果. 第85回日本生理学会, 東京, 平成20年3月27日

13. 平井直樹、佐々木成人¹、内藤公郷¹、本郷利憲¹ (東京都神経科学研究所) : 単純把握運動から道具使用把握運動形成への学習過程. 第85回日本生理学会, 東京, 平成20年3月27日

II 論文

1. Isa T¹⁻³, Ohki Y, Alstermark B⁴, Pettersson LG⁵, Sasaki S⁶ (1NIPS (生理研), ²CREST, ³SOKENDAI, ⁴Umeå University, ⁵Göteborg University, ⁶Dept Neurophysiol Tokyo Metl Inst Neurosci): Direct and indirect cortico-motoneuronal pathways and control of hand/arm movements. Physiology (Bethesda) 22: 145-152, 2007

2. Shibuya S, Takahashi T¹ & Kitazawa S¹ (1Dept of Neurophysiol Juntendo Univ Graduate Sch of Med): Effects of visual stimuli on temporal order judgements of unimanual stimuli. Exp Brain Res 179 (4): 709-721, 2007.

3. Sasaki S¹, Hongo T¹, Naitoh K¹ & Hirai N (Dept Neurophysiol Tokyo Metl Inst Neurosci): The process of learning a tool-use movement in mokeys, with special reference to vision. Neurosci Res doi:10.1016. 2008

III 著書

1. Kitazawa S¹, Moizumi S¹, Okuzumi A¹, Saito F¹, Shibuya S, Takahashi T¹, Wada M¹ & Yamamoto S² (1Dept of Neurophysiol, Juntendo University Graduate Sch of Medicine, ²Neuroscience Res Inst, National Inst of Advanced Industrial Sci & Technol): Reversal of subjective temporal order due to sensory and motor integrations. In: Sensorimotor Foundations of Higher

Cognition. Attention & Performance XXII. Haggard Y, Rossetti Y, Kawato M (eds) Oxford Univ Press, New York, 2008. p.73-97.

IV その他

1. 大木 紫 (共訳) : カールソン神経科学テキスト, 泰羅、中村監訳 第2版 丸善株式会社、2008年1月

細胞生理学教室

I. 口演

1. Suga K, Saito A, Tomiyama T¹, Mori H¹, and Akagawa K (¹Department of Neuroscience, Osaka City University Medical School) : Effects of Syntaxin5 isoforms on the accumulation of intracellular bAPP and the secretion of Ab peptides. 第50回日本神経化学学会大会、横浜、平成19年9月10日.
2. Fujiwara T, Kofuji T¹, Mishima T, Yoshikawa T² and Akagawa K (¹Radioisotope Laboratory, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan; ²Laboratory for Molecular Psychiatry RIKEN BSI, Saitama, Japan) : Deletion of HPC-1/syntaxin1A gene causes autistic behavior in mice. 第30回神経科学学会大会、横浜、平成19年9月10日.
3. Nakayama T, Kamiguchi H¹, Akagawa K (¹Laboratory for Neuronal Growth Mechanisms, RIKEN-BSI) : The effect of syntaxin 1A on microtubule dynamics and vesicle transport. 第80回日本生化学会・第30回日本分子生物学会合同大会、横浜、平成19年12月11日.
4. Fujiwara T, Kofuji T¹, Mishima T and Akagawa K (¹Radioisotope Laboratory, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan) : HPC-1/syntaxin1A ノックアウトマウスの培養海馬神経細胞に対する 5HT シグナルの影響. 第85回生理学会大会、東京、平成20年3月25日.

II. 論文

1. Ohara-Imaizumi M¹, Fujiwara T, Nakamichi Y¹, Okamura T⁴, Akimoto Y², Kawai J^{1,5}, Matsushima S³, Kawakami H², Watanabe T³, Akagawa K, Nagamatsu S¹ (¹Department of Biochemistry, ²Department of Anatomy, and ³Department of Clinical Pathology, Kyorin University School of Medicine, Mitaka, Tokyo 181-8611, Japan, ⁴Division of Animal Models, Department of Infectious Diseases, Research Institute, International Medical Center of Japan, Tokyo 162-8655, Japan, ⁵Department of Medicine, Metabolism and Endocrinology, Juntendo University School of Medicine, Tokyo, 113-8421, Japan) : Imaging analysis reveals mechanistic differences between first- and second-phase insulin exocytosis. J Cell Biol. 177: 695-705, 2007.
2. Takasusuki T¹, Fujiwara T, Yamaguchi S¹, Fukushima T¹, Akagawa K, Hori Y¹ (¹Department of Physiology and Biological Information, Dokkyo Medical

University, Tochigi 321-0293, Japan): Enhancement of synaptic transmission and nociceptive behaviour in HPC-1/syntaxin 1A knockout mice following peripheral nerve injury. Eur. J. Neurosci. 26: 2179-87, 2007.

3. Kasai K, Suga K, Izumi T¹, Akagawa K (¹Department of Molecular Medicine, Institute for Molecular and Cellular Regulation, Gunma University, Maebashi 371-8512, Japan): Syntaxin8 has two functionally distinct di-leucine based motif. Cell. Mol. Biol. lett. 13, 144-54, 2008.

生化学 2

[口演]

1. 永松信哉 (シンポジウム): インスリン開口分泌と糖尿病 (糖尿病はどこまでわかったかー原因遺伝子と発症メカニズムー) 第 27 回日本医学会総会、大阪 平成 19 年 4 月 6 日ー8 日
2. 今泉美佳, 藤原智徳¹, 中道洋子, 岡村匡史², 赤川公朗¹, 永松信哉(¹ 杏林大学医学部細胞生理学, ² 国立国際医療センター研究所・感染症制御研究部ヒト型動物開発研究室): 分泌第 1 相と第 2 相のインスリン開口放出機構は異なっている 第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会 仙台、平成 19 年 5 月 24 日~26 日
3. 河井順子¹, 今泉美佳, 中道洋子, 八田真衣子, 菊田敏輝, 岡村匡史², 綿田裕孝¹, 河盛隆造¹, 永松信哉(¹ 順天堂大学代謝内分泌学講座,² 国立国際医療センター研究所・感染症制御研究部ヒト型動物開発研究室): グリニド剤の糖尿病膵β細胞機能における検討、第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会 仙台、平成 19 年 5 月 24 日~26 日
4. 橋本信嗣¹, 岡本昌之¹, 窪田直人¹, 今泉美佳, 江藤一弘¹, 菅野隆浩², 高本偉碩¹, 山内敏正¹, 植木浩二郎¹, 泉井亮², 寺内康夫³, 野田光彦⁴, 永松信哉, 門脇孝¹(¹ 東京大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科, ² 弘前大学医学部生理学第一講座, ³ 横浜市立大学医学部分子内分泌・糖尿病内科, ⁴ 国立国際医療センター臨床検査部: アディポネクチンはインスリン分泌を促進する、第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会 仙台、平成 19 年 5 月 24 日~26 日
5. 今泉美佳、永松信哉: 分泌第 1 相と第 2 相のインスリン開口放出機構は異なっている、第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会、仙台、平成 19 年 5 月 24 日~26 日
6. 永松信哉 (シンポジウム): 2 型糖尿病におけるインスリン開口放出異常 (シンポジウムー 5 ; 2 型糖尿病の膵β細胞異常 (機能・量)) 第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会、仙台、平成 19 年 5 月 24 日ー26 日
7. 永松信哉 (ランチョンセミナー) 糖尿病におけるインスリン開口放出異常とグリニド薬、第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会、仙台、平成 19 年 5 月 24 日ー26 日

8. 永松信哉 (特別講演): グリニド薬長期投与糖尿病 GK ラットにおけるインスリン開口放出の TIRF 解析、Chicago Diabetes Forum 2007, シカゴ、USA, 平成 19 年 6 月 24 日
9. 永松信哉 (招請講演): Multispec-TIRF システムを用いた抗糖尿病薬のインスリン分泌過程における作用、グルファスト発売 3 周年記念 2007、神戸、平成 19 年 7 月 7 日
10. 永松信哉 (シンポジウム): TIRF 法で語るインスリン分泌 (手法で語る生体膜—生体膜の謎解きのために—) 日本生化学会・関東支部教育シンポジウム、東京、2007 年 7 月 14 日
11. 永松信哉 (特別講演): 2 相性インスリン分泌機構の可視化解析、第 2 回糖尿病と高血圧を考える会、和歌山、平成 19 年 8 月 25 日
12. 永松信哉, 今泉美佳 (Invited Lecture): Mechanism of insulin granule docking and exocytosis、EASD islet study group symposium 2007, Brussels, Belgium, 9 月 21 日~23 日 2007
13. 永松信哉 (シンポジウム); Mechanism of impaired insulin exocytosis in diabetes mellitus (Round Table Discussion 1 Insulin secretion), 14th Japan-Korea Symposium on Diabetes Mellitus, 京都、平成 19 年 10 月 5 日~6 日
14. Ohara-Imaizumi, M., Fujiwara, T., Akagawa, K. and Nagamatsu, S : Imaging analysis reveals mechanistic differences between first and second phase insulin exocytosis, International Symposium on Membrane Traffic, Awaji, Japan 平成 19 年 11 月 27~29 日

[論文]

1. Konstantinova I., Nikolova G., Ohara-Imaizumi M., Meda P., Kucera T., Zarbalis K., Wurst W., Nagamatsu S., Lammert E. : EphA-Ephrin-A-mediated beta cell communication regulates insulin secretion from pancreatic islets. *Cell*. 129:359-70, 2007
2. Ohara-Imaizumi M, Fujiwara T, Nakamichi Y, Okamura T, Akimoto Y, Kawai J, Matsushima S, Kawakami H, Watanabe T, Akagawa K, Nagamatsu S. : Imaging analysis reveals mechanistic differences between first- and second-phase insulin exocytosis *J Cell Biol*. 177: 695-705, 2007
3. Uchida T., Iwashita, N., Ohara-Imaizumi M., Ogihara T., Nagai S., Choi J. B., Tamura Y., Tada N., Kawamori R., Nakayama K. I., Nagamatsu S. and Watada H. : Protein kinase Cdelta plays a non-redundant role in insulin secretion in pancreatic beta cells. *J. Biol. Chem.* 282: 2707-2716, 2007
4. Akimoto Y., Hart G. W., Wells L., Vosseller K., Yamamoto K., Munetomo E., Ohara-Imaizumi M., Nishiwaki C., Nagamatsu S., Hirano H. and Kawakami H. : Elevation of the post-translational modification of proteins by O-linked N-acetylglucosamine leads to deterioration of the glucose-stimulated insulin secretion in the pancreas of diabetic Goto-Kakizaki rats. *Glycobiology*. 17:127-140, 2007

5. Nagamatsu S., Ohara-Imaizumi M. : IP7 debut in insulin release Science. 318:1249-50, 2007

[著書]

1. Nagamatsu S., Ohara-Imaizumi M. Mechanism of insulin exocytosis analyzed by imaging techniques. in Pancreatic Beta Cell in Health and Disease : Seino, S. and Bell, G. (Eds.) Springer Verlag, Berlin Germany, 173-189, 2007
2. Nagamatsu S., Ohara-Imaizumi M. Imaging exocytosis of single insulin secretory granules with TIRF microscopy. in Methods in Molecular Biology, vol.440, Exocytosis and Endocytosis: Ivanov, A. (Ed.) Humana Press, Inc, Totowa, NJ, USA, 251-260. 2007
3. Nagamatsu S., Ohara-Imaizumi M. Imaging exocytosis of single insulin secretory granules with TIRF microscopy Methods in Molecular Biology 440: 251-260, 2007
4. 今泉美佳、大塚稔久、永松信哉：膵β細胞のアクティブゾーンを構成する分子群 内分泌・糖尿病科25: 265-272, 2007
5. 永松信哉：インスリン開口放出におけるSyntaxin1の役割 内分泌・糖尿病科 25: 219-223, 2007

[その他]

新聞掲載

1. 日本経済産業新聞(2007.11.26 付) 今泉美佳 永松信哉：膵臓細胞のインスリン放出-新手法について、
2. 文部科学省 科学研究補助金 特定領域研究 研究代表者 今泉美佳「インスリン分泌科理由細胞内トラフィック VTIRF 解析」
3. 文部科学省 科学研究補助金 基盤研究 C 研究代表者 今泉美佳「TIRF 可視化解析による 2 相性インスリン分泌機構の解明」

病院病理部

I. 口演(学会等)

1. 大倉康男：上部消化管（病理と画像）. 埼玉県放射線技師会第 7 回上部消化管検査認定技師講習会, 北足立郡, 平成 19 年 4 月 8 日.
2. 皿谷健¹, 岡崎充宏¹, 青島正大¹, 後藤元¹, 知念克也, 平野和彦, 藤岡保範(¹杏林大・医・第一内科): 人工弁置換術後の慢性維持透析患者に広範な心筋内膿瘍を合併した黄色ブドウ球菌性心内膜炎の 1 例. 第 81 回日本感染症学会総会・学術講演会, 京都, 平成 19 年 4 月 10-11 日.
3. 吉井隆¹, 井手久満¹, 寺戸雄一, 中川毅史¹, 上山裕¹, 武藤智¹, 岡田弘¹, 堀江重郎¹ (¹帝京大学医学部泌尿器科学教室): High-intensity focused ultrasound (HIFU) 治療における DNA damage response genes の発現. 第 95 回日本泌尿器科学会, 神戸, 平成 19 年 4 月 14 - 17 日.
4. 小林啓一¹, 永根基雄¹, 野末恭子¹, 栗田浩樹¹, 土屋一洋², 藤岡保範, 塩川芳昭¹ (¹杏林大・医・脳神経外科, ²杏林大・医・放射線科): 病理組織診断が困難な

- 慢性被膜血腫を伴う巨大脳室内神経膠腫の一例. 第25回日本脳腫瘍病理学会, 熊本, 平成19年4月19-20日.
5. 田村仁¹, 小屋敷恵美¹, 高田佐織¹, 石井晴之¹, 和田裕雄¹, 青島正大¹, 後藤元¹, 小林治², 藤野節, 藤岡保範, 岡輝明³ (¹杏林大・医・呼吸器内科, ²杏林大・医・総合診療科, ³関東中央病院病理科): 閉塞性呼吸障害を呈した多中心性キャスルマン病の一例. 第174回日本呼吸器学会関東地方会, 東京, 平成19年4月21日.
 6. 山本寛¹, 大竹慎也¹, 桜井仁美¹, 大河戸光章¹, 藤井雅彦¹, 郡秀一², 海野みちる (¹杏林大・保・病理学, ²杏林大・保・細胞診断学): 前立腺組織における血管内皮成長因子受容体(VGEGFR3)の免疫組織化学的染色. 第54回日本医学検査学会, 宮崎, 平成19年5月18-20日.
 7. 坂本憲彦, 水谷奈津子, 旗ひろみ, 市川美雄, 荒井ゆり子, 海野みちる, 住石歩, 北澤暁子, 坂本穆彦, 藤原正親: 耳下腺原発扁平上皮癌の1例. 第48回日本臨床細胞学会総会春期大会, 千葉, 平成19年6月7-9日.
 8. 水谷奈津子, 藤野節, 藤岡保範, 海野みちる, 旗ひろみ, 坂本憲彦, 市川美雄, 高山信之¹, 坂本穆彦 (¹杏林大・医・血液内科): 腫瘍の消退を示した悪性リンパ腫の1例. 第48回日本臨床細胞学会総会春季大会, 千葉, 平成19年6月7-9日.
 9. 永藤裕¹, 武井泰彦¹, 小柏靖直¹, 山内宏一¹, 甲能直幸¹, 知念克也 (¹杏林大・医・耳鼻咽喉科): 診断に苦慮した中耳原発悪性黒色腫の1例. 第31回日本頭頸部癌学会, 横浜, 平成19年6月13-15日.
 10. 水谷奈津子, 中嶋美佳¹, 中山英里², 伊東大樹², 伊坂泰嗣², 松田実², 福島久喜², 菅間博 (¹杏林大・医・放射線科, ²杏林大・医・乳腺外科): 乳腺小葉癌の術前組織型推定についての検討. 第15回日本乳癌学会, 横浜, 平成19年6月29-30日.
 11. 荻田真¹, 武井秀史¹, 吉田勤¹, 橘啓盛¹, 中里陽子¹, 古屋敷剛¹, 長島鎮¹, 興石義彦¹, 呉屋朝幸¹, 藤原正親 (¹杏林大・医・呼吸器外科): G-CSF産生肺多形癌の1例. 第149回日本肺癌学会関東支部会, 東京, 平成19年7月7日.
 12. 荒井ゆり子, 海野みちる, 知念克也: スライドカンファレンス-体腔液. 第26回日本臨床細胞学会東京都支部学術集会, 東京, 平成19年7月14日.
 13. 坂本穆彦: 卵巣腫瘍の組織診断. 第4回婦人科がん会議, 札幌, 平成19年9月8日.
 14. 大倉康男: 臨床医が知っていてほしいESDの病理. 第6回さくらESD研究会, 東京, 平成19年9月27日.
 15. 坂本穆彦: 甲状腺低分化癌をめぐって(教育講演). 第40回日本甲状腺外科学会学術集会, 東京, 平成19年10月3-5日.
 16. 藤野節, 野村起美恵¹, 石川雄一¹, 油谷浩幸², 坂本穆彦, 中村卓郎³ (¹癌研・病理部, ²東大先端研・ゲノムサイエンス分野, ³癌研・発がん研究部): t(6;22)を有する未分化肉腫におけるEWS-POU5F1キメラの機能解析. 第66回日本癌学会学術総会, 横浜, 平成19年10月3-5日.
 17. Inobe M, Kamma H, Kurata A, Shishido-Hara Y, Fujioka Y, Sakamoto A: A case report of mucin producing papillary adenocarcinoma involving the urinary bladder, arising in the heterotopic pancreas associated with intestinal diverticulum. 第66回日本癌学会学術総会, 横浜, 平成19年10月3-5日.
 18. 杉谷巖¹, 平川昭平¹, 藤本吉秀¹, 山本智理子², 坂本穆彦 (¹癌研有明病院・頭頸科, ²癌研究所・病理): 甲状腺低分化癌の病理と臨床. 第40回日本甲状腺外科学会学術集会, 東京, 平成19年10月3-5日.
 19. 菅間博, 牛尾浩樹¹, 田中秀行¹, 深澤政勝¹², 松本裕文, 坂本穆彦 (¹牛尾

- 病院外科，²筑波大学附属病院病理）：過形成濾胞を包含する甲状腺髄様癌の一例-混合性髄様・濾胞細胞癌“Hostage”仮説について-：第40回日本甲状腺外科学会，東京，平成19年10月18-19日。
20. 倉田 厚，中林 公正¹（¹杏林大・医・第一内科）：血管炎における成熟樹状細胞の局在の検討。第12回血管病理研究会，盛岡，平成19年10月13日。
 21. 菅間博，藤原正親，原由紀子，坂本穆彦，木村伯子¹（¹国立病院機構函館病院臨床検査科）：腎盂癌に合併した微小パラガングリオーマの一例。第11回日本内分秘病理学会学術総会，札幌，平成19年10月19-20日。
 22. 田中康隆¹，志村知恵¹，檜垣学¹，田村仁樹¹，小出卓¹，三倉真一郎¹，高田佐織¹，安武哲生¹，平尾晋¹，加藤愛香¹，加藤純大¹，渡辺雅人¹，横山琢磨¹，皿谷健¹，倉井大輔¹，和田裕雄¹，石井晴之¹，後藤元¹，高山信之²，井野辺恵，藤野節，藤岡保範（¹杏林大・医・呼吸器内科、²杏林大・医・血液内科）：全肺野の微細粒状影から急速に呼吸不全が進行した diffuse large B cell Lymphoma の1例。第177回日本呼吸器学会関東地方会，東京，平成19年11月10日。
 23. 山本寛¹，滝口祥恵²，海野みちる，郡秀一³，藤井雅彦¹（¹杏林大・保・病理学，²杏林大・保・細胞診断学，³千葉県立東金病院検査科・病理）：前立腺組織における nm23H1 抗体を用いた免疫組織化学的染色の検討。第44回関東甲信地区日本医学検査学会，長野，平成19年11月10-11日。
 24. 堀田綾子，坂本穆彦：卵巣癌における細胞周期関連タンパク質（PTEN，p27，p53，cyclin D1，cyclin D2）発現の免疫組織化学的検討。第36回杏林医学会総会，三鷹，平成19年11月17日。
 25. 中本啓太郎¹，石井晴之¹，和田裕雄¹，倉井大輔¹，太田敦子¹，安武哲生¹，甲能直幸²，似鳥俊明³，藤岡保範，後藤 元¹（¹杏林大・医・第一内科学，²杏林大・医・耳鼻咽喉科学，³杏林大・医・放射線医学）：再発性多発軟骨炎の治療効果判定に非侵襲的なCT Bronchoscopyが有用であった一例。第36回杏林医学会総会，三鷹，平成19年11月17日。
 26. 横矢重臣¹，栗田浩樹¹，山口竜一¹，池田俊貴¹，藤原正親，藤岡保範（¹杏林大・医・脳神経外科）：A3-A3 bypassを併用して動脈瘤切除を行い，病理学的にFMDと診断された症候性部分血栓化巨大前大脳動脈瘤の1例。第36回杏林医学会総会，三鷹，平成19年11月17日。
 27. 市川美雄，坂本憲彦，水谷奈津子，籬ひろみ，荒井ゆり子，海野みちる，住石歩，北澤暁子，坂本穆彦，大倉康男：顎下腺原発扁平上皮癌の1例。第46回日本臨床細胞学会秋期大会，仙台，平成19年11月30日-12月1日。
 28. 籬ひろみ，坂本憲彦，水谷奈津子，市川美雄，荒井ゆり子，海野みちる，住石歩，北澤暁子，坂本穆彦，飯原久仁子：中分化型性索間質腫瘍の2症例。第46回日本臨床細胞学会秋期大会，仙台，平成19年11月30日-12月1日。
 29. 成田真一¹，齋藤生朗¹，竹内務²，太田雄治郎²，諸原眞美¹，堀田綾子，坂本穆彦（¹多摩南部地域病院・検査科，²多摩南部地域病院・婦人科）：子宮頸部小細胞癌の1例。第46回日本臨床細胞学会秋期大会，仙台，平成19年11月30日-12月1日。
 30. 土屋博司¹，須藤憲一¹，窪田博¹，戸成邦彦¹，遠藤英仁¹，吉野秀朗¹，高山信之²，坂田好美³，中村健太郎³，藤野節（¹杏林大・医・心臓血管外科，²杏林大・医・血液内科³杏林大・医・循環器内科）：寒冷凝集素症を合併した右心系真菌性感染性心内膜炎の1例。第144回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，東京，平成19年12月1日。
 31. Sakamoto A, Umino M, Horita A, Yajima M¹（¹Dept. OB-GY, Kyorin Univ. Scho. of Med）：Intraoperative cytology of ovarian tumors. The 14th Thai-

Japan Workshop for Diagnostic Cytopathology, The Teak Spa and Resort, Chiang Rai, Thailand. Jan 16-18, 2008.

32. 坂本穆彦：甲状腺癌組織分類：近年の動向（特別講演）。第12回福岡県病理・細胞学術研修会，久留米，平成20年2月16-17日。
33. 水谷奈津子，伊美建太郎¹，伊東大樹¹，中山英里¹，伊坂泰嗣¹，井本滋¹，菅間博（¹杏林大・医・乳腺外科）：術前診断が困難であった乳腺管状癌の1例。第17回日本乳癌画像研究会，東京，平成20年2月16-17日。
34. Ohkura Y: Case conference, Case2: The diagnosis of fundic gland like adenocarcinoma of the stomach. The 8th Korean-Japan Gastrointestinal Pathology Joint Meeting, Yokohama, Feb. 28, 2008.
35. Fukunaga M, Ushijima K, Yahata H, Kamura T, Yoshikawa H, Tsuda H, Sakamoto A: A multicentric prospective study of hormonal therapy for atypical endometrial hyperplasia and endometrial adenocarcinoma in young women: Histologic changes and treatment outcome. 97th Annual Meeting of United States and Canadian Academy of Pathology, Denver, U.S.A., March 1-9, 2008.

II. 論文

1. Chinen K, Tokuda Y¹, Sakamoto A, Fujioka Y (¹Clinical Practice Evaluation and Research Center, St. Luke's Life Science Institute): Fungal infections of the heart: A clinicopathologic study of 50 autopsy cases. *Pathol Res Pract* 203: 705-715, 2007.
2. Iihara K, Hirano K, Fujioka Y, Sakamoto A: Leiomyosarcoma with dedifferentiation in a premenopausal patient discovered after uterine artery embolization. *Pathol Int* 57: 681-687, 2007.
3. Matsumoto H, Sakamoto A, Fujiwara M, Yano Y¹, Shishido-Hara Y, Fujioka Y, Kamma H (¹Ito Hospital): Cyclic AMP-mediated growth suppression and MAPK phosphorylation in thyroid papillary carcinoma cells. *Mol Med Rep* 1: 245-249, 2008.
4. Karube M¹, Nakabayashi K¹, Fujioka Y, Yoshihara K¹, Yamada A¹, Matsunaga A², Saito T³ (¹Division of Nephrology and Rheumatology, First Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, ²Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Fukuoka University School of Medicine, ³Division of Nephrology and Rheumatology, Department of Internal Medicine, Fukuoka University School of Medicine): Lipoprotein glomerulopathy-like disease in a patient with type III hyperlipoproteinemia due to apolipoprotein E2 (Arg158 Cys)/3 heterozygosity. *Clin Exp Nephrol* 11:174-179, 2007.
5. Saraya T¹, Shimura C¹, Kato A¹, Wada H¹, Ishii H¹, Terado Y, Goto H¹ (¹Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): Pulmonary sarcoidosis with massive parenchymal masses. *Intern Med* 46:1939-1940, 2007.
6. Kurita M¹, Hirano K¹, Ebihara S¹, Takushima A¹, Harii K¹, Fujino T, Fujioka Y (¹Department of Plastic, Reconstructive, Aesthetic, and Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine): Spontaneous regression of cervical lymph node metastasis in a case of mesopharyngeal squamous cell carcinoma of the tongue: Possible association of apoptosis and tumor regression. *Int J Clin Oncol* 12:448-454. 2007.

7. Suzuki Y¹, Sugiyama M¹, Abe N¹, Fujioka Y, Atomi Y¹ (¹Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine): Immunohistochemical similarities between pancreatic mucinous cystic tumor and ovarian mucinous cystic tumor. *Pancreas* 36: 41-46, 2008.
8. Matsuoka H¹, Nakamura A², Masaki T¹, Sugiyama M¹, Nitatori T², Ohkura Y, Sakamoto A, Atomi Y¹ (¹Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine, ²Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine.) : Optimal diagnostic criteria for lateral pelvic lymph node metastasis in rectal carcinoma. *Anticancer Res* 27:3529-3533, 2007.
9. Matsuoka H¹, Masaki T¹, Sugiyama M¹, Atomi Y¹, Ohkura Y, Sakamoto A (¹Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine) : Morphological characteristics of lateral pelvic lymph nodes in rectal carcinoma. *Langenbeck' s Arch Surg* 392:543-547, 2007.
10. Ushijima K¹, Yahata H¹, Yoshikawa H¹, Konishi I¹, Yasugi T¹, Sakamoto A, et al. (¹Japan Gynecologic Cancer Study Group): Multicenter Phase II study of fertility-sparing treatment with medroxyprogesterone acetate for endometrial carcinoma and atypical hyperplasia in young women. *J Clin. Oncol.* 25: 2798-2803, 2007.
11. Volante M¹, Collini P², Nikiforov Y³, Sakamoto A, Kakudo K⁴, Katoh R⁵, Lloyd R⁶, LiVolsi V¹, Papotti M⁷, Sobrinho-Simoes M⁸, Bussolati G⁹, Rosai J¹⁰ (¹San Luigi Hosp. ²Instituto Nazionale Tumori ³Pittsburgh Sch. of Med. ⁴Wakayama Med. Univ. ⁵Univ. of Yamanashi , ⁶Mayo Clin. ⁷Univ. of Pennsylvania Med. Center, ⁸Univ. of Porto, ⁹Univ. of Turin, ¹⁰Centro Diagnostico Italiano): Poorly differentiated thyroid carcinoma. The Turin proposal for the use of uniform diagnostic criteria and an algorithmic diagnostic approach. *Am J Surg Pathol* 31: 1256-1264, 2007.
12. Mitomi H¹, Ohkura Y, Yokoyama K², Sada M², Kobayashi K², Tanabe S², Fukui N³, Kanazawa H⁴, Kishimoto I⁴, Saigenji K² (¹Dept. Clin. Res. Lab. Pathol. Division, Natl. Hosp. Org. Sagamihara Hosp., ²Dept. of Gastroenterol., Sch. of Med., Kitasato Univ., ³Dept. of Pathomechanisms, Natl. Hosp. Org. Sagamihara Hosp., ⁴Dept. of Surg., Natl. Hosp. Org. Sagamihara Hosp.) : Contribution of TIA-1+ and granzyme B+ cytotoxic T lymphocytes to cryptal apoptosis and ulceration in active inflammatory bowel disease. *Pathol Res Pract* 203:717-723, 2007.
13. Mitomi H¹, Ohkura Y, Fukui N², Kanazawa H³, Kishimoto I³, Nakamura T⁴, Yokoyama K⁵, Sada M⁵, Kobayashi K⁵, Tanabe S⁵, Saigenji K⁵ (¹Dept. Clin. Res. Lab. Pathol. Division, Natl. Hosp. Org. Sagamihara Hosp., ² Dept. of Clin. Res. Center, Natl. Hosp. Org. Sagamihara Hosp., ³Dept. of Surg., Natl. Hosp. Org. Sagamihara Hosp., ⁴Dept. of Surg., Sch. of Med., Kitasato Univ., ⁵Dept. of Gastroenterol., Sch. of Med., Kitasato Univ.) : P21WAF1/CIP1 expression in colorectal carcinomas is related to Kras mutations and prognosis. *Eur J Gastroenterol Hepatol* 19:883-889, 2007.
14. Yano Y^{1,2}, Kamma H, Matsumoto H, Fujiwara M, Bando H¹, Hara H¹, Yashiro T¹, Ueno E¹, Ito K², Uchida K³ (¹Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba, ²Ito Hospital, ³Graduate School of Comprehensive Human Sciences, Tsukuba Industrial Liaison and Cooperative Research Center, University of Tsukuba): Growth suppression of thyroid cancer cells by adenylcyclase activator. *Oncol Rep* 18:441-445, 2007.

15. Uemaetomari I¹, Tabuchi K¹, Tobita T¹, Tsuji S¹, Wada T¹, Kamma H, Hara A¹ (1 Univ of Tsukuba): The importance of postoperative radiotherapy against polymorphous low-grade adenocarcinoma of the parotid gland: case report and review of the literature. *Tohoku J Exp Med* 211: 297-302, 2007.
16. Sundararajan S¹, Tohno E¹, Kamma H, Ueno E¹, Minami M¹ (1Univ of Tsukuba): Role of ultrasonography and MRI in the detection of wide intraductal component of invasive breast cancer--a prospective study. *Clin Radiol* 62: 252-61, 2007.
17. Ide H¹, Terado Y, Nakagawa T¹, Saito K¹, Kamiyama Y¹, Muto S¹, Okada H¹, Imamura T², Horie S¹ (1Department of Urology, Teikyo University School of Medicine, 2Department of Pathology, Teikyo University School of Medicine): Incidentally discovered adrenal myelolipoma associated with hyperthyroidism. *Int J Clin Oncol*. 12:379-81, 2007.
18. 堀田綾子, 飯原久仁子¹, 坂本穆彦 (1東京厚生年金病院・病理科): 卵巣癌における細胞周期関連タンパク質 (PTEN, p27, p53, cyclin D1, cyclin E) 発現の免疫組織化学的検討. *診断病理* 24: 379-384, 2007.
19. 金規來¹, 小松明男², 坂本穆彦 (1尉山大学校医科大学病理学教室, 2慈生会病院・病理診断科): 妊娠初期における胞状奇胎の病理診断. *診断病理* 24:147-154, 2007.
20. 山地沙知¹, 田中圭¹, 上杉健哲¹, 岸浩久², 永井雄一郎³, 平井康夫⁴, 坂本穆彦、生水真紀夫⁵ (1成田赤十字病院・産婦人科, 2成田赤十字病院・病理部, 3千葉大・医・病理部, 4癌研究会有明病院・婦人科, 細胞診断部, 5千葉大・大学院・生殖機能病態学): 子宮内腔に腫瘤を形成し間質に平滑筋の増生を伴う腺癌の1例. *診断病理* 24:355-358, 2007.
21. 大倉康男: いわゆる食道 dysplasia の診断と内視鏡切除検体における取り扱い. *病理と臨* 25:672-677, 2007.
22. 阿部展次¹, 杉山政則¹, 鈴木裕¹, 植木ひさよ¹, 柳田修¹, 正木忠彦¹, 森俊幸¹, 跡見裕¹, 大倉康男 (1杏林大・医・外科): 胆管癌の病理. *消外* 30: 1711-1719, 2007.
23. 山田雄二¹, 櫻庭彰人¹, 今瀬教人¹, 林田真理¹, 米山大¹, 小山元一¹, 大倉康男, 高橋信一¹ (1杏林大・医・消化器内科): 内視鏡の読み方 出血性直腸カルチノイド. *臨消内科* 23:273-276, 2007.
24. 土岐真朗¹, 山口康晴¹, 田部井弘一¹, 中村健二¹, 青木圭¹, 原留弘樹¹, 勝見直也¹, 大倉康男, 高橋信一¹ (1杏林大・医・第三内科): 内視鏡の読み方 特異な内視鏡所見を呈した進行膵尾部癌胃直接浸潤および内腔穿通の1例. *臨消内科* 23:409-412, 2007.
25. 皿谷健¹, 志村知恵¹, 加藤純大¹, 山元正之¹, 横山琢磨¹, 高田佐織¹, 倉井大輔¹, 平尾晋¹, 加藤愛香¹, 安武哲生¹, 和田裕雄¹, 石井晴之¹, 後藤元¹, 藤野節, 藤岡保範, 古屋敷剛², 仲里宜正², 輿石義彦², 呉屋朝幸² (1杏林大・医・呼吸器内科, 2杏林大・医・呼吸器外科): 禁煙のみで多発嚢胞性病変が消失した肺ランゲルハンス細胞肉芽腫症の1例. *日胸臨* 66:878-884, 2007.
26. 福原麻里¹, 早川和人¹, 塩原哲夫¹, 藤野節 (1杏林大・医・皮膚科): 悪性黒色腫を思わせた乳癌皮膚転移の1例. *臨皮* 61: 921-924, 2007.
27. 小柏靖直¹, 甲能直幸¹, 菅間博 (1杏林大・医・耳鼻咽喉科): 舌根部神経鞘腫例. *耳鼻臨床* 100: 84-85, 2007.
28. 鈴木茂一¹, 齋藤生朗¹, 松本麻美¹, 鳴海さとみ², 岡野匡雄³, 坂本穆彦 (1多摩南部地域病院・検査科, 2東海大学八王子病院・内視鏡センター, 3多摩がん検診センター): 骨・軟骨化生を伴う乳癌の1例. *日臨細胞誌* 46: 360-364, 2007.
29. 田中 学¹, 入江太朗², 鈴木良夫³, 藤岡保範, 立川哲彦², 蛇澤 晶⁴, 松寄

- 理⁵，中里洋一⁶，阿部正文¹（¹福島県立医科大学医学部病理学第一，²昭和大学歯学部口腔病理学，³総合病院国保旭中央病院臨床病理科，⁴国立病院機構東京病院臨床検査科，⁵君津中央病院病理検査科，⁶群馬大学大学院医学系研究科病態病理学）：癌（腫瘍）取扱い規約における表記法の統一化の検討．癌の臨 53: 525-530, 2007.
30. 大野秀樹¹，櫻井拓也¹，木崎節子¹，石橋義永¹，久島達也²，安部 茂²，海野みちる，藤岡保範，今泉和彦³，芳賀脩光⁴，西岡 浩⁵（¹杏林大学医学部衛生学公衆衛生学，²帝京大学医学真菌研究センター，³早稲田大・人間科学学術院，⁴郡山女子大学家政学部人間生活学科，⁵(株)アミノアップ化学）：高所登山における抗酸化サプリメント摂取の意義 - Oligonolを中心として 登山医 27:58-60, 2007.
 31. 寺戸雄一，坂本穆彦：Laboratory Practice 病理 癌取扱い規約の解説と問題点，前立腺癌取扱い規約．検と技 35: 869-873, 2007.
 32. 住石歩，海野みちる，坂本穆彦：腫瘍の細胞診 4. 悪性リンパ腫の細胞診．臨検 51:350-353, 2007.
 33. 市川美雄，海野みちる，坂本穆彦：腫瘍の細胞診 5. 呼吸器腫瘍 (1)．臨検 51: 454-456, 2007.
 34. 市川美雄，海野みちる，坂本穆彦：腫瘍の細胞診 6. 呼吸器腫瘍 (2)．臨検 51:564-566, 2007.
 35. 簗ひろみ，海野みちる，坂本穆彦：腫瘍の細胞診 7. 卵巣腫瘍 (1)．臨検 51:667-668, 2007.
 36. 簗ひろみ，海野みちる，坂本穆彦：腫瘍の細胞診 8. 卵巣腫瘍 (2)．臨検 51:798-801, 2007.
 37. 北澤暁子，海野みちる，坂本穆彦：腫瘍の細胞診 9. 子宮頸癌の細胞診．臨検 51:902-904, 2007.
 38. 北澤暁子，海野みちる，坂本穆彦：腫瘍の細胞診 10. 子宮体部の細胞診．臨検 51:1024-1027, 2007.
 39. 坂本憲彦，海野みちる，坂本穆彦：腫瘍の細胞診 11. 唾液腺の良性腫瘍．臨検 51: 1154-1156, 2007.
 40. 坂本憲彦，海野みちる，坂本穆彦：腫瘍の細胞診 12. 唾液腺の悪性腫瘍．臨検 51: 1638-1640, 2007.
 41. 齋藤生朗¹，甫守正史²，坂本穆彦（¹多摩南部地域病院・検査科，²杏林大・医・血液内科）：診断技術の進歩—その意義：免疫染色．臨検 51:371-376, 2007.
 42. 坂本穆彦：メキシコ細胞病理学会との交流の緒．細胞診専門医会会報 38: 16-17, 2007.
 43. 坂本穆彦：メキシコ合衆国の子宮頸癌対策プロジェクト．モダンメディア 53: 353-357, 2007.
 44. 菅間博，亀山香織¹，長沼廣²，林宏行³，廣川満良⁴（¹慶應義塾大学医学部病理診断部，²仙台市立病院病理科，³神奈川県立がんセンター病理，⁴隈病院病理細胞診断部）：甲状腺低分化癌の組織所見のコンセンサス．病理と臨 26: 196-197, 2008.
 45. 江本宜暢¹，平形明人¹，三木大二郎¹，川真田悦子¹，岡田アナベルあやめ¹，樋田哲夫¹，知念克也，安藤伸朗²（¹杏林大・医・眼科，²済生会新潟第二病院・眼科）Penicillium 感染による白内障術後眼内炎の 1 例．眼臨紀 1:122-127, 2008.

III. 著書

1. 井野辺恵，大倉康男：治療内視鏡に必要な食道と胃の解剖．DVD-Video で見る 1

- 食道・胃の治療内視鏡. 片山修, 中村真一編. 東京, メジカルビュー社, 2007. p. 2-7.
2. 坂本穆彦: 甲状腺. スタンダード細胞診テキスト. 第3版. 東京都保健医療公社多摩がんセンター編. 東京, 医歯薬出版, 2007. p. 178-191.
 3. 宮地勇人, 福地邦彦, 坂本穆彦 (編): 遺伝子検査. 診断とリスクファクター. 臨床検査臨時増刊. 東京, 医学書院, 2007.
 4. 坂本穆彦 (監訳): ルービン カラー病理学 Q & A. 東京, 丸善, 2008.
 5. 藤岡保範: 第6章神経系. ルービン カラー病理学 Q & A. 坂本穆彦監訳. 東京, 丸善, 2008. p. 351-374.
 6. 藤原正親: 第16章腎臓. ルービン カラー病理学 Q & A. 坂本穆彦監訳. 東京, 丸善, 2008. p. 195-222.
 7. 菅間博: 第21章内分泌系, 第22章糖尿病, 第23章アミロイドーシス. ルービン カラー病理学 Q & A. 坂本穆彦 監訳. 丸善, 東京, 2009. p. 289-313.
 8. 坂本穆彦 (監訳): 異型扁平上皮細胞. ベセスダシステム 2001 アトラス. Solomon D, Nayar 編. 東京, シュプリンガー・ジャパン, 2007. p. 67-88.

IV. その他

1. 水谷奈津子: 学会だより. 第48回日本臨床細胞学会総会. 臨検 51: 1144-1145, 2007.
2. 坂本穆彦: あとがき. 診断病理 24: 281, 2007.
3. 坂本穆彦: あとがき. 臨検 51: 1634, 2007.
4. 坂本穆彦: 甲状腺吸引細胞診について. 日本医事新報. 4379: 92, 2008.
5. 海野みちる: 日本臨床細胞学会功労賞を受賞して. 多摩細胞診研究会会報 No. 13, p. 2, 2007.
6. 坂本穆彦 (座長): 招請口演. The art and science of lung transplantation (by Prof. Wilkes, DS). 第48回日本臨床細胞学会総会, 千葉, 平成19年6月7-9日.
7. 坂本穆彦 (座長): 口演 11. 婦人科病理. 第42回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 東京, 平成19年6月29日-7月1日.
8. Sakamoto A, Umino M (座長). : Current status of respiratory cytology in Asian countries. International Forum. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 仙台, 平成19年11月30日-12月1日.
9. Sakamoto A: Opening address. The 11th Korea-Japan Joint Meeting for Gynecological Pathology. Lecture Theater, Chungnun University, Daegu, Korea. Sept 1, 2007.
10. 海野みちる: 細胞診診断, 南部州子宮頸がん対策プロジェクト, 独立行政法人国際協力機構 (JICA), メキシコ合衆国, 2007年9月6-15日.
11. 坂本穆彦: 開会の辞. 第36回日本病理学会関東支部学術集会, 東京, 平成19年9月29日.
12. 大倉康男 (主催): 第2回 GIPC (Gastrointestinal pathology club), 東京, 平成19年12月7日.
13. 坂本穆彦 (座長): 講演. Atypical polypoid adenomyoma の組織診断 (清川貴子). 第27回婦人科病理研究会, 東京, 平成19年12月22日.
14. 海野みちる: 消化器細胞診顕微鏡実習. 第11回サワディーサイトロジークラブ細胞診講習会, 東京, 平成19年10月6日.
15. 海野みちる: 細胞診研究会. 第16回頭友会: 細胞診勉強会, 東京, 平成19年4月21日.
16. 海野みちる: 細胞診研究会. 第17回頭友会: 細胞診勉強会, 東京, 平成19

年7月7日.

17. 海野みちる：細胞診研究会. 第18回頭友会：細胞診勉強会，東京，平成19年10月7日.
18. 海野みちる：細胞診研究会. 第19回頭友会：細胞診勉強会，東京，平成20年1月26日.

感染症学教室（寄生虫学）

口演

1. 新倉保^{1,2}，小林富美恵，北潔¹（¹東大・国際保健，²杏林大・実験動物）：複合マラリア原虫感染における病態抑制機構の解析. 第15回分子寄生虫ワークショップ，群馬，平成19年7月25-28日.
2. Niikura M^{1,2} & Kobayashi F（¹Inst. Lab. Anim., Kyorin Univ. Schl. Med., ²Dept. Biomed. Chem., Grad. Schl. Med., Univ. of Tokyo）: Coinfection with nonlethal murine malaria parasites suppresses pathogenesis caused by *Plasmodium berghei* NK65. The 37th Annual Meeting of Japanese Society of Immunologists, Tokyo, Nov. 20-22, 2007.
3. Takahashi R¹, Kobayashi F & Shiohara T^{1,2}（¹Div. Flow cytometry, ²Dept. Dermatol., Kyorin Univ. Schl. Med.）: Purification and characterization of human peripheral blood regulatory T cells using FACS Aria. JSPS-NRCT Joint Seminar, 2007; -Strategies for controlling emerging and reemerging infectious diseases in Southeast Asia in JSPS Core University Program-, Salaya, Bangkok, Nov. 30, 2007.

論文

1. Kobayashi F, Waki S¹, Niikura M², Tachibana M³, Tsuboi T⁴, Torii T³ & Kamiya S.（¹Gunma Prefect. Coll. Hlth. Sci., ²Inst. Lab. Anim., Kyorin Univ. Schl. Med., ³Dept. Mol. Parasitol., Ehime Univ. Schl. Med., ⁴Cell-Free Sci. Technol. Res. Cent., Ehime Univ.）: *Plasmodium berghei* XAT: Protective 155/160kDa antigens are located in parasitophorous vacuoles of schizont-stage parasite. Exp Parasitol, 116:450-457, 2007.（杏林医学会殿：本論文は、昨年度、in pressとして報告しましたが、その後頁数が確定し、19年度業績に含まれる方が適切と判断しましたので、18年度分の同一名論文は削除して下さい）。
2. Kobayashi F, Niikura M¹, Waki S², Matsui T, Fujino T, Tsuruhara T³ & Kamiya S.（¹Inst. Lab. Anim., Kyorin Univ. Schl. Med., ²Gunma Prefect. Coll.

Hlth. Sci, ³Depart. Biol., Tokyo Gakugei Univ.): *Plasmodium berghei* XAT: Contribution of γ δ T cells to host defense against infection with blood-stage nonlethal malaria parasite. *Exp Parasitol*, 117:368-375, 2007.

3. Bannai H¹, Nishikawaa Y¹, Matsuo T, Kawase O¹, Watanabe J², Sugimoto C³ & Xuan X¹ (¹National Research Center for Protozoan Diseases, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, ²The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, ³Research Center for Zoonosis Control, Hokkaido University): Programmed Cell Death 5 from *Toxoplasma gondii*: A secreted molecule 1 that exerts a pro-apoptotic 2 effect on host cells. *Molecular and Biochemical Parasitology* (in press), 2008.

4. Umemiya R^{1,2}, Matsuo T, Hatta T³, Sakakibara S¹, Boldbaatar D² & Fujisaki K² (¹National Research Center for Protozoan Diseases, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, ²Laboratory of Emerging Infectious Diseases, Department of Frontier Veterinary Medicine, Kagoshima University, ³Laboratory of Parasitic Diseases, National Institute of Animal Health): Autophagy-related genes from a tick, *Haemaphysalis longicornis*. *Autophagy* 4 (1): 79-81, 2008.

5. Umemiya R¹, Matsuo T, Hatta T¹, Sakakibara S¹, Boldbaatar D² & Fujisaki K^{1,2} (¹National Research Center for Protozoan Diseases, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, ²Laboratory of Emerging Infectious Diseases, Department of Frontier Veterinary Medicine, Kagoshima University): Cloning and characterization of an autophagy-related gene, *ATG12*, from the three-host tick *Haemaphysalis longicornis*. *Insect Biochemistry and Molecular Biology* 37: 975-984, 2007.

感染症学講座微生物学教室

I. 口演 (学会等)

1. 田口晴彦¹, 蔵田訓, 中西崇介², 高橋志達², 神谷茂 (¹杏林大・保健・免疫学, ²ミヤリサン製薬株式会社): ハムスター *Clostridium difficile* 関連疾患モデルの作成とプロバイオティクスの有効性に関する研究. 第 81 回日本感染症学会総会, 京都, 平成 19 年 4 月 10-11 日.
2. Kamiya S : Probiotics - its prophylactic & therapeutic effects on various troublesome diseases. 第 190 回台湾小児科学会総会特別講演, 台北, 平成 19 年 4 月 28 日.
3. Kamiya S : Probiotics, prebiotics, synbiotics in *Helicobacter pylori* infections. International Congress on Probiotics, Prebiotics,

Synbiotics and Functional Foods:Scientific and Clinical Aspects, 招請講演, ペテルブルグ, 平成 19 年 5 月 15-16 日.

4. Saraya T¹, Wada H¹, Kurai D¹, Ishii H¹, Aoshima M¹, Horie S¹, Oka T², Iihara K³, Fujioka Y³, Kurata S, Taguchi H⁴, Kamiya S, Nakata K⁵, Nakagaki K⁶, Akashi T⁷ & Goto H¹ (1Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, 2Department of Pathology, Kanto Central Hospital, 3Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, 4Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences, 5 Bioscience Medical Research Center, Niigata University, 6Laboratory of Wildlife Medicine, Nippon Veterinary Life Science University, 7 Medical Research Laboratory, Taisho-Toyama Pharmaceutical Company) : Involvement of lymphocytes in the murine model of *Mycoplasma pneumoniae* pneumonia. American Thoracic Society 2007 · San Francisco International Conference, San Francisco, 18-23 May, 2007.
5. 神谷茂 : 産婦人科感染症とプロバイオティクス. 第 25 回日本産婦人科感染症研究会特別講演, 東京, 平成 19 年 6 月 16 日.
6. 大崎敬子, 神谷茂 : スナネズミの胃内フローラと *Helicobacter pylori* 感染. 第 13 回日本ヘリコバクター学会, 大津, 平成 19 年 6 月 21-22 日.
7. 宮崎善史¹, 花輪智子, 大崎敬子, 高橋秀実¹, 神谷茂 (1日本医大・医・微生物免疫学) : 腸内フローラ培養上清の Biofilm 形成に及ぼす効果. Bacterial Adherence & Biofilm 第 21 回学術集会, 東京, 平成 19 年 7 月 7 日.
8. 神谷茂 : バイオフィルム感染症の発症基盤 - 急性感染・慢性感染の振り分けシステム. Bacterial Adherence & Biofilm 第 21 回学術集会特別講演, 東京, 平成 19 年 7 月 7 日.
9. Saraya T¹, Kurai D¹, Wada H¹, Ishii H¹, Horie S¹, Aoshima M¹, Iihara K², Fujioka Y², Kurata S, Taguchi H³, Kamiya S, Oka T⁴, Akashi T⁵, Nakagaki⁶, Nakata K⁷ & Goto H¹. (1Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, 2Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, 3Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences, 4Department of Pathology, Kanto Central Hospital, 5 Medical Research Laboratory, Taisho-Toyama Pharmaceutical Company, 6 Laboratory of Wildlife Medicine, Nippon Veterinary Life Science University, 7 Bioscience Medical Research Center, Niigata University): Immunomodulating effect of Clarithromycin in Murine model of *Mycoplasma pneumoniae* pneumonia. European Respiratory Society Annual Congress 2007. Stockholm, 14-18 September, 2007.
10. Kamiya S : Effect of the probiotic agent *Clostridium butyricum* M588 strain on enteric pathogens. The 15th International Congress on Microbial Ecology and Disease (SOMED), Rome, 16-18 September, 2007.
11. Oka K¹, Osaki T, Hanawa T, Kurata S, Okazaki M², Manzoku T¹, Takahashi M¹, Tanaka M¹, Taguchi H³, Watanabe T², Inamatsu T⁴ & Kamiya S (1Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd., 2 Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, 3Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences, 4 Department of Infectious Diseases, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital) : Genotypic and /or phenotypic characterization of *Clostridium difficile*. Clinical isolates and evaluation of

- antagonistic effect of *Clostridium butyricum*. The 4th Probiotics, Prebiotics and New Foods jointly with The 15th International Congress on Microbial Ecology and Disease (SOMED), Rome, 16-18 September, 2007.
12. 神谷茂：*Helicobacter pylori* のクオラムセンシングーピロリ菌の駆使する「言語」を解析する。第13回長崎大学バイオフィオーラム，長崎，平成19年10月5日。
 13. 神谷茂：プロバイオティクスの医学における可能性。北海道大学医学部保健学科特別講義，札幌，平成19年10月11日。
 14. 神谷茂：ピロリ菌ってどんな細菌だろう？。厚生労働省がん研究助成金 18-2「ヘリコバクター・ピロリ感染による胃発癌機序の解明と感染・再感染予防」研究班市民公開講座「胃癌とピロリ菌」，武庫川，平成19年10月13日。
 15. 大崎敬子，蔵田訓，神谷茂：Mongolian gerbil を用いた *Helicobacter pylori* 母子感染と感染経路に関する研究。第56回日本感染症東日本地方会，東京，平成19年10月26-27日。
 16. 米澤英雄，大崎敬子，蔵田訓，花輪智子，神谷茂：*Helicobacter pylori* TK1402 株バイオフィルム形成の解析。第36回杏林医学会総会，三鷹，平成19年11月17日。
 17. 神谷茂：「薬剤耐性菌」－その動向と対策－。三鷹市医師会学術講演会，三鷹，平成19年12月5日。
 18. 蔵田訓，田口晴彦¹，大崎敬子，花輪智子，米澤英雄，神谷茂（¹杏林大・保健・免疫学）：気管支喘息へのマイコプラズマ感染の影響。第41回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会，神戸，平成20年1月24-25日。
 19. Yonezawa H, Osaki T, Kurata S, Hanawa T & Kamiya S. : Characterization of in vitro Biofilm Formation by *Helicobacter pylori*. 7th China-Korea-Japan Joint Conference on *Helicobacter* Infection. Kyoto, Feb 21-22, 2008.
 20. 神谷茂，米澤英雄，蔵田訓，花輪智子，大崎敬子：*Helicobacter pylori* のバイオフィルム形成能に関する基礎的研究。第12回日本小児 *H. pylori* 研究会，松本，平成20年3月8日。
 21. 神谷茂：私立医科大学における微生物学・感染症学教育の特色。第81回日本細菌学会総会シンポジウム6「医学系領域における微生物学（細菌学）教育の現状と将来への懸念、理念」シンポジスト，京都，平成20年3月24-26日。
 22. 蔵田訓，田口晴彦¹，大崎敬子，花輪智子，米澤英雄，神谷茂（¹杏林大・保健・免疫学）：*Mycoplasma pneumoniae* が気管支喘息に及ぼす影響。第81回日本細菌学会総会，京都，平成20年3月24-26日。
 23. 大塩一郎¹，大崎敬子，神谷茂（¹日本曹達株式会社小田原研究所）：スナネズミにおける *Helicobacter pylori* 母子感染と感染ルート。第81回日本細菌学会総会，京都，平成20年3月24-26日。
 24. 大崎敬子，花輪智子，米澤英雄，蔵田訓，シンシアザマン，田口晴彦¹，神谷茂（¹杏林大・保健・免疫学）：*Helicobacter pylori luxS* 変異株におけるニッケル取り込み能について。第81回日本細菌学会総会，京都，平成20年3月24-26日。
 25. 花輪智子，大崎敬子，米澤英雄，蔵田訓，田口晴彦¹，神谷茂（¹杏林大・保健・免疫学）：*Bordetella pertussis* の RpoE によって転写される遺伝子の解析。第81回日本細菌学会総会，京都，平成20年3月24-26日。
 26. 米澤英雄，大崎敬子，蔵田訓，花輪智子，神谷茂：*Helicobacter pylori* バイオフィルム形成の解析。第81回日本細菌学会総会，京都，平成20年3月24-26日。

27. 岡健太郎¹, 杉山絵美¹, 田中守¹, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 高橋志達¹, 田口晴彦², 稲松孝思³. 神谷茂 (¹ミヤリサン製薬株式会社, ²杏林大・保健・免疫学, ³東京都老人医療センター感染症科): *Clostridium difficile* 感染によるラット抗菌薬関連下痢症モデルの作成. 第 81 回日本細菌学会総会, 京都, 平成 20 年 3 月 24-26 日.

[平成18年度追加分]

1. 大塩一郎¹, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 田口晴彦, 神谷茂 (¹日本曹達株式会社小田原研究所): *Mongolian gerbil* における *Helicobacter pylori* 母子感染. 第 80 回日本細菌学会総会, 大阪, 平成 19 年 3 月 26-28 日.

II. 論文

1. Kobayashi F, Waki S¹, Niikura M², Tachibana M³, Tsuboi T⁴, Torii M³ & Kamiya S (¹Gunma Prefectural College of Health Sciences, ²Institute of Laboratory Animals, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Molecular Parasitology, Ehime University School of Medicine, ⁴Cell-Free Science and Technology Research Center, Ehime University): Plasmodium berghei XAT: Protective 155/160 kDa antigens are located in parasitophorous vacuoles of schizont-stage parasite. *Experimental Parasitology* 116:450-457, 2007.
2. Kobayashi F, Niikura M¹, Waki S², Matsui T, Fujino T, Tsuruhara T³ & Kamiya S (¹Institute of Laboratory Animals, Kyorin University School of Medicine, ²Gunma Prefectural College of Health Sciences, ³Department of Biology, Tokyo Gakugei University): Plasmodium berghei XAT: Contribution of $\gamma\delta$ T cells to host defence against infection with blood-stage nonlethal malaria parasite. *Experimental Parasitology* 117:368-375, 2007.
3. Osaki T, Mabe K¹, Hanawa T & Kamiya S (¹Department of Internal Medicine, Yamagata Prefectural Central Hospital): Urease-positive bacteria in stomach induce false positive reaction on urea breath test for diagnosis of *Helicobacter pylori*. *Jounal Med. Microbiol.* in press. 2008.
4. Yamaguchi H¹, Kamiya S, Uruma T², Osaki T, Taguchi H³, Hanawa T, Fukuda M⁴, Kawakami H⁵, Goto H¹, Friedman H⁶ & Yamamoto Y^{6, 7} (¹Department of Laboratory Sciences, School of Allied Health Science, Faculty of Medicine, Hokkaido University, ²The 1st Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, ³Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences, ⁴Laboratory of Electron Microscopy, Kyorin University, School of Medicine, ⁵Department of Anatomy, Kyorin University, School of Medicine, ⁶Department of Medical Microbiology and Immunology, University of South Florida College of Medicine, ⁷Division of Molecular Microbiology, Department of Basic Laboratory Sciences, Osaka University Graduate School of Medicine): *Chlamydia pneumoniae* growth inhibition in cells by steroid receptor antagonist RU486 mifepristone. *Antimicrob Agents Chemother.* 2008.
5. Nakao R¹, Tashiro Y², Nomura N², Kosono S³, Ochiai K⁴, Yonezawa H, Watanabe H¹ & Senpuku H¹ (¹Department of Bacteriology, National

- Institute of Infectious Diseases, ² Graduate School of Life and Environmental Science, University of Tsukuba, ³ Environmental Molecular Biology Laboratory, RIKEN, ⁴ Department of Microbiology, Nihon University) : Glycosylation of the OMP85 homolog of *Porphromonas gingivalis* and its involvement in biofilm formation. *Biochem Biophys Res Commun.* 365:784-789, 2008.
6. Imase K¹, Takahashi M², Tanaka A¹, Tokunaga K¹, Sugano H¹, Tanaka M², Ishida H¹, Kamiya S & Takahashi S¹ (¹The 3rd Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, ² Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd.,) : The efficacy of *Clostridium butyricum* preparation concomitantly with *Helicobacter pylori* eradication therapy in relation to changes in the intestinal microflora. *Microbiol Immunol* 52:156-161, 2008.
 7. 神谷茂 : *Helicobacter pylori* 感染症とプロバイオティクス. 日本細菌学会雑誌 62:271-277, 2007.
 8. 田口晴彦, 神谷茂 : マイコプラズマ肺炎の発症メカニズム. 臨床画像 23:642-646, 2007.
 9. 神谷茂 : 急性感染と慢性感染を決定する細菌側システム. 臨床と微生物 34:92-93, 2007.
 10. 神谷茂 : クラミジア感染症の基礎と臨床- はじめに. 臨床と微生物 34:169-170, 2007.
 11. 蔵田訓, 福川陽子¹, 岡崎充宏¹ (¹杏林大・医・検査部) : 迅速キットの実際 マイコプラズマ肺炎. 臨床と微生物 34:547-551, 2007.
 12. 神谷茂 : 感染性腸炎におけるプロバイオティクスの役割. *BIO Clinica* 22:604-608, 2007.
 13. 神谷茂 : メチニコフの業績と The IDF Elic Metchnikoff Prize 2007. 化学療法の領域 32:1954-1955, 2007.
 14. 神谷茂 : ICT のための院内感染微生物セミナー 6 *Clostridium difficile*. 感染対策 ICT ジャーナル 3:6-7, 2008.
 15. 神谷茂 : 強毒型ディフィシル菌感染症の発生とその対策. 日本医事新報 4372 : 105, 2008.

[平成18年度追加分]

1. 田口晴彦, 蔵田訓, 満足滝, 大崎敬子, 神谷茂 : 肺炎マイコプラズマ gnotobiotic mice におけるマクロライド剤の immunomodulation activity. 無菌生物 36 : 108-111, 2006.
2. 神谷茂 : 感染症と環境- VNC 菌の病原的意義. *Bacterial Adherence & Biofilm* 2038-2044, 2006.
3. 蔵田訓, 田口晴彦, 佐々木次雄¹, 神谷茂 (¹国立感染症研究所細菌第二部) : マクロライド耐性菌で作成したマイコプラズマ肺炎モデルにおける抗マイコプラズマ薬の効果. 日本マイコプラズマ学会雑誌 33 : 1-3, 2007.

Ⅲ. 著書

1. 神谷茂 : 腸管感染症に対するプロバイオティクス、プレバイオティクスの効果 . アンチエイジング・ヘルスフード - 抗加齢・疾病予防・健康長寿延長への応用- . 水島裕監修, 青木晃, 白澤卓二, 矢澤一良, 米井嘉一編. 東京, サイエンスフォーラム社, 2008. p. 329-337.

IV. その他

1. 神谷茂：第 11 回日本小児 *H. pylori* 研究会．日本小児栄養消化器肝臓学会雑誌別冊 21, 2007. p.46-49.
2. 神谷茂：第 12 回学術集会レポート、シンポジウム 3、病原因子に関する最新の知見．日本ヘリコバクター学会雑誌 8:5, 2007.
3. 神谷茂：強毒型腸炎菌とは．ヘルシスト 31:20-22, 2007.
4. 神谷茂：プロバイオティクスによる感染症予防．乳酸菌ニュース No.458, 5-10, 2007.
5. 神谷茂：プロバイオティクスと腸管感染症．スルーランチノート 2008, 40-44, 2008.
6. Oka K¹, Osaki T, Hanawa T, Kurata S, Okazaki M², Manzoku T¹, Takahashi M¹, Tanaka M¹, Taguchi H³, Watanabe T⁴, Inamatsu T⁵ & Kamiya S (¹ Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd., ² Department of Clinical Laboratories, Kyorin University Hospital, ³ Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences, ⁴ Department of Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, ⁵ Department of Infectious Diseases, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital) : Genotypic and /or phenotypic characterization of *Clostridium difficile*. Clinical isolates and evaluation of antagonistic effect of *Clostridium butyricum*. *Cibus* 3:42, 2007.
7. Takahashi M¹, Osaki T, Hanawa T, Kurata S, Oka K¹, Taguchi H² & Kamiya S (¹ Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd., ² Department of Immunology, Kyorin University Faculty of Health Sciences) : Antagonistic activity of *clostridium butyricum* against salmonella serovar enteritidis in *in vitro* and *in vivo*. *Cibus* 3:47, 2007.

衛生学公衆衛生学教室業績

I. 口演

(平成18年度追加分)

道川武紘¹、西脇祐司¹、菊池有利子¹、島田直樹¹、中島宏¹、中野真規子¹、岩澤聡子¹、岡本ミチ子²、上村隆元、武林亨¹ (¹慶応大、²群馬県高崎市倉渕支所) : 65歳以上地域住民における健診参加者と非参加者の特性比較．第17回日本疫学会学術総会、広島、平成19年1月26～27日．

(平成19年度～)

1. Sakurai T, Nishioka H¹, Fujii H¹, Nakano N, Kizaki T, Izawa T², Haga S³, Ishida H⁴, Radak Z⁵ & Ohno H (¹Amino Up Chemical Co. Ltd., ²Tokyo Metropolitan Univ., ³Koriyama Women' s Univ., ⁴Third Dept of Internal Medicine, Kyorin Univ. School of Medicine, ⁵Semmelweis Univ.) : New lychee-derived polyphenol Oligonol converted into a low-molecular form reduces oxidative stress in adipocytes. 16th European Congress on Obesity, Budapest, Apr. 22-25, 2007.

2. 根本浩一郎¹、福島あゆみ¹、中館俊夫²、高橋秀孝²、大野秀樹（¹横浜郵政健康管理センター、²昭和大）：職域における2型糖尿病発症予防研究第3報～介入1年後の検討～. 第80回日本産業衛生学会、大阪、平成19年4月25～27日.
3. 小笠原準悦、萬野純恵¹、高桑雄一¹（¹女子医大・生化）：赤血球型4.1蛋白質（4.1R）のユビキチン化の検討. 日本膜学会第29年会、東京、平成19年5月10～11日.
4. 岡本博照、角田透、照屋浩司、武田伸郎、上村隆元、松井知子、市川佳居、深澤進次、竹前理映子、土田幸介：医師の労働負荷と免疫指標（CD56とNK細胞活性）について：第2報. 第80回日本産業衛生学会総会、大阪、平成19年5月11日.
5. 道川武紘¹、西脇祐司¹、菊池有利子¹、岩澤聡子¹、中野真規子¹、石上愛¹、吉岡範幸¹、中島宏¹、島田直樹¹、岡本ミチ子²、上村隆元、武林亨（¹慶應大、²群馬県高崎市倉渕支所）：65歳以上の地域在住者における農作業と脊柱後弯に関する疫学研究（An Epidemiological study on the relationship between farm work and kyphosis）. 第80回日本産業衛生学会総会、大阪、平成19年5月11日.
6. 櫻井拓也、西岡浩¹、木崎節子、石橋義永、井澤鉄也²、武政徹³、芳賀脩光²、石田均⁴、大野秀樹（¹アミノアップ化学、²首都大東京、³筑波大、⁴杏林大・医・3内）：脂肪細胞の酸化ストレスはライチ由来新規低分子化ポリフェノールOligonolによって軽減される. 第4回国際食品機能学会、東京、平成19年5月30日～6月1日.
7. 大野秀樹（シンポジウム）：中高年の継続的登山習慣の意義：基調講演：登山と恋愛は総合芸術. 第27回日本登山医学シンポジウム、蔵王町、平成19年6月2～3日.
8. 岡本博照、松井知子、市川佳居、上村隆元、照屋浩司、角田透：医師における労働負荷によるストレスレベル、覚醒レベルおよび免疫能への影響について. 第14回日本産業精神保健学会、名古屋、平成19年6月29～30日.
9. 松井知子、岡本博照、市川佳居、上村隆元、照屋浩司、角田透：某事業場における新卒新入1年目社員の全員面接の予防的意義－「トータルヘルス相談」の経験から－. 第14回日本産業精神保健学会、名古屋、平成19年6月29～30日.
10. 久保明¹、増田由美、西崎泰弘¹、福原延樹¹、高島豊（¹高輪メデイカルクリニック）：アッデイポネクチンに関する因子. 第39回日本動脈硬化学会総会・学術集会、大阪、平成19年7月13～14日.
11. 櫻井拓也、西岡浩¹、藤井創¹、木崎節子、白土健²、今泉和彦²、斎藤大蔵³、大野秀樹（¹（株）アミノアップ化学、²早稲田大、³防衛医科大）：ライチ由来新規低分子化ポリフェノールOligonolは脂肪細胞に対して抗酸化・抗炎症作用をもつ. 第15回AHCC研究会国際研究報告会、札幌、平成19年7月21～22日.
12. 櫻井拓也、井澤鉄也¹、木崎節子、芳賀脩光²、大野秀樹（¹首都大東京、²郡山女子大）：運動トレーニングは脂肪組織の酸化ストレスを軽減する. 第15回日本運動生理学会大会、弘前、平成19年7月25～27日.
13. 中野法彦¹、鈴木健二²、木本紀代子³、宮澤伸子、櫻井拓也、木崎節子、下山達宏⁴、石田均⁴、大野秀樹（¹藍野再生医療研究所、²立命館大・情報理工、³東名裾野

病院、⁴杏林大・医・3内)：経口糖尿病薬グリクラジドの多機能性．レドックス生命科学第170委員会第18回研究会、平成19年8月9～10日．

14. 高島豊：医学研究におけるICと倫理問題．2007年度南極医学医療ワークショップ、東京、平成19年8月23日．

15. Yoshida M, Takashima Y, Inoue M¹, Iwasaki M¹, Otani T¹, Sasaki S², Tsugane S¹ for the JPHC Study Group (¹Epidemiology and Preventive Division, Research Center for Cancer Prevention and Screening, ²National Cancer Center, National Institute of Health and Nutrition)：Dietary vitamin C intake risk of age-related cataracts in middle-aged Japanese population: a population-based prospective study. The 16th Annual Scientific Meeting of the AEA, Tasmania, Aug.27-29, 2007.

16. 松井知子、森崎美奈子¹、長見まき子²、廣川 進³他 (¹帝京平成大、²関西福祉科学大、³大正大)：産業領域を目指す臨床心理士に対する教育と訓練のあり方をめぐって、日本心理臨床学会第26回大会、東京、平成19年9月8日～11日．

17. 吉田章子¹、松井知子、下川昭夫²他 (¹三鷹市教育委員会、²首都大東京)：地域心理臨床のネットワーク構築についてーその2 東京臨床心理士会ブロック専門委員会第6ブロックにおける連携の実際ー．日本心理臨床学会第26回大会、東京、平成19年9月8日～11日．

18. 上村隆元：今も生きるおじいちゃんおばあちゃんの知恵袋．群馬県高崎市福祉の集い、2007年9月12日．

19. 櫻井拓也、北舘健太郎¹、藤井創¹、久島達也²、安部茂²、木崎節子、井澤達也³、武政徹⁴、芳賀脩光⁵、大野秀樹 (¹(株)アミノアップ化学、²帝京大、³首都大東京、⁴筑波大、⁵郡山女子大)：ライチ由来新規低分子化ポリフェノールOligonolによる疲労改善効果．第62回日本体力医学会大会、秋田、平成19年9月14～16日．

20. 町田正直¹、大野秀樹、武政徹¹ (¹筑波大)：乳酸が骨格筋におけるVEGF発現に及ぼす影響．第62回日本体力医学会大会、秋田、平成19年9月14～16日．

21. 長澤純一¹、井澤鉄也²、櫻井拓也、木崎節子、大野秀樹 (¹電気通信大、²首都大東京)：運動の強度および時間と酸化ストレス．第62回日本体力医学会大会、秋田、平成19年9月14～16日．

22. 井澤鉄也¹、櫻井拓也、木崎節子、大野秀樹、駒林隆夫² (¹首都大東京、²武蔵丘短大)：肥満予防に対する骨格筋と脂肪組織の役割：脂肪組織と骨格筋の脂肪分解反応．第62回日本体力医学会大会、秋田、平成19年9月14～15日．

23. 井澤鉄也¹、櫻井拓也、木崎節子、長澤純一²、大野秀樹 (¹首都大東京、²電気通信大)：脂肪組織由来幹細胞に及ぼす運動トレーニングの影響．第62回日本体力医学会大会、秋田、平成19年9月14～16日．

24. 角田透 (講演)：安衛法第66条の8に関連してー産業医の立場からー．平成19年度三鷹市医師会産業医学講習会・平成19年度第1回産業精神保健学会研修セミナー、三鷹、平成19年10月13日．

25. 岡本博照、大滝憲夫¹、島崎修次²、寺澤秀一³、井清司⁴、山口芳裕²、角田透 (¹

- 石川県立中央病院救命救急センター、²杏林大・医・救急、³福井大・医・救急総合診療部、⁴熊本赤十字病院救命救急センター) (優秀演題) : 救急医師の診療業務管理についての検討—診察患者数を労働負荷として評価する可能性について—. 第35回日本救急医学会総会・学術大会、大阪、平成19年10月16~18日.
26. 松井知子、大嶺智子¹、岡本博照、深澤進次、上村隆元、土田幸介、照屋浩司、角田透 (¹杏林大・保・養護教育) : 中学・高等学校における学校相談機能についての考察—生徒相談への対応の差異についての事例からの検討—. 第66回日本公衆衛生学会総会、松山、平成19年10月24~26日.
27. 道川武紘¹、西脇祐司¹、菊池有利子¹、岡本ミチ子²、上村隆元、武林亨¹ (¹慶応大、²群馬県高崎市倉渕支所) : 地域在住者における健診参加者と非参加者の特性比較. 第66回日本公衆衛生学会総会、松山、平成19年10月24~26日.
28. Uemura T, Swastica K, Sugimori Y, Matsui T, Okamoto H, Tsunoda T : The scientific usage of functioning food for health care- International symposium and workshop on marine genetic biodiversity. Udayana University. Sept. 24~26, 2007, Denpasar, Indonesia.
29. 松井知子、小山 望¹、伊藤 稔¹他 (¹東京理科大) : ワークショップ 人間関係と心理学. 日本人間関係学会15周年記念大会、千葉、平成19年10月26日.
30. 北舘健太郎¹、藤井創¹、久島達也²、安部茂²、大野秀樹 (¹アミノアップ化学、²帝京大) : ライチ由来新規低分子化ポリフェノール (Oligonol) のスポーツ選手に対する疲労改善効果. 第18回日本臨床スポーツ医学会学術集会、別府、平成19年11月3~4日.
31. 石川守¹、吉田正雄、苅田香苗、高島豊 (¹沖縄赤十字病院健診センター) : 沖縄県民健康長寿回復を目指して—特定検診・特定保健指導の有効利用についての検討. 第72回日本民族衛生学会、高岡、平成19年11月8~9日.
32. 角田透 : 中規模事業場における健康管理について. 第17回日本産業衛生学会産業医産業看護全国協議会 (フォーラムII)、平成17年11月14日.
33. 吉田正雄 : 厚生労働省研究班による多目的コホート研究 (JPHC Study) からの成果報告. 厚生労働省多目的コホート研究、佐久市、平成19年11月16日.
34. 櫻井拓也、木崎節子、木本紀代子¹、大野秀樹 (¹東名裾野病院) : 脂肪細胞におけるライチ由来新規低分子化ポリフェノールOligonolの抗酸化作用. 第36回杏林医学会総会、三鷹、平成19年11月17日.
35. 櫻井拓也、井澤達也¹、木崎節子、石橋義永²、大石修司³、長澤純一⁴、鈴木健二⁵、中野法彦⁶、武政徹⁷、斎藤大蔵⁸、芳賀脩光⁹、大野秀樹 (¹首都大東京、²共立女子大、³東京医科大、⁴電気通信大、⁵立命館大、⁶藍野再生医療研、⁷筑波大、⁸防衛医科大、⁹郡山女子大) : 運動トレーニングの脂肪組織内酸化ストレス軽減効果. 第5回日本予防医学会学術総会、指宿、平成19年11月23~24日.
36. Sakurai T, Nishioka H¹, Fujii H¹, Kizaki T, Izawa T², Shirato K³, Imaizumi K³, Ikeda S, Haga S⁴ & Ohno H (¹Amino Up Chemical Co. Ltd., ². Tokyo Metropolitan Univ., ³ Waseda Univ, ⁴ Koriyama Women's Univ.) :

Antioxidative/anti-inflammatory effects of the new lychee-derived polyphenol Oligonol converted into a low-molecular form in white adipose tissue. 3rd International Conference on Polyphenols and Health, Kyoto, Nov.25~28, 2007.

37. 大野秀樹 (シンポジウム) : 登山は中高年にこそ相応しいー登山と恋愛は総合芸術. 第141回日本体力医学会関東地方会大会、八王子、平成19年12月1日.

38. 櫻井拓也、井澤鉄也¹、木崎節子、芳賀脩光²、大野秀樹 (¹首都大東京、²郡山女子大) : 脂肪組織の酸化ストレスは運動トレーニングによって軽減される. 第141回日本体力医学会関東地方会大会、八王子、平成19年12月1日.

39. 角田透 (会長講演) : 人はなぜ酒に溺れるのか. 第15回日本産業ストレス学会、三鷹、平成19年12月7~8日.

40. 岡本博照、松井知子、上村隆元、角田透、市川佳居¹、照屋浩司 (¹イーブ) : 夜勤医師のNatural Killer細胞活性について. 第15回日本産業ストレス学会、三鷹、平成19年12月7~8日.

41. 松井知子、岡本博照、市川佳居¹、上村隆元、角田透 (¹イーブ) : 教職員のメンタルヘルスー学校訪問相談事業の紹介と現場状況の把握についてー. 第15回日本産業ストレス学会、三鷹、平成19年12月7~8日.

42. 中野法彦¹、宮澤伸子、櫻井拓也、木崎節子、石橋義永、鈴木健二²、井澤鉄也³、石田均⁴、大野秀樹 (¹藍野再生医療研、²立命館大、³首都大東京、杏林大・医・3内⁴) : 脂肪細胞の増殖・分化に対するグリクラジドの機能の解析. 第80回日本生化学会大会、横浜、平成19年12月11~15日.

43. 人見嘉哲¹、木崎節子、櫻井拓也、小笠原準悦、²武政徹、神林康弘¹、日比野由利¹、中村裕之¹、白土健³、今泉和彦³、芳賀脩光⁴、大野秀樹 (¹金沢大、²筑波大、³早稲田大、⁴郡山女子大) : カルシニューリン制御タンパクRcn1による骨格筋活動のモニター. 文部科学省学術フロンティア研究プロジェクト第2回研究会、所沢、平成19年12月21~22日.

44. 井澤鉄也¹、櫻井拓也、木崎節子、大野秀樹 (¹首都大東京) : 脂肪組織由来幹細胞に及ぼす運動トレーニングの影響. 文部科学省学術フロンティア研究プロジェクト第2回研究会、所沢、平成19年12月21~22日.

45. Sakurai T, Nishioka H¹, Fujii H¹, Kizaki T, Ishibashi Y, Izawa T², Takemasa T³, Haga S⁴ & Ohno H (¹Amino Up Chemical Co. Ltd., ²Tokyo Metropolitan Univ., ³ Univ. of Tsukuba, ⁴ Koriyama Women's Univ.) : Oxidative stress in adipocytes is reduced by new lychee-derived polyphenol Oligonol converted into a low-molecular form. HSSRC/AIST-NIEHS/NIH Joint International Symposium, Osaka, Jan.16~19, 2008.

46. 角田透 (講演) : 特定保健指導の概要と考えられる問題点 (メタボリックシンドロームの保健指導ー産業の場におけるストレスとの関連ー). 第27回日本産業精神保健学会研修セミナー、東京、平成20年3月6日.

47. 松井知子 (講演) : 動機づけに際しての留意点について (メタボリックシンド

ロームの保健指導－産業の場におけるストレスとの関連－). 第27回日本産業精神保健学会研修セミナー、東京、平成20年3月6日.

48. 荻田香苗、本名理恵、石川守¹、吉田正雄、増田由美、高島豊 (¹沖縄赤十字病院): 中高年女性の間ドック診断結果を用いた健康背景因子の検討. 第78回日本衛生学会総会、熊本、平成20年3月28～31日.

49. 櫻井拓也、井澤鉄也¹、木崎節子、石橋義永²、鈴木健二³、中野法彦⁴、長澤純一⁵、大石修司⁶、芳賀脩光⁷、大野秀樹 (¹首都大東京、²共立女子大、³立命館大、⁴藍野再生医療研、⁵電気通信大、⁶東京医科大、⁷郡山女子大): 運動トレーニングによって脂肪組織内酸化ストレスは軽減される. 第78回日本衛生学会総会、熊本、平成20年3月28～31日.

50. 小風暁¹、石川守²、白澤貴子¹、吉田正雄、本名理恵、照屋浩司、高島豊 (¹昭和 大・医・公衆衛生、²水戸赤十字病院): 長寿関連ミトコンドリアDNA多型におけるコーヒー飲用と耐糖能異常との関係解析. 第78回日本衛生学会総会、熊本、平成20年3月28～31日.

II. 論文

1 . Ohno H, Sakurai T, Hisajima T¹, Abe S¹, Kizaki T, Ogasawara J, Ishibashi Y², Imaizumi K³, Takemasa T⁴, Haga S⁵, Kitadate K⁶, Nishioka H⁶ & Fujii H⁶ (¹Teikyo Univ., ²Kyoritsu Women' s Univ., ³Waseda Univ., ⁴Univ. of Tsukuba, ⁵Koriyama Women' s Univ., ⁶Amino Up Chemical Co., Ltd.) : The Supplementation of Oligonol, the New Lychee Fruit-derived Polyphenol Converting into a Low-molecular Form, Has a Positive Effect on Fatigue during Regular Track- and- field Training in Young Athletes. *Adv. Exerc. Sports Physiol.* 13(4) : 93-99, 2008.

2 . Dosek A¹, Ohno H, Acs Z¹, Taylor AW¹ & Radak Z¹ (¹Semmelweis Univ) : High altitude and oxidative stress. *Respir Physiol Neurobiol* 158 : 128-131, 2007.

3 . Sakurai T, Kondoh N¹, Arai M¹, Hamada J², Yamada T^{3,5}, Kihara- Negishi F^{3,6}, Izawa T⁴, Ohno H, Yamamoto M¹ & Oikawa T^{3,7} (¹National Defense Medical College, ²Hokkaido Univ., ³Sasaki Institute, ⁴Tokyo Metropolitan Univ., ⁵Hirosaki Univ., ⁶Tokyo Univ., ⁷Health Science Univ. of Hokkaido) : Functional roles of Fli-1, a member of the Ets family of transcription factors, in human breast malignancy. *Cancer Sci.* 98 (11) : 1775-1784, 2007.

4 . Sakurai T, Nishioka H¹, Fujii H¹, Nakano N, Kizaki T, Radak Z², Izawa T³, Haga S¹ & Ohno H (¹Amino Up Chemical Co., Ltd., ²Semmelweis Univ., ³Tokyo Metropolitan Univ.,) : Antioxidative effects of a new lychee fruit-derived polyphenol mixture, oligonol, converted into a low-molecular form in adipocytes. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry* 72 (2) : 463-

476, 2008.

5. Sakurai T, Takei M¹, Ogasawara J, Ueda H¹, Kizaki T, Ohno H & Izawa T¹ (¹Tokyo Metropolitan Univ.) : Exercise before or after refeeding prevents refeeding-induced recovery of cell size after fasting with a different pattern of metabolic gene expressions in rat epididymal adipocytes. *Metabolism* 56 : 1270-1278, 2007.

6. Yamada T^{1, 2}, Shimizu T¹, Suzuki M^{2, 3}, Kihara-Negishi F^{2, 4}, Nanashima N¹, Takuya Sakurai, Fan Y¹, Akita M¹, Oikawa T^{2, 5} & Tsuchida S (¹Hirosaki Univ., ²Sasaki Institute, ³Tokyo Univ., ⁴Teikyo Univ., ⁶Univ. of Hokkaido) : Interaction between the homeodomain protein HOXC13 and ETS family transcription factor PU.1 and its implication in the differentiation of murine erythroleukemia cells. *Exp. Cell Res.* 314 : 847-858, 2007.

7. Nakazawa Y¹, Suzuki M¹, Manabe N¹, Yamada T¹, Kihara-Negishi F¹, Sakurai T, Tenen DG², Iwama A³, Mochizuki M⁴ & Oikawa T¹ (¹Sasaki Institute, ²Harvard Medical School, ³Chiba Univ., ⁴Kyoritsu College of Pharmacy) : Cooperative interaction between ETS1 and GFI1 transcription factors in the repression of Bax gene expression. *Oncogene* 26 : 3541-50, 2007.

8. Uehara T¹, Suzuki K¹, Yamanaka H¹, Kizaki T, Sakurai T, Ishibashi Y, Ishida H² & Ohno H (¹Ritsumeikan Univ., ²Third Dept. of Internal Medicine, Kyorin Univ. School of Medicine) : SHP-2 positively regulates adipogenic differentiation in 3T3-L1 cells. *Int. J. Mol. Med.* 19 : 895-900, 2007.

9. Watanabe S, Hitomi Y¹, Kawano F², Ohira Y², Kizaki T, Nakano N, Sakurai T, Izawa T³, Suzuki K⁴, Sudoh M⁵, Roy RR⁶ & Ohno H (¹Kanazawa Univ., ²Osaka Univ., ³Tokyo Metropolitan Univ., ⁴Ritsumeikan Univ., ⁵Jikei Univ. of Medicine, ⁶Univ. of California) : Transcription regulation of gene expression in rat pup brown adipose tissue in response to unloading or 2 G loading. *Acta Astronautica* 60 : 889-898, 2007.

10. Igarashi M¹, Yoshida M², Watanabe M³, Yamada T⁴, Sakurai T, Endo Y⁵, Miyajima N⁵, Maekawa A⁶, Oikawa T⁷, Sugano S³ & Nakae D⁸ (¹Tokyo Univ. of Agriculture, ²National Institute of Radiological Sciences, ³Graduate School of Frontier Sciences, Univ. of Tokyo, ⁴Hirosaki Univ., ⁵Graduate School of Agricultural and Life Sciences, Univ. of Tokyo, ⁶National Institute of Technology and Evaluation, ⁷ Univ. of Hokkaido, ⁸Tokyo Metropolitan Institute of Public Health) : Involvement of mutation-based inhibition of β -catenin phosphorylation at Ser33 in the malignant progression of lung (Pre) neoplastic lesions induced by N-nitrosobis (2-hydroxypropyl) amine in male fischer 344 rats. *Lung* 185 : 271-278, 2007.

11. Ogasawara J & Abe T¹ (¹The Institute of Physical and Chemical Research

(RIKEN)) : Amino Acid Mixture Identical to Vespa Larval Saliva Increase both Leptin Secretion and Basal Lipolysis in Rat Adipocytes. *Food Sci. Res.*, 14(1) : 95-98, 2008.

12. Nakano N, Miyazawa N, Sakurai T, Kizaki T, Kimoto K, Takahashi K, Ishida H, Takahashi M, Suzuki K & Ohno H : Gliclazide inhibits proliferation but stimulates differentiation of white and brown adipocytes. *J. Biochem.* 142(5) : 639-645, 2007.

13. Ikeda S¹, Kizaki T, Haga S², Ohno H & Takemasa T¹ (¹Univ. of Tsukuba, ²Koriyama Women's Univ.) : Acute exercise induces biphasic increase in respiratory mRNA in skeletal muscle. *Biochem Biophys Res Commun.* 368(2):323-328, 2008.

14. Ishibashi Y, Ohno H, Oh-ishi S¹, Matsuoka T¹, Kizaki T & Yoshizumi K² (¹Tokyo Medical University Kasumigauro Hospital, ²Kyoritsu Women's University): Characterization of pollen dispersion in the neighborhood of Tokyo, Japan in the spring of 2005 and 2006. *Int. J. Environ. Res. Public Health* 5 : 76-85, 2008.

15. Hitomi Y¹, Okuda J¹, Nishino H¹, Kambayashi Y¹, Hibino Y¹, Takemoto K¹, Takigawa T¹, Ohno H, Taniguchi N¹ & Ogino K² (¹Kanazawa Univ., ²Okayama Univ.) Disposition of protein-bound 3-nitrotyrosine in rat plasma analysed by a novel protocol for HPLC-ECD. *J Biochem.* 41(4):495-502, 2007.

16. Karita K, Yamanouchi Y¹, Takano T¹, Oku J², Kisaki T³ & Yano E¹ (¹ Teikyo Univ. School of Med., ² Mitui Mutual Life Insurance Company, ³ Store of Yokohama, Takashimaya Company) : Associations of blood selenium and serum lipid levels in Japanese premenopausal and postmenopausal women. *Menopause* 15(1) : 119-124, 2008.

17. Yoshida M, Takashima Y, Inoue M¹, Iwasaki M¹, Otani T¹, Sasaki S² & Tsugane S¹ for the JPHC Study Group (¹National Cancer Center, ²National Institute of Health and Nutrition) : Prospective study showing that dietary vitamin C reduced the risk of age-related cataracts in a middle-aged Japanese population. *Eur. J. Nutr.* 46 : 118-124, 2007.

18. Kokaze A¹, Ishikawa M², Matsunaga N, Yoshida M, Masao Satoh³, Teruya K, Honmyo R, Shirasawa T¹, Hoshino H¹ & Takashima Y (¹Showa Univ. of School of Med., ²Mito Red Cross Hospital, ³Saitama Med. Univ.) : Longevity-associated mitochondrial DNA 5178 C/A polymorphism and its interaction with cigarette consumption are associated with pulmonary function in middle-age Japanese men. *J. Hum. Genet.* 52: 680-685, 2007.

19. Okamoto H, Tsunoda T, Teruya K, Takeda N, Uemura T, Matsui T, Fukazawa S, Ichikawa K, Takemae R, Tsuchida K & Takashima Y : An Occupational Health Study of Emergency Physicians in Japan: Health Assessment by Immune

Variables (CD4, CD8, CD56, and NK Cell Activity) at the Beginning of Work. J Occup Health 50 : 136-146, 2008.

20. 岡本博照、角田透、松井知子、市川佳居、上村隆元、照屋浩司：救急医師勤務開始時のストレスと覚醒について—Stress Arousal Checklist (SACL)日本人版からの検討—。産業ストレス研究14 (3) : 135-141、2007.

21. 岡本博照、角田透、照屋浩司、山口芳裕¹、島崎修次¹ (¹杏林大・医・救急)：救急医療と救急医に対する医学生の意識調査：パイロット研究。日臨救医誌10 (4) : 397-403.

22. 神津祐子¹、照屋浩司、太田ひろみ¹、島田直樹²、櫻井裕³、高安雅嗣¹、横島啓子¹、中村功⁴、山下真紀⁵ (¹杏林大・保・公衆衛生学、²慶應大・医・衛生学公衆衛生学、³防衛医科大・衛生学公衆衛生学、⁴(株)ジェイテクト東部テクニカルセンター健康管理室、⁵相鉄診療所)：日常生活習慣の変容についての検討—ある職域における9年連続した問診結果の解析から—。民族衛生73 (5) : 173-182、2007.

23. Murakami K¹, Sasaki S¹, Okubo H², Takahashi Y³, Hosoi Y⁴, Itabashi M⁴ & the Freshmen in Dietetic Courses Study II Group (¹The Univ. of Tokyo, ²Kagawa Nutrition Univ., ³Wayo Women's Univ., ⁴National Institute of Health and Nutrition) : Food intake and functional constipation: a cross-sectional study of 3835 Japanese women aged 18-20 years. J Nutr Sci Vitaminol 53 : 30-36, 2007.

24. Murakami K¹, Sasaki S¹, Okubo H², Takahashi Y³, Hosoi Y⁴, Itabashi M⁴ & the Freshmen in Dietetic Courses Study II Group (¹The Univ. of Tokyo, ²Kagawa Nutrition Univ., ³Wayo Women's Univ., ⁴National Institute of Health and Nutrition) : Association between dietary fiber, water and magnesium intake and functional constipation among young Japanese women. Eur J Clin Nutr 61 : 616-622, 2007.

25. Okubo H¹, Sasaki S¹, Murakami K¹, Kim MK³, Takahashi Y⁴, Hosoi Y⁵, Itabashi M⁵ & the Freshmen in Dietetic Courses Study II Group (¹Kagawa Nutrition Univ., ²The Univ. of Tokyo, ³National Cancer Center, Gyeonggi-do, Korea, ⁴Wayo Women's Univ., ⁵National Institute of Health and Nutrition) : Dietary patterns associated with functional constipation among Japanese women aged 18 to 20 years : a cross-sectional study. J Nutr Sci Vitaminol 53 : 232-238, 2007.

26. Murakami K¹, Sasaki S¹, Okubo H², Takahashi Y³, Hosoi Y⁴, Itabashi M¹ & the Freshmen in Dietetic Courses Study II Group (¹The Univ. of Tokyo, ²Kagawa Nutrition Univ., ³Wayo Women's Univ., ⁴National Institute of Health and Nutrition) : Dietary fiber intake, dietary glycemic index and load, and body mass index: a cross-sectional study of 3931 Japanese women aged 18-20 years. Eur J Clin Nutr 61 : 986-995, 2007.

27. Michikawa T¹, Nishiwaki Y¹, Nomiyama T¹, Uemura T, Ouchi T¹, Sakurai H¹,

Omae K¹, & Takebayashi T¹ (¹Keio Univ.) : Job stress and arteriosclerosis in three different types of arteries in Japanese male factory workers. Scandinavian Journal of work, Environment & Health November : 182-189, 2007.

28. Tanaka K¹, Sasaki S², Murakami K², Okubo H³, Takahashi Y⁴, Miyake Y¹ & the Freshmen in Dietetic Courses Study II Group (¹Fukuoka Univ., ²The Univ. of Tokyo, ³Kagawa Nutrition Univ., ⁴Wayo Women's Univ.) : Relationship between soy and isoflavone intake and periodontal disease : the Freshmen in Dietetic Courses Study II. BMC Public Health 8 (1) : 39, 2008.

Ⅲ. 著書

1. 大空眞弓¹、大谷克弥²、大野秀樹 (¹オフィスのいり、²読売新聞社) : 大空眞弓の健康格言—おばあちゃんに学ぶ暮らしの知恵. 東京、れんが書房新社、2007.
2. 高島豊 (編著) : 疫学の理論と実践. 東京、杏林書院、2007. p. 1-128.
3. 照屋浩司 (分担) : 疫学の理論と実践. 東京、杏林書院、2007.
4. 高島豊 : 管理栄養士国家試験完全攻略／○×チェック実戦4000問 2008年版、東京、医歯薬出版、2007.
5. 角田透 (分担) : Ⅲ産業精神保健の展開、作業管理. 産業精神保健マニュアル. 東京、中山書店、2007. p 52-56.
6. 角田透 (分担) : 管理栄養士国家試験完全攻略／○×チェック実戦4000問2008年版、東京、医歯薬出版、2007.
7. 照屋浩司 (分担) : 管理栄養士国家試験完全攻略／○×チェック実戦4000問 2008年版、東京、医歯薬出版、2007.
8. 松井知子 (分担) : 人間関係がよくわかる心理学. 第7章職場の中の人間関係. 東京、福村出版、2008、 p 109-124.

Ⅳ. その他

(平成18年度追加)

1. 大野秀樹 : 活性酸素と生活習慣病— SOD を中心として— . リポ蛋白・代謝研究会誌 36: 18-20, 2006.

(平成19年度～)

1. 大野秀樹 (監訳) : ACSMメタボリック・カリキュレーション・ハンドブック 運動時代謝の計算法. Stephen Glass他編. 東京、ナッパ、2008.
2. 大野秀樹、木崎節子 : 質疑応答 : 体力医学 運動生理学・生化学の参考書. 日本医事新報、4339、pp. 94、2007.
3. 大野秀樹、木崎節子、中野法彦、櫻井拓也 : 運動による酸化ストレスへの脂肪細胞の応答 : 特に内臓脂肪における EC-SOD の役割. 平成17年度~平成18年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 研究成果報告書. 2007.
4. 大野秀樹、木崎節子 (質疑応答) : 体力医学 運動生理学・生化学の参考書. 日

本臨床 4339: 93-94, 2007.

5. 大野秀樹: ザクロシードオイル. ゆほびか 13(8) : 151-158, 2008.
6. 大野秀樹: 長いワーキング・ライフを乗り切るためには元気供給源が必要です: 登山のススメ. GOAL 10 : 1-4, 2007.
7. 大野秀樹: 登山は少子化を救うかもしれない. GOAL 11 : 5-8, 2007.
8. 大野秀樹: 百寿者になるのは夢ではない. GOAL 2 : 15-19, 2008.
9. 大野秀樹: やはり禁煙するしかない. GOAL 3 : 11-14, 2008.
10. 角田透 (学会主催): 第15回日本産業ストレス学会、三鷹、平成19年12月7~8日.
11. 角田透: 職場におけるアルコール対策. 産業保健21 (52) : p 14-17, 2008.
12. 角田透、宮崎総一郎、黒岩大輔: 救急隊員の労務管理と健康について. 第17回全国救急隊員シンポジウム オープンディスカッション(コーディネータ和田貴子)、平成20年1月25日.
13. 角田透: 産業保健この1冊 職場のメンタルヘルス100のレシピ (書籍紹介). 産業保健21、第48号2007. 4、pp. 29、2007.
14. 高島豊: メタボリックシンドロームの自己防衛対策とは. 東京、プレジデント社、東京、2007. 9. 3号、p. 138-139.
15. 高島豊: もう始まっている「元気な百寿者: への道: 軌道修正は何歳から始めても有効」. 東京、(財) 東京都予防医学協会 (財) 予防医学事業中央会東京都支部、よぼう医学第411号、2007、p. 2.
16. 松井知子: 第2回産業心理臨床専門研修会実践報告、日本臨床心理士会雑誌16 (2) : 50-51、2007.
17. 高島豊、小風暁、吉田正雄: 2種の遺伝子多型と生活習慣の眼圧および血圧の推移に及ぼす交互作用に関する追跡研究. 平成15年度~平成18年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 研究成果報告書. 2007.

共同研究施設放射性同位元素部門

【口演】

井原智: 放射線障害の防止に関する法令. 日本医科大学研修医講習会, 東京, 平成19年4月4日.

藤原智徳¹, 小藤剛史, 三嶋竜弥¹, 吉川武男³, 赤川公朗¹ (1 杏林大・医・細胞生理学, 3 理研・分子神経科学): HPC-1/syntaxin1A ノックアウトマウスにおける自閉症様行動異常. 第30回日本神経科学大会, 平成19年9月10日.

三嶋竜弥¹, 藤原智徳¹, 小藤剛史, 赤川公朗¹ (1 杏林大・医・細胞生理学): HPC-1/syntaxin1A ノックアウトマウスの長期増強におけるcAMP情報伝達系の減衰

． 第30回日本神経科学大会，平成19年9月10日．

井原智：放射性同位元素等の安全取扱いの基礎及び実際．東京医科歯科大学放射線障害防止講習会，東京，平成19年10月22日．

赤川公朗¹，藤原智徳¹，小藤剛史，古賀良彦³，田丸政男⁴，林優子⁵（1 杏林大・医・細胞生理学，3 杏林大・医・精神神経科学，4 県立広島大・保健福祉・コミュニケーション障害学科，5 県立広島大・保健福祉・作業療法学科）：ヒト自閉症におけるsyntaxin1 遺伝子異常の解析，第36回 杏林医学会総会，平成19年11月17日．

藤原智徳¹，小藤剛史，三嶋竜弥¹，赤川公朗¹（1 杏林大・医・細胞生理学）：HPC-1/syntaxin1A ノックアウトマウスの培養海馬神経細胞に対する5HTシグナルの影響．第85回日本生理学会大会，平成20年3月25日．

IHARA S. : Medical Radiation Safety Management at Japan. Ann. Meet. of Korean Radiological Technologist Association, Gwangju-si, Mar.29.2008.

【共著マニュアル】

井原智：放射線施設廃止の確認手順と放射能測定マニュアル．日本放射線安全管理学会専門委員会編，日本放射線安全管理学会，平成19年6月．

共同研究施設フローサイトメトリー部門

【単行本】

- 1 小林富美恵¹（¹感染症学）：赤内型マウスマラリアにおける自然免疫応答．生体防御医学事典（鈴木和男監修）．朝倉書店，東京，2007，pp44-49.

【雑誌】

- 1 Kobayashi F¹，Waki S²，Niikura M³，Tachibana M⁴，Tsuboi T⁵，Torii T⁴ & Kamiya S¹. (¹Dept Infect Dis, , ²Gunma Prefect. Coll. Hlth. Sci., ³Inst. Lab. Anim.,. Med., ⁴Dept. Mol. Parasitol., Ehime Univ. Schl. Med., ⁵Cell-Free Sci. Technol. Res. Cent., Ehime Univ.) : *Plasmodium berghei* XAT: Protective 155/160kDa antigens are located in parasitophorous vacuoles of schizont-stage parasite. Exp Parasitol 116:450-457, 2007.
- 2 Kobayashi F¹，Niikura M²，Waki S³，Matsui T¹，Fujino T¹，Tsuruhara T⁴ & Kamiya S¹. (¹Dept. Infect. Dis., ²Inst. Lab. Anim., ³Gunma Prefect. Coll. Hlth. Sci, ⁴Depart. Biol., Tokyo Gakugei Univ.): *Plasmodium berghei* XAT: Contribution of gd T cells to host defense against infection with

- blood-stage nonlethal malaria parasite. *Exp Parasitol* 117:368-375, 2007.
- 3 Y. Kano¹, Hirahara K¹, Mityuyama Y¹, Takahashi R, Shiohara T¹ (¹Dept. Dermatol.): Utility of the lymphocyte transformation test in the diagnosis of drug sensitivity: dependence on its timing and the type of drug eruption. *Allergy* 62: 1439-1444, 2007
 - 4 Nanno M¹, Kanari Y², Naito T^{3, 4}, Inoue N⁵, Hisamatsu T⁵, Chinen H⁵, Sugimoto K^{6, 7}, Shimomura Y^{6, 7}, Yamagishi H², Shiohara T⁸, Ueha S⁹, Matsushima K⁹, Suematsu M⁴, Mizoguchi A^{6, 7}, Hibi T⁵, K. Bhan A^{6, 7}, Hiromichi Ishikawa H³ (¹Yakult Central Inst. for Microbiological Research, ²Dept. of Biophysics, Grad. Sch. of Science, Kyoto Univ., ³Dept. of Microbiol. and Immunol., Keio Univ. Sch. of Medicin, ⁴Dept. of Biochemistry and Integrative Medical Biology, Keio Univ. Sch. of Med., ⁵Dept. of Internal Med., Keio Univ. Sch. of Med., ⁶Center for the Study of Inflammatory Bowel Disease, Massachusetts General Hospital, ⁷Dept. of Pathol., Massachusetts General Hospital, ⁸Dept. of Dermatol., ⁹Dept. of Molecular Preventive Med., Grad. Sch. of Med., Univ. of Tokyo): Exacerbating role of gammadelta T cells in chronic colitis of T-cell receptor alpha mutant mice. *Gastroenterology* 134:481-490, 2008
 - 5 Shiohara T¹, Kano Y¹ (¹Dept. Dermatol.): A complex interaction between drug allergy and viral infection. *Clin Rev Allergy Immunol* 33:124-133, 2007
 - 6 Mizukawa Y¹, Takahashi R, Yamazaki Y¹, Kimishima M¹, Shiohara T¹ (¹Dept. Dermatol.): Fucosyltransferase VII-positive, skin-homing T cells in the blood and skin lesions of atopic dermatitis patients. *Exp Dermatol* 17:170-176, 2008
 - 7 Kano Y¹, Hirahara K¹, Mitsuyama Y¹, Takahashi R, Shiohara T¹ (¹Dept. Dermatol.). Utility of the lymphocyte transformation test in the diagnosis of drug sensitivity: dependence on its timing and the type of drug eruption. *Allergy* 62:1439-1444, 2007
 - 8 Tezuka H¹, Abe Y¹, Iwata M², Takeuchi H², Ishikawa H³, Matsushita M⁴, Shiohara T⁵, Akira S⁶ & Ohteki T¹ (¹Dept. of Immunol., Akita Univ. Grad. Sch. of Med., ²Faculty of Pharmaceutical Sciences at Kagawa Campus, Tokushima Bunri Univ., ³Dept. of Microbiol. and Immunol., Keio Univ. Sch. of Med., ⁴Mitsubishi Kagaku Inst. of Life Science, ⁵Dept. of Dermatol., ⁶Dept. of Host Defense, Research Inst. for Microbial Diseases, Osaka Univ.): Regulation of IgA production by naturally occurring TNF/iNOS-producing dendritic cells. *Nature* 448:929-933, 2007
 - 9 Kano Y¹, Mitsuyama Y¹, Hirahara K¹, Shiohara T¹ (¹Dept. Dermatol.): *Mycoplasma pneumoniae* infection-induced erythema nodosum, anaphylactoid purpura, and acute urticaria in 3 people in a single family. *J Am Acad Dermatol* 57:S33-35, 2007
 - 10 Hasannejad H¹, Takahashi R, Kimishima M¹, Hayakawa K¹, Shiohara T¹ (¹Dept. Dermatol.). Selective impairment of Toll-like receptor 2-mediated proinflammatory cytokine production by monocytes from patients with atopic dermatitis. *J Allergy Clin Immunol* 120:69-75, 2007
 - 11 Shiohara T¹, Mizukawa Y¹ (¹Dept. Dermatol.): Fixed drug eruption: a disease mediated by self-inflicted responses of intraepidermal T cells.

Eur J Dermatol 17:201-208, 2007

- 12 Nanno M¹, Shiohara T², Yamamoto H³, Kawakami K⁴, Ishikawa H⁵ (¹Yakult Central Inst. for Microbiological Research, ²Dept. of Dermatol., ³Dept. of Immunol., Grad. Sch. of Pharmaceutical Sciences, Osaka Univ., ⁴Division of Microbiol. and Immunol., Sch. of Health Sciences, Tohoku Univ., ⁵Dept. of Microbiol. and Immunol., Keio Univ. Sch. of Med.): gammadelta T cells: firefighters or fire boosters in the front lines of inflammatory responses. Immunol Rev 215:103-113, 2007

【口演】

- 1) Takahashi R and Shiohara T¹ (¹Dept. of Dermatol.): Dramatic expansion of Tregs with skin-homing potential followed by sequential reactivations of herpesviruses. The 32nd annual meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology (プレナリー口演), Yokohama, Apr 18-20, 2006.
- 2) 福岡利仁¹, 大塚貴子¹, 早川哲¹, 要伸也¹, 有村義宏¹, 山田明¹ (¹第一内科学教室): 腎不全症例における末梢血血管内皮前駆細胞 Circulating endothelial progenitor cell: cEPC の検討, 第 50 回日本腎臓学会. 浜松, 平成 19 年 5 月 25 日
- 3) 新倉保^{1,2}, 小林富美恵³, 北潔¹ (¹東大・国際保健, ²実験動物, ³感染症学): 複合マラリア原虫感染における病態抑制機構の解析. 第 15 回分子寄生虫ワークショップ, 群馬, 平成 19 年 7 月 25-28 日.
- 4) Fukuoka K¹, Kaname S¹, and Yamada A¹ (¹1st Internal Med.): A study of circulating endothelial progenitor cells in the patients with chronic renal failure and chronic kidney disease. Renal Week 2007 (American Society of Nephrology), San Francisco, November 4, 2007.
- 5) Niikura M^{1,2} & Kobayashi F³ (¹Inst. Lab. Anim., ²Dept. Biomed. Chem., Grad. Schl. Med., Univ of Tokyo., ³Dept. Infect. Dis.): Coinfection with nonlethal murine malaria parasites suppresses pathogenesis caused by *Plasmodium berghei* NK65. The 37th Annual Meeting of Japanese Society of Immunologists, Tokyo, November 20-22, 2007.
- 6) 福岡利仁, 大塚貴子, 須藤京, 野村和史, 要伸也, 山田明 (第一内科学教室): 慢性腎不全症例における末梢血血管内皮前駆細胞数の検討. 第 13 回日本腹膜透析研究会, 広島, 2007 年 11 月 24 日
- 7) Takahashi R, Kobayashi F¹ & Shiohara T² (¹Dept. Infect. Dis., ²Dept. Dermatol., Kyorin Univ. Schl. Med.): Purification and characterization of human peripheral blood regulatory T cells using FACSaria. JSPS-NRCT Joint Seminar, 2007; -Strategies for controlling emerging and reemerging infectious diseases in Southeast Asia in JSPS Core Univ. Program, Bangkok, November 30th, 2007.

蛋白質核酸解析部門

口演

永松信哉 (シンポジウム) : インスリン開口分泌と糖尿病 (糖尿病はどこまでわかったかー原因遺伝子と発症メカニズムー). 第27回日本医学会総会, 大阪, 平成19年4月6-8日.

金井好克 : アミノ酸トランスポーター:問題点. トランスポータープロテオミクス研究検討会, 大阪, 平成19年4月14日.

金井好克 : CRESTサイトビジット. 福岡, 平成19年4月19日.

安西尚彦 : ヒト腎臓尿酸トランスポーターURAT1によるサリチル酸輸送. リウマチ学会2007, 横浜, 平成19年4月26日.

Anzai N, Micek V, Brzica H, Koepsell H & Sabolic I: Immunolocalization of G-protein-coupled receptors for succinate (GPR91) and α -ketoglutarate (GPR99) in the human nephron. 5th International Symposium on receptor Mechanisms. Signal Transduction and drug Effects. Shizuoka, Japan, May 10-11, 2007.

木村徹 : フォトアフィニティーラベルロイシンを用いたアミノ酸センサーの同定. フォトアフィニティーラベル体を用いた結合部位同定に関する討論会, 京都, 平成19年5月16日.

永松信哉 (シンポジウム) : 2型糖尿病におけるインスリン開口放出異常. (シンポジウムー5 ; 2型糖尿病の膵 β 細胞異常 (機能・量)), 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 平成19年5月24-26日.

永松信哉 : (ランチョンセミナー) 糖尿病におけるインスリン開口放出異常とグリニド薬. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 平成19年5月24-26日.

河井順子, 今泉美佳, 中道洋子, 八田真衣子, 菊田敏輝, 岡村匡史, 綿田裕孝, 河盛隆造, 永松信哉 : グリニド剤の糖尿病膵 β 細胞機能における検討. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 平成19年5月24-26日.

橋本信嗣, 岡本昌之, 窪田直人, 今泉美佳, 江藤一弘, 菅野隆浩, 高本偉碩, 山内敏正, 植木浩二郎, 泉井亮, 寺内康夫, 野田光彦, 永松信哉, 門脇孝 : アディポネクチンはインスリン分泌を促進する. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 平成19年5月24-26日.

今泉美佳, 藤原智徳, 中道洋子, 岡村匡史, 赤川公朗, 永松信哉 : 分泌第1相と第2相のインスリン開口放出機構は異なっている. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 平成19年5月24-26日.

今泉美佳, 永松信哉 : 分泌第1相と第2相のインスリン開口放出機構は異なっている. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 平成19年5月24-26日.

安西尚彦, 崎博喜, 何新, 遠藤仁, 金井好克 : PDZK1を介した Na^+ -モノカルボン酸共輸送体SMCT1と尿酸トランスポーターURAT1の輸送複合体形成の可能性. 浜松, 平成19年5月25日.

安西尚彦, 福富俊之, 金井好克, 遠藤仁 : 尿酸トランスポーターURAT1と細胞内支持タンパクPDZK1との相互作用のリン酸化による調節の可能性. 第50回日本腎臓学会学術総会. 浜松, 平成19年5月25日.

安西尚彦, 加国雅和¹, 大房健², 石橋賢一³, 吉里勝利⁴, 遠藤 仁 (¹(株)フェニ

ックスバイオ,²(株)プロフェニックス,³国立千葉東病院臨床研究センター,⁴広島大・生物科学専攻):ヒト肝細胞キメラマウスにおける血中ヒトアルブミン値と血清尿酸値の相関性に関する検討.第50回日本腎臓学会学術総会,浜松,平成19年5月25日.

平田拓,何新, Ellapan B, 石川貴正¹, 曾我朋義², 安西尚彦, 遠藤仁, 金井好克(¹ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ(株)研究開発部,²慶応義塾大・先端生命研究所):メタボローム技術を用いた新規有機イオントランスポーターOATN1の生理機能の解明.第50回日本腎臓学会学術総会,浜松,平成19年5月25日.

安西尚彦:肝臓血管側のニコチン酸取込み経路としてのヒト有機アニオントランスポーターhOAT2の役割:サルチル酸との相互作用.第43回日本肝臓学会総会,東京,平成19年6月1日.

安西尚彦, 加国雅和¹, 大房健²(¹(株)フェニックスバイオ,²(株)プロフェニックス):ヒト肝臓キメラマウスにおける血中ヒトアルブミン値と血清尿酸値の相関性に関する検討.第43回日本肝臓学会総会,東京,平成19年6月1日.

Islam R, Jutabha P, 平田拓, 安西尚彦, 遠藤仁, 金井好克:上皮型中世アミノ酸トランスポーターBOAT1によるメチル水銀輸送の検討.第116回日本薬理学会関東部会,東京,平成19年6月2日.

三浦大作¹, 安西尚彦, 坂田武¹, 金井好克, 遠藤仁¹(¹株式会社富士バイオメディックス):有機アニオントランスポーターhOAT1およびhOAT3を介したパラアミノ酸の取り込みに対する血清タンパクの影響.第116回日本薬理学会関東部会,東京,平成19年6月2日.

安西尚彦, 平田拓, Sunena Kundu-Srivastava, 三浦大作, 小泉昭夫¹, 金井好克(¹京都大・院・医学研究科健康要因学)(シンポジウム):Hartnup病原因遺伝子B⁰AT1(SLC6A9)の細胞内C末端結合タンパク質の同定,第2回トランスポーター研究会,シンポジウム1,東京,平成19年6月9日.

波多野亮¹, 平田拓, 真田覚¹, 安西尚彦, 金井好克, 松原光伸¹(¹東北大・医・創生応用医学研):新規プロスタグランジン特異的トランスポーターOAT-PGの生理機能の解析.第2回トランスポーター研究会,東京,平成19年6月10日.

金井好克:セミナー「アミノ酸トランスポーター:その分子機構と病態」.第3回分子生物学セミナー,栃木,平成19年6月11日.

安西尚彦, 何新, 金井好克:肝臓血管側のニコチン酸取込み経路としてのヒト有機アニオントランスポーターhOAT2の役割:サルチル酸との相互作用.第80回日本内分泌学会学術総会,東京,平成19年6月14日.

金井好克:推薦講演「実践臨床病態学講義」.群馬大学同窓会推薦講演,前橋,平成19年6月15日.

楊國昌:ネフリンの蛋白機能障害におよぼす免疫抑制薬の作用.第40回兵庫小児腎臓病研究会(特別講演),神戸,平成19年6月16日.

永松信哉(特別講演):グリニド薬長期投与糖尿病GKラットにおけるインスリン開口放出のTIRF解析,Chicago Diabetes Forum 2007, Chicago, June 24, 2007.

Hirata T, Phetdee K, Babu E, Nimitvilai S, Nomura K, Mitani S, Andou A & Kanai Y: Analysis of *C. elegans* SLC7 amino acid transporters. 16th international *C. elegans* meeting, University of California, Los Angeles, June 27-July 1, 2007.

Phetdee K, Hirata T, Nilwarangkoon S, Babu E, Nomura K, Mitani S & Kanai Y:

Identification and characterization of an intestinal amino acid transporter (AAT-4) in *Caenorhabditis elegans*. 16th international C. elegans meeting. University of California, Los Angeles, June 27-July 1, 2007.

安西尚彦, 加国雅和¹, 大房健², 吉里勝利³, 遠藤仁 (¹(株) フェニックスバイオ, ²(株) プロフェニックス, ³広島大・生物科学専攻): ヒト肝細胞キメラマウスにみられる高尿酸血症と血中ヒトアルブミン値の相関性. 第34回日本トキシコロジー学会学術年会, 東京, 平成19年6月27日.

安西尚彦, 金井好克, 遠藤仁 (シンポジウム): 薬物トランスポーターと腎障害: 最近の話題, 第34回日本トキシコロジー学会学術年会, シンポジウム1, 薬剤性腎障害の発症機序と防御, 東京, 平成19年6月27日.

伊藤紀子, 新津麻子, 三嶋典子, 倉山亮太, 関根裕司, 磯貝徹也, 中條綾, 清水マリ子¹, 松山 健¹, 楊國昌 (¹公立福生病院小児科): 血管性紫斑病様症状にて発症したWegener肉芽腫症の1女児例. 第42回日本小児腎臓病学会学術集会, 横浜, 平成19年6月28-30日.

関根裕司, 伊藤紀子, 倉山亮太, 福原大介, 中條綾, 清水マリ子, 楊國昌: アルポート症候群における蛋白尿の病態とシクロスポリンAの抗蛋白尿作用機序の考察. 第42回小児腎臓病学会学術集会, 横浜, 平成19年6月28-30日

倉山亮太, 伊藤紀子, 関根裕司, 福原大介, 中條綾, 清水マリ子, 楊國昌, 山口裕¹ (¹慈恵医大・柏病院病理): Chance proteinuriaで発見されたミトコンドリア腎症 (A3243G) 女児例の蛋白尿の病態の考察. 第42回日本小児腎臓病学会学術集会, 横浜, 平成19年6月28日.

永松信哉 (シンポジウム): TIRF法で語るインスリン分泌 (手法で語る生体膜—生体膜の謎解きのために—). 日本生化学会関東支部教育シンポジウム, 東京, 2007年7月14日.

永松信哉 (招請講演): Multispec-TIRFシステムを用いた抗糖尿病薬のインスリン分泌過程における作用, グルファスト発売3周年記念2007, 神戸, 平成19年7月7日.

安西尚彦: 腎尿酸輸送最近の話題: 尿酸トランスポートソーム, 東京理科大学薬学部生物薬剤学研究室 膜輸送体研究会特別セミナー, 野田, 平成19年7月17日

楊國昌: 学校検尿で発見される疾患と最近の腎疾患のトピックス. 多摩臨床懇話会 (特別講演), 三鷹, 平成19年7月20日.

安西尚彦: 有機イオンの細胞膜輸送: トランスポーターの基礎と臨床. 第3回JPC/JCNRA合同プテリジン研究発表会, 東京, 平成19年7月21日.

Kanyarat P, Kimura T, Hirata T, Fukutomi T, Takfuji K, Kanai Y: Identification of the CD98hc interacting proteins by proteomics approach. 特定領域「生体膜トランスポートソームの分子機構と生理機能」. 平成19年度第1回班会議, 湘南, 平成19年7月23日.

Petdee K, Hirata T, Ellappan B & Kanai Y: Transportsome study by using *C. elegans* as a model. 特定領域「生体膜トランスポートソームの分子機構と生理機能」, 平成19年度第1回班会議, 湘南, 平成19年7月23日.

金井好克: 有機溶質トランスポートソーム. 特定領域「生体膜トランスポートソームの分子機構と生理機能」, 平成19年度第1回班会議, 湘南, 平成19年7月23日.

波多野亮¹, 平田拓, 真田覚¹, 安西尚彦, 金井好克, 松原光伸¹ (¹東北大学・医・遺伝子医療開発分野): 腎特異的Prostaglandin輸送体OAT-PGによる腎皮質内PGE² 循

環システムの確立. 特定領域「生体膜トランスポートソームの分子機構と生理機能」, 平成19年度第1回班会議, 湘南, 平成19年7月23日.

李悦璋, 木村徹, 金井正美, 川上速人, 金井好克: Formation of the transportersome between the Cationic amino acid transporter 5 and endothelial nitric oxide synthase in the placenta may explain the “Arginine Paradox”. 特定領域「生体膜トランスポートソームの分子機構と生理機能」, 平成19年度第1回班会議, 湘南, 平成19年7月23日.

Ueno T: How can we identify intracellular amino acid sensor molecules? The 21st Symposium of the Protein Society, Boston, U.S.A., July 24, 2007.

Islam R, Jutabha P, 平田拓, 安西尚彦 遠藤仁, 金井好克: 上皮型中性アミノ酸トランスポーターB⁰ATP1によるメチル水銀輸送の検討. 第29回日本中毒学会総会・学術集会, 東京, 平成19年7月27日.

安西尚彦, Kittipong Tachampa, Suparat Khamdang, 武田理夫, 遠藤仁: ヒト有機アニオントランスポーターOATs/OCTsとマイコトキシンとの相互作用. 第29回日本中毒学会・学術集会, 東京, 平成19年7月27日.

Breljak D¹, Ljubojevic M¹, Balen D¹, Zlender V¹, Anzai N, Burckhardt G² & Sabolic I¹. (¹ Institute for Medical Research & Occupational Health, Croatia, ²University of Göttingen, Germany): Expression of Organic Anion Transporter Oat3 in Rat Liver is Regulated by Sex Hormones. BioMedical Transporters 2007, Bern, Aug. 12-16, 2007.

Sabolic I¹, Breljak D¹, Ljubojevic M¹, Balen D¹, Zlender V¹, Brzica H¹, Kusan M¹ & Anzai N (¹Institute for Medical Research & Occupational Health, Croatia): Renal expression of organic anion transporter Oat5 in rats is regulated by sex hormones. BioMedical Transporters 2007, Bern, Aug 12-16, 2007.

Hirata T, Ishikawa T¹, Soga T^{1, 2} & Kanai Y (¹Human Metabolome Technologies Inc, Yamagata, Japan, ²Institute for Advanced Biosciences, Keio University, Yamagata, Japan): Elucidation of function of an orphan transporter from SLC22 organic cation/anion/switterion transporter family by metabolome analysis. BioMedical Transporters 2007, Bern, Aug 13, 2007.

Anzai N & Endou H: Renal Drug Transporters and Nephrotoxicity, Symposia Session 5-8 Hepatotoxicity/Nephrotoxicity, 6th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences, Tokyo, Aug. 22, 2007.

Kundu-Srivastava S, Khamdang S, Anzai N, Kanai Y & Endou H: Assessment of Nephrotoxic compounds using cell lines stably expressing renal organic anion transporters: Interaction with contrast media. 6th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences, Tokyo, Aug. 22, 2007.

Ohtsu N¹, Otomo J², Anzai N, Sakata T¹, Jutabha P¹, Narikawa S¹ & Endou H (¹(株)富士バイオメディックス, ²(株)日立): Development of the Alternative Method for Renal Drug Excretion using Xenopus Oocyte Expression System combined with a High throughput method OOCYTEXPRESS. 6th World Congress on Alternatives & Animal Use in the Life Sciences, Tokyo, Aug. 22, 2007

永松信哉 (特別講演): 2相性インスリン分泌機構の可視化解析. 第2回糖尿病と高血圧を考える会, 和歌山, 平成19年8月25日

関根裕司, 福原大介, 金井好克, 秋元義弘, 西堀由紀野, 長田道夫¹, 楊 國昌 (¹筑波大・人間総合科学研究科基礎医学系・病理): Functional Role of Na⁺-Independent System L Amino Acid Transporter 3 (LAT3) in Podocyte. 第16回発達腎研究会, 東京, 平成19年8月26日.

Ito N, Niitsu A, Mishima N, Kurayama R, Sekine Y, Isogai T, Nakajo A, Shimizu M¹, Matsuyama T¹ & Yan K (¹Public Fussa Hospital, Tokyo, Japan): A child case of Wegener's granulomatosis with the initial symptoms of Henoch-Schönlein purpura. 14th Congress of International Pediatric Nephrology Association. Budapest, Aug 31-Sep 4, 2007.

Nakajo A, Khoshnoodi J¹, Takenaka H, Sekine Y, Kurayama R, Noriko I, Tryggvason K², Yan K (¹Department of Medicine, Vanderbilt University School of Medicine, ²Department of Medical Biochemistry and Biophysics, Division of Matrix Biology, Karolinska Institute): The protective role of cyclosporin A (CsA) on hypoglycosylated nephrin formation induced by hypoxia. 14th Congress of the International Pediatric Nephrology Association, Budapest, Aug 31-Sep 4, 2007.

Kurayama R, Ito N, Sekine Y, Fukuhara D, Nakajo A, Shimizu M, Yamaguchi Y, Yan K (¹Department of pathology Kashiwa hospital, Jikei medical school): A girl with mitochondria nephropathy (A3243G) who detected by chance proteinuria. 14th Congress of the International pediatric nephrology association, Budapest, Sep 1-4, 2007.

Sekine Y, Fukuhara D, Bessho F, Nakajo A, Shimizu M, Yan K: Laminin beta2 chain is a possible key molecule for early-onset heavy proteinuria but not involved in the antiproteinuric effect of cyclosporin A in Alport syndrome. 14th congress of the International Pediatric Nephrology Association, Budapest, Sep.1-5, 2007.

平田拓, 武藤朋子, 金春姫, Babu E, 何新, 安西尚彦, 金井好克: 糖尿病モデルハウスを用いた網羅的遺伝子発現プロファイリングによるエネルギー代謝に関わる新規トランスポーター遺伝子の探索. 分子腎臓研究会第13回研究発表会, 東京, 平成19年9月1日.

金井好克: LAT1/4F2hcについての進捗. LAT1キリン定例会議, 東京, 平成19年9月3日.

金井好克: 「膜輸送複合体のプロテオミクスによる解析」研究の概略説明. 共同研究経過報告会, 大阪, 平成19年9月7日.

平田拓: 「膜輸送複合体のプロテオミクスによる解析」進捗状況のまとめ. 共同研究経過報告会, 大阪, 平成19年9月7日.

安西尚彦, 木村徹, 福富俊之, 小藤理絵, 金井好克, 遠藤仁: 腎臓尿酸トランスポーターURAT1(SLC22A12)遺伝子変異における輸送機能解析. 日本人類遺伝学会, 東京, 平成19年9月14日.

浦野和子¹, 谷口敦夫¹, 安西尚彦, 金井好克, 山中麻理子¹, 山中寿¹, 遠藤仁, 鎌谷直之¹ (¹東京女子医大・附属膠原病リウマチ痛風センター, ²(株)富士バイオメディックス): 痛風発症に関与するNPT1遺伝子多型. 日本人類遺伝学会, 東京, 平成19年9月14日.

永松信哉, 今泉美佳 (Invited Lecture): Mechanism of insulin granule docking and exocytosis, EASD islet study group symposium 2007. Brussels,

Sep. 21-23, 2007.

安西尚彦：腎臓尿酸輸送から、「トランスポートソーム」へ。トランスポーター研究会，北陸地方キックオフミーティング，富山，平成19年9月29日。

楊國昌：糸球体上皮細胞障害機序（ERストレス）。第36回NEPHRON FORUM（特別講演），岡山，平成19年10月3日。

永松信哉（シンポジウム）：Mechanism of impaired insulin exocytosis in diabetes mellitus (Round Table Discussion 1 Insulin secretion). 14th Japan-Korea Symposium on Diabetes Mellitus, Kyoto, Oct. 5-6, 2007.

Kundu-Srivastava S, 安西尚彦, Khamdang S, 金井好克：Interaction of human renal organic anion transporters with contract medi. 第117回日本薬理学会関東部会，東京，平成19年10月6日。

Kurayama R, Sekine Y, Bessho F, Kanai Y, Yan K: Implication of Na⁺-Independent System L Amino Acid Transporter 2 (LAT2) in the pathomechanism of the glomerular crescent formation. 3rd Congress of asian society for pediatric research, Tokyo, Oct 6-8, 2007.

Sekine Y, Fukuhara D, Kanai Y, Nishibori Y, Bessho F, Akimoto Y, Nagata M¹, Majumdar A², Tryggvason K², Yan K (¹Department of Pathology, Institute of Clinical, University of Tsukuba, ²Department of Medical Biochemistry and Biophysics, Division of Matrix Biology, Karolinska Institute): Functional Role of Na⁺-Independent System L Amino Acid Transporter 3 (LAT3) in Podocyte. 3rd congress of Asian Society of Pediatrics Research, Tokyo, Oct. 6-8, 2007.

安西尚彦：アミノ酸尿症と新規アミノ酸トランスポーターSLC6。第37回日本腎臓学会東部学術大会，さいたま，平成19年10月6日。

金井好克：尿細管膜輸送分子の分子生理と病態—Overview—。第37回日本腎臓学会東部学術大会，さいたま，平成19年10月6日。

福富俊之，安西尚彦，木村徹，Jutabha P, 上野剛，高藤和輝，金井好克：FRETを現象を用いた有機溶質の再吸収を司る輸送分子複合体の解明。第117回日本薬理学会関東部会，東京，平成19年10月6日。

楊國昌：ネフリンの蛋白機能障害に及ぼす免疫抑制薬の作用。第36回日本腎臓学会東部学術大会（ランチョンセミナー），さいたま，平成19年10月6日。

安西尚彦：トランスポートソームという考え方—尿酸トランスポーターを例として。特別講演会：トランスポーターワークショップin 徳島～トランスポーター研究の新展開，徳島，平成19年10月19日。

金井好克，安西尚彦，平田拓，Kanokporn Phetdee：アミノ酸トランスポーター：糖鎖の関与を含めて。CREST班会議，東京，平成19年10月21日。

平田拓，Kanokporn Phetdee，安西尚彦，金井好克：線虫*C. elegans*のアミノ酸トランスポーターの解析～線虫ユニークなアミノ酸輸送体の解析～。CREST班会議，東京，平成19年10月21日。

Kurayama R, Sekine Y, Bessho F, Kanai Y, Yan K: Implication of Na⁺-Independent System L Amino Acid Transporter 2 (LAT2) in the pathomechanism of the glomerular crescent formation. American society of nephrology renal week 2007, San Francisco, Oct 31-Nov 5, 2007.

Sekine Y, Fukuhara D, Kanai Y, Nishibori Y, Bessho F, Akimoto Y, Nagata M¹, Majumdar A², Tryggvason K², Yan K (¹Department of Pathology, Institute of Clinical, University of Tsukuba, ²Department of Medical Biochemistry and Biophysics, Division of Matrix Biology, Karolinska Institute): Functional Role of Na⁺-Independent System L Amino Acid Transporter 3 (LAT3) in Podocyte. American Society of Nephrology Renal Week 2007, San Francisco, Nov. 1-5, 2007.

安西尚彦, 遠藤仁: 新規有機アニオントランスポーター分子の同定. 生理学研究所研究会「上皮膜機能活性化物質と上皮膜防御の最前線」, 岡崎, 平成19年11月1-2日

Hrvoje Brzica¹, Davorika Breljak¹, Marija Ljubojevic¹, Daniela Balen¹, Vilim Zlender¹, Marija Kusan¹, Naohiko Anzai, Ivan Sabolic¹ (¹Institute for Medical Research & Occupational Health, Croatia): The Expression of Organic Anion Transporter Oat5 in Rat Kidneys is Gender-dependent. American Society of Nephrology Renal Week 2007, San Francisco, Nov. 2-5, 2007.

Ljubojevic M¹, Breljak D¹, Balen D¹, Brzica H¹, Zlender V¹, Anzai N, Sabolic I¹ (¹ Institute for Medical Research & Occupational Health, Croatia): Cadmium, mercury and cisplatin downregulate the expression of rat renal organic anion transporters Oat1 and Oat3. American Society of Nephrology Renal Week 2007, San Francisco, Nov. 2-5, 2007.

Zlender V¹, Ljubojevic M¹, Balen D¹, Breljak D¹, Brzica H¹, Fuchs R¹, Anzai N, Sabolic I¹ (¹ Institute for Medical Research & Occupational Health, Croatia) (ポスター): Dual Effect of Ochratoxin A (OTA) on the Renal Expression of Organic Anion Transporters Oat1 and Oat3 in Rats. American Society of Nephrology Renal Week 2007, San Francisco, Nov. 2-5, 2007.

Hirata T, Xin H, Babu E, Ishikawa T, Soga T, Endou H & Kanai Y: Molecular Identification and Functional Characterization of a Novel Organic Anion Transporter OATN1. American Society of Nephrology 38th Annual Renal Week Meeting, San Francisco, Nov 4, 2007.

Sunena Srivastava, 安西尚彦, 金井好克: Interaction of human renal organic anion transporters with contrast media. 第36回杏林医学会総会, 三鷹, 平成19年11月17日

三浦大作, 安西尚彦, 金井好克: 有機アニオントランスポーターhOAT1およびhOAT3を介したパラアミノ馬尿酸の取込みに対する血清タンパク質の影響. 第36回杏林医学会総会, 三鷹, 平成19年11月17日.

平田拓, 高藤和輝, 安西尚彦, 金井好克: 糖尿病モデルマウスを用いた網羅的遺伝子発現プロファイリング (エネルギー代謝に関わる新規トランスポーター遺伝子の探索). 第36回杏林医学会, 東京, 平成19年11月17日

安西尚彦, Ho Jung Shin, 何新, 金井好克¹, 遠藤仁 (¹大阪大・院・医学系研究科) (ポスター): 硫酸抱合体を短鎖脂肪酸との交換により輸送する新規肝特異的有機アニオントランスポーターOAT7の同定. トランスポーター研究会第一回九州部会, 熊本, 平成19年11月24日.

安西尚彦, Sunena Srivastava, Suparat Khamdang, 山西藍¹, 宮尾和洋, 遠藤仁¹ (¹(株)ジェイファーマ) (ポスター): 腎有機酸トランスポーターOATsとflavonoids

の相互作用. 第5回日本予防医学会学術総会, 指宿, 平成19年11月24日.

福富俊之, 安西 尚彦, 木村徹, 金井好克: PDZK1を介した有機溶質の再吸収を司る輸送分子複合体形成の可能性. トランスポーター研究会第一回九州部会, 熊本, 平成19年11月24日.

安西尚彦, Ho Jung Shin, 何新, 金井好克¹, 遠藤仁 (¹大阪大・院・医学系研究科) (ポスター): 硫酸抱合体を短鎖脂肪酸との交換により輸送する新規肝特異的有機アニオントランスポーターOAT7の同定. トランスポーター研究会第一回東北部会, 仙台, 平成19年11月25日.

安西尚彦: トランスポーター研究の未来とトランスポーター研究会の役割. トランスポーター研究会第一回東北部会, 仙台, 平成19年11月25日.

福富俊之, 安西 尚彦, 木村徹, 金井好克: PDZK1による尿酸トランスポーターURAT1と有機酸トランスポーターOAT4の分子集積. トランスポーター研究会第一回東北部会, 仙台, 平成19年11月25日.

俣田秀章¹, 佐藤正延¹, Yan Li¹, 三上健太郎¹, 安西尚彦, 白坂善之¹, 玉井郁巳¹ (¹東京理科大・薬学部): 尿酸動態に関与する有機アニオントランスポーターOATの輸送特性. トランスポーター研究会第一回東北部会, 仙台, 平成19年11月25日.

Ohara-Imaizumi M, Fujiwara T, Akagawa K & Nagamatsu S: Imaging analysis reveals mechanistic differences between first and second phase insulin exocytosis. International Symposium on Membrane Traffic, Awaji, Japan Nov. 27-29, 2007.

安西尚彦, 金井好克, 遠藤仁: 腎臓の尿酸トランスポートソーム: 病態の理解に向けて. 第29回薬物と生体膜の相互作用シンポジウム, 特別企画2: 生体膜輸送分子研究の新展開: 基礎から創薬, 産業へ. 仙台, 平成19年11月27日.

佐藤正延¹, Yan Li¹, 俣田秀章¹, 福士剛純¹, 三上健太郎¹, 柳澤勇一¹, 安西尚彦, 白坂善之¹, 玉井郁巳¹ (¹東京理科大学薬学部): 尿酸トランスポーター活性と血清尿酸値変動. 第29回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 仙台, 平成19年11月27日.

安西尚彦, Ho Jung Shin, 何新, 金井好克¹, 遠藤仁 (¹大阪大・院・医学系研究科) (ポスター): 硫酸抱合体を短鎖脂肪酸との交換により輸送する新規肝特異的有機アニオントランスポーターOAT7の同定. トランスポーター研究会第一回関東部会, 横浜, 平成19年12月10日.

平田拓, Kanokporn Phetdee, Ellappan Babu, 野村一也, 三谷昌平, 安藤恵子, 金井好克: 線虫アミノ酸輸送体の機能制御における糖タンパク質の関与. 2008糖鎖全体会議, 大阪, 平成20年1月21-22日.

池淵祐樹¹, 高田龍平¹, 伊藤晃成¹, 吉門崇¹, 安西尚彦, 金井好克, 鈴木洋史¹: (¹東京大・医・附属病院薬剤部): MDR3/ABCB4共役因子としてのRACK1の同定. 特定領域研究「G蛋白質シグナル」&「膜輸送複合体」合同若手ワークショップ2008, 箱根, 平成20年1月26-28日.

平田拓, 武藤朋子, Ellappan Babu, 金春姫, 金井好克: 網羅的遺伝子発現プロファイリングによるエネルギー代謝に関わる新規トランスポーター遺伝子の探索. 特定領域研究「G蛋白質シグナル」&「膜輸送複合体」合同若手ワークショップ2008, 箱根, 平成20年1月26-28日.

加国雅和¹, 安西尚彦, 大房健² (¹(株)フェニックスバイオ, ²東和環境科学(株)プロフェニックス): 高尿酸血症を示すヒト肝細胞キメラマウスの特徴. 第41回日

本痛風・核酸代謝学会総会，福井，平成20年2月14日．

安西尚彦，三浦大作，遠藤仁：ヒト尿酸トランスポーターURAT1によるオロト酸輸送．第41回日本痛風・核酸代謝学会総会，福井，平成20年2月15日．

浦野和子¹，谷口敦夫¹，安西尚彦，山中寿¹，遠藤仁，鎌谷直之¹（¹東京女子医大・附属膠原病リウマチ痛風センター）：尿酸輸送体NPT1の血清尿酸値と痛風発症との相関に関する検討．第41回日本痛風・核酸代謝学会総会，福井，平成20年2月15日．

佐藤正延¹，安西尚彦，玉井郁巳¹（¹東京理科大・薬学部）：薬物による血清尿酸値変動機構の解明．第41回日本痛風・核酸代謝学会総会，福井，平成20年2月15日．

安西尚彦：トランスポーター研究の展開：トランスポートソーム．特定領域研究「細胞感覚」第2回「若手の会」，福岡，平成20年2月19日．

安西尚彦，坂田武¹，成川新一¹，武田理夫，三浦大作¹，金井好克，遠藤仁（¹（株）富士バイオメディックス）：有機カチオントランスポーターOCT3（*SLC22A3*）遺伝子多型（SNPs）とヒスタミン輸送活性，第81回日本薬理学会年会，横浜，平成20年3月17日．

Sunena Srivastava，安西尚彦，Vedran Micek¹，Hrvoje Brzica¹，Hermann Koepsell²，Ivan Sabolic¹（¹ Unit of Molecular Toxicology，IMI，Croatia，²Department of Anatomy and Cell Biology，University of Wuerzburg，Germany）：コハク酸および α ケトグルタル酸に対するGPCR（GPR91，GPR99）のヒト腎臓における局在．第81回日本薬理学会年会，横浜，平成20年3月19日．

安西尚彦，何新，上野剛，Ho Jung Shin，宮尾和洋，山西藍，遠藤仁，金井好克：新規肝特異的有機アニオントランスポーターOAT7による短鎖脂肪酸酪酸輸送．第81回日本薬理学会年会，横浜，平成20年3月19日．

安西尚彦，Ho Jung Shin，金井好克：硫酸抱合体を短鎖脂肪酸との交換により輸送する新規肝特異的有機アニオントランスポーターOAT7の同定．第85回日本生理学会年会，東京，平成20年3月25日．

山西 藍，安西尚彦，Sunena Srivastava，何新，宮内正二¹，Vadivel Ganapathy²，金井好克（¹北海道大学大学院，²University of Georgia，Atlanta）：マルチバレントPDZタンパク質PDZK1はNa⁺依存性モノカルボン酸トランスポーターSMCT1の結合タンパク質である．第85回日本生理学会年会，東京，平成20年3月27日．

金井好克：ヘテロニ量体型アミノ酸トランスポーター：その分子機構と病態．サントリー生有研フォーラム「小分子を運ぶトランスポーター機能制御と機構解明に向けて」．大阪，平成19年8月31日．

論文

Akimoto Y., Hart G. W., Wells L., Vosseller K., Yamamoto K., Munetomo E., Ohara-Imaizumi M., Nishiwaki C., Nagamatsu S., Hirano H. & Kawakami H. : Elevation of the post-translational modification of proteins by O-linked N-acetylglucosamine leads to deterioration of the glucose-stimulated insulin secretion in the pancreas of diabetic Goto-Kakizaki rats. *Glycobiology*. 17:127-140, 2007.

Anzai N & Endou H. : Drug Discovery for Hyperuricemia. *Expert Opin Drug Discov* 2: 1251-1261, 2007.

Anzai N, Kanai Y, & Endou H. : New Insight into Renal Transport of Urate. *Curr Opin Rheumatol*. 19:151-157, 2007

- Cunningham R, Brazie M, Kanumuru S, E X, Biswas R, Wang F, Steplock D, Wade JB, Anzai N, Endou H, Shenolikar S, & Weinman EJ: Sodium-hydrogen exchanger regulatory factor-1 interacts with mouse urate transporter 1 to regulate renal proximal tubule uric acid transport. *J Am Soc Nephrol.* 18:1419-1425, 2007.
- Fukuhara D, Kanai Y, Chairoungdua A, Babu E, Bessho F, Kawano T, Akimoto Y, Endou H, & Yan K. : Protein Characterization of Na⁺-Independent System L Amino Acid Transporter 3 in Mice: A Potential Role in Supply of Branched-Chain Amino Acids under Nutrient Starvation. *Am J Pathol.* 170:888-898, 2007.
- Giusto GD, Anzai N, Endou H, & Torres AM. : Elimination of organic anions in response to an early stage of renal ischemia-reperfusion in the rat. Role of basolateral plasma membrane transporters and cortical renal blood flow. *Pharmacology*, 81: 127-136, 2008.
- Ito T, Kijima M, Watanabe T, Sakuta M, & Nishiyama K: Ultrasonography of the tibial nerve in vasculitic neuropathy. *Muscle Nerve.* 35:379-382, 2007.
- Kimura T, Perry J, Anzai N, Pritchard JB, & Moaddel R. : Development and characterization of immobilized human organic anion transporter-based liquid chromatographic stationary phase: hOAT1 and hOAT2. *Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci*, 859: 267-271, 2007
- Kimura, T., Allen P. B., Nairn, A. C. & Caplan M. J.: Arrestins and spinophilin competitively regulate Na⁺,K⁺-ATPase trafficking through association with a large cytoplasmic loop of the Na⁺,K⁺-ATPase. *Mol Biol Cell.*18:4508-18, 2007.
- Kobayashi T, Tahara Y, Takenaka H, Mimura K & Hayashi Y; Na⁺- and K⁺ - dependent oligomeric interconversion among ab-protomers, diprotomers and higher oligomers in solubilized Na⁺/K⁺-ATPase. *J Biochem.* 142:157-173, 2007.
- Konstantinova I, Nikolova G, Ohara-Imaizumi M, Meda P, Kucera T, Zarbalis K, Wurst W, Nagamatsu S, & Lammert E. : EphA-Ephrin-A-mediated beta cell communication regulates insulin secretion from pancreatic islets. *Cell.* 129:359-370, 2007.
- Ljubojevic M, Balen D, Breljak D, Kusan M, Anzai N, Bahn A, Burckhardt G, & Sabolic I. : Renal expression of organic anion transporter OAT2 in rats and mice is regulated by sex hormones. *Am J Physiol Renal Physiol.* 292:F361-F372, 2007.
- Nagamatsu S. & Ohara-Imaizumi M. : Cell biology. IP7 debut in insulin release. *Science.* 318:1249-50, 2007.
- Nagamatsu S. & Ohara-Imaizumi M. : Imaging exocytosis of single insulin secretory granules with TIRF microscopy. *Methods in Molecular Biology* 440: 251-260, 2007.
- Nakajo A, Khoshnoodi J, Takenaka H, Hagiwara E, Watanabe T, Kawakami H, Kurayama R, Sekine Y, Bessho F, Takahashi S, Swiatecka-Urban A, Tryggvason K, & Yan K: Mizoribine corrects defective nephrin biogenesis by restoring intracellular energy balance. *J Am Soc Nephrology.* 18:2554-2564, 2007.

Nilwarangkoon S, Anzai N, Shiraya K, Yu E, Islam R, Cha SH, Onozato ML, Miura D, Jutabha P, Tojo A, Kanai Y, & Endou H. : Role of mouse organic anion transporter 3 (mOat3) as a basolateral prostaglandin E2 transport pathway. J Pharmacol Sci. 103:48-55, 2007.

Ohara-Imaizumi M, Fujiwara T, Nakamichi Y, Okamura T, Akimoto Y, Kawai J, Matsushima S, Kawakami H, Watanabe T, Akagawa K, & Nagamatsu S. : Imaging analysis reveals mechanistic differences between first- and second-phase insulin exocytosis. J Cell Biol. 177:695-705, 2007.

Ohnishi H, Kaniyu K, Iwasahita M, Tanaka A, & Watanabe T. : Fibrin monomer complex in normal pregnant women: a potential thrombotic marker in pregnancy. Ann Clin Biochem. 44:449-454, 2007.

Ohtsuka K, Ohnishi H, Fujiwara M, Kishino T, Matsushima S, Furuyashiki G, Takei H, Koshiishi Y, Goya T, & Watanabe T : Abnormalities of epidermal growth factor receptor in lung squamous-cell carcinomas, adenosquamous carcinomas, and large-cell carcinomas: tyrosine kinase domain mutations are not rare in tumors with an adenocarcinoma component. Cancer 109:741-750 , 2007.

Shin HJ, Anzai N, Enomoto A, He X, Kim DK, Endou H, & Kanai Y. Novel Liver-specific Organic Anion Transporter OAT7 that Operates the Exchange of Sulfate Conjugates for Short Chain Fatty Acid Butyrate. Hepatology 45:1046-1055, 2007.

Uchida T., Iwashita, N., Ohara-Imaizumi M., Ogihara T., Nagai S., Choi J. B., Tamura Y., Tada N., Kawamori R., Nakayama K. I., Nagamatsu S. & Watada H. : Protein kinase Cdelta plays a non-redundant role in insulin secretion in pancreatic beta cells. J. Biol. Chem. 282: 2707-2716, 2007.

Ushimaru M & Fukushima Y; Synthesis of ATP by the simple addition of ADP to the *p*-nitrophenyl- phosphate-prepared phosphoenzyme of the sarcoplasmic reticulum Ca²⁺-ATPase Biochem. Biophys. Res. Comm., 353:799~804, 2007.

今泉美佳, 大塚稔久, 永松信哉 : 膵β細胞のアクティブゾーンを構成する分子群. 内分泌・糖尿病科, 25: 265-272, 2007.

福島淳一, 安西尚彦, 坂田武, 岡安勲, 金井好克, 遠藤仁, 呉屋朝幸 : 胃癌におけるアミノ酸トランスポーターLAT1(L-type amino acid transporter 1)および4F2hc 発現についての免疫組織化学的検討, 診断病理, 24:283-288, 2007.

楊國昌 : ネフローゼの蛋白尿の病態機序. 小児科 48:129-135, 2007.

楊國昌 : 急性糸球体腎炎の病態と治療. 小児科診療71:227-231, 2007.

楊國昌 : 糸球体上皮細胞障害機序の解明-小胞体ストレスの観点から- (総説). 日腎誌 49:72-76, 2007.

楊國昌 : 微小変化型ネフローゼ症候群における蛋白尿-ポドサイトの機能障害説. 腎と透析62:1000-1004, 2007.

著書

Nagamatsu S. & Ohara-Imaizumi M. : Mechanism of insulin exocytosis analyzed by imaging techniques. in Pancreatic Beta Cell in Health and Disease: Seino, S. and Bell, G. (Eds.) Springer Verlag, Berlin Germany, 173-189. 2007.

Nagamatsu S. & Ohara-Imaizumi M. Imaging exocytosis of single insulin secretory granules with TIRF microscopy. in *Methods in Molecular Biology*, vol.440, Exocytosis and Endocytosis: Ivanov, A. (Ed.) Humana Press, Inc, Totowa, NJ, USA, 251-260. 2007.

安西尚彦, 遠藤仁: 連載「腎臓の有機溶質・薬物トランスポーター」第一回, トランスポーター総論, 高尿酸血症と痛風, 15:72-75, 2007. .

基礎生命科学I (生物学) 教室

I. 口演

1. Shibusawa, M., Tobar, Y. N., & Matsuda, M.: Variation in the chromosomal locations of the rRNA genes and pairing ability during male meiosis in the *D. ananassae* complex. 48th Annual Drosophila Research Conference 702C. 2007.
2. Sawamura, K¹., Hua, Z¹., Setoguchi, K., Matsuda, M., & Oguma, Y¹., : Genetic analysis of female mating recognition between *Drosophila ananassae* and *Drosophila pallidosa*: Application of interspecific mosaic genome lines. (University of Tsukuba) P-058. The 8th Japanese Drosophila Research Conference. Awajishima, July 2~4, 2007.
3. Yamamoto, M¹., Ueda, R²., Watada, M³., & Matsuda, M. (1Kyoto Institute of Technology, 2National Institute of Genetics, 3Ehime University) :National Bio-Resource Project “Drosophila” NBRP-01 The 8th Japanese Drosophila Research Conference. Awajishima, July 2~4, 2007.
4. 田中浩輔、塚元葉子¹、桑沢清明² (1首都大、2岡山理科大) : 等脚目オオグソクムシ心拍出の生体アミン類による血液分配調節. 日本比較生理生化学会29回大会, 岡山, 平成19年7月6日—8日
5. Kosuke Tanaka, Yoko F.-Tsukamoto¹ and Kiyooki Kuwasawa² (1Tokyo Metropolitan University, 2Okayama Science University): Modulation of the heart and cardioarterial valves by biogenic amines in the isopod crustacean, *Bathynomus doederleini*. The 7th International Congress of Comparative Physiology and Biochemistry, Salvador, Brasil, 2007. 8. 12-16.
6. 田中浩輔、McMahon BR¹、水藤勝喜² (1カルガリー大、2愛知県栽培漁業センター)クルマエビ類幼生および成体におけるセロトニン免疫陽性ニューロンの中枢内分布. 日本動物学会78回大会, 弘前, 平成19年9月20日—22日
7. 山本雅敏¹、上田龍²、和多田正義³、松田宗男: (1京都工繊大、2遺伝研、3愛媛大) 堅実な遺伝資源の整備と飛躍的研究への支援— ショウジョウバエ遺伝資源— .

日本遺伝学会第79回大会、岡山、2007年9月20日—22日

8. 佐藤玄、松田宗男：アナナスショウジョウバエにおける雌雄の組換えホットスポット。日本遺伝学会第79回大会、岡山、平成19年9月19日—21日
9. 佐藤玄、富村義彦¹、小川涼子、松田宗男（¹芝学園）：アナナスショウジョウバエのゲノム配列。第2回 昆虫ゲノム研究会、東京、平成20年3月6日—7日

I. 論文

1. Drosophila 12 Genomes Consortium. Evolution of genes and genomes on the *Drosophila* phylogeny. Nature 450: 203-218. 2007.
2. Sawamura, K., Hua, Z., Yamada, H., Miyo, T., Matsuda, M., & Oguma, Y. Genetic analysis of female mating recognition between *Drosophila ananassae* and *Drosophila pallidosa*: application of interspecific mosaic genome lines. Genetica (Online first) 2007.

IV. その他

報告書

1. 山本雅敏、上田龍、和多田正義、松田宗男：文部科学省 “ナショナルバイオリソースプロジェクト「ショウジョウバエ」2006年度報告書

物理学

1. Takahara S, Tajima N¹, Shimizu Y²(¹Fukui Univ., ²Kyushu Univ.): Treatment of the continuum states in the Woods-Saxon Strutinsky method. Internat. Nucl. Phys. Conf. 2007, Tokyo, Jun. 3-8, 2007.
2. Tohyama M: Damping of quadrupole states in extended RPA with ground-state correlations. Internat. Nucl. Phys. Conf., Tokyo, Jun. 4-8, 2007.
3. Ohtani M, Brömmel D¹, Göckeler M², Hägler Ph³, Horsley R⁴, Nakamura Y⁵, Pleiter D⁵, Rakow P⁶, Schäfer A², Schierholz G¹, Schroers W⁵, Stüben H⁷ & Zanotti J⁴ (¹DESY, ²Univ. Regensburg, ³TU München, ⁴Univ. Edinburgh, ⁵NIC/DESY, ⁶Univ. Liverpool, ⁷ZIB): Moments of generalized parton distributions and quark angular momentum of the nucleon. The XXV Internat. Symp. on Lattice Field Theory, Regensburg, Jul.30-Aug.4, 2007.
4. 高原哲士, 田嶋直樹¹, 清水良文²(¹福井大・工, ²九州大・理): Woods-Saxon Strutinsky法における連続状態の扱い. 日本物理学会第62回年次大会, 札幌, 平成19年9月21-24日.
5. 遠山満, Schuck P¹(¹IPN Orsay): エルミートな形式の拡張RPAの応用. 日本物理学会第62回年次大会, 札幌, 平成19年9月21-24日.
6. 高木康成¹, 斉藤大志¹, 藪木幹大¹, 竹内義雄 (¹電通大量子物質): GMO結晶のドメイン壁の観測—温度変化と一軸性応力効果. 日本物理学会第62回年次大会,

札幌, 平成19年9月21-24日.

7. Yoshio Takeuchi and Yasunari Takagi¹ (¹電通大量子物質): “Resonant Signals Generated by the Electrostrictive Effects”, The 13th US-Japan Seminar on Dielectric & Piezoelectric Ceramics, Awaji Island, Nov. 4-7, 2007.
 8. Ohtani M, Hatsuda T¹, Lehrer C² & Wettig T² (¹Univ. Tokyo, ²Univ. Regensburg): Topological susceptibility at finite temperature in a random matrix model. Internat. Workshop on Chiral Symmetry in Hadrons and Nuclear Physics, 吹田, Nov.13-16, 2007.
 9. 大谷宗久, Brömmel D¹, Göckeler M², Hägler Ph³, Horsley R⁴, 中村宜文⁵, Pleiter D⁵, Rakow P⁶, Schäfer A², Schierholz G¹, Schroers W⁵, Stüben H⁷ & Zanotti J⁴ (¹DESY, ²Univ. Regensburg, ³TU München, ⁴Univ. Edinburgh, ⁵NIC/DESY, ⁶Univ. Liverpool, ⁷ZIB): 格子QCDによる核子の一般化形状因子とクォークの角運動量. 原子核・ハドロン物理横断研究会, つくば, 平成19年11月19-21日.
 10. 高原哲士, 田嶋直樹¹, 清水良文²(¹福井大・工, ²九州大・理): Woods-Saxon Strutinsky 法における連続状態の扱い II. 日本物理学会第 63 回年次大会, 東大阪, 平成 20 年 3 月 23-26 日.
 11. 高木康成¹, 竹内義雄 (¹電通大量子物質): 電歪効果による共振信号の検出. 日本物理学会第 63 回年次大会, 東大阪, 平成 20 年 3 月 22-26 日.
1. Tohyama M: Damping of collective states in an extended random-phase approximation with ground-state correlations. Phys Rev C 75:044310-1-9, 2007.
 2. Tohyama M & Schuck P¹(¹IPN Orsay): Spurious states in extended RPA theories, part II. Eur Phys J A 32:139-147, 2007.
 3. Iwazaki A¹, Morimatsu O², Nishikawa T³ & Ohtani M (¹Nishogakusha Univ., ²KEK, ³Tokyo Inst. Tech.): Color Ferromagnetic Quark Matter in Neutron Stars. Int J Mod Phys A22: 721-730, 2007.
 4. Yagi T^{1,2}, Ohtani M, Morimatsu O^{1,2,3} & Hashimoto S^{1,3} (¹KEK, ²Univ. Tokyo, ³Grad. Univ. Adv. Stud.): $I = 2\pi\pi$ scattering length with dynamical overlap fermion. Proc Sci (LATTICE 2007): 086-1-7, 2007.
 5. Göckeler M¹, Hägler Ph², Horsley R³, Nakamura Y⁴, Ohtani M, Pleiter D⁴, Rakow P⁵, Schäfer A¹, Schierholz G⁶, Schroers W⁴, Stüben H⁷ & Zanotti J³ (¹Univ. Regensburg, ²TU München, ³Univ. Edinburgh, ⁴NIC/DESY, ⁵Univ. Liverpool, ⁶DESY, ⁷ZIB): Probing the chiral limit with clover fermions II: The baryon sector. Proc Sci (LATTICE 2007): 129-1-7, 2007.
 6. Brömmel D¹, Göckeler M², Hägler Ph³, Horsley R⁴, Nakamura Y⁵, Ohtani M, Pleiter D⁵, Rakow P⁶, Schäfer A², Schierholz G¹, Schroers W⁵, Stüben H⁷ & Zanotti J⁴ (¹DESY, ²Univ. Regensburg, ³TU München, ⁴Univ. Edinburgh, ⁵NIC/DESY, ⁶Univ. Liverpool, ⁷ZIB): Moments of generalized parton distributions and quark angular momentum of the nucleon. Proc Sci (LATTICE 2007): 158-1-7, 2007.
 7. Göckeler M¹, Hägler Ph², Horsley R³, Nakamura Y⁴, Ohtani M, Pleiter D⁴, Rakow P⁵, Schäfer A¹, Schierholz G⁶, Schroers W⁴, Stüben H⁷ & Zanotti J³

- (¹Univ. Regensburg, ²TU München, ³Univ. Edinburgh, ⁴NIC/DESY, ⁵Univ. Liverpool, ⁶DESY, ⁷ZIB): Nucleon electromagnetic form factors with Wilson fermions. Proc Sci (LATTICE 2007): 161-1-7, 2007.
8. Ohtani M, Hidaka Y¹ & Morimatsu O² (¹RBRC, ²KEK): Vector meson spectrum at finite temperature in hidden local symmetry model. Nucl Phys B Proc Suppl 174c: 213-216, 2007.

化学

学会講演

山本幸子, 森原庸介¹, 若山守¹, 立木隆¹: (¹*立命館大・理工) 固定化した γ -グルタミルメチルアミド合成酵素(GMAS)と酵母菌体によるテアニンの生産, 日本農芸化学会, 名古屋, 平成20年3月27日

福嶋 義博, 山本 幸子, 丑丸真: ATPaseとリガンド間の結合エネルギーは仕事の変換されるのか。日本生体エネルギー研究会 第33回討論会, 山口, 平成18年12月15日~17日

「生体エネルギー より広く, より深く」講演要旨集, 13~14, 2007

山本 幸子, 若山守¹, 立木隆¹ (¹立命館大・理工): γ -グルタミルメチルアミド合成酵素のATP結合配列, 日本生体エネルギー研究会 第33回討論会, 山口, 平成18年12月15日~17日, 「生体エネルギー より広く, より深く」講演要旨集, 71~72, 2007

II. 論文

Yamamoto, S., Morihara, Y.*, Wakayama, M. ¹, & Tachiki, T. ¹: (¹ Univ. of Ritsumeikan, Fac. of Sci. and Engn.), Theanine production by coupled fermentation with energy transfer using γ -glutamylmethylamide synthetase of *Methylovorus mays* No. 9, Biosci. Biotechnol. Biochem., 2008, in press

Yamamoto, S., Wakayama, M. ¹, & Tachiki, T. ¹: (¹ Univ. of Ritsumeikan, Fac. of Sci. and Engn.) Cloning and expression of *Methylovorus mays* No. 9 gene encoding γ -glutamylmethylamide synthetase: an enzyme usable for theanine formation by coupling with alcoholic fermentation system of baker's yeast. Biosci. Biotechnol. Biochem., 71: 101-109, 2008.

Fukushima, Y. Yamamoto, S. & Ushimaru, M.: True Function on the ATP hydrolysis in the Biochemical Reaction, 杏林大学研究報告 教養部門, 25:1-10, 2008.

薬剤部

I. 口演

1. 野村久祥：抗がん剤ミキシング業務と外来化学療法室での薬剤師の役割．日本鋼管病院学術講演会，川崎，平成19年4月10日．
2. 若林進：医薬品情報の活用におけるDI室の役割．平成19年度第1回JASDIフォーラム「医薬品適正使用のための新しい安全性情報とその活用法」，東京，平成19年5月19日．
3. 小林庸子，浅間泉1，森小津恵1，今野里美1，小野田麻弥1，北原敦子2，山口真哉3，吉元勝彦3，板垣英二3，石田均3（1看護部，2栄養科，3第三内科）：糖尿病栄養指導外来における薬剤師の役割．第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24～26日．
4. 野村久祥：がん専門薬剤師に必要な乳がん薬物療法の基礎知識2007．東京都病院薬剤師会がん領域専門薬剤師研究会，東京，平成19年5月26日．
5. 野村久祥：外来化学療法室での薬剤師の役割．東京脳腫瘍治療懇話会，東京，平成19年6月8日．
6. 若林進：杏林大学医学部附属病院のDI室．第2回DIコミュニケーションの会，武蔵野，平成19年6月14日．
7. 若林進，篠原高雄，永井茂，山田安彦1，折井孝男2（1東京薬科大学，2 NTT東日本関東病院・薬剤部）：電子ファイルで提供されるインタビューフォームの活用に関する研究．第10回日本医薬品情報学会学術大会，札幌，平成19年7月7-8日．
8. 若林進，篠原高雄，永井茂，田中伸和1，林潤一1，山本実1，北本清1，山田安彦2（1総合医療，2東京薬科大学）：JSH2004に基づく降圧薬の処方実態調査．医療薬学フォーラム2007/第15回クリニカルファーマシーシンポジウム，山形，平成19年7月14-15日．
9. 中山英明，若林進，篠原高雄，永井茂：散薬監査システムの再構築によるリスクマネジメント．日本病院薬剤師会関東ブロック第37回学術大会，宇都宮，平成19年8月25-26日．
10. 若林進，篠原高雄，永井茂，山田安彦1，折井孝男2（1東京薬科大学，2 NTT東日本関東病院・薬剤部）：施設内ネットワークシステムを用いた電子化インタビューフォームの情報提供に関する研究．第17回日本医療薬学会年会，前橋，平成19年9月29-30日．
11. 野村久祥，西圭史，伊坂泰嗣1，多武保光宏2，永井茂，篠原高雄（1乳腺外科，2泌尿器科）：シクロフォスファミドによる遅延性出血性膀胱炎に対しミョウバン水使用により寛解した一例．第17回日本医療薬学会年会，前橋，平成19年9月29-30日．
12. 川上英泰，野村久祥，永井茂，篠原高雄：当院における外来化学療法での薬剤師業務の工夫．第40回日本薬剤師会学術大会，神戸，平成19年10月7-8日．
13. 小林庸子：日本糖尿病療養指導士ガイドブック III章-4 薬物療法．西東京糖尿病療養指導士養成講座，国分寺，平成19年10月9日．
14. 篠原高雄：各種注射薬混合調製の知識～TPNの調製から完了まで～．東京都病院薬剤師会実務研究会，東京，平成19年10月27日．
15. 野村久祥：がん薬物療法について 抗がん剤の分類・作用・副作用．認定がん情報ナビゲーター養成講座，大阪，平成19年11月4日．
16. 若林進：新しい医療情報系の認定制度について～薬剤師の立場から～．第27回医療情

- 報学連合大会（第8回日本医薬品情報学会学術大会），神戸，平成19年11月23-25日．
17. 若林進，瀬戸僚馬¹，篠原高雄，永井茂（1看護部）：市販ソフトを利用したイントラネットシステムでの医薬品情報の提供．第27回医療情報学連合大会（第8回日本医療情報学会学術大会），神戸，平成19年11月23-25日．
 18. 野村久祥：科学的根拠に基づく乳がん・・・とは？．第3回東京乳がん公開市民フォーラム，大阪，19年12月2日．
 19. 野村久祥：薬剤師に必要な胃がん標準療法の知識．消化器がん最新情報セミナー，立川，20年2月1日．
 20. 西圭史，中村貴枝子¹，福川陽子²，岡崎充宏²，小林治³，河合伸³（1医療安全管理室，2中央臨床検査部，3感染症科）：当院におけるLinezolid使用症例の臨床的検討．第23回日本環境感染学会総会，長崎，平成20年2月22-23日．
 21. 小林庸子：慢性肝炎の薬物療法．地域で行う肝臓病教室～三鷹モデル～，三鷹，20年2月29日．
 22. 小林庸子：分岐鎖アミノ酸製剤の至適用量の検討～薬剤師の立場から～．第9回チーム医療としての肝臓病栄養治療を考える会，東京，20年3月1日．
 23. 若林進，篠原高雄，永井茂，山田安彦¹，折井孝男²（1東京薬科大学，2 NTT東日本関東病院・薬剤部）：電子化インタビューフォームを用いたインタビューフォームの情報量の比較．日本薬学会第128年会，横浜，平成20年3月26-28日．
 24. 北原敦子¹，小林庸子，浅間泉²，森小津恵²，今野里美²，小野田麻弥²，山口真哉³，吉元勝彦³，板垣英二³，石田均³（1栄養科，2看護部，3第三内科）：減量困難な2型糖尿病の空腹時血中レプチン濃度の関連性－血中レプチン濃度との比較について．第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24-26日．
 25. 今野里美¹，小野田麻弥¹，森小津恵¹，浅間泉¹，小林庸子，北原敦子²，半田桂子³，三代川可織³，山口真哉³，吉元勝彦³，板垣英二³，石田均³（1看護部，2栄養科，3第三内科）：当院の糖尿病療養指導外来の問題点と今後の課題．第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24-26日．
 26. 森小津恵¹，高橋久子¹，浅間泉¹，小林庸子，田中利明³，下山達宏³，半田桂子³，三代川可織³，山口真哉³，吉元勝彦³，板垣英二³，石田均³（1看護部，2栄養科，3第三内科）：当院におけるインスリン注射に関する安全性講習会の開催と今後の課題．第50回日本糖尿病学会年次学術集会，仙台，平成19年5月24-26日．
 27. 濱敏広¹，遠藤巖¹，木村高久¹，永田あかね¹，若林進¹，山崎有紀¹（1東京都病院薬剤師会広報出版部ホームページ小委員会）：東京都病院薬剤師会ホームページのアクセス解析による評価．日本病院薬剤師会関東ブロック第37回学術大会，宇都宮，平成19年8月25-26日．
 28. 瀬戸僚馬¹，若林進，福井トシ子¹（1看護部）：看護管理指標としてのナースコール発呼回数 の有用性．第27回医療情報学連合大会（第8回日本医療情報学会学術大会），神戸，平成19年11月23-25日．
 29. 中村貴枝子¹，高橋陽子¹，西圭史，岡崎充宏²，河合伸³：（1医療安全管理室，2中央臨床検査部，3感染症科）：当院の麻疹ワクチンプログラムの評価及び課題－地域での麻疹流行を

経験してー, 第23回日本環境感染学会総会, 長崎, 平成20年2月22-23日.

II. 論文

1. 若林進, 篠原高雄, 永井茂: Amlodipine口腔内崩壊錠 (アムロジンOD錠) の自動錠剤分包機による調剤に関する研究. 医薬品情報学, **9**(1), 31-36(2007).
2. 若林進, 瀬戸僚馬¹, 篠原高雄, 永井茂 (1看護部): 市販ソフトを利用したイントラネットシステムでの医薬品情報の提供. 医療情報学, **27**(Suppl.), 297-298(2007).
3. 野村久祥, 永井茂, 篠原高雄, 岩下光利¹, 矢島正純¹, 高戸谷繁通²(1婦人科, 2事務部): 婦人科卵巣がん患者 weekly Paclitaxel-Carboplatin 併用療法(TC療法)における医療費の比較. 癌と化学療法, **34**(7), 1091-1094(2007).
4. 瀬戸僚馬¹, 若林進, 福井トシ子¹(1看護部): 看護管理指標としてのナースコール発呼回数 の有用性. 医療情報学, **27**(Suppl.), 726-728(2007).

III. 著書

1. 永井茂, 若林進: 薬を飲み忘れないための工夫. 気をつけよう! 高齢者の薬物療法. Aging & Health, 東京, 財団法人長寿科学振興財団, 2007. p. 24-27.
2. 篠原高雄 (編集協力): 薬剤師MRコメディカルのための救急医療マニュアル. 野村靖幸 監修. 東京, エルゼビア・ジャパン, 2008.
3. 加藤一雅: 薬剤管理指導業務. スタンダード薬学シリーズ11 病院・薬局実務実習 II. 病院・薬局それぞれに固有な薬剤師業務. 日本薬学会, 日本薬剤師会, 日本病院薬剤師会, 日本医療薬学会編. 東京, 東京化学同人, 2008.
4. 小林庸子: 糖尿病の薬のはなし. 眼科ケア, 2008. p. 160-163.
5. 若林進: 病院薬剤師からみた薬学部環境変化ー実務実習とコミュニケーションー. 薬剤学, 2007. p. 224-226.
6. 若林進, 永井茂: 服薬管理させられなかった場合の対応策ー飲み忘れをなくすための具体的な方法ー. 老年医学, 2007. p. 1419-1422.
7. 若林進 (分担): 治療薬ハンドブック2008. 高久史麿監修. 東京, じほう, 2008.
8. 野村久祥: 外来癌化学療法室でのチーム医療の実践. 外科と代謝・栄養, 2007. p. 111.
9. 野村久祥: がん化学療法における「がん専門薬剤師」の役割 がん専門薬剤師に必要なサポータティブケアの知識. 医薬の門, 2007. p. 67-73.
10. 野村久祥: がん化学療法における「がん専門薬剤師」の役割 がん専門薬剤師に必要な卵巣がん化学療法の知識. 医薬の門, 2007. p. 280-287.

IV. その他

1. 小林庸子: 糖尿病患者指導にさらなる介入をー杏林大学医学部附属病院の取り組みー. Pharmacist & Patient, 東京, 第一三共, 2008, p. 7-8.
2. 小林庸子: 第3回西東京臨床糖尿病心理と医療研究会ワークショップ, 八王子, 20年3月22日.
3. 若林進: 高血圧治療に使われる主な降圧薬. 東京, IPP0, 2007. p. 52.

4. 若林進：医薬品インタビューフォームを読んでみよう。 安心処方infobox 薬剤師によるくすりの基礎知識 第3回，東京，アイ・エム・エス・ジャパン，平成19年9月27日
5. 若林進(分担)：新しい医療情報系認定制度の確立に向けて～薬剤師の立場から～。 THE DOCTOR 平成20年1月1日号，東京，薬事ニュース社，2008. p. 10-11.
6. 若林進：生活習慣病に関連したキーワード。 薬事日報 平成20年2月6日号，東京，薬事日報社，2008. p. 4-5.
7. 若林進：薬を飲み忘れないための工夫（1）。 安心処方infobox 薬剤師によるくすりの基礎知識 第8回，東京，アイ・エム・エス・ジャパン，平成20年3月4日。
8. 若林進(監修)：知って納得！薬のこと 糖尿病の薬。 NHKきょうの健康2007年4月号，東京，日本放送出版協会，2007. p. 137.
9. 若林進(監修)：知って納得！薬のこと パーキンソン病の薬。 NHKきょうの健康2007年5月号，東京，日本放送出版協会，2007. p. 141.
10. 若林進(監修)：知って納得！薬のこと 関節リウマチの薬。 NHKきょうの健康2007年6月号，東京，日本放送出版協会，2007. p. 137.
11. 若林進(監修)：知って納得！薬のこと 甲状腺の病気の薬。 NHKきょうの健康2007年7月号，東京，日本放送出版協会，2007. p. 145.
12. 若林進(監修)：知って納得！薬のこと 不整脈の薬。 NHKきょうの健康2007年8月号，東京，日本放送出版協会，2007. p. 132-133.
13. 若林進(監修)：知って納得！薬のこと 水虫の薬。 NHKきょうの健康2007年9月号，東京，日本放送出版協会，2007. p. 133.
14. 若林進(監修)：知って納得！薬のこと C型肝炎の薬。 NHKきょうの健康2007年10月号，東京，日本放送出版協会，2007. p. 137.
15. 若林進(監修)：知って納得！薬のこと 狭心症の薬。 NHKきょうの健康2007年11月号，東京，日本放送出版協会，2007. p. 134-137.
16. 若林進(監修)：知って納得！薬のこと 貧血の薬。 NHKきょうの健康2007年12月号，東京，日本放送出版協会，2007. p. 132-133.
17. 若林進(監修)：知って納得！薬のこと 脳梗塞の薬。 NHKきょうの健康2008年1月号，東京，日本放送出版協会，2008. p. 132.
18. 若林進(監修)：知って納得！薬のこと 気管支ぜんそくの薬，NHKきょうの健康2008年2月号，東京，日本放送出版協会，2008. p. 130-133.
19. 若林進(監修)：知って納得！薬のこと 抗不安薬。 NHKきょうの健康2008年3月号，東京，日本放送出版協会，2008. p. 136-137.
20. 若林進(監修)：糖尿病の薬。 別冊NHKきょうの健康 糖尿病 自分のために、できること，東京，日本放送出版協会，2008. p. 96.
21. 若林進(ワークショップ)：医薬品情報の活用術～審査報告書と申請資料概要を使うための基礎研修を受けてみませんか！～。 第17回日本医療薬学会年会，前橋，平成19年9月29～30日。
22. 若林進(分担)：写真付/服薬指導CD-ROM2007年9月版第21版。 患者向け医薬品情報CD化編集委員会編，東京，じほう，2007.

23. 若林進(分担):写真付/服薬指導CD-ROM2008年3月版第22版. 患者向け医薬品情報CD化編集委員会編, 東京,じほう,2008.

内科学腫瘍科

I 口演

1. 古瀬純司:切除不能進行胆道癌に対する治療戦略-化学療法の現状と展望-. Tokai Medical Oncology Network in Pancreas & Biliary Tract, 名古屋, 平成20年3月8日
2. 古瀬純司:胆道・膵癌の化学療法-最近の動向-. 京滋TS-1講演会, 京都, 平成20年3月21日

II 論文

1. Ikeda M, Okusaka T, Ito Y, Ueno H, Morizane C, Furuse J, Ishii H, Kawashima M, Kagami Y, Ikeda H. A phase I trial of S-1 with concurrent radiotherapy for locally advanced pancreatic cancer. *Br J Cancer* 96:1650-1655, 2007.
2. Zytoon AA, Ishii H, Murakami K, El-Kholy MR, Furuse J, El-Dorry A, El-Malah A. Recurrence-free survival after radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma. A registry report of the impact of risk factors on outcome. *Jpn J Clin Oncol* 37:658-672, 2007.
3. Yonemoto N, Furuse J, Okusaka T, Yamao K, Funakoshi A, Ohkawa S, Boku N, Tanaka K, Nagase M, Saisho H, Sato T. A multi-center retrospective analysis of survival benefits of chemotherapy for unresectable biliary tract cancer. *Jpn J Clin Oncol* 2007;37:843-851
4. Furuse J, Ishii H, Kawashima M, Nagase M, Nihei K, Nakachi K, Ogino T, Yoshino M. A phase I study of hypofractionated radiotherapy followed by systemic chemotherapy with full-dose gemcitabine in patients with unresectable locally advanced pancreatic cancer. *Hepatogastroenterology* 2007;54:1575-1578
5. Takada T, Miyazaki M, Miyakawa S, Tsukada K, Nagino M, Kondo S, Furuse J, Saito H, Tsuyuguchi T, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Purpose, use, and preparation of clinical practice guidelines for the management of biliary tract and ampullary carcinomas. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:2-6, 2008.
6. Miyakawa S, Ishihara S, Takada T, Miyazaki M, Tsukada K, Nagino M, Kondo S, Furuse J, Saito H, Tsuyuguchi T, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Flowcharts for the management of biliary tract and ampullary carcinomas. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:7-14, 2008.
7. Miyazaki M, Takada T, Miyakawa S, Tsukada K, Nagino M, Kondo S, Furuse J, Saito H, Tsuyuguchi T, Chijiwa K, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Risk factors for biliary tract and ampullary carcinomas and prophylactic surgery for these factors. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:15-24, 2008.
8. Nagino M, Takada T, Miyazaki M, Miyakawa S, Tsukada K, Kondo S, Furuse J, Saito H, Tsuyuguchi T, Yoshikawa T, Ohta T, Kimura F, Ohta T, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Preoperative biliary drainage for biliary tract and ampullary carcinomas. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:25-30, 2008.
9. Tsukada K, Takada T, Miyazaki M, Miyakawa S, Nagino M, Kondo S, Furuse J, Saito H, Tsuyuguchi T, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Diagnosis of biliary tract and ampullary carcinomas. *J Hepatobiliary*

- Pancreat Surg 15:31-40, 2008.
10. Kondo S, Takada T, Miyazaki M, Miyakawa S, Tsukada K, Nagino M, Furuse J, Saito H, Tsuyuguchi T, Yamamoto M, Kayahara M, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Hirano S, Amano H, Miura F. Guidelines for the management of biliary tract and ampullary carcinomas: surgical treatment. J Hepatobiliary Pancreat Surg 15:41-54, 2008.
 11. Furuse J, Takada T, Miyazaki M, Miyakawa S, Tsukada K, Nagino M, Kondo S, Saito H, Tsuyuguchi T, Hirata K, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Guidelines for chemotherapy of biliary tract and ampullary carcinomas. J Hepatobiliary Pancreat Surg 15:55-62, 2008.
 12. Saito H, Takada T, Miyazaki M, Miyakawa S, Tsukada K, Nagino M, Kondo S, Furuse J, Tsuyuguchi T, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Radiation therapy and photodynamic therapy for biliary tract and ampullary carcinomas. J Hepatobiliary Pancreat Surg 15:63-68, 2008.
 13. Tsuyuguchi T, Takada T, Miyazaki M, Miyakawa S, Tsukada K, Nagino M, Kondo S, Furuse J, Saito H, Suyama M, Kimura F, Yoshitomi H, Nozawa S, Yoshida M, Wada K, Amano H, Miura F. Stenting and interventional radiology for obstructive jaundice in patients with unresectable biliary tract carcinomas. J Hepatobiliary Pancreat Surg 15:69-73, 2008.
 14. Furuse J, Ishii H, Nakachi K, Suzuki E, Shimizu S, Nakajima K. Phase I study of sorafenib in Japanese patients with hepatocellular carcinoma. Cancer Sci 99:159-65, 2008.
 15. Okusaka T, Funakoshi A, Furuse J, Boku N, Yamao K, Ohkawa S, Saito H. A late phase II study of S-1 for metastatic pancreatic cancer. Cancer Chemother Pharmacol 61:615-621, 2008.
 16. Furuse J, Okusaka T, Boku N, Ohkawa S, Sawaki A, Masumoto T, Funakoshi A. S-1 monotherapy as first-line treatment in patients with advanced biliary tract cancer: a multicenter phase II study. Cancer Chemother Pharmacol 2008 Jan 23; [Epub ahead of print] Thomas MB, O'Beirne JP, Furuse J, Chan AT, Abou-Alfa G, Johnson P. Systemic Therapy for Hepatocellular Carcinoma: Cytotoxic Chemotherapy, Targeted Therapy and Immunotherapy. Ann Surg Oncol 15:1008-1014, 2008.
 17. Morizane C, Okusaka T, Furuse J, Ishii H, Ueno H, Ikeda M, Nakachi K, Najima M, Ogura T, Suzuki E. A phase II study of S-1 in gemcitabine-refractory metastatic pancreatic cancer. Cancer Chemother Pharmacol 2008 Apr 9; [Epub ahead of print]
 18. Furuse J, Okusaka T, Boku N, Ohkawa S, Sawaki A, Masumoto T, Funakoshi A. S-1 monotherapy as first-line treatment in patients with advanced biliary tract cancer: a multicenter phase II study. Cancer Chemother Pharmacol. 2008 Jan 23; [Epub ahead of print]
 19. Furuse J: Growth factors as therapeutic targets in HCC. Crit Rev Oncol Hematol in press.
 20. Furuse J: Postoperative adjuvant treatments for biliary tract cancer. J Hepatobiliary Pancreat Surg in press.
 21. 古瀬純司: 進行胆道膵癌治療の新しい展開. 進行膵胆道癌に対する最新の化学療法の進歩. 胆と膵 28: 327-334, 2007.
 22. 古瀬純司: 膵癌早期診断・治療の新展開. 膵癌に対する化学療法の新展開-予後改善と個別化治療を目指した取り組み. 医学のあゆみ 222:57-62, 2007
 23. 古瀬純司: 胆道癌の早期診断と治療の選択. 切除不能進行胆道癌における全身化学療法の位置づけ. 消化器科 45:338-344, 2007
 24. 古瀬純司, 石井浩, 仲地耕平, 鈴木英一郎, 清水怜: 外科的治療と内科的治療の境界領域の討論 II. 膵がん 内科の立場から. 癌と化学療法 34: 997-1001, 2007.
 25. 古瀬純司, 仲地耕平, 鈴木英一郎, 清水怜: Current Organ Topics. 肝・胆・膵. 胆道癌. 癌と化学療法 34:1563-1567, 2007.

26. 古瀬純司, 仲地耕平, 鈴木英一郎, 清水怜, 石井浩, 吉野正曠: S-1 単剤投与により完全奏効を示した肝転移, リンパ節転移を有する切除不能進行胆嚢癌の 1 例. 癌と化学療法 34:1679-1682, 2007.
27. 古瀬純司: 進行肝細胞癌の化学療法 - Sorafenib placebo-control randomized study (SHARP trial)を中心に. 腫瘍内科 1:471-475, 2007.
28. 古瀬純司, 仲地耕平, 鈴木英一郎, 清水怜, 光永修一: 胆道癌に対する Gemcitabine を用いた化学療法. 肝胆膵 55:1033-1039, 2007.
29. 古瀬純司, 仲地耕平, 鈴木英一郎, 清水怜, 光永修一: 遠隔転移性切除不能膵癌: 進行癌. 肝胆膵 55:1085-1091, 2007.
30. 古瀬純司, 仲地耕平, 鈴木英一郎, 清水怜. 疾患からみる各種癌の診断・治療. 胆嚢癌の診断と治療. 内科 100:1201-1206, 2007.
31. 古瀬純司: 胆道癌化学療法の現状と今後の展望. 胆道 22:86-93, 2008.

Ⅲ その他

1. 厚生労働省がん助成金計画研究 16-14 進行膵・胆道がんに対する標準的全身化学療法の確立に関する研究 (古瀬班) 平成 19 年度研究報告書
2. 厚生労働省がん助成金計画研究 16-14 進行膵・胆道がんに対する標準的全身化学療法の確立に関する研究 (古瀬班) 総合研究報告書
3. 厚生労働省がん助成金計画研究 16-14 進行膵・胆道がんに対する標準的全身化学療法の確立に関する研究 (古瀬班) 分担研究課題 進行膵・胆道がんに対する全身化学療法に関する研究報告書
4. 厚生労働科学研究費補助金 (第 3 次対がん総合戦略研究事業) QOL の向上をめざしたがん治療法の開発研究 (江角班) 分担研究報告書 切除不能膵がんの病態に応じた化学放射線療法による新しい治療法の開発に関する研究
5. 厚生労働科学研究費補助金 (肝炎等克服緊急対策研究事業) ウイルス肝炎による肝がんの再発防止メカニズムの解明に関する研究 (小俣班) 分担研究報告書 肝細胞がんに対する局所壊死療法後の再発および予後に関する研究